
Groupmax Address/Mail Version 6

システム管理者ガイド

ユティリティ編

解説・操作書

3020-3-B53-30

HITACHI

対象製品

P-2446-5144 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5244 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5344 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5444 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5544 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5644 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5744 Groupmax Address Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5144 Groupmax Mail Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5344 Groupmax Mail Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5644 Groupmax Mail Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-5744 Groupmax Mail Server Version 6 06-51 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-7344 Groupmax Mail - X.400 Version 6 06-00 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-7424 Groupmax Mail - Administrator Utilities Version 3 03-10 (適用 OS : Windows NT)
P-2446-7844 Groupmax Address Server - Replication Option Version 6 06-00 (適用 OS : Windows NT , Windows 2000)
P-2446-7L24 Groupmax Directory Server Version 3 03-10 (適用 OS : Windows NT)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

MS-DOS は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Netscape は、米国、日本及びその他の国における米国 Netscape Communications Corp. の商標です。

Pentium は、米国 Intel Corp. の登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

発行

平成 13 年 1 月 (第 1 版) 3020-3-B53 (廃版)

平成 13 年 9 月 (第 2 版) 3020-3-B53-10 (廃版)

平成 14 年 7 月 (第 3 版) 3020-3-B53-20 (廃版)

平成 15 年 1 月 (第 4 版) 3020-3-B53-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2001, 2003, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-B53-30) Groupmax Address Server Version 6 06-51 , Groupmax Mail Server Version 6 06-51

追加・変更機能	変更箇所
SAVE_MB コマンドの使用方法 にオプションに -q コマンドの説明を追記した。	4.3.1
Mail - Administrator Utilities の概要にサポートについて追記した。	20.
SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間の表を修正した。	6.2.4

なお、単なる誤字・脱字などはお断りなく修正しました。

変更内容 (3020-3-B53-20) Groupmax Address Server Version 6 06-02 , Groupmax Mail Server Version 6 06-02

追加・変更機能
Mail - Administrator で保存している CSV ファイルを削除する理由を説明した。
Mail - Administrator において、古くなったシステム稼働情報を削除する設定を追加した。
一括登録ユティリティのコマンドのメッセージの誤りを修正した。

変更内容 (3000-3-B52-10) Groupmax Address Server Version 6 06-02 , Groupmax Mail Server Version 6 06-02

追加・変更機能
ユーザ移動時の回覧メールについての注意事項を記述した。
一括登録コマンド LOAD_MB,SAVE_MB のログ機能についての変更を記述した。
1MB は 1024 × 1024 バイトという説明を記述した。
メールボックス容量について、ユーザ登録ファイルとの関連を記述した。
Microsoft(R) Excel の記述を訂正した。

はじめに

このマニュアルは、Groupmax Version 6i の Address Server Version 6（以降、Address Server と呼びます）及び Mail Server Version 6（以降、Mail Server と呼びます）のアドレス情報を一括して登録する機能について説明したものです。

また、次に示す Address Server や Mail Server のオプション プログラムプロダクトのセットアップと運用についても説明しています。

対象読者

Groupmax 上で Address Server と Mail Server の環境設定、運用、及び管理を行うシステム管理者の方を対象としています。このマニュアルでシステム管理者とは、次の前提知識がある方とします。

- Windows NT
- TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)
- SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)
- X.400-MHS (Message Handling Systems)
- POP3 (Post Office Protocol - Version 3)
- IMAP4 (Internet Message Access Protocol Version 4)
- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

Groupmax Object Server Version 6 又は Groupmax High-end Object Server Version 6

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す五つの編から構成されています。

第 1 編 一括登録ユーティリティ

第 1 章 一括登録ユーティリティの概要

一括登録ユーティリティの機能や運転席からの最上位組織、組織、ユーザに対する操作との違いなどについて説明しています。

第 2 章 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

一括登録ユーティリティの実行に必要なユーザ登録ファイルについて説明しています。

第 3 章 一括登録ユーティリティの実行手順

一括登録ユーティリティを使用して最上位組織、組織、ユーザを登録する手順について説明しています。一括登録ユーティリティを使用するときは、この手順どおりに実行してください。

第 4 章 一括登録ユーティリティのコマンド

一括登録ユーティリティのコマンドの詳細について説明しています。

第 5 章 一括登録ユーティリティの使用例

一括登録ユーティリティの使用例をサンプルを使って説明しています。

はじめに

第 6 章 一括登録ユーティリティのデータシート

一括登録ユーティリティのコマンドの実行条件や実行時間の目安について説明しています。

第 7 章 一括登録ユーティリティのメッセージ一覧

一括登録ユーティリティの各コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明しています。

第 2 編 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティ

第 8 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの概要

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの機能やコマンドの構成などについて説明しています。

第 9 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのユーザ作成ファイル

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの実行に必要な、グループ定義ファイルとグループデータファイルについて説明しています。

第 10 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの実行手順

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティを使用して、グループの情報や掲示板のメンバーの情報を登録する手順について説明しています。グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティを使用するときは、この手順どおりに実行してください。

第 11 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのコマンド

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのコマンドの詳細について説明しています。

第 12 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの使用例

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの使用例について説明しています。

第 13 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのデータシート

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのコマンドの実行条件や実行時間の目安について説明しています。

第 14 章 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのメッセージ一覧

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの各コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明しています。

第 3 編 ユーザ任意情報

第 15 章 ユーザ任意情報の概要

ユーザ任意情報の機能や設定方法について説明しています。

第 4 編 Groupmax Directory Server

第 16 章 Groupmax Directory Server の概要

Address Server のオプション プログラムプロダクトである Groupmax Directory Server の概要について説明しています。

第 17 章 Groupmax Directory Server のセットアップ

Groupmax Directory Server を運用するために必要なセットアップの操作について説明しています。

す。

第 18 章 Groupmax Directory Server の運用

Groupmax Directory Server の運用に関する事項について説明しています。

第 19 章 Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

Groupmax Directory Server は、エラーメッセージ及びロギング情報を、それぞれイベントログとログファイルへ出力します。ここでは、出力される各メッセージ情報について説明しています。

第 5 編 Mail - Administrator Utilities

第 20 章 Mail - Administrator Utilities の概要

Mail Server のオプション プログラムプロダクトである Mail - Administrator Utilities の概要について説明しています。

第 21 章 Mail - Administrator Utilities のセットアップ

Mail - Administrator Utilities のセットアップの操作について説明しています。

第 22 章 Mail - Administrator Utilities の運用

Mail - Administrator Utilities の運用方法について説明しています。

第 23 章 Mail - Administrator Utilities の統合管理機能

Mail - Administrator Utilities の統合管理機能について説明しています。

第 24 章 Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧

Mail - Administrator Utilities が出力するメッセージの要因と対処について説明しています。

関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Groupmax Integrated Desktop Version 6 ユーザーズガイド (3020-3-B38)

電子メール，電子掲示板，電子アドレス帳の機能について説明しています。

Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B56)

Object Server の環境設定，運用方法について説明しています。

Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編 (3020-3-B52)

Address Server と Mail Server の環境設定，運用方法について説明しています。

Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編 (3000-3-472)

HI-UX/WE2 及び HP-UX での一括登録ユティリティの使用方法，Mail - Administrator Utilities 及び Groupmax Directory Server のセットアップと運用について説明しています。

Groupmax Document Manager Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B54)

Document Manager の環境設定，運用方法について説明しています。

Groupmax Workflow Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B59)

Workflow の環境設定，運用方法について説明しています。

はじめに

Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B57)

Scheduler の環境設定，運用方法について説明しています。

Groupmax Mail - SMTP Version 6 運用ガイド (3020-3-B55)

Mail - SMTP の環境設定，運用方法について説明しています。

Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP/System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド (3020-3-A82)

System Manager - TCP/IP と System Agent - TCP/IP の環境設定，運用方法について説明しています。

Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3(3020-3-A40)

Windows NT Groupmax Remote Installation Server Version 3 の使用方法について説明しています。

MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド (3020-3-652)

MULTI 暗号ライブラリ機能を利用したデータの暗号化の仕組みと操作方法について説明しています。

日立ディレクトリサービス管理者ガイド (3020-3-763)

Hitachi Directory Gateway の機能を利用して，アドレス管理ドメイン間を接続する方法について説明しています。

マニュアルでの表記

このマニュアルでは，製品名称を以下に示す略称で表記しています。

製品名称	略称
Groupmax Address Server Version 6	Address Server
Groupmax Address Server - Replication Option Version 6	Address Server - Replication Option
Groupmax Mail Server Version 6	Mail Server
Groupmax Mail - X.400 Version 6	Mail - X.400
Groupmax Mail - Administrator Utilities Version 3	Mail - Administrator Utilities
Groupmax Directory Server Version 3	Groupmax Directory Server
Groupmax Directory Client Version 3	Groupmax Directory Client
Groupmax Mail - SMTP Version 6	Mail - SMTP
Groupmax Document Manager Version 6	Document Manager
Groupmax Object Server Version 6	Object Server
Groupmax Scheduler Server Version 6	Scheduler
Groupmax Workflow Server Version 6	Workflow
Groupmax Voice Mail - Gateway Version2.0	Voice - Gateway
Groupmax System Manager - TCP/IP Version 5	System Manager - TCP/IP

製品名称	略称
Groupmax System Agent - TCP/IP Version 5	System Agent - TCP/IP
Keymate/Multi for Windows	Keymate/Multi
Keymate Multi Version2	
Microsoft(R) MS-DOS(R)	MS-DOS
Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0 及び Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation Operating System Version 4.0, Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System 及び Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	Windows NT

Windows 2000 をご使用の方は、本文中の「Windows NT」を「Windows 2000」と読み替えてください。

マニュアルの本文中でマニュアル名称の後に「(Windows 用)」と記述されている場合は、そのマニュアルの適用 OS が Windows NT、及び Windows 2000 であることを示します。

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について説明します。

記号	意味
[]	キーを示します。
[]+[]	+ の前のキーを押したまま、後のキーを押すことを示します。

このマニュアルでは、FLORA シリーズの代表的なキーボード表記を使用しています。
/usr/GroupMail/...(HP-UX:/opt/GroupMail/...) のように表記してある場合、「/usr/GroupMail/...」は HI-UX/WE2 での、「(HP-UX:/opt/GroupMail/...)」は HP-UX での、ディレクトリ、ファイル、コマンドを表します。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としておりますが、次に示す用語については常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先 (あてさき)、必須 (ひつす)、閉塞 (へいそく)、汎用 (はんよう)、迄 (まで)

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト)、1MB (メガバイト)、1GB (ギガバイト)、1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイトです。

目次

第 1 編 一括登録ユーティリティ

1	一括登録ユーティリティの概要	1
1.1	一括登録ユーティリティの機能	2
1.2	一括登録ユーティリティ（コマンド）の構成	3
1.3	一括登録ユーティリティの作業の流れ	4
1.4	一括登録ユーティリティを使ってできること	6
2	一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル	7
2.1	ユーザ登録ファイルとは	8
2.2	ユーザ登録ファイルの設定内容	9
2.3	メールボックス容量の定義方法	24
2.3.1	メール定義ファイルとは	24
2.3.2	メール定義ファイルの設定内容	24
2.4	最上位組織情報の設定	28
2.5	組織情報の設定	30
2.6	ユーザ情報の設定	33
2.7	兼任ユーザ情報の設定	37
2.8	ユーザ登録ファイルの作成方法	39
2.8.1	ユーザ登録ファイルの基になるデータを用意する	39
2.8.2	表計算ソフトやテキストエディタで作成する	40
2.8.3	メールボックス容量の指定方法	41
2.8.4	ユーザ登録ファイル作成時の注意事項	44
3	一括登録ユーティリティの実行手順	49
3.1	一括登録ユーティリティの作業手順	50
3.1.1	ユーザ登録ファイルの作成	52
3.1.2	環境のバックアップ	52
3.1.3	gmaxchk コマンドの実行	53
3.1.4	各ホームサーバへのユーザ登録ファイルの転送	53
3.1.5	SAVE_MB コマンドの実行	53
3.1.6	保存データを移動先へ転送	54

3.1.7	gmaxset コマンドの実行	54
3.1.8	レプリケーション状態の確認	55
3.1.9	LOAD_MB コマンドの実行	55
3.2	一括登録ユティリティ実行時の注意点	57
3.2.1	処理区分 M (移動) と C (変更) の違い	57
3.2.2	処理区分に M (移動) を設定した場合	57
3.2.3	SAVE_MB/LOAD_MB コマンド実行時の注意事項	58
3.2.4	SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行するサーバ	59
3.2.5	メールボックスの閉塞の強制解除	61
3.2.6	gmaxset コマンドによる移動処理の注意点	62
3.2.7	組織移動の注意点	64
3.2.8	一括登録ユティリティで実行できる機能	65
3.2.9	一括登録ユティリティ実行の制限	66

4

一括登録ユティリティのコマンド	67
4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド	68
4.1.1 gmaxexp コマンドの使用方法	68
4.1.2 gmaxexp コマンドの使用例	73
4.1.3 gmaxexp コマンドの使用上の注意事項	77
4.1.4 gmaxexp コマンドでのユーザ登録ファイルの作成例	77
4.2 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk コマンド	79
4.2.1 gmaxchk コマンドの使用方法	79
4.2.2 gmaxchk コマンドの使用例	81
4.2.3 gmaxchk コマンドの使用上の注意事項	82
4.2.4 gmaxchk コマンドのチェック内容	83
4.3 メールボックスの保存 SAVE_MB コマンド	85
4.3.1 SAVE_MB コマンドの使用方法	85
4.3.2 SAVE_MB コマンドの使用例	88
4.3.3 SAVE_MB コマンドの使用上の注意事項	89
4.4 情報の登録 gmaxset コマンド	90
4.4.1 gmaxset コマンドの使用方法	90
4.4.2 gmaxset コマンドの使用例	91
4.4.3 gmaxset コマンドの使用上の注意事項	92
4.4.4 gmaxset コマンドのチェック内容	92
4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド	94
4.5.1 nxsrepstat コマンドの使用方法	94

4.5.2	nxsprestat コマンドの使用例	97
4.5.3	nxsprestat コマンドの使用上の注意事項	97
4.6	メールボックスの回復 LOAD_MB コマンド	98
4.6.1	LOAD_MB コマンドの使用方法	98
4.6.2	LOAD_MB コマンドの使用例	100
4.6.3	LOAD_MB コマンドの使用上の注意事項	101
4.7	メールボックスの閉塞の強制解除 gmmopnmb コマンド	102
4.7.1	gmmopnmb コマンドの使用方法	102
4.7.2	gmmopnmb コマンドの使用例	103
4.7.3	gmmopnmb コマンドの使用上の注意事項	104

5

	一括登録ユーティリティの使用例	105
5.1	サンプルの構成	106
5.2	データ追加の例	111
5.3	ユーザ情報の変更の例	113
5.4	ユーザのサーバ間移動の例	114
5.5	データ削除の例	116
5.6	組織のサーバ間移動の例	117
5.6.1	組織移動の概要	117
5.6.2	データ移動の手順	117
5.7	サーバ構成の変更の例	126
5.8	サーバ環境の移行の例	131

6

	一括登録ユーティリティのデータシート	139
6.1	一括登録ユーティリティの実行条件	140
6.2	一括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安	141
6.2.1	gmaxchk コマンドの実行時間	141
6.2.2	gmaxset コマンドの実行時間	141
6.2.3	gmaxexp コマンドの実行時間	142
6.2.4	SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間	142
6.3	一括登録ユーティリティのトラブルシューティング	144
6.3.1	一括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング	144
6.3.2	gmaxexp コマンドのトラブルシューティング	145
6.3.3	gmaxchk コマンドのトラブルシューティング	145
6.3.4	SAVE_MB コマンドのトラブルシューティング	145

6.3.5	gmaxset コマンドのトラブルシューティング	146
6.3.6	LOAD_MB コマンドのトラブルシューティング	148

7

一括登録ユーティリティのメッセージ一覧		149
7.1	gmaxexp コマンドのメッセージ	150
7.2	gmaxchk コマンドのメッセージ	157
7.3	SAVE_MB/LOAD_MB コマンドのメッセージ	163
7.4	gmaxset コマンドのメッセージ	176
7.5	nxprepstat コマンドのメッセージ	184

第2編 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティ

8

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの概要		187
8.1	グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの機能	188
8.1.1	グループの追加・削除	188
8.1.2	グループへのメンバの追加・削除・更新	188
8.1.3	掲示板へのメンバの追加・削除・更新	189
8.1.4	掲示板のメンバのアクセス権の変更	189
8.2	グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティ（コマンド）の構成	190
8.3	グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの作業の流れ	191

9

グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティのユーザ作成ファイル		193
9.1	グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティの実行に必要なファイル	194
9.1.1	グループ定義ファイル	194
9.1.2	グループデータファイル	194
9.2	グループ定義ファイルの項目	196
9.2.1	グループ定義ファイルの項目とその内容	196
9.2.2	処理別のグループ定義ファイルの設定項目	198
9.3	グループデータファイルの項目	201
9.4	グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成方法	203
9.4.1	グループ定義ファイルとグループデータファイルの基になるデータを用意する	203
9.4.2	表計算ソフトやテキストエディタで作成する	203
9.4.3	グループ定義ファイルとグループデータファイル作成時の注意事項	205

10	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの実行手順	209
10.1	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの作業手順	210
10.1.1	グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成	210
10.1.2	環境のバックアップ	211
10.1.3	gmaxgchk コマンドの実行	211
10.1.4	gmaxgset コマンドの実行	211
10.1.5	レプリケーション状態の確認	212
10.2	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティ実行時の注意点	213
10.2.1	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティで実行できる機能	213
10.2.2	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティ実行の制限	213
11	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド	215
11.1	登録済みグループ・掲示板メンバ情報の出力 gmaxgexp コマンド	216
11.1.1	gmaxgexp コマンドの使用方法	216
11.1.2	gmaxgexp コマンドの使用例	219
11.1.3	gmaxgexp コマンドの使用上の注意事項	220
11.2	グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック gmaxgchk コマンド	221
11.2.1	gmaxgchk コマンドの使用方法	221
11.2.2	gmaxgchk コマンドの使用例	223
11.2.3	gmaxgchk コマンドの使用上の注意事項	224
11.2.4	gmaxgchk コマンドのチェック内容	224
11.3	グループ・掲示板メンバ情報の登録 gmaxgset コマンド	226
11.3.1	gmaxgset コマンドの使用方法	226
11.3.2	gmaxgset コマンドの使用例	227
11.3.3	gmaxgset コマンドの使用上の注意事項	228
12	グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの使用例	229
12.1	グループの追加の例	230
12.2	グループの削除の例	233
12.3	掲示板のメンバ追加の例	235
12.4	掲示板のメンバ更新の例	238

13	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのデータシート	241
13.1	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行条件	242
13.2	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安	243
13.2.1	gmaxgchk コマンドの実行時間	243
13.2.2	gmaxgset コマンドの実行時間	243
13.2.3	gmaxgexp コマンドの実行時間	244
13.3	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのトラブルシューティング	245
13.3.1	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング	245
13.3.2	gmaxgexp コマンドのトラブルシューティング	246
13.3.3	gmaxgchk コマンドのトラブルシューティング	246
13.3.4	gmaxgset コマンドのトラブルシューティング	247
14	グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのメッセージ一覧	249
14.1	gmaxgexp コマンドのメッセージ	250
14.2	gmaxgchk コマンドのメッセージ	254
14.3	gmaxgset コマンドのメッセージ	259

第3編 ユーザ任意情報

15	ユーザ任意情報の概要	265
15.1	ユーザ任意情報の概要	266
15.2	ユーザ任意情報の定義方法	267
15.2.1	見出し定義ファイルの作成	267
15.2.2	見出し定義ファイルの登録	269
15.2.3	登録内容の確認	270
15.2.4	登録内容のレプリケーション	271
15.3	ユーザ任意情報の定義例	272
15.4	ユーザ任意情報の保存と回復	274
15.4.1	ユーザ任意情報の移行	274
15.4.2	ユーザ任意情報の保存と回復の方法	274
15.4.3	ユーザ任意情報の保存と回復の例	276
15.5	ユーザ任意情報のコマンドリファレンス	278

15.5.1	adpdhead コマンド	278
15.5.2	adpdaexp コマンド	283
15.5.3	adpdaset コマンド	288

第 4 編 Groupmax Directory Server

16	Groupmax Directory Server の概要	293
16.1	Groupmax Directory Server とは	294
16.2	Groupmax Directory Server の機能	296
16.3	導入の前に	297
16.4	Groupmax Directory Server のインストールとアンインストール	298
16.4.1	インストール	298
16.4.2	アンインストール	299
17	Groupmax Directory Server のセットアップ	301
17.1	セットアップの流れと注意事項	302
17.1.1	セットアップの流れ	302
17.1.2	セットアップ時の注意事項	302
17.2	構成情報の設定	304
17.2.1	構成情報の設定ダイアログの表示	304
17.2.2	構成情報の設定ダイアログの項目	305
17.2.3	構成情報の設定ダイアログでの操作	306
17.3	レプリケーション情報の設定	307
17.3.1	レプリケーション情報の設定ダイアログの表示	307
17.3.2	レプリケーション情報の設定ダイアログの項目	307
17.3.3	レプリケーション情報の設定ダイアログでの操作	308
17.4	Address Server に登録されているデータの変換	310
17.4.1	Address - Directory Data Converter ダイアログの表示	310
17.4.2	Address - Directory Data Converter ダイアログの項目	310
17.4.3	Address - Directory Data Converter ダイアログでの操作	311
17.5	Groupmax Directory Server へのデータの移行	312
17.5.1	Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの表示	312
17.5.2	Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの項目	312

17.5.3	Address - Directory Data Converter セットアップダイアログでの操作	313
17.6	接続ドメインの設定	314
17.6.1	接続ドメイン一覧ダイアログの表示	314
17.6.2	接続ドメインの追加・変更・削除の操作	315
17.6.3	接続ドメイン設定ダイアログの項目	316
17.6.4	スキーマの設定	318

18 Groupmax Directory Server の運用 323

18.1	Groupmax Directory Server の起動と終了	324
18.1.1	Groupmax Directory Server の起動	324
18.1.2	Groupmax Directory Server の終了	325
18.2	Groupmax Directory Server サービスのオプション	326
18.2.1	動作状況をログファイルに出力する	326
18.2.2	構成定義ファイルを指定して起動する	326
18.2.3	Groupmax Directory Server サービスのポート番号を一時的に変更する	327
18.3	Information Propagator サービスのオプション	328
18.4	ポート番号を変更して運用する	329
18.5	システム統合運用管理機能から起動・停止した場合のパラメタ設定	331
18.6	Groupmax Directory Server 導入後の Address Server の運用	333
18.7	Mail - SMTP との連携時の運用	334

19 Groupmax Directory Server のメッセージ一覧 337

19.1	イベントログとログファイル	338
19.2	Groupmax Directory Server のメッセージ	339
19.3	Information Propagator のメッセージ	343
19.4	システムメッセージ	350
19.5	Groupmax Directory Server セットアップ時のメッセージ	351
19.6	ドメイン情報設定ユティリティのメッセージ	363

第 5 編 Mail - Administrator Utilities

20	Mail - Administrator Utilities の概要	367
20.1	Mail - Administrator Utilities とは	368
20.1.1	Mail - Administrator Utilities のシステム構成	368
20.1.2	Mail - Administrator Utilities の運用形態	369
20.2	Mail - Administrator Utilities の機能	370
20.3	導入の前に	371
20.4	Mail - Administrator Utilities のインストールとアンインストール	372
20.4.1	インストール	372
20.4.2	アンインストール	373
21	Mail - Administrator Utilities のセットアップ	375
21.1	セットアップの流れ	376
21.2	LAN 環境の設定	377
21.3	時間の設定	378
21.4	Mail - Administrator Utilities のサービスの設定	379
21.5	稼働管理システムメンテナンスプログラムでの設定	381
21.5.1	稼働管理システムメンテナンスプログラムの起動	381
21.5.2	収集サーバを設定 / 解除する	382
21.5.3	ホスト名を登録 / 削除 / 変更する	382
21.5.4	測定サーバを設定 / 解除する	384
21.5.5	測定サーバと収集サーバの実行スケジュールを設定する	386
22	Mail - Administrator Utilities の運用	389
22.1	稼働情報の CSV ファイルを参照する	390
22.1.1	自動的に出力される CSV ファイル	390
22.1.2	ユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイル	390
22.1.3	指定した期間の稼働結果データを CSV ファイルに出力する	391
22.2	Mail - Administrator Utilities のログを表示する	393
22.3	指定した期間の情報を CSV ファイルから削除する	395
22.4	稼働結果データとログの保存期間を指定する	396
22.5	収集サーバのホスト名を変更する	398
22.6	運用上の注意事項	399

22.7 稼働情報の CSV ファイル	401
22.7.1 自動的に出力される CSV ファイル	401
22.7.2 ユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイル	403
22.7.3 セッション時間とセッション回数の集計方法	408

23 Mail - Administrator Utilities の統合管理機能 411

23.1 統合管理機能の環境設定	412
23.1.1 新規導入時の設定	412
23.1.2 収集サーバを Windows NT 版に変更する	413
23.1.3 Windows NT モードと UNIX モードを統合する	414
23.2 統合管理機能の詳細設定	416
23.2.1 UNIX モードの測定サーバを解除する	416
23.2.2 Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にする	417
23.2.3 新規の UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にする	417
23.2.4 UNIX モードの測定サーバを統合化モード対応にする	419
23.2.5 古くなったシステム稼働情報を削除する設定	419
23.2.6 ACT_dset コマンド	420
23.2.7 ACT_mcpy コマンド	423
23.3 統合管理機能の運用方法	426
23.3.1 UNIX 版の測定サーバについて	426
23.3.2 ACT_dmn コマンド	426
23.3.3 Mail 稼働管理デーモンのログ	428
23.3.4 03-00 の稼働管理システムメンテナンスプログラムとの違い	428
23.3.5 統合化モードと UNIX モードとの違い	431
23.4 稼働情報の CSV ファイル	432
23.4.1 Windows NT 版と UNIX 版の測定サーバで取得した情報が混在する	432
23.4.2 UNIX 版の測定サーバで取得された情報だけ存在する	432
23.5 こんなときには	434
23.5.1 統合化モードの測定サーバを解除したい	434
23.5.2 gactmain , gactdmnd を自動起動にしたい (HI-UX/WE2 の場合)	434
23.5.3 測定サーバ上の Mail Server が 03-00 の状態で統合化モードを動作させたい	435

24 Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧 437

24.1 Mail - Administrator Utilities のメッセージ	438
--	-----

索引

目次

図 1-1	一括登録ユティリティの作業の流れ	5
図 3-1	ユーザ情報を変更する場合	59
図 3-2	ユーザがサーバ間を移動する場合	60
図 3-3	複数ユーザがサーバ間を移動する場合	61
図 4-1	例題で使用する最上位組織，組織，ユーザの登録状況	74
図 5-1	A 株式会社の構成（一括登録ユティリティ用）	106
図 5-2	サーバ構成の変更	126
図 8-1	グループ・掲示板メンバー一括登録ユティリティの作業の流れ	192
図 12-1	A 株式会社の構成（グループ・掲示板メンバー一括ユティリティ用）	230
図 16-1	Groupmax Directory Server の導入前	294
図 16-2	Groupmax Directory Server の導入後	295
図 17-1	Groupmax Directory Server のセットアップの流れ	302
図 20-1	Mail - Administrator Utilities のシステム構成	369
図 21-1	Mail - Administrator Utilities のセットアップの流れ	376
図 23-1	設定方法の概要	414

表目次

表 2-1	メール定義ファイルの設定内容	26
表 2-2	最上位組織の追加・削除・変更に必要な設定項目	28
表 2-3	組織の追加・削除・移動・変更に必要な設定項目	30
表 2-4	ユーザの追加・削除・移動・変更に必要な設定項目	33
表 2-5	兼任ユーザの追加・削除・移動・変更に必要な設定項目	37
表 3-1	一括登録ユティリティで実行できない機能	65
表 4-1	オプションとコマンド引数の組み合わせによる出力例	72
表 4-2	gmaxchk コマンドのチェック内容	83
表 4-3	gmaxset コマンドのチェック内容	92
表 5-1	最上位組織 (A 株式会社)	107
表 5-2	組織 (営業部)	107
表 5-3	組織 (総務部)	108
表 5-4	ユーザ (社長:会社直属)	108
表 5-5	ユーザ (部長)	109
表 5-6	ユーザ (課長)	109
表 5-7	ユーザ (課員:営業部)	110
表 5-8	ユーザ (課員:総務部)	110
表 6-1	一括登録ユティリティのコマンドの実行条件	140
表 6-2	gmaxchk コマンドの実行時間	141
表 6-3	gmaxset コマンドの実行時間	142
表 6-4	gmaxexp コマンドの実行時間	142
表 6-5	SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間	143
表 6-6	1 組織, 1 ユーザ当たりの SAVE_MB コマンドの実行時間	143
表 6-7	1 組織, 1 ユーザ当たりの LOAD_MB コマンドの実行時間	143
表 9-1	処理別のグループ定義ファイルの設定項目一覧	199
表 9-2	グループデータファイルの設定項目とその内容	201
表 10-1	グループ・掲示板メンバー一括登録ユティリティで実行できない機能	213
表 11-1	出力されるグループや掲示板のメンバーの ID ファイル	218
表 11-2	gmaxgchk コマンドのチェック内容	224
表 13-1	グループ・掲示板メンバー一括登録ユティリティのコマンド実行条件	242
表 13-2	gmaxgchk コマンドの実行時間	243
表 13-3	gmaxgset コマンドの実行時間	243
表 13-4	gmaxgexp コマンドの実行時間	244

表 15-1	見出し定義ファイルの設定内容	268
表 23-1	混在 CSV ファイル	432
表 23-2	UNIX 版だけの CSV ファイル	433

1

一括登録ユティリティの概要

一括登録ユティリティの機能や運転席からの最上位組織、組織、ユーザに対する操作との違いなどを説明します。

-
- 1.1 一括登録ユティリティの機能
 - 1.2 一括登録ユティリティ（コマンド）の構成
 - 1.3 一括登録ユティリティの作業の流れ
 - 1.4 一括登録ユティリティを使ってできること
-

1.1 一括登録ユティリティの機能

一括登録ユティリティは、Address Server に対して最上位組織、組織、ユーザなどの情報を一括して登録する機能とそれらの情報を一括して出力する機能を提供します。

一括登録ユティリティを利用すれば、Groupmax 導入環境でのユーザ登録や登録内容の変更などの保守作業を軽減できます。

1.2 一括登録ユーティリティ（コマンド）の構成

一括登録ユーティリティは次の五つのユーティリティ（コマンド）から構成されます。

gmaxchk コマンド（一括登録チェックユーティリティ）

Address Server への登録情報を格納したユーザ登録ファイルの作成時に、ユーザ登録ファイルに誤りがないかをチェックします。

gmaxset コマンド（一括登録実行ユーティリティ）

ユーザ登録ファイルのデータを Address Server に登録します。

SAVE_MB コマンド（メールボックスバックアップユーティリティ）

移動するユーザ，組織のメールボックスやパスワードなどの情報を保存します。ユーザ，組織の人事異動で，ユーザ，組織の情報や所属するサーバ（ホームサーバ）を移動する場合に使用します。

LOAD_MB コマンド（メールボックスリストアユーティリティ）

SAVE_MB コマンドで保存したユーザ，組織のメールボックスやパスワードなどの情報を回復します。人事異動でユーザ，組織の移動処理が必要な場合に使用します。保存した情報を回復することで，ユーザ，組織のメールボックスやパスワードなどを移動前の状態に戻すことができます。

gmaxexp コマンド（Groupmax Address Export ユティリティ）

Address Server に登録済みの最上位組織，組織，ユーザの情報を CSV（Comma Separated Value）ファイルに出力します。

1.3 一括登録ユーティリティの作業の流れ

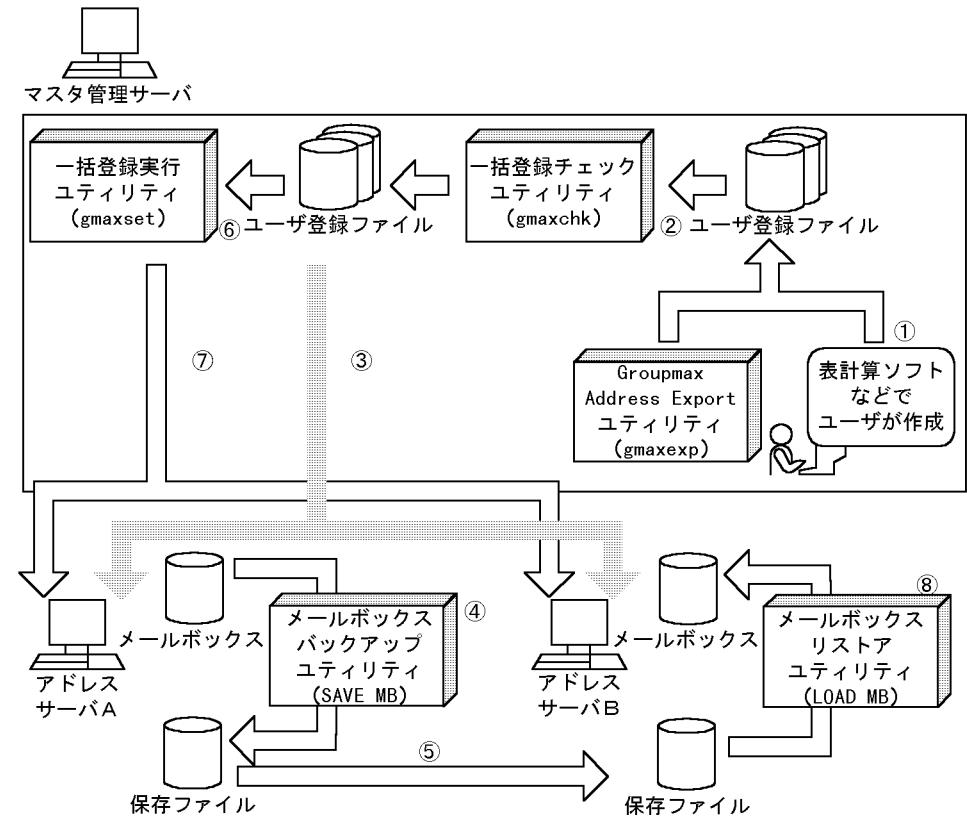
一括登録ユーティリティを使って最上位組織、組織、ユーザの情報を登録する場合は次の作業を実行します。

1. ユーザ登録ファイルの作成
Address Server に登録する最上位組織、組織、ユーザの情報を設定したユーザ登録ファイルを作成します。作成には gmaxexp コマンド (Groupmax Address Export ユティリティ) の出力ファイルや表計算ソフトなどを使います。
2. gmaxchk コマンド (一括登録チェックユーティリティ) の実行
作成したユーザ登録ファイルに誤りがないかを gmaxchk コマンドを実行してチェックします。
組織やユーザの移動をする場合には、チェックが完了したユーザ登録ファイルを移動元と移動先のサーバに転送します。
3. SAVE_MB コマンド (メールボックスバックアップユーティリティ) の実行
組織やユーザの移動をする場合には、移動元のサーバで SAVE_MB コマンドを実行してメールボックスなどの情報をファイルに保存します。情報を保存したファイルは移動先のサーバに転送します。
4. gmaxset コマンド (一括登録実行ユーティリティ) の実行
チェックが完了したユーザ登録ファイルの情報をマスタ管理サーバに登録します。登録した情報はアドレスサーバ (メールサーバ) にレプリケーションされます。
5. LOAD_MB コマンド (メールボックスリストアユーティリティ) の実行
組織やユーザを移動する場合には、移動先のサーバで LOAD_MB コマンドを実行して保存ファイルから情報を回復します。

図 1-1 に一括登録ユーティリティを使用した一連の作業の流れを示します。

図 1-1 は、アドレスサーバ A に登録されているユーザを、アドレスサーバ B に移動する場合の作業の流れです。

図 1-1 一括登録ユーティリティの作業の流れ



- ① Groupmax Address Exportユーティリティや表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する
- ② マスタ管理サーバで一括登録チェックユーティリティを実行し、ユーザ登録ファイルをチェックする
- ③ チェック後のユーザ登録ファイルをマスタ管理サーバからアドレスサーバA、Bに転送する
- ④ アドレスサーバAでメールボックスバックアップユーティリティを実行し、メールボックスを保存する
- ⑤ アドレスサーバAからメールボックスの保存ファイルを、移動先のアドレスサーバBに転送する
- ⑥ マスタ管理サーバで一括登録実行ユーティリティを実行し、ユーザ登録ファイルの情報を登録する
- ⑦ マスタ管理サーバの登録情報がアドレスサーバへレプリケーションされる
- ⑧ アドレスサーバBでメールボックスリストアユーティリティを実行し、保存ファイルの情報をメールボックスに回復する

1.4 一括登録ユティリティを使ってできること

最上位組織，組織，ユーザを登録する方法には，運転席を起動して名前データベースウィンドウを使用する方法と一括登録ユティリティを使用する方法の二通りがあります。

一括登録ユティリティを使えば，運転席からでは実行できない次のような操作が行えます。

ユーザ，組織のメールボックスを移動できます。

Address Server の登録情報を CSV ファイルに出力してほかのアプリケーションで利用したり，逆にほかのアプリケーションが出力した CSV ファイルを編集して，Address Server への登録に利用することができます。

パスワードや掲示板の未既読情報などのユーザ情報を引き継ぐことができます。

2

一括登録ユーティリティの ユーザ登録ファイル

一括登録ユーティリティの実行に必要なユーザ登録ファイルについて説明します。

-
- 2.1 ユーザ登録ファイルとは

 - 2.2 ユーザ登録ファイルの設定内容

 - 2.3 メールボックス容量の定義方法

 - 2.4 最上位組織情報の設定

 - 2.5 組織情報の設定

 - 2.6 ユーザ情報の設定

 - 2.7 兼任ユーザ情報の設定

 - 2.8 ユーザ登録ファイルの作成方法
-

2.1 ユーザ登録ファイルとは

ユーザ登録ファイルとは、一括登録ユーティリティで追加・移動・変更・削除する最上位組織、組織、ユーザの情報を設定した CSV ファイルです。1レコード（行）に一つの最上位組織、組織、ユーザの情報をコンマで区切って設定します。一括登録ユーティリティは、ユーザ登録ファイルを読み込んで、設定されている情報を Address Server に登録します。

2.2 ユーザ登録ファイルの設定内容

ユーザ登録ファイルの 1 レコード (行) には 70 項目分の領域を確保する必要があります。ユーザ登録ファイルの 70 項目の名称と項目に設定する内容を次に示します。なお、項目の説明の先頭にある数字は項番を意味します。

70 の項目のうちユーザ登録ファイルの作成時に設定が必要な項目は、組織種別 (最上位組織, 組織, ユーザ) や処理区分 (追加・移動・変更・削除) によって異なります。

注意

- 文字列の先頭や最後に全角スペース又は半角スペースを設定しても、Address Server への登録では無視されます。ただし、項番 13 のニックネームでは、先頭や最後にある全角スペースは無視されません。
- 全角文字が設定できる項目で、全角スペースを設定しても Address Server への登録では半角スペース 2 個として登録されます。ただし、項番 13 のニックネームでは、半角スペース 2 個ではなく全角スペースとして登録されます。
- 英小文字と英大文字は区別されます。設定する値は英小文字と英大文字の違いまで正しく指定してください。ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、英小文字が英大文字だけが異なる最上位組織 ID, 組織 ID, ユーザ ID を指定することはできません。
- 実行部エラー要因欄を除いて、値を設定しない項目や設定する必要がない項目には、半角スペースも含めて何も設定しないでください。

1 組織種別

登録するデータの種別を指定します。最上位組織の場合 "C" を、組織の場合 "G" を、ユーザの場合 "U" を指定します。"#" を指定した場合、そのレコード (行) はコメントレコードになります。

2 処理種別

設定は必要ありませんが、項目欄は必ず確保してください。

3 処理区分

"A" (追加), "D" (削除), "M" (移動), "C" (変更) を指定します。これ以外の文字を指定しないでください。"A" (追加) を指定した場合、情報を新規に追加します。"D" (削除) を指定した場合、登録済みの情報を削除します。"M" (移動) を指定した場合、登録済みの情報を移動、又は変更します。"C" (変更) を指定した場合、登録済みの情報を変更します。"M" (移動) と "C" (変更) の違いについては、「3.2.1 処理区分 M (移動) と C (変更) の違い」を参照してください。処理区分を省略した場合、コメントレコード (組織種別の先頭に # を挿入) として扱います。

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

! 注意事項

処理区分が移動の場合は、"M"の代わりに"U"を指定することもできます。"M"と"U"には機能差はありません。"U"を指定した場合にも、"M"を指定した場合と同じように一括登録ユーティリティを実行してください。

4 MTA 名

処理対象がメール属性を持つアドレス組織の場合、その組織（共用メールボックス）の MTA 名を指定します。処理対象がメール属性を持つアドレスユーザの場合、そのユーザメールボックスの MTA 名を指定します。

ただし、処理対象がメール属性を持たないアドレスユーザ、宛先ユーザ、アドレス帳ユーザ、兼任ユーザ、アドレス帳組織の場合は指定する必要はありません。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、MTA 名の場合は 7 バイト、他 X.400MTA 名の場合は 17 バイト以内の文字列で指定してください。

: , . (ピリオド), (,) , + , , (コンマ), ' (アポストロフィ), ? , - (マイナス)

5 ユーザ ID

処理対象のユーザのユーザ ID を指定します。数字、英小文字、英大文字、及び - (マイナス) を使用して指定してください (- (マイナス) は文字列の先頭に使用できません)。

主体ユーザの場合は、上記の文字を使って 8 バイト以内の文字列で指定してください。

兼任ユーザの場合は、上記の文字と . (ピリオド) を使って 12 バイト以内の文字列で指定してください。兼任ユーザのユーザ ID は、通常「主体ユーザのユーザ ID + . (ピリオド) + 3 けたまでの数字」という形式です (例: A0001.1)。

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, LPT1 ~ LPT9, lpt1 ~ lpt9, NUL, nul, AUX, aux, CON, con, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字かだけが異なるユーザ ID (例: abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

メール通信で Keymate/Multi による暗号化機能を使用する場合は、ユーザ ID を Keymate/Muti で使用できる文字列にしてください。詳細はマニュアル「MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド」を参照してください。

6 未使用

なし

7 最上位組織 ID

処理対象が最上位組織の場合、その最上位組織の最上位組織 ID を指定します。処理対象が組織の場合、その組織が所属する最上位組織の最上位組織 ID を指定します。

処理対象がユーザの場合、そのユーザが所属する最上位組織の最上位組織 ID を指定します。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、8 バイト以内の文字列で指定してください。

, | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , ? , % , - (マイナス) , &

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9、com1 ~ com9、PRN、及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, & , * , , (コンマ) , : , ; , < , > , ? , ¥ , ^ (ハット) , |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字だけが異なる最上位組織 ID (例:abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

8 所属組織 ID (組織 ID)

処理対象がユーザの場合、そのユーザが所属する組織の組織 ID を指定します。

指定する組織は既に登録されている必要があります。ただし、最上位組織の直下に追加する場合は何も指定しないでください。

処理対象が組織の場合、その組織の組織 ID を指定します。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、8 バイト以内の文字列で指定してください (@ は文字列の先頭に使用できません)。

, | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , ? , % , - (マイナス) , &

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9、com1 ~ com9、PRN、及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, & , * , , (コンマ) , : , ; , < , > , ? , ¥ , ^ (ハット) , |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字だけが異なる組織 ID (例:abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

メール通信で Keymate/Multi による暗号化機能を使用する場合は、組織 ID を Keymate/Muti で使用できる文字列にしてください。詳細はマニュアル「MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド」を参照してください。

9 役職 / 職種 (ユーザ用 / 最上位組織用)

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

処理対象が最上位組織の場合、その最上位組織の職種を指定します。処理対象がユーザの場合、そのユーザの役職を指定します。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイト以内の文字列で指定します。

∶, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /, % 。 (句点), 「, 」, ^ (読点), ・ (中点), ` (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

10 日本語名

処理対象のユーザの日本語名を指定します。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイト以内の文字列で指定します。

∶, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /, % 。 (句点), 「, 」, ^ (読点), ・ (中点), ` (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

11 英語姓

処理対象のユーザの英語姓を指定します。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、16 バイト以内の文字列で指定します。

(,), +, ,, (コンマ), - (マイナス)

なお、Mail - SMTP を使用して、ほかのメールシステムとメールの送受信をする場合、又は Mail - X.400 を使用して HOAPMAIL とメールの送受信をする場合は、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、指定してください。

+, - (マイナス)

12 英語名

処理対象のユーザの英語名を指定します。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、16 バイト以内の文字列で指定します。

(,), +, ,, (コンマ), - (マイナス)

なお、Mail - SMTP を使用して、ほかのメールシステムとメールの送受信をする場合、又は Mail - X.400 を使用して HOAPMAIL とメールの送受信をする場合は、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、指定してください。

+, - (マイナス)

13 ニックネーム

処理対象のユーザのニックネームを指定します。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイト以内の文字列で指定します（先頭文字が半角の場合、一つ以上のピリオドをニックネームに含めてください）。

|, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ? 。 (句点), 「, 」, ^ (読

点),・(中点),` (濁点),° (半濁点),-(マイナス),&

ただし、ピリオドの指定には次の制限があります。

- ピリオドは連続して指定できません。
- ピリオドは文字列の先頭又は最後には指定できません。

また、POP3/IMAP4 の機能を使用する場合は、次の文字を使用しないでください。

全角文字, 半角片仮名, :, @, <, >, (,), ,(コンマ), [,], ;, ¥

また、POP3/IMAP4 の機能を使用する場合は、ピリオドを文字列の先頭又は最後に使用したり、文字列中に連続して使用したりしないでください。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, &, *, ,(コンマ), :, <, >, ?, ¥, ^, |

14 未使用

なし

15 ホームサーバ

処理対象の組織、ユーザを登録するアドレスサーバ(メールサーバ)のドメイン名又はホスト名を指定します。指定したアドレスサーバ(メールサーバ)が、認証時の対象やメール利用時のメールボックスの存在するアドレスサーバ(メールサーバ)になります。

ただし、宛先ユーザ、アドレス帳ユーザ、兼任ユーザ、アドレス帳組織では指定する必要はありません。

使用できる文字の種類と文字列の長さは、gmpublicinfo ファイルの環境変数 DNAMERFC の値によって異なります。gmpublicinfo ファイルについては、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

gmpublicinfo ファイル内に DNAMERFC=N がない場合、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、255 バイト以内の文字列で指定してください。

.(ピリオド),-(マイナス)

注意 1

大文字と小文字の区別はありません。

注意 2

ラベル文字列は英字から始まり、英字が数字で終わらなければなりません。

-(マイナス)は、文字列の最初と最後には使えません。

注意 3

ラベルは.(ピリオド)でつなぎます。一つのラベルは 63 バイトまでです。

gmpublicinfo ファイル内に DNAMERFC=N がある場合、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、255 バイト以内の文字列で指定してください。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,(コンマ), -, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /, %。(句点),「,」,(読点),・(中点),` (濁点),° (半濁点),-(マイナス),&

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

16 プリント名

マスタ管理サーバのセットアップ時に設定したプリント名を指定します。プリント名の指定を省略した場合、セットアップ時に設定したプリント名として扱います。全角文字、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。

∴, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ' (アポストロフィ), ?, /, % 。 (句点), 「, 」, ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &, (タブ)

17 組織略称

処理対象の最上位組織、組織の組織略称を指定します。

最上位組織の場合、数字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、32 バイト以内の文字列で指定します。

#, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, %, - (マイナス)

なお、Mail - SMTP を使用して、ほかのメールシステムとメールの送受信をする場合、又は Mail - X.400 を使用して HOAPMAIL とメールの送受信をする場合は、数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、指定してください。

+ , - (マイナス)

組織の場合、全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイト以内の文字列で指定します。

∴, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /, % 。 (句点), 「, 」, ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

18 未使用

なし

19 未使用

なし

20 未使用

なし

21 未使用

なし

22 未使用

なし

23 上位組織 ID

処理対象が組織の場合、その組織の上位組織の組織 ID を指定します。先に登録されている組織の組織 ID を指定してください。ただし、処理対象が最上位組織の直下に

ある組織の場合は、上位組織の組織 ID を指定しないでください。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、8 バイト以内の文字列で指定してください。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ?, %, - (マイナス),
&

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, &, * ,, (コンマ), : , ; , < , > , ? , ¥ , ^ (ハット), |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字かだけが異なる上位組織 ID (例 :abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

メール通信で Keymate/Multi による暗号化機能を使用する場合は、組織 ID を Keymate/Multi で使用できる文字列にしてください。詳細はマニュアル「MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド」を参照してください。

24 引継フラグ

処理対象が組織の場合、住所、郵便番号、電話番号、FAX 番号、テレックス番号、専用線番号、アンサバックコードを上位組織から引き継ぐかどうかを指定します。処理対象がユーザの場合、電話番号、FAX 番号、テレックス番号、専用線番号、アンサバックコードを所属組織から引き継ぐかどうかを指定します。引き継がない場合は "0" を、引き継ぐ場合は "1" を指定します。"1" を指定した場合、引き継ぐ情報の項目の指定は不要です。

25 電話番号

電話番号を指定します。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、20 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ? , / ,
%。(句点), 「, 」。(読点), ・(中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

26 専用線番号

専用線番号を指定します。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、20 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ? , / ,

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

％ (句点), 「, , ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

27 FAX 番号

FAX 番号を指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 20 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
％ (句点), 「, , ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

28 テレックス番号

テレックス番号を指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 20 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
％ (句点), 「, , ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

29 アンサバックコード

アンサバックコードを指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 20 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
％ (句点), 「, , ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

30 未使用

なし

31 日本語組織名

処理対象の最上位組織, 又は組織の日本語名を指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 128 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
％ (句点), 「, , ^ (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

32 英語組織名

処理対象の最上位組織, 又は組織の英語名を指定します。

数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 128 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,

%, -(マイナス), &

33 郵便番号

郵便番号を指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 10 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
%。(句点), 「, 」, 〃 (読点), ・ (中点), ` (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

34 住所

住所を指定します。

全角文字, 数字, 英小文字, 英大文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 128 バイト以内の文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),
_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /,
%。(句点), 「, 」, 〃 (読点), ・ (中点), ` (濁点), ° (半濁点), - (マイナス),
&, (タブ)

35 共用メールボックス追加フラグ

登録済みの共用メールボックスを設定する場合は "0", 新規に共用メールボックスを設定する場合は "1" を指定します。

36 共用メールボックス ID

共用メールボックス追加フラグに "0" を指定している場合, 登録済みの共用メールボックス ID を指定します。共用メールボックス追加フラグに "1" を指定している場合, 新規に登録する共用メールボックス ID を指定します。

数字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 12 バイト以内の文字列で指定します (@ は文字列の先頭に使用できません)。

#, @, (,), +, ,, (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, %, - (マイナス)

ただし, アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は, COM1 ~ COM9 及び PRN という文字列は指定できません。

また, アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

*, ,, (コンマ), ;, ¥, ^ (ハット)

37 統括組織 ID

処理対象が組織の場合, その組織の共用メールボックスを統括する組織の組織 ID を指定します。

数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 8 バイト以内の文字列で指定してください。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, ,, (コンマ),

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

_, ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ?, %, - (マイナス), &

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, &, *, ,, (コンマ), :, ;, <, >, ?, ¥, ^ (ハット), |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字が小文字だけが異なる統括組織 ID (例 :abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

統括組織が最上位組織以外の組織である場合、@ を文字列の先頭に使うことはできません。また、メール通信で Keymate/Multi による暗号化機能を使用する場合は、統括組織 ID を Keymate/Muti で使用できる文字列にしてください。詳細はマニュアル「MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド」を参照してください。

38 未使用

なし

39 セキュリティランク

処理対象がユーザの場合、Scheduler で使用するセキュリティランクを、英大文字 (A ~ Z), 1 文字で指定します。

Scheduler を使用しない場合、指定する必要はありません。

40 未使用

なし

41 タイプ

"1" (メール属性を持つアドレスユーザ/組織), "3" (メールの宛先ユーザ), "4" (アドレス帳ユーザ/組織), "5" (メール属性を持たないアドレスユーザ), "6" (兼任ユーザ) から指定します。組織で設定を省略した場合には、"1" とみなされます。

42 O/R 名

ユーザの O/R 名を O/R 名の形式で指定します。タイプに "1" を指定した場合、システムで自動生成します。ユーザが指定しても無効です。

タイプに "3" を指定した場合、必ずユーザが指定します。

タイプに "4", "5" 又は "6" を指定した場合、ユーザは指定しないでください。

O/R 名の構成要素は、/C, /A, /P, /O, /OU1, /S, /G, /D で、各要素の区切りには "/" を使います。

(例)

/C=JP/A=ADMD/P=PRMD/O=KANRI/S=SUZUKI/G=ICHIRO/OU1=HOST1

/C: 国名を表します。英大文字を使用して、2 バイト以内の文字列で指定してくだ

さい。通常は JP を指定します。

/A: ADMD 名を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 16 バイト以内の文字列で指定してください。

., (ピリオド), (,), +, ,(コンマ), '(アポストロフィ), 半角スペース, ?, - (マイナス)

/P: PRMD 名を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び半角記号を使用して, 16 バイト以内の文字列で指定してください。使用できる半角記号は, /A と同じです。

/O: 最上位組織略称を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び半角記号を使用して, 64 バイト以内の文字列で指定してください。使用できる半角記号は, /A と同じです。

/OU1: MTA 名を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び半角記号を使用して, 32 バイト以内の文字列で指定してください。使用できる半角記号は, /A と同じです。

/S: 姓を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 16 バイト以内の文字列で指定してください。なお, Mail - SMTP を使用してテーブルマッピングで運用している場合は, 2 バイトから 16 バイトの文字列を指定してください。

(,), +, ,(コンマ), -(マイナス) /G: 名を表します。数字, 英小文字, 英大文字, 及び半角記号を使用して, 16 バイト以内の文字列で指定してください。なお, Mail - SMTP を使用してテーブルマッピングで運用している場合は, 2 バイトから 16 バイトの文字列を指定してください。使用できる半角記号は, /S と同じです。 /D: "/D=RFC-822;" は固定形式です。;以降は数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して, 128 バイト以内の文字列で指定します。

.(ピリオド), @, _ , %, -(マイナス), +, ^ (ハット), =, ~ (チルダ)

なお, Mail - SMTP を使用して, ほかのメールシステムとメールの送受信をする場合, 又は Mail - X.400 を使用して HOAPMAIL とメールの送受信をする場合は, すべての要素について数字, 英小文字, 英大文字, 及び次の半角記号を使用して指定してください。

+ , -(マイナス)

43 未使用

なし

44 未使用

なし

45 上長役職名

処理対象がユーザの場合, そのユーザの上長の役職名を指定します。なお, 指定する上長の役職名は Address Server に登録済みである必要があります。

全角文字, 数字, 英大文字, 英小文字, 半角片仮名, 及び次の半角記号を使用して, 32 バイト以内の文字列で指定します。

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

: , | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , 半角スペース , ? , / , % , 。 (句点) , 「 , 」 , ^ (読点) , ・ (中点) , ` (濁点) , ° (半濁点) , - (マイナス) , &

46 上長ユーザ ID

処理対象がユーザの場合、そのユーザの上長を役職で定義できないときに、上長のユーザ ID を指定します。なお、指定する上長のユーザ ID は、Address Server に登録済みである必要があります。

数字、英小文字、英大文字、及び・(マイナス)を使用して指定してください(・(マイナス)は文字列の先頭に使用できません)。

主体ユーザの場合は、上記の文字を使って 8 バイト以内の文字列で指定してください。

兼任ユーザの場合は、上記の文字と・(ピリオド)を使って 12 バイト以内の文字列で指定してください。兼任ユーザの上長ユーザ ID は、通常「主体ユーザのユーザ ID+・(ピリオド)+3けたまでの数字」という形式です(例:A0001.1)。

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9 , com1 ~ com9 , PRN , 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字だけが異なる上長ユーザ ID (例:abc12345 と Abc12345) を指定することはできません。

メール通信で Keymate/Multi による暗号化機能を使用する場合は、上長ユーザ ID を Keymate/Multi で使用できる文字列にしてください。詳細はマニュアル「MULTI2 暗号ライブラリ & ユーティリティ Keymate/Multi ユーザーズガイド」を参照してください。

47 Scheduler サーバ

Scheduler を使用する場合、処理対象のユーザのホームサーバのドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Scheduler を使用しない場合、指定する必要はありません。

48 Workflow サーバ

Workflow を使用する場合、処理対象のユーザのホームサーバのドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Workflow を使用しない場合、指定する必要はありません。

49 Document Manager サーバ

Document Manager を使用する場合、処理対象のユーザのホームサーバのドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Document Manager を使用しない場合、指定する必要はありません。

50 Document Manager サブサーバ 1

Document Manager を使用する場合、処理対象のユーザのサブサーバ 1 のドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Document Manager を使用しない場合、指定する必要はありません。

51 Document Manager サブサーバ 2

Document Manager を使用する場合、処理対象のユーザのサブサーバ 2 のドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Document Manager を使用しない場合、指定する必要はありません。

52 Document Manager サブサーバ 3

Document Manager を使用する場合、処理対象のユーザのサブサーバ 3 のドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Document Manager を使用しない場合、指定する必要はありません。

53 Document Manager サブサーバ 4

Document Manager を使用する場合、処理対象のユーザのサブサーバ 4 のドメイン名又はホスト名を指定します。使用できる文字の種類、文字列の長さについては、項番 15 の「ホームサーバ」を参照してください。

Document Manager を使用しない場合、指定する必要はありません。

54 メールボックス番号

予備領域です。

55 役職 ID

予備領域です。

56 未使用

なし

57 未使用

なし

58 Groupmax Address 用属性

予備領域です。

59 E-mail

処理対象のユーザの E-mail アドレスを指定します。

数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、256 バイト以内の文字列で指定します (@ は文字列の先頭に使用できません)。POP3/IMAP4 および S/

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

MIME 機能をご利用の場合は、100 バイトまでの文字列を指定することを推奨します。

. (ピリオド), @, _ , % , - (マイナス), + , ^ (ハット), = , ~ (チルダ)

60 Groupmax Scheduler 用属性

予備領域です。

61 Groupmax Workflow 用属性

予備領域です。

62 Groupmax Document Manager 用属性

予備領域です。

63 メールボックス容量

処理対象がメール属性のある組織、ユーザのメールボックス容量を指定します。設定を省略した場合、デフォルト値が設定されます。デフォルト値については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

容量を指定する場合、あらかじめ<インストールディレクトリ>

¥nxcdir¥gmaxmdef.csv ファイル内の定義タイプにメールボックス容量を設定して、その定義タイプを指定します。詳細は、「2.3 メールボックス容量の定義方法」を参照してください。

全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、256 バイト以内の文字列で指定します。

: , | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , 半角スペース , ? , / , % , 。 (句点) , 「 , 」 ^ (読点) , ・ (中点) , ` (濁点) , ° (半濁点) , - (マイナス) , &

64 チェック部処理結果

gmaxchk コマンドがチェック結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。

65 チェック部エラー要因

gmaxchk コマンドがチェックした結果、設定項目に誤りがある場合にエラー要因を出力します。設定は不要ですが、項目欄は必ず確保してください。

66 実行部処理結果 (M)

gmaxset コマンドが実行結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。

67 未使用

なし

68 未使用

なし

69 未使用

なし

70 実行部エラー要因

gmaxset コマンドを実行した結果、エラーが発生した場合のエラー要因を出力します。表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する場合は、半角スペースを設定してください。テキストエディタで作成する場合は、値を設定しないでください。

2.3 メールボックス容量の定義方法

組織，ユーザのメールボックス容量を設定するメール定義ファイルの設定内容について説明します。

2.3.1 メール定義ファイルとは

メール定義ファイルとは，メールボックス容量を定義した<インストールディレクトリ>¥nxcdir¥gmaxmdef.csv ファイルのことです。メール定義ファイルは，1レコード（行）に一つのメールボックス容量などをコンマで区切って設定した CSV ファイルです。一括登録ユーティリティは，ユーザ登録ファイルとメール定義ファイルを読み込み，設定されているメールボックス容量をサーバに登録します。なお，メールボックス容量はユーザ登録ファイルでも設定できます。ユーザ登録ファイルについては「2.2 ユーザ登録ファイルの設定内容」を参照してください。

2.3.2 メール定義ファイルの設定内容

メール定義ファイルの1レコード（行）には，組織の場合18項目，ユーザの場合14項目設定する必要があります。メール定義ファイルの項目と設定する内容を次に示します。なお，項目の説明の先頭にある数字は項番を意味します。

注意

- 定義タイプは登録する値の識別に使用するため，メール定義ファイル内でユニークである必要があります。
- 文字列の先頭や最後に全角スペース又は半角スペースを設定しても，Address Server への登録では無視されます。
- 値を設定しない項目や設定する必要がない項目には，半角スペースも含めて何も設定しないでください。

1 定義種別

登録するデータの種別を指定します。共用メールボックス容量の場合"G"を，ユーザメールボックス容量の場合"U"を指定します。"#を指定した場合，そのレコード（行）はコメントレコードになります。

2 定義タイプ

登録する値を識別するための名称を任意に指定します。ユーザ登録ファイルでメールボックス容量を指定する場合，この定義タイプを指定します。

3 受信容量

受信メールの容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

4 受信警告開始容量

受信メールの警告開始容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

5 受信削除後容量

受信メールの削除後容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

6 受信蓄積数

受信メールの蓄積数を指定します。

7 受信警告開始蓄積数

受信メールの警告開始蓄積数を指定します。

8 受信削除後蓄積数

受信メールの削除後蓄積数を指定します。

9 送信容量

送信メールの容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

10 送信警告開始容量

送信メールの警告開始容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

11 送信削除後容量

送信メールの削除後容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

12 送信蓄積数

送信メールの蓄積数を指定します。

13 送信警告開始蓄積数

送信メールの警告開始蓄積数を指定します。

14 送信削除後蓄積数

送信メールの削除後蓄積数を指定します。

15 保留容量

保留メールの容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

16 保留警告開始容量

保留メールの警告開始容量を MB 単位で指定します。1MB は 1024 × 1024 バイトです。

17 保留蓄積数

保留メールの蓄積数を指定します。

18 保留警告開始蓄積数

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

保留メールの警告開始蓄積数を指定します。

表 2-1 メール定義ファイルの設定内容

項番	設定項目	組織設定条件	ユーザ設定条件	使用可能文字	最大文字数
1	定義種別	G	U	"G","U",又は"#"	1
2	定義タイプ			注 1 の文字	32 ²
3	受信容量			半角数字	3
4	受信警告開始容量			半角数字	3
5	受信削除後容量			半角数字	3
6	受信蓄積数			半角数字	4
7	受信警告開始蓄積数			半角数字	4
8	受信削除後蓄積数			半角数字	4
9	送信容量			半角数字	3
10	送信警告開始容量			半角数字	3
11	送信削除後容量			半角数字	3
12	送信蓄積数			半角数字	4
13	送信警告開始蓄積数			半角数字	4
14	送信削除後蓄積数			半角数字	4
15	保留容量		-	半角数字	3
16	保留警告開始容量		-	半角数字	3
17	保留蓄積数		-	半角数字	4
18	保留警告開始蓄積数		-	半角数字	4

(凡例)

：必ず設定しなければならないことを示します。

-：設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。

上記以外：表中の値を設定することを示します。

注 1

定義タイプに使用可能な文字は、全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号です。ただし、空白文字だけを設定することはできません。

また、数字と数字以外の文字を 11 回以上繰り返す文字列（例えば

1a2b3c4d5e6f7g8h9i10j11k など）も設定できません。

：, | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , 半角スペース , ? , / , % , 。 (句点) , 「 , 」 , 。（読点）, ・ (中点) , ` (濁点) , ° (半濁点) , - (マイナス) , &

注 2

この文字数は半角文字の場合です。全角文字の場合 16 文字以内で指定します。

2.4 最上位組織情報の設定

ユーザ登録ファイルに、最上位組織の追加・削除・変更を設定する場合に必要な項目を表 2-2 に示します。表 2-2 に記述のない項目には値を設定しないでください。表 2-2 の項番は、ユーザ登録ファイルの 70 個の項目のうちの何番目に設定する項目であることを示しています。

! 注意事項

最上位組織は移動できません。そのため処理区分に M はありません。

表 2-2 最上位組織の追加・削除・変更に必要な設定項目

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D)	変更 (C)
1	組織種別 (最上位組織)	C	C	C
3	処理区分	A	D	C
7	最上位組織 ID			
9	職種		-	1
17	組織略称		-	-
25	電話番号		-	1
26	専用線番号		-	1
27	FAX 番号		-	1
28	テレックス番号		-	1
29	アンサバックコード		-	1
31	日本語組織名		-	
32	英語組織名		-	1
33	郵便番号		-	1
34	住所		-	1
64	チェック部処理結果	×	×	×
65	チェック部エラー要因	-	-	-
66	実行部処理結果 (M)	×	×	×
70	実行部エラー要因 ²	-	-	-

(凡例)

- : 必ず設定しなければならないことを示します。
- : 必ず登録済みのデータを設定することを示します。
- : 任意で設定することを示します。
- : 設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。

×：値を設定してはいけないことを示します。
上記以外：表中の値を設定することを示します。

注 1

これらの項目については、Address Server に登録されている値を一括登録ユーティリティを使って削除できます。詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

注 2

表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する場合には、半角スペースを設定してください。

2.5 組織情報の設定

ユーザ登録ファイルに、組織の追加・削除・移動・変更を設定する場合に必要な項目を表 2-3 に示します。表 2-3 に記述のない項目には値を設定しないでください。表 2-3 の項番は、ユーザ登録ファイルの 70 個の項目のうちの何番目に設定する項目であるかを示しています。

表 2-3 組織の追加・削除・移動・変更に必要な設定項目

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D)	移動 (M)	変更 (C)
1	組織種別 (組織)	G	G	G	G
3	処理区分	A	D	M	C
4	MTA 名	1	-	1	-
7	最上位組織 ID		-		-
8	組織 ID				
15	ホームサーバ	1	-	1	-
16	プリンタ名		-		-
17	組織略称		-		
23	上位組織 ID	2	-	2	3 4
24	引継フラグ		-		
25	電話番号		-		4
26	専用線番号		-		4
27	FAX 番号		-		4
28	テレックス番号		-		4
29	アンサバックコード		-		4
31	日本語組織名		-		
32	英語組織名		-		4
33	郵便番号		-		4
34	住所		-		4
35	共用メールボックス追加フラグ ⁵		-		-
36	共用メールボックス ID ⁵		-		
37	統括組織 ID ¹		-		
41	タイプ	6	-	6	-
63	メールボックス容量 ⁷		-		
64	チェック部処理結果	×	×	×	×

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D)	移動 (M)	変更 (C)
65	チェック部エラー要因	-	-	-	-
66	実行部処理結果 (M)	×	×	×	×
70	実行部エラー要因 ⁸	-	-	-	-

(凡例)

- ：必ず設定しなければならないことを示します。
- ：必ず登録済みのデータを設定することを示します。
- ：任意で設定することを示します。
- ：任意で、登録済みのデータを設定することを示します。
- ：設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。
- ×：値を設定してはいけないことを示します。
- 上記以外：表中の値を設定することを示します。

注 1

共用メールボックス追加フラグに "1" を設定する場合には、必ず設定してください。

注 2

最上位組織直下の組織の追加 (A) 又は移動 (M) を行う場合は、設定しないでください。

注 3

上位組織の変更は、同一最上位組織下の組織だけ指定できます。別の最上位組織下に変更する場合は、処理区分 "M" (移動) で最上位組織 ID と上位組織 ID を変更してください。最上位組織直下以外の組織を最上位組織直下に変更する場合、項目削除機能を使用して上位組織 ID を削除してください。

注 4

これらの項目については、Address Server に登録されている値を一括登録ユーティリティを使って削除できます。詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

注 5

メール属性を持つアドレス組織を設定する場合には、必ず設定してください。

注 6

設定を省略した場合には、"1" とみなされます。

注 7

メール属性を持つアドレス組織の場合だけ指定できます。メール属性を持つアドレス組織以外の場合、指定しないでください。

注 8

表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する場合には、半角スペースを設定して

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

ください。

2.6 ユーザ情報の設定

ユーザ登録ファイルに、ユーザの追加・削除・移動・変更を設定する場合に必要な項目を表 2-4 に示します。表 2-4 に記述のない項目には値を設定しないでください。表 2-4 の項番は、ユーザ登録ファイルの 70 個の項目のうちの何番目に設定する項目であることを示しています。

表 2-4 ユーザの追加・削除・移動・変更に必要な設定項目

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D)	移動 (M)	変更 (C)
1	組織種別 (ユーザ)	U	U	U	U
3	処理区分	A	D	M	C
4	MTA 名	1	-	1	-
5	ユーザ ID				
7	最上位組織 ID		-		-
8	所属組織 ID	2	-	2	3 4
9	役職		-		4
10	日本語名		-		
11	英語姓		-		
12	英語名		-		
13	ニックネーム		-		
15	ホームサーバ	5	-	5	-
16	プリンタ名		-		-
24	引継フラグ		-		
25	電話番号		-		4
26	専用線番号		-		4
27	FAX 番号		-		4
28	テレックス番号		-		4
29	アンサバックコード		-		4
39	セキュリティランク	6	-	6	13
41	タイプ ⁷		-		-
42	O/R 名 ⁸		-		-
45	上長役職名		-		4
46	上長ユーザ ID		-		4
47	Scheduler サーバ	6	-	6	4
48	Workflow サーバ	9	-	9	4

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D)	移動 (M)	変更 (C)
49	Document Manager サーバ	10	-	10	4
50	Document Manager サブサーバ 1		-		4
51	Document Manager サブサーバ 2		-		4
52	Document Manager サブサーバ 3		-		4
53	Document Manager サブサーバ 4		-		4
54	メールボックス番号 ¹¹		-		12
59	E-mail ¹¹		-		4
63	メールボックス容量 ¹¹		-		
64	チェック部処理結果	×	×	×	×
65	チェック部エラー要因	-	-	-	-
66	実行部処理結果 (M)	×	×	×	×
70	実行部エラー要因 ¹⁴	-	-	-	-

(凡例)

- : 必ず設定しなければならないことを示します。
- : 必ず登録済みのデータを設定することを示します。
- : 任意で設定することを示します。
- : 任意で、登録済みのデータを設定することを示します。
- : 設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。
- × : 値を設定してはいけないことを示します。
- 上記以外 : 表中の値を設定することを示します。

注 1

同じ MTA に英語姓と英語名が同じユーザを登録すると、O/R 名が重複してエラーになります。このような場合は、マスタ管理サーバの<インストール先ディレクトリ> ¥nxcdir¥gmpublicinfo ファイルに次のように指定します。ユーザ登録、又はユーザ移動で O/R 名が重複しても、O/R 名の「/S=」のオペランドをシステムが重複しないように自動生成します。

```
ORNAME_GEN=AUTO
```

注 2

兼任ユーザを設定している場合、主体ユーザに対して削除 (D)・移動 (M) を行うと、兼任ユーザ情報も削除されます。

注 1

タイプに "1" を設定する場合には、必ず設定してください。

注 2
最上位組織直下へユーザを追加 (A) 又は移動 (M) する場合は設定しないでください。

注 3
所属組織の変更は、同一最上位組織下の組織だけ指定できます。別の最上位組織下に変更する場合は、処理区分 "M" (移動) で最上位組織 ID と所属組織 ID を変更してください。最上位組織直下以外のユーザを最上位組織直下に変更する場合、項目削除機能を使用して所属組織 ID を削除してください。

注 4
これらの項目については、Address Server に登録されている値を一括登録ユーティリティを使って削除できます (ただし、Scheduler サーバの項目を削除する場合、セキュリティランクの設定も同時に削除されます)。
詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

注 5
タイプに "1" 又は "5" を設定する場合に、必ず設定してください。タイプに "3" 又は "4" を設定する場合には、設定しないでください。

注 6
Scheduler ユーザの場合には、必ず設定してください。Scheduler ユーザでない場合には設定しないでください。

注 7
宛先ユーザ、アドレス帳ユーザを設定する場合、次のパラメタを指定しても無効になります。
項番 47 (Scheduler サーバ) ~ 項番 53 (Document Manager サブサーバ 4)

注 8
タイプに "3" を設定する場合には、必ずユーザが設定してください。タイプに "3" 以外を設定する場合には、自動的に設定されます。ユーザは設定しないでください。

注 9
Workflow ユーザの場合には、必ず設定してください。

注 10
Document Manager ユーザの場合には、必ず設定してください。

注 11
メール属性を持つアドレスユーザの場合だけ指定できます。メール属性を持つアドレスユーザ以外の場合、指定しないでください。

注 12

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

登録済みの場合、指定しても無効になります。

注 13

Scheduler サーバを設定する場合は、必ず設定してください。Scheduler サーバを設定していない場合は、設定しないでください。

注 14

表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する場合には、半角スペースを設定してください。

2.7 兼任ユーザ情報の設定

ユーザ登録ファイルに、兼任ユーザの追加・削除・移動・変更を設定する場合に必要な項目を表 2-5 に示します。表 2-5 に記述のない項目には値を設定しないでください。

表 2-5 の項番は、ユーザ登録ファイルの 70 個の項目のうちの何番目に設定する項目であるかを示しています。

表 2-5 兼任ユーザの追加・削除・移動・変更に必要な設定項目

項番	設定項目	追加 (A)	削除 (D) 8	移動 (M)	変更 (C)
1	組織種別 (ユーザ)	U	U	U	U
3	処理区分	A	D	M	C
5	ユーザ ID ¹				
7	最上位組織 ID		-		-
8	所属組織 ID	2	-	2	3 4 7
9	役職		-		4
10	日本語名		-		
11	英語姓		-		
12	英語名		-		
13	ニックネーム	5	-		
24	引継フラグ		-		
25	電話番号		-		4
26	専用線番号		-		4
27	FAX 番号		-		4
28	テレックス番号		-		4
29	アンサバックコード		-		4
41	タイプ	6	-	6	-
45	上長役職名		-		4
46	上長ユーザ ID		-		4
64	チェック部処理結果	×	×	×	×
65	チェック部エラー要因	-	-	-	-
66	実行部処理結果 (M)	×	×	×	×
70	実行部エラー要因 ⁶	-	-	-	-

(凡例)

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

- : 必ず設定しなければならないことを示します。
- : 必ず登録済みのデータを設定することを示します。
- : 任意で設定することを示します。
- : 任意で、登録済みのデータを設定することを示します。
- : 設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。
- x : 値を設定してはいけないことを示します。
- 上記以外 : 表中の値を設定することを示します。

注 1

追加 (A) の場合には、主体ユーザのユーザ ID を指定します。削除 (D)、移動 (M)、及び変更 (C) の場合には、兼任ユーザのユーザ ID を指定します。

注 2

最上位組織直下へ兼任ユーザを追加 (A) 又は移動 (M) する場合は設定しないでください。

注 3

所属組織の変更は、同一最上位組織下の組織だけ指定できます。別の最上位組織下の組織を所属組織にする場合は、処理区分 "M" (移動) で最上位組織 ID と所属組織 ID を変更してください。最上位組織直下以外のユーザを最上位組織直下に変更する場合、項目削除機能を使用して所属組織 ID を削除してください。

注 4

これらの項目については、Address Server に登録されている値を一括登録ユーティリティを使って削除できます。詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

注 5

追加 (A) の場合に、指定しなかったときは自動生成されます。

注 6

表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する場合には、半角スペースを設定してください。

注 7

兼任ユーザの所属組織を変更する場合、主体ユーザに設定されている兼任ユーザの所属組織の権利は引き継がれません。変更後の所属組織の権利が必要なときは再度設定してください。

注 8

兼任ユーザを削除すると、主体ユーザの権利組織が削除される場合があります。主体ユーザの権利組織が必要な場合は再度設定してください。

2.8 ユーザ登録ファイルの作成方法

ユーザ登録ファイルの作成方法を次の二つの手順に分けて説明します。

- ユーザ登録ファイルの基になるデータを用意する
- 表計算ソフトやテキストエディタで作成する

2.8.1 ユーザ登録ファイルの基になるデータを用意する

データを用意する方法には次の二つがあります。

- Address Server が提供するユーザ登録ファイルのサンプルを利用する
- Address Server に登録済みの情報を出力して利用する

それぞれの方法について説明します。

(1) Address Server が提供するユーザ登録ファイルのサンプルを利用する

Address Server が提供するユーザ登録ファイルのサンプルは、次のディレクトリにあります。

```
<インストール先ディレクトリ>¥sample
```

ここから、サンプルファイルをコピーしてユーザ登録ファイルを作成します。なお、サンプルファイルの詳細は、「5. 一括登録ユーティリティの使用例」を参照してください。

(2) Address Server に登録済みの情報を出力して利用する

gmaxexp コマンドを使うと、Address Server に登録済みの最上位組織、組織、ユーザの情報が、ユーザ登録ファイルと同じ 70 の項目を持つ CSV ファイルとして出力できます。登録済みの最上位組織、組織、ユーザの情報をすべて出力する場合は、マスタ管理サーバのコマンドプロンプトで次のように実行します。

```
<インストール先ディレクトリ>¥bin¥gmaxexp -a cgu <出力先ファイル名>
```

オプションなどの指定を変更すれば、特定のユーザの情報だけを出力したり、特定の組織に所属するユーザの情報だけを出力したりもできます。gmaxexp コマンドの詳細は、「4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド」を参照してください。

出力したファイルを利用して、ユーザ登録ファイルを作成します。

2.8.2 表計算ソフトやテキストエディタで作成する

Microsoft(R) Excel などの表計算ソフトやメモ帳などのテキストエディタを使ってユーザ登録ファイルを作成する方法を説明します。

表計算ソフトとテキストエディタのどちらを使ってもユーザ登録ファイルは作成できます。しかし、表計算ソフトを使った方がデータが見やすいため、ユーザ登録ファイルの作成が容易です。

(1) 表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成する

表計算ソフトで作成する場合、各レコード（行）のセルに項目の値を設定します。値を設定する必要がないセルには、データを入力しないでください。

！ 注意事項

ユーザ登録ファイルは、1レコード（行）に70項目分の領域を確保する必要があります。このためには、表計算ソフトで作成する場合は、70番目のセルに半角スペースを1文字設定する必要があります。

表計算ソフトで作成したユーザ登録ファイルを保存する場合、保存形式にCSV形式（コンマ区切り形式）を選択して保存します。

表計算ソフトで作成する場合の例を次に示します。なお、ユーザ登録ファイルの70番目のセルには、半角スペースが設定してあります。

1	2	3	4	5	6	7	...	10	11	12	13	...	70
U		A	MWS15 5	A000 1		Akaisy a	...	田中一 朗	Tana ka	Ichir ou	I.Tan aka	...	

サンプルファイルや gmaxexp コマンドで出力したファイルを基にしてユーザ登録ファイルを作成すると、先頭行に見出しが設定されるため、項目に何を設定するのかが分かりやすくなります。

(2) テキストエディタでユーザ登録ファイルを作成する

メモ帳などのテキストエディタで作成する場合、各レコード（行）に各項目の値を、（コンマ）で区切って設定します。値を設定する必要がない場合は、コンマだけを設定します。

項目の値にコンマが含まれる場合は、項目の値全体を"（ダブルクォーテーション）で囲んで設定してください。

例

項目の値：12,345

設定する値："12,345"

項目の値にダブルクォーテーションが含まれる場合は、ダブルクォーテーション 1 文字につきダブルクォーテーション 2 文字を設定した上で、項目の値全体をダブルクォーテーションで囲んで設定してください。

例

項目の値：AB"c"D

設定する値："AB""c""D"

! 注意事項

ユーザ登録ファイルは、1 レコード（行）に 70 項目分の領域を確保する必要があります。このためには、テキストエディタで作成する場合は、1 レコード（行）に 69 個のコンマが必要です。

テキストエディタで作成する場合の例を次に示します。

```
U,,A,MWS155,A0001,,Akaisya,,A  社長, 田中一郎
,Tanaka,Ichirou,I.Tanaka,,ws155,printername,,,,,,,,,0,03-1234-0001,1,03-1234-0001,,,,,,,,,A,,1,,,,,ws1
55,ws155,ws155,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
```

2.8.3 メールボックス容量の指定方法

(1) メールボックス容量の指定手順

メール属性を持つアドレス組織 / ユーザを登録、移動、及び変更する場合に、メールボックス容量を設定、引き継ぎ、及び変更することができます。メールボックス容量を指定する場合、次の手順で指定してください。

1. メール定義ファイルへのメールボックス容量の設定
指定したいメールボックス容量をマスタ管理サーバのメール定義ファイルに定義します。定義タイプには、設定した値を識別するための名前を任意に登録します。既に定義している場合には、この作業は必要ありません。
2. ユーザ登録ファイルの作成
ユーザ登録ファイルを作成して、項番 63 のメールボックス容量にメール定義ファイルで設定した定義タイプを指定します。
3. gmaxchk コマンドの実行
マスタ管理サーバで gmaxchk コマンドを実行します。gmaxchk コマンドは、メールボックス容量欄に指定された定義タイプと、それに一致する定義タイプをメール定義ファイルから検索して、そのレコードのメールボックス容量をユーザ登録ファイルに設定します。チェック結果に問題がないレコードのメールボックス容量の定義タイプは、メールボックス容量に変換され、設定していた定義タイプは括弧内に表示します。
4. gmaxset コマンドの実行

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

マスタ管理サーバで gmaxset コマンドを実行します。gmaxchk コマンドでチェックした時のメールボックス容量でデータが登録されます。

メールボックス容量を指定する場合、メール定義ファイルに容量を定義する方法のほかに、ユーザ登録ファイルに容量を直接指定する方法もあります。直接指定した場合、メール定義ファイルに関係なく指定した値で登録されます。

容量を直接指定する場合、ユーザ登録ファイルのメールボックス容量にメール定義ファイルの項番 3 (受信容量) から項番 18 (保留警告開始蓄積数) の順番で容量を直接記述してください。処理対象がユーザの場合、項番 15 (保留容量) から項番 18 (保留警告開始蓄積数) は必要ありません。指定する容量と容量の間には英字、又は半角記号を 1 文字以上挿入してください。容量を直接指定する容量直接指定形式の例を次に示します。この例では、容量 10MB、警告開始容量 8MB、削除後容量 6MB、蓄積数 100 通、警告開始蓄積数 80 通、削除後蓄積数 60 通で登録されます。

組織の場合

```
Receive=10;8;6/100;80;60 Send=10;8;6/100;80;60 Hold=10;8/100;80
```

ユーザの場合

```
Receive=10;8;6/100;80;60 Send=10;8;6/100;80;60
```

(2) メールボックス容量指定の例

ここでは、3 ユーザ (相田進、斎藤保、中山正太) のメールボックス容量を登録する例を示します。設定したいメールボックス容量は次のとおりです。相田進は課長なので、ほかの二人のユーザとは異なるメールボックス容量を設定します。

	相田進	斎藤保	中山正太
受信容量	20	10	10
受信警告開始容量	15	8	8
受信削除後容量	10	6	6
受信蓄積数	200	100	100
受信警告開始蓄積数	180	80	80
受信削除後蓄積数	180	80	80
送信容量	10	10	10
送信警告開始容量	8	8	8
送信削除後容量	5	6	6
送信蓄積数	100	100	100
送信警告開始蓄積数	80	80	80
送信削除後蓄積数	80	80	80

まず、設定したいメールボックス容量からメール定義ファイルを次のように作成します。

ここでは相田進に設定するメールボックス容量の定義タイプを「課長用」、斎藤保と中山正太に設定する定義タイプを「課員用」としています。

項番	設定項目	2レコード	3レコード
1	定義種別	U	U
2	定義タイプ	課長用	課員用
3	受信容量	20	10
4	受信警告開始容量	15	8
5	受信削除後容量	10	6
6	受信蓄積数	200	100
7	受信警告開始蓄積数	180	80
8	受信削除後蓄積数	180	80
9	送信容量	10	10
10	送信警告開始容量	8	8
11	送信削除後容量	5	6
12	送信蓄積数	100	100
13	送信警告開始蓄積数	80	80
14	送信削除後蓄積数	80	80

次に、作成したメール定義ファイルから、ユーザ登録ファイルを次のように作成します。メールボックス容量欄に定義タイプを設定してください。

# 組織種別	...	日本語名	...	メールボックス容量	...
U		相田進		課長用	
U		斎藤保		課員用	
U		中山正太		課員用	

(3) メールボックス容量を指定する場合の注意事項

メールボックス容量は、マスタ管理サーバのメール定義ファイルに定義してください。また、メール定義ファイルの名前やファイルの場所を変更しないでください。

gmaxchk コマンドを実行する場合、マスタ管理サーバで実行してください。

03-10 より前の環境から移行する場合など、登録済みのメールボックスの容量をメール定義ファイルに出力したい場合、一度 gmaxexp コマンドに -T オプションを指定して全組織、全ユーザを出力すると、登録されていない容量がメール定義ファイルに追加されます。詳細は「4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド」を参照してください。

例) gmaxexp -T -a gu c:¥temp¥work.csv

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

メールボックス容量を定義タイプで指定した場合、一度 gmaxchk ユティリティでチェックして問題のないレコードは、設定した文字列が変更されます。再度チェックする場合、必ず gmaxchk コマンドによってバックアップされたファイルを使用してください。

gmaxchk コマンド実行後に、メール定義ファイルの値を変更してもその値は反映されません。この場合、バックアップとして保存されたユーザ登録ファイル(.bak ファイル)の拡張子を .bak 以外に変更してから、再度 gmaxchk コマンドでチェックして gmaxset コマンドを実行ください。

2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項

ユーザ登録ファイルを作成するときに注意が必要な事項について説明します。

(1) コメントについて

ユーザ登録ファイルでは次の二つのレコード(行)をコメントとして扱います。コメントのデータは一括登録ユーティリティのコマンドでは無視されます。

組織種別(1番目の項目)が#で始まっているレコード(行)
ただし、#!で始まるコメントレコードを作成してはいけません。

処理区分(3番目の項目)に値を設定していないレコード(行)
処理区分(3番目の項目)に値を設定していない場合には、gmaxchk コマンド実行時に組織種別(1番目の項目)の先頭に#が挿入されます。

(2) 最上位組織、組織、ユーザを追加するときの記述順について

組織を追加する場合には、その組織が所属する最上位組織、上位組織が先に登録されている必要があります。また、ユーザを追加する場合、そのユーザが所属する最上位組織、組織が先に登録されている必要があります。そのため、追加を実施する場合は、最上位組織、組織、ユーザの順番でユーザ登録ファイルに記述します。

なお、最上位組織の追加に失敗した場合、その最上位組織に所属する組織、ユーザの追加も失敗します。同様に組織の追加に失敗した場合、その組織に所属する下位組織、ユーザの追加も失敗します。

(3) 最上位組織、組織、ユーザを削除するときの記述順について

組織を削除する場合には、その組織に所属する全ユーザ、全下位組織が削除されている必要があります。また、最上位組織を削除する場合、その最上位組織に所属する全ユーザ、全組織が削除されている必要があります。そのため、削除を実施する場合はユーザ、組織、最上位組織の順番でユーザ登録ファイルに記述します。

なお、ユーザの削除に失敗した場合、そのユーザが所属する組織、最上位組織の削除も失敗します。同様に組織削除に失敗した場合、その組織が所属する上位組織、最上位組織の削除も失敗します。

(4) 登録されている最上位組織，組織，ユーザの情報の項目削除について

Address Server に登録されている最上位組織，組織，ユーザ，兼任ユーザの項目の一部は一括登録ユーティリティで削除ができます。ただし，すべての項目が削除できるわけではありません。また，最上位組織，組織，ユーザ，兼任ユーザでそれぞれ削除できる項目が異なります。最上位組織から削除できる項目については，「2.4 最上位組織情報の設定」を参照してください。組織から削除できる項目については，「2.5 組織情報の設定」を参照してください。ユーザから削除できる項目については，「2.6 ユーザ情報の設定」を参照してください。兼任ユーザから削除できる項目については，「2.7 兼任ユーザ情報の設定」を参照してください。

削除の手順は次のとおりです。

1. 項目削除文字列を決定します。
半角の英数字だけを使用して，16文字以内で決定してください。英大文字と英小文字は区別されます。また，項目削除文字列は，Address Server に登録されている最上位組織，組織，ユーザ，兼任ユーザの情報の項目と重ならない文字列にしてください。
2. ユーザ登録ファイルを作成します。
項目を削除したい最上位組織，組織，ユーザ，兼任ユーザの処理区分は C (変更) にします。処理区分 C に必要な項目を設定した後に，削除したい項目に手順 1 で決めた項目削除文字列を設定してください。削除できない項目に項目削除文字列を指定すると，その項目に項目削除文字列が登録される可能性があるので注意してください。
3. gmaxchk コマンドを実行します。
項目を削除する場合には，通常のオプションに加えてオプション `-k` と項目削除文字列を指定して実行します。なお，項目削除文字列は，大文字と小文字を区別するので注意してください。例を次に示します。

```
gmaxchk -k 項目削除文字列 ユーザ登録ファイル
```

gmaxchk コマンドの詳細は，「4.2 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk コマンド」を参照してください。

注意

項目削除文字列は環境変数で指定することもできます。Windows NT のコントロールパネルのシステムアイコンを使って，環境変数「ITEM_DELETE_KEY」を設定して，値に項目削除文字列を指定してください。環境変数で指定する場合，gmaxchk コマンド実行時にオプション `-k` を指定する必要はありません。なお，環境変数とオプション `-k` の両方で項目削除文字列を指定した場合は，オプション `-k` での指定が有効になります。

項目の削除時の注意事項

- 項目削除文字列を指定して gmaxchk コマンドを実行した場合，通常チェックしたユーザ登録ファイルの最終レコードにコメントが追加されます。このコメントは

2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル

gmaxset コマンドが内部で使用するため、登録処理が完了するまで編集しないでください。

- gmaxchk コマンドで同一ファイルを複数回チェックする場合、前回チェックをしたときの項目削除文字列と今回指定した項目削除文字列をチェックします。両者で項目削除文字列が一致しない場合、又は項目削除文字列の設定の有無が違う場合は、警告メッセージが表示され、処理が継続されます。
- Scheduler サーバの項目を削除する場合、セキュリティランクの設定も同時に削除されます。Scheduler サーバの項目だけを削除することはできません。
- 項目削除機能を使用してチェックしたユーザ登録ファイルをバージョン 02-31/C より前のバージョンの一括登録ユーティリティで実行しないでください。
- 項目削除文字列をユーザ登録ファイルの削除できない項目に設定した場合、通常の変更としてその項目に項目削除文字列を登録します。このため、削除できない項目に項目削除文字列を設定しないでください。

(5) gmaxchk コマンド実行後にユーザ登録ファイルを修正する場合の注意点

gmaxchk コマンドでユーザ登録ファイルをチェックすると、チェック結果やエラー要因などをユーザ登録ファイルに書き込むだけでなく、処理区分に M (移動) を設定したレコードやメールボックス容量などのデータを内部形式に書き換えます。gmaxchk コマンドは、ユーザ登録ファイルを一括登録ユーティリティで処理できる内部形式に変更するため、変更する前にユーザ登録ファイルのバックアップを作成します。バックアップは、ユーザ登録ファイルの拡張子を .bak という名前に変更して保存します。

gmaxchk コマンドでエラーが発生したなどの理由で、チェック実行後にユーザ登録ファイルを修正する場合、gmaxchk コマンドで指定したユーザ登録ファイルではなく、コマンドによってバックアップされたファイル (拡張子が .bak のファイル) を修正してください。

gmaxchk コマンドで指定したユーザ登録ファイルは、コマンドによってデータが内部形式に書き換えられているため、この書き換えられたファイルを修正して一括登録ユーティリティを実行すると、ユーザ情報が正しく登録されず、重要なユーザデータが初期化される可能性があります。そのため、gmaxchk 実行後にユーザ登録ファイルを修正する場合、必ず gmaxchk コマンドでバックアップされたファイルを修正してください。

gmaxchk コマンドによって書き換えられたユーザ登録ファイルは絶対に使用しないでください。書き換えられたユーザ登録ファイルを修正して一括登録ユーティリティを実行した場合には動作保証されません。

ただし例外として、「5.6 組織のサーバ間移動の例」のように、gmaxchk コマンドでチェックが完了したユーザ登録ファイルのレコード (行) の位置をファイル内で前後に変更する場合に限り、ユーザ登録ファイルを編集することができます。レコードの位置を前後に変更した場合、必ず gmaxchk コマンドを実行してチェックし直してください。レコードの位置を変更する以外では、ユーザ登録ファイルを編集しないでください。

(6) ユーザ登録ファイルの名称について

一括登録ユーティリティでは、ユーザ登録ファイル名の末尾（拡張子）が .bak のファイルを指定することはできません。

3

一括登録ユティリティの実行手順

一括登録ユティリティを使用して最上位組織，組織，ユーザを登録する手順について説明します。一括登録ユティリティを使用するときは，この手順どおりに実行してください。

3.1 一括登録ユティリティの作業手順

3.2 一括登録ユティリティ実行時の注意点

3.1 一括登録ユーティリティの作業手順

一括登録ユーティリティを使用して最上位組織，組織，ユーザの追加・移動・変更・削除を Address Server に登録する手順を次の二つに分けて説明します。

移動処理を含む場合の手順

移動処理を含まない場合の手順

この二つの手順では，実行する一括登録ユーティリティのコマンドが異なります。

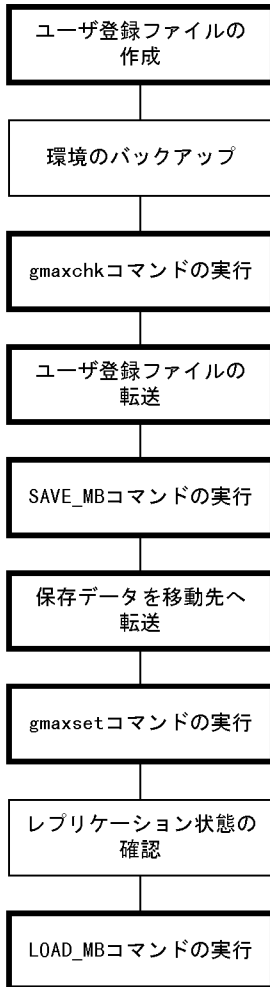
移動処理を含む場合の手順

移動処理とは，ユーザ登録ファイルの項目 " 処理区分 " に M を指定している場合です。処理区分に M が指定されたレコード（行）がユーザ登録ファイルにあるときは，移動処理を含む場合の手順で作業を行います。

また，移動処理を含む場合の手順は，その移動処理でホームサーバを変更するときと変更しないときとでも手順が異なります。

ホームサーバを変更するときとホームサーバを変更しないときの手順を次に示します。太い枠で囲まれた項目は実行が必要な項目です。それ以外は実行するのが望ましい項目です。

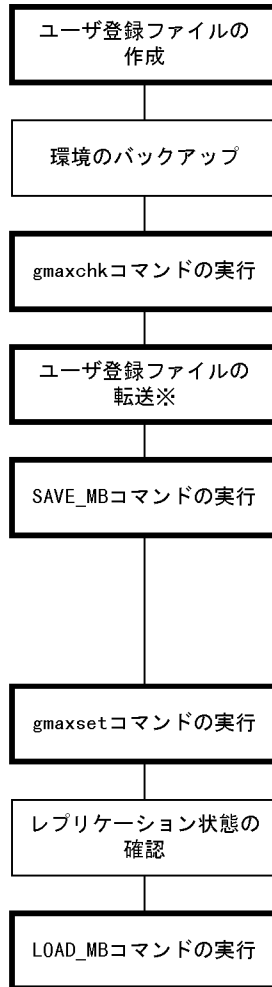
ホームサーバを変更するとき



凡例

: 必須 : 任意

ホームサーバを変更しないとき



注※ gmaxchkコマンドを実行したサーバ以外でSAVE_MB/LOAD_MBコマンドを実行する場合に必要になります。

移動処理を含まない場合の手順

ユーザ登録ファイルの項目“処理区分”にM(移動)が指定されたレコード(行)が一つもないときには、移動処理を含まない場合の手順で作業を行います。移動処理を含まない場合の手順を次に示します。太い枠で囲まれた項目は実行が必要な項目で、それ以外は実行するのが望ましい項目です。

3. 一括登録ユーティリティの実行手順



凡例

: 必須 : 任意

3.1.1 ユーザ登録ファイルの作成

一括登録ユーティリティで最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除を Address Server に登録するには、登録する追加や変更などの内容を記述したユーザ登録ファイルを作成する必要があります。

ユーザ登録ファイルについては、「2. 一括登録ユーティリティのユーザ登録ファイル」を参照してください。

一括登録ユーティリティは、ここで作成したユーザ登録ファイルを基にして Address Server に最上位組織、組織、ユーザの追加や変更などを登録します。

3.1.2 環境のバックアップ

一括登録ユーティリティでは最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除をするため、誤った使い方をした場合やトラブルが発生した場合には、データが消えてしまうことがあります。このような場合に備えて、一括登録ユーティリティを実行する前に Groupmax の環境をバックアップすることを推奨します。

一括登録ユーティリティ実行中にトラブルが発生しても、バックアップのデータがあれば実行前の状態に戻すことができます。

バックアップの詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

3.1.3 gmaxchk コマンドの実行

一括登録チェックユーティリティ (gmaxchk コマンド) は、ユーザが作成したユーザ登録ファイルに誤りがないかをチェックをします。gmaxchk コマンドの詳細は、「4.2 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk コマンド」を参照してください。

チェックした結果、誤りを発見した場合は、ユーザ登録ファイルのチェック結果欄が「 」以外になります。チェック結果欄が「 」以外になったときは、チェック部エラー要因欄を参照して、gmaxchk コマンドによってバックアップされたユーザ登録ファイルを修正してください。

誤りを修正したら、gmaxchk コマンドを再実行してユーザ登録ファイルを再チェックします。チェック結果欄がすべて「 」になるまで修正とチェックを繰り返してください。

チェック結果欄がすべて「 」になった場合、それ以降ユーザ登録ファイルを修正しないでください。ユーザ登録ファイルを修正する場合は、gmaxchk コマンドによってバックアップされたユーザ登録ファイルを修正して、gmaxchk コマンドを再度実行する必要があります。

3.1.4 各ホームサーバへのユーザ登録ファイルの転送

ユーザ登録ファイルにユーザ、組織の移動処理が含まれていた場合、gmaxchk コマンドによるチェックが完了したユーザ登録ファイルを転送する必要があります。ユーザ登録ファイルを、移動するユーザ、組織のホームサーバに転送してください。また、ユーザ登録ファイルに含まれていた移動処理が、ホームサーバを変更する処理だったときは、変更後のホームサーバにもユーザ登録ファイルを転送してください。

ユーザ登録ファイルの転送は、ディスクを共有してコピーしたり、FTP (binary で転送) でデータ転送したり、又は DAT などにコピーしたりして実行します。

3.1.5 SAVE_MB コマンドの実行

ユーザ登録ファイルにユーザ、組織の移動処理が含まれていた場合、移動する前にメールボックスバックアップユーティリティ (SAVE_MB コマンド) を実行してユーザ、組織が受発信したメールが保存されているメールボックスを保存する必要があります。

これは移動処理が、内部処理ではユーザ、組織を一度削除してから、再度追加することで実現されているためです。ユーザ、組織を削除するとメールボックスは初期化されます。初期化されたメールボックスは、再度ユーザ、組織を追加しただけでは元の状態には戻りません。これを防ぐために SAVE_MB コマンドでメールボックスを保存します。保存したメールボックスを、再度ユーザ、組織を追加した後で回復すればメールボックスは移動前の状態に戻ります。

また、SAVE_MB コマンドは、内部処理でユーザ、組織を削除したときに初期化されるパスワードや掲示板の未既読などの情報もメールボックスと一緒に保存することができます。

3. 一括登録ユーティリティの実行手順

まず、SAVE_MB コマンドで保存できるメールボックス以外の情報を次に示します。

パスワード、親展パスワード

パスワード有効期間（ユーザの移動処理の場合だけ）

代行受信の設定

掲示板の未既読情報

保留メール（組織の移動処理の場合だけ）

SAVE_MB コマンドの詳細は、「4.3 メールボックスの保存 SAVE_MB コマンド」を参照してください。

SAVE_MB コマンドが保存するのは、ユーザ登録ファイルで " 処理区分 " に M を指定しているユーザ、組織の情報です。M 以外を指定しているユーザ、組織の情報は保存されません。保存した情報は、移動先のホームサーバごとに作成されるディレクトリの下に格納されます。

SAVE_MB コマンドでメールボックスなどの情報を保存すると、保存したユーザ、組織のメールボックスは閉塞されます。閉塞されているメールボックスを持つユーザ、組織は、LOAD_MB コマンドを実行して閉塞が解除されるまでメールの送受信ができません。

3.1.6 保存データを移動先へ転送

ユーザ登録ファイルに、ホームサーバを変更するユーザ、組織の移動処理が含まれていた場合、SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスなどの情報を変更後のホームサーバに転送する必要があります（ホームサーバの変更がない場合には、転送は必要ありません）。

SAVE_MB コマンドの保存データの転送は、ディスクを共有してコピーしたり、FTP（binary で転送）でデータ転送したり、又は DAT などにコピーしたりして実行します。

SAVE_MB コマンドで保存した情報は、ホームサーバごとに別ディレクトリに保存されています。ディレクトリごと転送してください。

3.1.7 gmaxset コマンドの実行

マスタ管理サーバで一括登録実行ユーティリティ（gmaxset コマンド）を実行して、ユーザ登録ファイルの最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除を Address Server に登録します。gmaxset コマンドの詳細は、「4.4 情報の登録 gmaxset コマンド」を参照してください。

マルチサーバ構成の場合、登録した追加・移動・変更・削除は、マスタ管理サーバから各アドレスサーバに自動的にレプリケーションされます。

gmaxset コマンドで登録できるのは、gmaxchk コマンドでのチェックが完了したユーザ登録ファイルの情報です。チェックが完了していないユーザ登録ファイルを指定した場合は、情報が登録されません。

また、gmaxset コマンドがユーザ登録ファイルの情報を登録するときには、マスタ管理サーバに登録済みのデータとのチェックを実行して、正しい情報だけを登録します (gmaxchk コマンドはユーザ登録ファイル内のチェックだけしか行っていないため、ここで二重登録などのエラーが発生する可能性があります)。エラーがあった場合は、ユーザ登録ファイルの実行部処理結果欄が「×」になります。正常に登録された場合は「 」になります。

エラーがあった場合は、ユーザ登録ファイルを修正して、「3.1.3 gmaxchk コマンドの実行」から手順を繰り返してください。ただし、ユーザ登録ファイルを修正するとき、正常に登録されたレコード(行)を、ユーザ登録ファイルから削除する必要はありません。gmaxset コマンドは、実行部処理結果欄が「 」のレコードを無視するため、同じデータが2度登録されることはありません。

! 注意事項

SAVE_MB コマンドを実行していなくても、ユーザ登録ファイルで"処理区分"にMを指定しているユーザ、組織が存在した場合、gmaxset コマンドを実行するとメールボックスが閉塞されます。閉塞されたメールボックスの解除については、「3.2.5 メールボックスの閉塞の強制解除」を参照してください。

3.1.8 レプリケーション状態の確認

マルチサーバ構成の場合、gmaxset コマンドでマスタ管理サーバに登録した情報が各アドレスサーバにレプリケーションされているかどうかを、レプリケーション状態確認コマンド (nxsrepstat コマンド) を実行して確認します。nxsrepstat コマンドの詳細は、「4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド」を参照してください。

レプリケーションが完了しないと、SAVE_MB コマンドで保存した情報を回復できません。

3.1.9 LOAD_MB コマンドの実行

SAVE_MB コマンドで保存した情報は、メールボックスリストアユーティリティ (LOAD_MB コマンド) を実行して回復します。LOAD_MB コマンドの詳細は、「4.6 メールボックスの回復 LOAD_MB コマンド」を参照してください。

保存したメールボックスなどの情報を回復することで、送受信メールやパスワードなどを移動する前の状態に戻すことができます。同時にメールボックスの閉塞が解除されるため、クライアントからメールの送受信ができるようになります。

3. 一括登録コティリティの実行手順

SAVE_MB コマンドだけを実行して、LOAD_MB コマンドを実行しないと、ユーザはメールを引き継げないだけでなく、閉塞が解除されないためにメールの送受信もできません。

3.2 一括登録ユティリティ実行時の注意点

一括登録ユティリティを実行するときの注意点について説明します。

3.2.1 処理区分 M (移動) と C (変更) の違い

ユーザ、組織の登録情報の変更は、ユーザ登録ファイルの処理区分 M (移動) 又は C (変更) で実行します。ここでは処理区分 M と C の違いについて説明します。

処理区分 M ではホームサーバや所属する最上位組織などほとんどの項目を変更できますが、処理区分 C では変更できない項目があります。処理区分 M で変更できて、処理区分 C で変更できない項目を次に示します。

- 最上位組織 ID
- MTA 名
- ホームサーバ
- タイプ
- O/R 名
- 共用メールボックス追加フラグ
- 共用メールボックス ID
- 統括組織 ID
- 設定済みのメールボックス番号

処理区分 M ではデータを一度削除するため、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する必要があります。しかし、処理区分 C ではデータを削除しないため、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する必要がありません。

このため、変更したい項目が処理区分 C で変更できる項目の場合、処理区分 C で変更を行い、変更できない項目の場合、処理区分 M で変更することを推奨します。

補足

ユーザ、組織の移動の場合、処理区分に M の代わりに U を設定することもできます。ただし、通常は M を設定するようにしてください。

処理区分 M と U に違いはありません。処理区分に U を設定した場合、処理区分に M を設定した場合と同じように一括登録ユティリティを実行してください。

処理区分 M で変更を行なった場合、かつ変更を行なったユーザを宛先に含むメールがサーバ上に存在する場合、メール宛先中のニックネームは O/R 名で表示されるようになります。

3.2.2 処理区分に M (移動) を設定した場合

ユーザ登録ファイルに、処理区分 M (移動) のレコード (行) が一つでもある場合は、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する必要があります。処理区分 M では、移動するユーザ、組織の全データをいったん削除した後でユーザ、組織を再登録するので、何

3. 一括登録コティリティの実行手順

もしなければメールボックスの送受信メールなどがすべてなくなります。これを防ぐために、削除の前に SAVE_MB コマンドで送受信メールなどを保存しておいて、再登録後に LOAD_MB コマンドで保存した情報を回復します。SAVE_MB/LOAD_MB コマンドは、送受信メール以外にパスワードなども保存・回復するため、Groupmax Mail を使用していない環境でも SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行してください。

処理区分 M のレコード（行）が一つもない場合、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する必要はありません。また、移動処理で送受信メールなどを保存・回復しない場合には、メールボックスが閉塞されます。gmmopnmb コマンドを使用して閉塞を解除してください。gmmopnmb コマンドについては、「4.7 メールボックスの閉塞の強制解除 gmmopnmb コマンド」を参照してください。

3.2.3 SAVE_MB/LOAD_MB コマンド実行時の注意事項

(1) SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行順序

移動処理を行う場合、SAVE_MB コマンドは gmaxset コマンドを実行する前に実行してください。LOAD_MB コマンドは gmaxset コマンドを実行して、レプリケーションが完了した後に実行してください。

(2) SAVE_MB/LOAD_MB コマンドで指定するユーザ登録ファイル

SAVE_MB/LOAD_MB コマンドで指定するユーザ登録ファイルは、gmaxchk コマンドによるチェックが完了したユーザ登録ファイルをそのまま使用してください。

ユーザ登録ファイルに移動先のホームサーバ以外への移動に関するレコード（行）が混在したり、処理区分 M 以外のレコード（行）が混在したりしても、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドはそれらのレコード（行）を無視して、必要なデータだけを保存・回復します。

(3) SAVE_MB コマンド実行前のメール削除

SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する場合、移動対象のユーザ、組織が大量のメールを保持していると保存・回復に多くの時間がかかります。また、ディスク容量やデータ転送時間などもより多く必要になります。そのため、SAVE_MB コマンドを実行する前に、移動対象のメールボックス容量を減らすようにしてください。

メールボックス容量を減らすには、自動削除デモンでメールを削除したり、移動するユーザ、組織にメールの削除を依頼したりしてください。

また、送信回覧または受信回覧を保持したままユーザを移動することはできません。送信回覧は回収または破棄をした後に、受信回覧は回送及び削除をした後に、ユーザの移動を行ってください。

(4) 配信日時指定メールの取り消し

処理区分 M (移動) で、配信日時指定メールが存在するメールボックスのホームサーバを変更した場合は、メールボックスを保存・回復しても、回復後にクライアントから配信日時指定メールを取り消すことはできません。また、自動削除で削除されません。送信ログから削除してください。

ただし、所属最上位組織を変更するだけで、ホームサーバを変更しなかった場合には、メールボックスを保存・回復すれば、回復後にクライアントから配信日時指定メールを取り消すことができます。

(5) S/MIME メール制限

S/MIME メールは、Version 5 以前のメールサーバに移動できません。

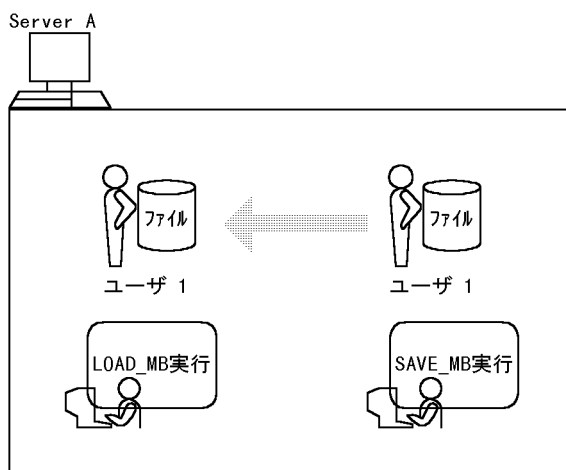
3.2.4 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行するサーバ

ユーザ、組織の移動時に、メールボックスの保存と回復をする SAVE_MB コマンドと LOAD_MB コマンドを実行するサーバについて説明します。ここでは、ユーザ、組織の移動を三つに場合分けして、コマンドを実行するサーバを説明します。

(1) ユーザ情報を変更する場合 (ホームサーバの移動がない場合)

処理区分 C で変更できない、所属する最上位組織 ID などのユーザの情報を変更する場合です。例えば、Server A をホームサーバとするユーザ 1 の所属する最上位組織 ID を変更する場合、ホームサーバの移動はありません。そのため、Server A 上で SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行します。

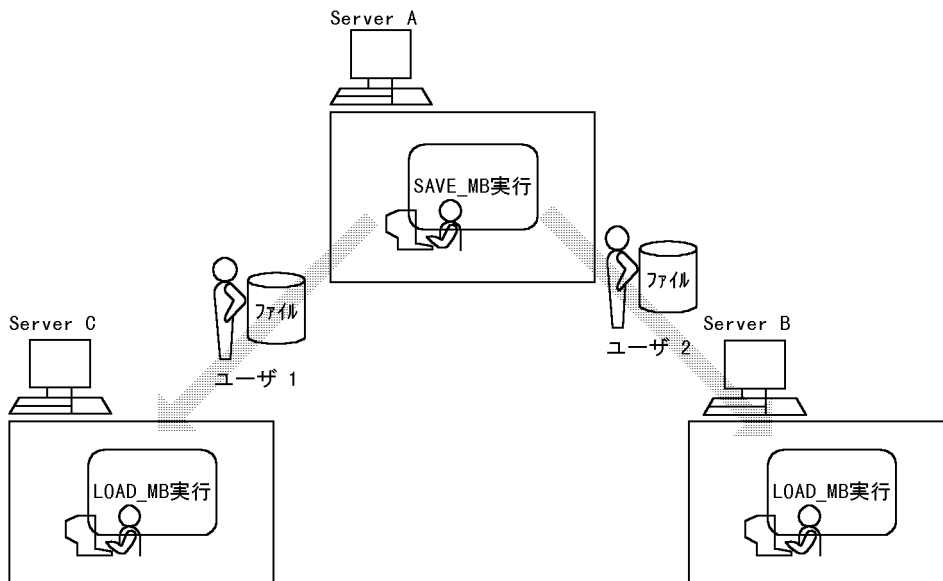
図 3-1 ユーザ情報を変更する場合



(2) ユーザがサーバ間を移動する場合

Server A をホームサーバとするユーザ 1 を Server B に，ユーザ 2 を Server C に移動する場合は，移動元のホームサーバである Server A で SAVE_MB コマンドを実行してメールボックスなどの情報をファイルに保存します。保存したファイルを移動先のホームサーバである Server B と Server C に転送した後，Server B と Server C でそれぞれ LOAD_MB コマンドを実行します。

図 3-2 ユーザがサーバ間を移動する場合



(3) 複数ユーザがサーバ間を移動する場合

次に示すように Server A と Server B からユーザを移動するとします。

Server A からの移動

ユーザ 1 が Server C に移動

ユーザ 2 が Server B に移動

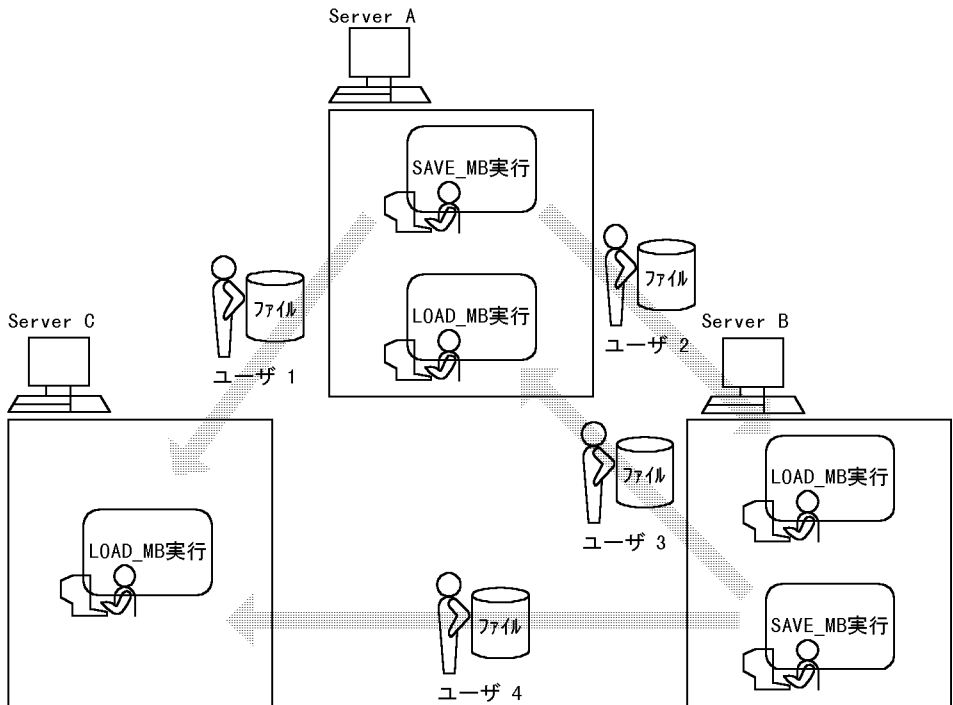
Server B からの移動

ユーザ 3 が Server A に移動

ユーザ 4 が Server C に移動

この場合は，移動元のホームサーバである Server A と Server B で SAVE_MB コマンドを実行します。SAVE_MB コマンドで保存したファイルは，移動先のホームサーバである Server A，Server B，及び Server C に転送します。その後でそれぞれのサーバで LOAD_MB コマンドを実行します。

図 3-3 複数ユーザがサーバ間を移動する場合



3.2.5 メールボックスの閉塞の強制解除

SAVE_MB コマンドを実行すると、移動前のメールボックスが閉塞されます。閉塞中は、ログイン時に「X400 へのログインに失敗しました。」、「掲示板フォルダが作成できません。」、「Mail (個人) システムとのアクセスに失敗しました。」などのエラーが発生します。また、ログインしていたユーザは、メールの送受信や掲示板の参照ができません (組織のメールボックスを保存した場合は、共用しているほかの組織のメールボックスも閉塞されるためメールなどが利用できません)。

また、ユーザ登録ファイルに処理区分 M が設定されているレコード (行) がある場合に gmaxset コマンドを実行すると、移動後のメールボックスが閉塞されます。

閉塞したメールボックスは、LOAD_MB コマンドの実行によるメールボックスの回復と同時に解除されます (ただし、組織のメールボックスを LOAD_MB コマンドで回復する場合は、共用メールボックスが空である必要があります)。このため、SAVE_MB コマンドでメールボックスを保存した場合や処理区分 M のユーザ登録ファイルを指定して gmaxset コマンドを実行した場合は、必ず LOAD_MB コマンドを実行してメールボックスの閉塞を解除してください。

何らかの理由で、閉塞後ユーザがメールにログインする必要が発生したり、メールボックスの閉塞を強制的に解除しなければいけない場合、閉塞されたメールボックスがある

3. 一括登録ユティリティの実行手順

メールサーバ上で `gmmopnmb` コマンドを実行することで解除できます。ただし、`gmmopnmb` コマンドで閉塞を強制解除した場合には、次のような問題点があるため十分に注意してください。

閉塞を強制解除した場合の問題点

- `gmaxset` コマンド実行前
再度 `SAVE_MB` コマンドを実行して移動前のメールボックスを保存する必要があります。これは、閉塞を強制解除した後に送受信したメールを保存するためです。
- `gmaxset` コマンド実行後
`LOAD_MB` コマンドを実行しても、閉塞を解除した移動後のメールボックスには保存したデータを回復できません。このため、メールボックスやパスワードなどが初期化されます。

`gmmopnmb` コマンドについては、「4.7 メールボックスの閉塞の強制解除 `gmmopnmb` コマンド」を参照してください。

3.2.6 `gmaxset` コマンドによる移動処理の注意点

`gmaxset` コマンドの移動処理では、移動するユーザ、組織を一度削除した後、移動後のデータでユーザ、組織を再登録します。このため、削除の時点でユーザ、組織に設定されていた兼任ユーザ、グループや掲示板のメンバ、及び権利組織の設定が失われてしまいます。これらの設定が失われることを防ぐ方法について説明します。

(1) 兼任ユーザが削除される

兼任ユーザが存在するユーザ（主体ユーザ）を移動した場合、兼任ユーザの設定は削除されます。これを防ぐためには、主体ユーザの移動前に `gmaxexp` コマンドで兼任ユーザ情報を出力して、移動後にそのデータを基に兼任ユーザを再登録してください。兼任ユーザにユーザ任意情報を設定している場合、主体ユーザの移動前に `adpdaexp` コマンドで兼任ユーザのユーザ任意情報を保存して、移動後にそのデータを基に再登録してください。ユーザ任意情報やユーザ任意情報のコマンドの詳細については「15. ユーザ任意情報の概要」を参照してください。

再登録の手順の例を次に示します。「5.7 サーバ構成の変更の例」も参照してください。

1. 出力する兼任ユーザ ID を定義したファイルを作成します。
1 行に一つの兼任ユーザ ID を定義したファイル（フィルタファイル）を作成して、名前をつけて保存します。フィルタファイルには次の形式で兼任ユーザ ID を定義してください。

`u, 兼任ユーザID`
2. `gmaxexp` コマンドで兼任ユーザの情報を出力します。
`gmaxexp` コマンドのオプション `-f` に手順 1 で作成したフィルタファイルを指定して実行します。

```
gmaxexp -f フィルタファイル -s M u 出力ファイル
```

オプション `-s` で、出力ファイルの処理区分には移動 (M) が設定されます。

3. `adpdaexp` コマンドでユーザ任意情報を保存します。

ユーザ任意情報を設定している場合、`adpdaexp` コマンドのオプション `-f` に手順 2 で出力した出力ファイルを指定して実行します。ユーザ任意情報を使用していない場合は、このコマンドを実行する必要はありません。

```
adpdaexp -f 出力ファイル -e adpdaexp.log -p A 保存ファイル
```

4. 一括登録ユーティリティで主体ユーザの移動を実行します。

5. 手順 2 の出力ファイルを基に、兼任ユーザを再登録します。

出力ファイルをユーザ登録ファイルとして使用します。`gmaxchk` コマンドを実行してチェックします。

```
gmaxchk 出力ファイル
```

チェックに問題がなければ、`gmaxset` コマンドで兼任ユーザを再登録します。

```
gmaxset m 出力ファイル
```

6. 手順 3 の保存ファイルを基に、兼任ユーザのユーザ任意情報を回復します。

`adpdaset` コマンドでユーザ任意情報の回復を実行します。ユーザ任意情報を使用していない場合は、このコマンドを実行する必要はありません。

```
adpdaset -f 保存ファイル -e adpdaset.log
```

`gmaxexp` コマンド、`gmaxchk` コマンド、及び `gmaxset` コマンドの詳細は、「4. 一括登録ユーティリティのコマンド」を参照してください。

(2) グループや掲示板のメンバから削除される

グループや掲示板のメンバに直接登録されていたユーザ、組織を移動した場合、ユーザ、組織はグループや掲示板のメンバから削除されます。これを防ぐためには、移動前にグループや掲示板のメンバ情報を出力して、移動後に出力したメンバ情報を基に再登録してください。

再登録の手順の例を次に示します。「5.7 サーバ構成の変更の例」も参照してください。

1. `gmaxgexp` コマンドでグループや掲示板のメンバの情報をすべて出力します。

`gmaxgexp` コマンドを次のようにして実行してください。

```
gmaxgexp -s U tb 出力ファイル
```

`-s` オプションで、出力ファイルの処理区分には更新 (U) が設定されます。

2. 一括登録ユーティリティでユーザ、組織の移動を実行します。

3. 手順 1 の出力ファイルを基に、グループや掲示板のメンバ情報を再登録します。

出力ファイルをグループ定義ファイルとして使用します。`gmaxgchk` コマンドで出力ファイルをチェックします。

3. 一括登録ユティリティの実行手順

`gmaxgchk` 出力ファイル

チェックに問題がなければ、`gmaxgset` コマンドで再登録します。

`gmaxgset` 出力ファイル

`gmaxgexp` コマンド、`gmaxgchk` コマンド、及び `gmaxgset` コマンドの詳細は、「11. グループ・掲示板メンバー一括登録ユティリティのコマンド」を参照してください。

(3) 権利組織の設定が初期化される

権利組織を追加していたユーザを移動した場合、権利組織の設定は削除されます。ユーザの移動が完了した後で、運転席から権利組織を追加してください。

運転席の操作方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

(4) 代行受信者の設定が無効になる

ユーザ、組織が代行受信者を設定していた場合、代行受信者（自分の代わりにメールを受信するユーザ、組織）が移動すると代行受信の設定が無効になります。このため、ユーザ、組織の移動が完了した時点で、クライアントから代行受信者を再設定してください。代行受信者の再設定を回避するには、すべてのメールサーバの `gmpublicinfo` ファイルに `SUBSTITUTE=SUCCEED` を設定してから代行受信者を指定してください。この場合、代行受信の設定は無効になりません。詳細はマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

逆に、代行受信者を設定したユーザ、組織が移動する（代行受信者は移動しない）場合、`SAVE_MB` コマンドにオプション `-i` を指定して実行すると、メールボックスと一緒に代行受信者の設定も保存できます。保存した代行受信者の設定は、`LOAD_MB` コマンドで回復できます。

`SAVE_MB` コマンドの詳細は、「4.3 メールボックスの保存 `SAVE_MB` コマンド」を参照してください。

3.2.7 組織移動の注意点

組織を移動する場合、次の点に注意してください。

移動する組織に組織やユーザが所属する場合は、それらの組織やユーザを一時的に別の組織に退避して、所属する組織やユーザがない状態で移動する必要があります。退避した組織やユーザは、組織を移動した後に元に戻してください。

組織と、その組織に所属する組織やユーザを同時に移動しなければならない場合には、ユーザ登録ファイルの削除と追加の順番を並べ替える必要があります。「5.6 組織の

サーバ間移動の例」を参照して並べ替えてください。

共用メールボックスを移動する場合、移動する共用メールボックスを参照しているすべての組織は、移動が完了するまで共用メールボックスを参照することができません。

移動する組織が別の組織から統括組織として指定されている場合は移動できません。統括組織の指定を一時的に解除するか、統括組織の指定を受けないようにしてください。

3.2.8 一括登録ユーティリティで実行できる機能

一括登録ユーティリティで実行できる機能を次に示します。

なお、グループ、グループのメンバ、及び掲示板のメンバについては、「10.2.1 グループ・掲示板メンバー一括登録ユーティリティで実行できる機能」を参照してください。

最上位組織の追加・削除・変更

組織の追加・移動・削除・変更

ユーザの追加・移動・削除・変更

兼任ユーザの追加・移動・削除・変更

移動ユーザの個人メールボックス、パスワード、親展パスワード、パスワードの有効期間、掲示板の記事の未既読、代行受信者の設定、及び IMAP などの個人情報の保存・回復

移動組織の共用メールボックス（保留メールも含む）、パスワード、親展パスワード、掲示板の記事の未既読、及び代行受信者の設定の保存・回復

登録済み最上位組織、組織、ユーザ情報の出力

登録済み最上位組織、組織、ユーザ情報の項目削除

また、一括登録ユーティリティで実行できない機能を表 3-1 に示します。実行できない機能については、回避策を参考にして対処してください。

表 3-1 一括登録ユーティリティで実行できない機能

実行できない機能	回避策
最上位組織 ID、組織 ID、ユーザ ID の変更	いったん削除してから再登録する。データは初期化されます。
ユーザ ID 変更を伴うメールボックスの移行	クライアントでユーザがメールを保存する。
組織 ID、共用メールボックス ID 変更を伴うメールボックスの移行	クライアントでユーザがメールを保存する。
メール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定	運転席で設定する。
メール属性を持つアドレスユーザのユーザ管理権限の設定	運転席で設定する。

3. 一括登録ユティリティの実行手順

実行できない機能	回避策
権利組織の登録・削除	運転席で設定する。
ユーザ移動時の閲覧メールの保存・回復	クライアントでユーザがメールを保存する。
着信インターバルの設定	運転席，又はクライアントで設定する。

3.2.9 一括登録ユティリティ実行の制限

次の場合には，一括登録ユティリティを実行しないでください。

一括登録ユティリティのコマンド実行中

一括登録ユティリティの同一コマンドを同時に複数実行しないでください。

稼働中バックアップの作業中

稼働中バックアップの作業中は，一括登録ユティリティを実行しないでください。

アドレスサーバの回復作業で使用する `adcnsget` コマンド実行中

マスタ管理サーバで `adcnsget` コマンド実行中は，一括登録ユティリティを実行しないでください。

運転席の名前データベースダイアログでの「バックアップ」，又は「リストア」中

運転席の名前データベースダイアログでの「バックアップ」，又は「リストア」作業中は，一括登録ユティリティを実行しないでください。

4

一括登録ユーティリティのコマンド

一括登録ユーティリティのコマンドの詳細について説明します。コマンド実行時のメッセージについては、「7. 一括登録ユーティリティのメッセージ一覧」を参照してください。

-
- 4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド

 - 4.2 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk コマンド

 - 4.3 メールボックスの保存 SAVE_MB コマンド

 - 4.4 情報の登録 gmaxset コマンド

 - 4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド

 - 4.6 メールボックスの回復 LOAD_MB コマンド

 - 4.7 メールボックスの閉塞の強制解除 gmmopnmb コマンド
-

4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド

Address Server に登録されている最上位組織、組織、ユーザの情報をファイルに出力します。出力するファイルはユーザ登録ファイルと同じ形式です。このため、出力したファイルを編集することでユーザ登録ファイルとして利用できます。

4.1.1 gmaxexp コマンドの使用方法

(1) 実行条件

Object Server を起動した状態で実行してください。

マスタ管理サーバにシステム管理者でログオンして実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> \bin\gmaxexp と実行してください。

(2) 形式

gmaxexp [オプション] コマンド引数 ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列やコマンド引数は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ファイル名には、Address Server に登録されている情報を出力するファイルの名称を半角文字、及び全角文字を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスが指定できます。

指定したファイルが既に存在する場合には、ファイルの末尾に登録情報を追加します。

新規のファイルを指定した場合、ファイルの先頭行に見出し（コメント行）が出力されます。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、すべて省略した場合はコマンド引数に指定した情報のすべてを出力します。

複数のオプションを指定する場合は、次のことに注意してください。

- -c, -g, -u, -f を同時に指定できません。
- -a, -t, -h, -o を同時に指定できません。
- -T, -C を同時に指定できません。
- 同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

オプションは (a) ~ (d) の 4 種類に分類できます。

(a) 出力対象指定オプション

このオプションでは、出力する最上位組織 ID や組織 ID など出力したい対象を指定します。このオプションを複数指定することはできません。オプションを指定しなかった場合、全登録情報が対象となります。

-c 最上位組織 ID :

登録情報を出力する最上位組織の最上位組織 ID を指定します。

-g 組織 ID :

登録情報を出力する組織の組織 ID を指定します。

-u ユーザ ID :

登録情報を出力するユーザのユーザ ID を指定します (兼任ユーザ ID も指定できます)。

-f フィルタファイル名 :

最上位組織, 組織, ユーザを複数指定する場合, 最上位組織 ID, 組織 ID, ユーザ ID を定義した CSV 形式のフィルタファイルを作成してその名称を 128 文字以内で指定します。フィルタファイル名には絶対パス, 又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスが指定できます。各 ID は複数指定できます。また, 兼任ユーザ ID も指定できます。

最上位組織 ID, 組織 ID, ユーザ ID を定義するフィルタファイルは次のような形式で作成してください。最上位組織 ID, 組織 ID, ユーザ ID, 兼任ユーザ ID を一つずつ定義する場合の例です。

```
c,最上位組織ID[Enter]
g,組織ID[Enter]
u,ユーザID[Enter]
u,兼任ユーザID[Enter]
```

c, g, u, ,(コンマ) は半角文字で指定してください。最終行の [Enter] は省略してもかまいません。

! 注意事項

gmaxexp コマンド実行時, フィルタファイルが開いていないことを確認してください。テキストエディタなどでファイルを開いていると実行時にエラーになります。

(b) 出力内容指定オプション

このオプションでは、出力対象指定オプションで指定した出力対象からどのデータを出力するか指定します。このオプションを複数指定することはできません。オプションを指定しなかった場合、全登録情報が対象となります。

-a :

4. 一括登録ユティリティのコマンド

全最上位組織，全組織，全ユーザを出力します。

-t :

オプション -c, -g, -f で指定した最上位組織又は組織の直下に属している組織，ユーザの情報を出力します。

-h :

オプション -c, -g, -f で指定した最上位組織又は組織に属している組織，ユーザの情報を出力します。

-o :

オプション -c, -g, -u, -f で指定した登録情報を出力します。

(c) ユーザ出力タイプオプション

このオプションでは，出力対象指定オプションと出力内容指定オプションで指定したユーザから，出力対象のすべてのユーザを出力するか，兼任ユーザだけを出力するかを指定します。このオプションを省略した場合，すべてのユーザを出力対象にします。

-y :

オプション -c, -g, -f とオプション -a, -t, -h, -o の組み合わせで指定した最上位組織又は組織から兼任ユーザの情報だけを出力します。オプション -y を指定した場合，マスタ管理サーバの gmpublicinfo ファイルに「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」の記述がない場合でも兼任ユーザの情報を出力します。

(d) 一般設定オプション

このオプションでは，処理区分の設定やエラーログ出力先ディレクトリの設定など，出力するデータの指定とは関係がないオプションを指定します。

-s 処理区分 :

出力する登録情報のファイルに設定する処理区分 (A, D, M, C) を指定します。

M を指定した場合，組織種別が最上位組織のレコード (行) には処理区分を設定しません。

D を指定した場合，登録情報の出力順序がすべて逆になります。

このオプションを省略した場合，処理区分を空欄にしてファイルを出力します。処理区分が空欄のレコード (行) は，gmaxchk コマンドと gmaxset コマンドではコメントとして扱われるためチェック対象又は実行対象になりません。

-e エラーログ出力先ディレクトリ :

指定したディレクトリにエラーログファイル gmaxexp.log を出力します。オプション -e の指定がない場合，環境変数 "tmp" に定義されたディレクトリにエラーログを出力します。環境変数 "tmp" に定義がない場合，C ドライブのルートディレクトリに出力されます。

-T

組織，ユーザのメールボックス容量と一致する容量がメール定義ファイル (gmaxmdef.csv) にない場合，メールボックス容量をメール定義ファイルの末尾に追加

します。追加したメールボックス容量の定義タイプには TYPE\$ が設定されます。\$ は 1 からの通し番号で、定義されていない番号が設定されます。

-C

すべてのレコードのメールボックス容量を出力ファイルに直接指定形式で出力します。メール定義ファイルの定義タイプは出力されません。

(4) コマンド引数

コマンド引数は省略できません。

同時に複数のコマンド引数を指定することはできます。ただし、同一コマンド引数を複数指定することはできません。このため、複数のコマンド引数を指定する場合の形式は、cgu, cg, cu, gu となります。

c :

最上位組織情報を出力します。

g :

組織情報を出力します。

u :

ユーザ情報を出力します。

(5) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

10 : 設定登録情報なし

13 : データベースへのログインに失敗

15 : データベースエラー

16 : その他のエラー

(6) 実行結果

ファイルに出力される登録情報の順序は、最上位組織、組織、ユーザの日本語名の昇順となります。日本語名が同一の場合は、各 ID の昇順となります。組織とその組織の配下にある組織、ユーザを出力した場合、階層構造の上位にある組織、ユーザから組織単位に出力されます。

エラーがあった場合には標準出力、及び<エラーログ出力先ディレクトリ>

¥gmaxexp.log ファイルにメッセージを出力します。既に gmaxexp.log ファイルが存在した場合に、コマンドを実行した結果、エラーがあったときにはファイルを上書き

4. 一括登録ユティリティのコマンド

します。エラーがなかったときにはファイルを削除します。gmaxexp コマンドのメッセージについては、「7.1 gmaxexp コマンドのメッセージ」を参照してください。

gmaxexp コマンドのオプションとコマンド引数の組み合わせによって、表 4-1 に示す内容が出力できます。

表 4-1 オプションとコマンド引数の組み合わせによる出力例

出力内容	オプション	コマンド引数
登録済みのすべての最上位組織	[-a]	c
指定した最上位組織	-c -o, -c [-a]	c
登録済みのすべての組織	[-a]	g
指定した組織	-g -o	g
指定した最上位組織に直属する組織	-c -t	g
指定した最上位組織の配下にある組織	-c -h	g
指定した組織に直属する組織	-g -t	g
指定した組織の配下にある組織	-g -h	g
登録済みのすべてのユーザ	[-a]	u
登録済みのすべての兼任ユーザ	-y [-a]	u
指定したユーザ	-u -o, -u -h, -u -t, -u [-a]	u
指定した兼任ユーザ	-u -o -y, -u -h -y, -u -t -y, -u -y [-a]	u
指定した最上位組織に直属するユーザ	-c -t	u
指定した最上位組織に直属する兼任ユーザ	-c -t -y	u
指定した最上位組織の配下にあるユーザ	-c -h	u
指定した最上位組織の配下にある兼任ユーザ	-c -h -y	u
指定した組織に直属するユーザ	-g -t	u
指定した組織に直属する兼任ユーザ	-g -t -y	u
指定した組織の配下にあるユーザ	-g -h	u
指定した組織の配下にある兼任ユーザ	-g -h -y	u
すべての最上位組織とすべての組織	[-a]	cg
指定した最上位組織とその配下にある組織	-c [-a]	cg
すべての最上位組織とすべてのユーザ	[-a]	cu
すべての最上位組織とすべての兼任ユーザ	-y [-a]	cu
指定した最上位組織とその配下にあるユーザ	-c [-a]	cu
指定した最上位組織とその配下にある兼任ユーザ	-c -y [-a]	cu
すべての組織とすべてのユーザ	[-a]	gu

出力内容	オプション	コマンド引数
すべての組織とすべての兼任ユーザ	-y [-a]	gu
指定した最上位組織の配下にあるユーザと組織	-c [-a] 又は -c[-h]	gu
指定した最上位組織の配下にある兼任ユーザと組織	-c -y [-a] 又は -c -y [-h]	gu
指定した最上位組織に直属する, ユーザと組織	-c -t	gu
指定した最上位組織に直属する, 兼任ユーザと組織	-c -t -y	gu
指定した組織の配下にある, ユーザと組織	-g [-a]	gu
指定した組織の配下にある, 兼任ユーザと組織	-g -y [-a]	gu
指定した組織に直属する, ユーザと組織	-g -t	gu
指定した組織に直属する, 兼任ユーザと組織	-g -t -y	gu
すべての最上位組織, すべての組織, すべてのユーザ	[-a]	cgu
すべての最上位組織, すべての組織, すべての兼任ユーザ	-y [-a]	cgu
指定した最上位組織とその配下にある, ユーザと組織	-c [-a]	cgu
指定した最上位組織とその配下にある, 兼任ユーザと組織	-c -y [-a]	cgu

注

マスタ管理サーバの<インストール先ディレクトリ> \nxcdir\gmpublicinfo ファイルに次の記述を追加すると登録情報の出力内容を変更できます。

- 「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」を追加した場合
ユーザ情報の出力時に登録されている兼任ユーザの情報も出力できます。
ただし、オプション -u, 又は -f で兼任ユーザ ID を直接指定した場合は、記述に関係なく、兼任ユーザの情報を出力できません。
- 「NOTEXP_GMAXSYS=Y」と「NOTEXP_SYSUSER=Y」を追加した場合
登録情報の出力時に、最上位組織「Groupmax_system」以下の情報は出力されなくなります。

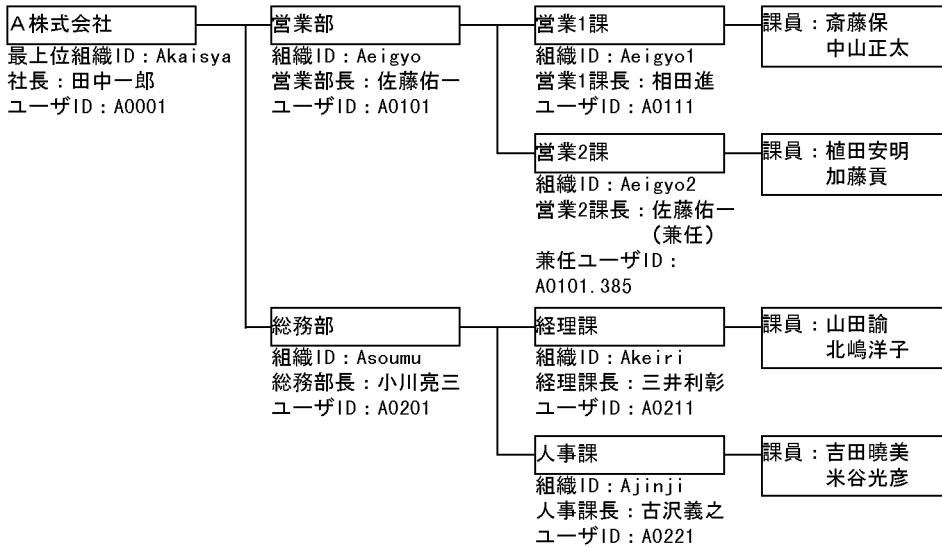
4.1.2 gmaxexp コマンドの使用例

gmaxexp コマンドの使用例を説明します。使用例では、図 4-1 に示すように登録されている最上位組織, 組織, ユーザの情報を出力します。

使用例では、前提として gmaxexp コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> \bin になっていることとします。また、情報の出力先は c:\temp\data.csv ファイルとします。

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

図 4-1 例題で使用する最上位組織，組織，ユーザの登録状況



(1) 全データを出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると，data.csv ファイルには登録済みの全最上位組織，全組織，全ユーザの情報が出力されます。

```
gmaxexp -a cgu c:¥temp¥data.csv
```

マスタ管理サーバの gmpublicinfo ファイルに「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」という記述を追加していた場合は，登録済みの全最上位組織，全組織，全ユーザ情報（全兼任ユーザも含む）が出力されます。また，マスタ管理サーバの gmpublicinfo ファイルに「NOTEXP_GMAXSYS=Y」と「NOTEXP_SYSUSER=Y」という記述を追加している場合は，全データを出力する場合にも最上位組織「Groupmax_system」以下の情報は出力されなくなります。

gmpublicinfo ファイルの詳細は，マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

(2) 全ユーザの情報を出力し，出力するデータの処理区分に M を設定する場合

次に示すようにコマンドを実行すると，data.csv ファイルには登録済みの全ユーザの情報が出力されます。また，出力したデータの処理区分には M が設定されます。

gmpublicinfo ファイルで兼任ユーザ情報も出力する設定にしていた場合，出力される全ユーザの情報には兼任ユーザの情報も含まれます。

```
gmaxexp -s M -a u c:¥temp¥data.csv
```

(3) 営業部に所属しているすべてのユーザ情報を出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、営業部に所属する佐藤佑一、営業1課に所属する相田進、斎藤保、中山正太、及び営業2課に所属する植田安明、加藤貢の6ユーザの登録情報が data.csv ファイルに出力されます。

gmpublicinfo ファイルで兼任ユーザ情報も出力する設定にしていた場合、上記のユーザに加えて、営業2課に所属する佐藤佑一の兼任ユーザ情報も出力されます。

```
gmaxexp -g Aeigy0 -a u c:¥temp¥data.csv
```

(4) 営業部に所属している組織情報を出力している場合

次に示すようにコマンドを実行すると、営業部配下の組織である営業1課と営業2課の登録情報が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -g Aeigy0 -h g c:¥temp¥data.csv
```

(5) A 株式会社の直属の組織、ユーザ情報を出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、最上位組織 A 株式会社直属の組織である営業部、総務部と A 株式会社直属のユーザである田中一郎の2組織、1ユーザの登録情報が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -c Akaisya -t gu c:¥temp¥data.csv
```

(6) 特定データを1件出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、総務部人事課の古沢義之のユーザ情報1件が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -u A0221 -o u c:¥temp¥data.csv
```

次に示すようにコマンドを実行すると、営業2課の組織情報1件が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -g Aeigy02 -o g c:¥temp¥data.csv
```

次に示すようにコマンドを実行すると、A 株式会社の最上位組織情報1件が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -c Akaisya -o c c:¥temp¥data.csv
```

次に示すようにコマンドを実行すると、営業2課の佐藤佑一の兼任ユーザ情報1件が

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -u A0101.385 -o u c:¥temp¥data.csv
```

(7) 特定データを複数出力する場合

規則性のない複数のデータを出力する場合、出力する ID の種類と ID を記述した CSV 形式のフィルタファイルを作成して出力対象を指定します。総務部人事課の古沢義之、営業 2 課、A 株式会社、及び営業 2 課の佐藤佑一（兼任）の登録情報を出力するための ID を記述したフィルタファイル c:¥temp¥filter.csv を次に示します。

```
u, A0221
g, Aeigy02
c, Akaisya
u, A0101.385
```

作成した c:¥temp¥filter.csv を使って、次に示すようにコマンドを実行すると、総務部人事課の古沢義之、営業 2 課、A 株式会社、及び営業 2 課の佐藤佑一（兼任ユーザ）の登録情報 4 件が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -f c:¥temp¥filter.csv -o cgu c:¥temp¥data.csv
```

指定するオプションを -o から -t に変更して実行すると、総務部人事課の古沢義之、営業 2 課直属の植田安明、加藤貢、A 株式会社直属の組織である営業部、総務部、直属のユーザである田中一郎、及び営業 2 課の佐藤佑一（兼任ユーザ）の登録情報 7 件が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -f c:¥temp¥filter.csv -t cgu c:¥temp¥data.csv
```

gmpublicinfo ファイルで兼任ユーザ情報も出力する設定にしていた場合、上記の情報に、営業 2 課の直属として佐藤佑一（兼任ユーザ）が加わり、登録情報は 8 件出力されます（フィルタファイルでも佐藤佑一（兼任ユーザ）は指定されているので、data.csv には佐藤佑一（兼任ユーザ）の情報は 2 回出力されています）。

(8) A 株式会社の兼任ユーザをすべて出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、最上位組織 A 株式会社に所属するすべての兼任ユーザの情報（営業 2 課の佐藤佑一）が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -c Akaisya -a -y u c:¥temp¥data.csv
```

(9) 営業2課の直属の兼任ユーザ情報を出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、営業2課直属の兼任ユーザ佐藤佑一の登録情報が data.csv ファイルに出力されます。

```
gmaxexp -g Aeigy02 -t -y u c:¥temp¥data.csv
```

4.1.3 gmaxexp コマンドの使用上の注意事項

gmaxexp コマンドで出力したファイルを一括登録ユーティリティで使用する場合、処理区分の指定が必要です。処理区分を指定しない場合、そのレコード（行）はコメント行として無視されます。

住所の項目を出力するとき、改行やタブは半角スペースに変換して出力されます。

gmaxexp コマンドはシステム管理者で実行してください。

オプションを何も指定しない場合、出力するメールボックスの容量と一致するデータがメール定義ファイルに存在しないと、出力ファイルのメールボックス容量は容量直接指定形式で出力されます。一致するデータが存在する場合、定義タイプが出力されます。

gmaxexp コマンドを実行すると、メール定義ファイルの内容をチェックします。

4.1.4 gmaxexp コマンドでのユーザ登録ファイルの作成例

gmaxexp コマンドで登録情報をファイルに出力し、そのファイルを編集してユーザ登録ファイルとして利用すれば、登録済みの情報を変更する場合のユーザ登録ファイルが簡単に作成できます。ここでは登録済みの電話番号を変更するユーザ登録ファイルを作成する例について説明します

営業1課の電話番号を変更するユーザ登録ファイル作成例

まず、gmaxexp コマンドで営業1課（組織ID：Aeigy01）の登録情報を

c:¥temp¥data.csv ファイルに出力します。出力したファイルを表計算ソフトなどで開いて、電話番号の部分だけを新しい番号に修正すれば、ユーザ登録ファイルの完成です。

例では、電話番号を 045-123-1001 から 045-987-1001 に変更しています。なお、gmaxexp コマンドを実行するときに、処理区分に C（変更）を設定するオプション `-s` を指定しています。

1. 営業1課の組織情報を出力します。

```
gmaxexp -s C -g Aeigy01 g c:¥temp¥data.csv
```

c:¥temp¥data.csv の内容

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

# 組織種別	処理種別	処理区分	...	電話番号	専用線番号	...	実行部エラー要因
G		C		045-123-1001	1001		

2. 表計算ソフトなどで出力ファイル c:\temp\data.csv の営業 1 課の電話番号を変更してユーザ登録ファイルを作成します。

c:\temp\data.csv の内容

# 組織種別	処理種別	処理区分	...	電話番号	専用線番号	...	実行部エラー要因
G		C		045-987-1001	1001		

表計算ソフトで作成した場合は、実行部エラー要因欄（70 番目のセル）に半角スペースを設定してください。

4.2 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk コマンド

ユーザが作成したユーザ登録ファイルに誤りがないかをチェックします。チェックした結果、誤りがなかったユーザ登録ファイルだけが Address Server への最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除の登録に使用できます。

4.2.1 gmaxchk コマンドの使用方法

(1) 実行条件

マスタ管理サーバで実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> %bin%gmaxchk と実行してください。

(2) 形式

gmaxchk [オプション] ユーザ登録ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ユーザ登録ファイル名は半角文字、及び全角文字を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。ユーザ登録ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-v :

標準出力に実行中のユーザ登録ファイルのレコード (行) を出力します。

-l :

最上位組織の組織略称に全角文字を設定する場合に指定します。ただし、最上位組織の組織略称に全角文字を設定すると、他 X.400 システム及び Mail・SMTP とは接続できなくなります。

-q :

ユーザ登録ファイル内のユーザ ID やニックネームなどがユニークかどうかをチェックしない場合に指定します。ユーザ登録ファイルに重複データが全くない場合にだけ

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

指定することができます。ユーザ情報の登録及び変更時に行う E-mail アドレスのユニークチェックとは関係ありません。

! 注意事項

オプション `-q` を指定した場合、ユニークチェックが行われないのでファイルのチェックが不十分になります。このため、オプション `-q` を使用しない運用を推奨します。

`-e` エラーログ出力先ディレクトリ：

指定したディレクトリにエラーログファイル `gmaxchk.log` を出力します。

オプション `-e` を指定しなかった場合、環境変数 `"tmp"` に定義されているディレクトリに出力します。環境変数 `"tmp"` が定義されていないときは、C ドライブのルートディレクトリに出力します。

`-E`：

ユーザ登録ファイル内に兼任ユーザのユーザ ID が含まれていた場合に、ピリオド以降の文字を削除します。ピリオド以降の文字が削除されると、兼任ユーザ ID は主体ユーザ ID に変わります。このため、兼任ユーザの再登録（追加）をする場合に、`gmaxexp` ユティリティで兼任ユーザを出力したファイルを利用するときは、オプション `-E` を使うと兼任ユーザ ID を主体ユーザ ID へ変更する手間が省けます。

`-k` 項目削除文字列：

ユーザ登録ファイルに指定した項目削除文字列と同じ項目削除文字列を半角 16 文字以内で指定します。

Address Server に登録済みの項目を削除する場合に指定します。登録済みの項目の削除については、「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

! 注意事項

項目削除文字列は、大文字と小文字が区別されます。オプション `-k` で指定する項目削除文字列とユーザ登録ファイルに入力した項目削除文字列は、大文字と小文字の違いまで同じになるようにしてください。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

0：正常終了

4：中止要求で終了

5：削除文字列に関して警告あり

9：ユーザ登録ファイルの項目にエラーあり

16：起動パラメタの指定誤り、ファイルアクセスエラー、又はシステムエラー

(5) 実行結果

gmaxchk コマンドによるチェック結果は、ユーザ登録ファイルの各レコード（行）のチェック部処理結果欄（64 番目の項目）に出力されます。項目が正しく設定されている場合は「」、設定に誤りがある場合は「`x`」を出力します。また、ユニークチェックが実行されていない場合は、スペースを出力します。ただし、ユニークチェックを行わないオプション（`-q`）で実行している場合は「」を出力します。

チェック部処理結果欄が「`x`」の場合には、チェック部エラー要因欄（65 番目の項目）にエラーの要因も出力されます。

エラーがあった場合には標準出力、及び<エラーログ出力先ディレクトリ> `¥gmaxchk.log` ファイルにメッセージを出力します。既に `gmaxchk.log` ファイルが存在した場合に、コマンドを実行した結果、エラーがあったときにはファイルを上書きします。エラーがなかったときにはファイルを削除します。

gmaxchk コマンドのメッセージについては「7.2 gmaxchk コマンドのメッセージ」を参照してください。

チェック実行前のユーザ登録ファイルは、拡張子を `.bak` にして同じディレクトリにバックアップファイルとして保存されます。既に `bak` 拡張子を付けたファイルが存在した場合は、拡張子に 1 から昇順の番号を付けて保存されます。

例えば、`c:¥temp¥data.csv` を gmaxchk コマンドでチェックした場合、チェック前のファイルは `c:¥temp¥data.bak` という名称で保存されます。また、既に `c:¥temp¥data.bak` というファイルが存在した場合は、`c:¥temp¥data.bak1` という名称で保存されます。

gmaxchk コマンドの実行を中断する場合は、`[Ctrl]+[C]` を入力します。

4.2.2 gmaxchk コマンドの使用例

gmaxchk コマンドの使用例について説明します。

使用例では、前提として gmaxchk コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> `¥bin` になっていることとします。また、gmaxchk コマンドのチェック対象となるユーザ登録ファイルは `c:¥temp¥data.csv` としています。

(1) 最上位組織の組織略称に全角文字を使用する場合

次に示すように gmaxchk コマンドを実行すると、ユーザ登録ファイル `data.csv` の最上位組織略称に全角文字を使用していてもエラーになりません。

```
gmaxchk -l c:¥temp¥data.csv
```

(2) 登録済みの組織の電話番号を削除する場合

電話番号を削除する組織の組織 ID を `Aeigy01` としたときは、gmaxexp コマンドでユー

4. 一括登録ユティリティのコマンド

ザ登録ファイルを作成します。オプション `-s` で処理区分に `C` を設定しています。

```
gmaxexp -s C -g Aeigyol g c:¥temp¥data.csv
```

項目削除文字列を `DELETE` とした場合、ユーザ登録ファイル `data.csv` の電話番号（25番目の項目）に項目削除文字列 `DELETE` を入力します。項目削除文字列については、「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」を参照してください。

# 組織種別	処理種別	処理区分	...	電話番号	専用線番号	...	実行部エラー要因
U		C		DELETE	1001		

その後で、`gmaxchk` コマンドを次のように実行します。

```
gmaxchk -k DELETE c:¥temp¥data.csv
```

(3) 標準出力に実行中のレコード（行）を出力する場合

次に示すように `gmaxchk` コマンドを実行すると、処理を実行しているユーザ登録ファイルのレコード（行）の情報が出力されます。

```
gmaxchk -v c:¥temp¥data.csv
```

4.2.3 gmaxchk コマンドの使用上の注意事項

`gmaxchk` コマンド実行時、ユーザ登録ファイルが開いていないことを確認してください。ファイルを開いていると実行時にエラーになります。

エラーがあった場合は修正した後、`gmaxchk` コマンドを再実行して、必ず、各レコードのすべての項目が正しく設定されていることを確認してください。

メールボックスの保存以降の作業（`SAVE_MB` コマンド、`gmaxset` コマンド、`LOAD_MB` コマンドの実行）を行う場合は、`gmaxchk` コマンドが完了した同一のユーザ登録ファイルをそのまま使用してください。コマンドごとに、別のユーザ登録ファイルを指定したり、ユーザ登録ファイルを編集したりしないでください。

オプション `-k` に項目削除文字列を指定して `gmaxchk` コマンドを実行した場合、チェックしたユーザ登録ファイルの最終行にコメント行が追加されます。この行は `gmaxset` コマンドが内部で使用するため、登録処理が完了するまで編集しないでください。

オプション `-k` に項目削除文字列を指定した `gmaxchk` コマンドで同一ファイルを複数回チェックする場合、前回チェックをしたときの項目削除文字列と今回指定した項目削除文字列をチェックします。両方で項目削除文字列が一致しない場合、又は設定の有無が違えば、警告メッセージを表示して処理が継続されます。

オプション `-k` に項目削除文字列を指定してチェックしたユーザ登録ファイルを 02-31-/C より前のバージョンの一括登録ユティリティで使用しないでください。

`gmaxchk` コマンドでチェックが完了したユーザ登録ファイルを編集しないでください。編集する場合は、`gmaxchk` コマンドによってバックアップされたユーザ登録ファイルを修正して、`gmaxchk` コマンドを実行し直してください。レコード（行）の順番を変更するためにユーザ登録ファイルを編集した場合も、同様に `gmaxchk` コマンドを実行し直してください。詳細については、「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」の「(5) `gmaxchk` コマンド実行後にユーザ登録ファイルを修正する場合の注意点」を参照してください。

`gmaxchk` コマンドを実行するとメール定義ファイル (`gmaxmdef.csv`) をチェックします。

ユーザ登録ファイルのメールボックス容量に定義タイプを指定した場合、チェックで異常がないレコードのメールボックス容量は定義タイプから設定した容量に変換します。チェック前に指定していた定義タイプは括弧内に表示されます。

組織、ユーザのメールボックス容量を定義タイプで指定する場合、マスタ管理サーバのメール定義ファイルに指定したい容量を定義して、マスタ管理サーバで `gmaxchk` コマンドを実行してください。

4.2.4 `gmaxchk` コマンドのチェック内容

`gmaxchk` コマンドのチェックの内容を表 4-2 に示します。`gmaxchk` コマンドは項番 1 から順番にチェックしていきます。

！ 注意事項

項番 7 のチェック内容の対象は、ユーザ登録ファイル内のデータだけです。`gmaxchk` コマンドでは、既にアドレスサーバに登録済みのデータとユーザ登録ファイル内のデータとのチェックは実施しません。

表 4-2 `gmaxchk` コマンドのチェック内容

項番	チェック内容	誤りがある場合のチェック結果欄	
		異常レコード	正常レコード
1	<code>gmaxmdef.csv</code> ファイルの内容に誤りはないか	処理中断	
2	各レコードの設定項目数は 70 項目か	処理中断	
3	組織種別、処理区分に誤りはないか	処理中断	
4	使用できない文字や特殊コードを使っていないか	×	空白
5	設定値が最大文字列長を超えていないか	×	空白

4. 一括登録ユティリティのコマンド

項番	チェック内容	誤りがある場合のチェック結果欄	
		異常レコード	正常レコード
6	設定が必要なすべての項目にデータがあるか	x	空白
7	ID やニックネームがほかのレコードと重複していないか	x	

注

ユニークチェックを行わない設定の場合には が設定されます。

4.3 メールボックスの保存 SAVE_MB コマンド

ユーザ、組織の移動後も、移動前に送受信したメールを参照できるようにメールボックスを保存します。また、メールボックス以外に次の項目も保存できます。

パスワード、親展パスワード

パスワード有効期間（ユーザの移動の場合だけ）

掲示板の未既読の情報

代行受信の設定

保留メール（組織の移動の場合だけ）

IMAP などの個人情報

なお、パスワードとパスワード有効期間は、Mail Server を導入していない（メールを使用していない）場合にも保存が可能です。

メールボックスなどの情報が保存されるのは、ユーザ登録ファイルで処理区分に M が設定されている組織、ユーザだけです。また、保存したメールボックスなどの情報は、LOAD_MB コマンドで回復します。

4.3.1 SAVE_MB コマンドの使用方法

(1) 実行条件

保存する組織、ユーザが登録されているホームサーバで実行してください。

Object Server を起動した状態で実行してください。

システム管理者でログオンして実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> ¥bin¥SAVE_MB と実行してください。

SAVE_MB コマンドを実行するホームサーバには、チェックが完了したユーザ登録ファイルが必要です。チェックが完了したユーザ登録ファイルを実行するホームサーバに転送しておいてください。

マスタ管理サーバで gmaxset コマンドを実行する前に実行してください。

(2) 形式

SAVE_MB [オプション] ユーザ登録ファイル名 退避ディレクトリ名

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ユーザ登録ファイル名には、チェック済みのユーザ登録ファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。ユーザ登録ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

退避ディレクトリ名には、メールボックスなどの情報が保存されるディレクトリを絶対パスで指定してください。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。複数のオプションを指定する場合、次のことに注意してください。

- 組織の情報を保存する場合はオプション `-g`、又は `-a` を指定する必要があります。
- オプション `-g` と同時にオプション `-a` は指定できません。
- オプション `-i` と同時にオプション `-m`、`-w`、`-j`、`-b`、`-d`、又は `-r` は指定できません。
- 同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

`-e` 実行結果出力先ディレクトリ：

指定したディレクトリに、次の実行結果のファイルを出力します。

- 保存した組織の組織 ID、ユーザのユーザ ID を出力したファイル：save_mb.lst
- バックアップ時のエラーログファイル：save_mb.log

オプション `-e` の指定がない場合は、環境変数 "tmp" に定義されたディレクトリに出力します。環境変数 "tmp" が定義されていないときは、C ドライブのルートディレクトリに出力します。

`-v`：

標準出力に実行中のユーザ登録ファイルのレコード（行）を出力します。

`-m`：

メールボックスの情報及び IMAP などの個人情報を保存します。

`-w`：

パスワードと親展パスワードだけを保存します。

`-j`：

掲示板の記事の未既読だけを保存します。

`-b`：

パスワード有効期間だけを保存します。

`-d`：

代行受信の設定だけを保存します。

-r :

IMAP などの個人情報及びメールボックスの情報を保存します。

-i :

メールボックスと同時にユーザのパスワード、親展パスワード、パスワードの有効期間、掲示板の記事の未既読、代行受信の設定、及び IMAP などの個人情報を保存します。

-g :

オプション -g を指定した場合は、組織の情報だけを保存します。ユーザの情報は保存しません。オプション -a と同時には指定できません。

-a :

オプション -a を指定した場合は、ユーザの情報と組織の情報の両方を保存します。オプション -g と同時には指定できません。

-q :

06-50 以前のバージョンと同じオプションにします。退避情報に通知メールを含めません。本オプションを指定してメールボックスを移動した場合、送信メール詳細の代行受信者や開封日時欄が空欄になります。

! 注意事項

オプション -g, 又は -a が無い場合は、ユーザの情報だけが保存されます。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

- 0 : 正常終了 (退避ユーザ数が 0 の場合を含む)
- 4 : 中止要求で終了
- 6 : ユーザ未登録, 組織未登録
- 7 : ホームサーバ名未登録
- 8 : 共用メールボックス ID が異なる
- 13 : データベースへのログインに失敗
- 15 : データベースエラー
- 16 : そのほかのエラー

(5) 実行結果

メールボックスなどの情報が次のディレクトリに保存されます。

ユーザのメールボックスの場合

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

<待避先ディレクトリ> ¥回復先のホームサーバ名 ¥ユーザ ID

組織のメールボックスの場合

<待避先ディレクトリ> ¥回復先のホームサーバ名 ¥@組織 ID

保存した情報を転送する場合には、回復先のホームサーバ名のディレクトリ以下をすべて転送してください。

エラーがあった場合には標準出力、及び<実行結果出力先ディレクトリ>

¥save_mb.log ファイルにメッセージを出力します。既に save_mb.log ファイルが存在した場合には追加で出力されます。

メールボックスの保存時のメッセージについては、「7.3 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドのメッセージ」を参照してください。

保存されたユーザ名及び組織の組織 ID を、<実行結果出力先ディレクトリ>

¥save_mb.lst ファイルに出力します。既に save_mb.lst ファイルが存在した場合には追加で出力されます。

! 注意事項

save_mb.log ファイルと save_mb.lst ファイルは、ファイルサイズの上限を超えた場合、ファイル名 + ".sav" というファイルになります。既に .sav ファイルが存在した場合、.sav ファイルは上書きされます。

4.3.2 SAVE_MB コマンドの使用例

SAVE_MB コマンドの使用例について説明します。

使用例では、前提として SAVE_MB コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> ¥bin になっていることとします。また、SAVE_MB コマンドに指定するユーザ登録ファイルは c:¥temp¥data.csv、待避ディレクトリ名は c:¥temp¥backup としています。

(1) パスワードと親展パスワードだけを保存する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、パスワードと親展パスワードだけを保存します。

```
SAVE_MB -w c:¥temp¥data.csv c:¥temp¥backup
```

(2) 組織の共用メールボックスだけを保存する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、組織の共用メールボックスだけを保存します。

```
SAVE_MB -g c:¥temp¥data.csv c:¥temp¥backup
```


4.3.3 SAVE_MB コマンドの使用上の注意事項

メールサーバが実行中でもユーザのメールボックスは保存できます。ただし、保存の対象ユーザと保存の対象共用メールボックスを使用する組織は、保存したメールボックスを回復するまでメールを使用できません。

組織のメールボックスを保存した場合、共用しているほかの組織のメールボックスも閉塞されるため注意が必要です。

ユーザのメールボックス内の受発信したメールのデータを保存できます。ただし、転送中のメール、及び回覧の保存はできません。

送信回覧または受信回覧を保持したままユーザを移動することはできません。送信回覧は回収または破棄をした後に、受信回覧は回送及び削除をした後に、ユーザの移動を行ってください。

保存中にエラーが発生した場合、処理中のデータは破棄されます。データの破棄中にエラーが発生した場合、データを破棄できないことがあります。このような場合は、退避先ディレクトリの下にあるファイルを削除してください。

SAVE_MB コマンドはシステム管理者で実行してください。

複数の組織が一つの共用メールボックスを参照している環境で組織を移動するときは、参照しているすべての組織を移動する場合にだけ共用メールボックスの保存と回復が必要です。そうでない場合には保存と回復は必要ありません。保存と回復を行わない場合は、共用メールボックスの追加フラグを OFF にして、処理区分を移動 (M) ではなく、移動する組織の削除 (D) と移動後の組織の追加 (A) の 2 レコードを作成して移動してください。

4.4 情報の登録 gmaxset コマンド

ユーザ登録ファイルの内容に従って最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除を登録します。

4.4.1 gmaxset コマンドの使用方法

(1) 実行条件

マスタ管理サーバにシステム管理者でログオンして実行してください。

マスタ管理サーバでアドレスサービスが起動している状態で実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> %bin%gmaxset と実行してください。

メールボックスを保存・回復する場合は、SAVE_MB コマンドでメールボックスを保存してから実行してください。

(2) 形式

gmaxset [オプション] コマンド引数 ユーザ登録ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列やコマンド引数は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ユーザ登録ファイル名には、チェック済みのユーザ登録ファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。ユーザ登録ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-v :

標準出力に実行中のユーザ登録ファイルのレコード (行) を出力します。

-e エラーログ出力先ディレクトリ :

指定したディレクトリにエラーログファイル gmaxset.log を出力します。

オプション -e の指定がない場合、環境変数 "tmp" に定義されたディレクトリにエラーログを出力します。環境変数 "tmp" に定義がない場合、エラーログは C ドライブのルートディレクトリに出力されます。

(4) コマンド引数

必ず `m` を指定します。

(5) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

6 : 更新するデータなし

9 : 登録, 更新失敗あり

16 : 起動パラメタの指定誤り, マスタ管理サーバ誤り, ファイルアクセスエラー, システムエラー, 又は環境設定誤り

(6) 実行結果

`gmaxset` コマンドを実行した結果は, ユーザ登録ファイルの各レコードの実行部処理結果欄 (66 番目の項目) に出力されます。処理が正常に終了した場合は「○」、エラーが発生した場合は「×」を出力します。実行部処理結果欄が「×」の場合, 実行部エラー要因欄 (70 番目の項目) にエラーの要因を出力します。

`gmaxset` コマンド実行中に発生したイベント, エラーについての詳細情報は, <エラーログ出力先ディレクトリ> `¥gmaxset.log` ファイルに出力されます。既に `gmaxset.log` ファイルが存在した場合に, コマンドを実行した結果, エラーがあったときにはファイルを上書きします。エラーがなかったときにはファイルを削除します。`gmaxset` コマンドのメッセージについては, 「7.4 `gmaxset` コマンドのメッセージ」を参照して, 対処してください。

4.4.2 `gmaxset` コマンドの使用例

`gmaxset` コマンドの使用例について説明します。

使用例では, 前提として `gmaxset` コマンドを実行できる状態で, コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> `¥bin` になっていることとします。また, 指定するユーザ登録ファイルは `c:¥temp¥data.csv` ファイルとします。

(1) 標準出力に実行中のレコード (行) を出力する場合

次に示すように `gmaxset` コマンドを実行すると, 処理を実行しているユーザ登録ファイルのレコード (行) の情報が出力されます。

```
gmaxset -v m c:¥temp¥data.csv
```

4.4.3 gmaxset コマンドの使用上の注意事項

gmaxset コマンド実行時、ユーザ登録ファイルが開いていないことを確認してください。テキストエディタなどでファイルを開いていると実行時にエラーになります。

gmaxset コマンドはシステム管理者で実行してください。

データを削除する場合は、存在しない最上位組織、組織、及びユーザを設定しても、ユーザ登録ファイルの実行結果欄は×にはなりません。

組織・ユーザを追加する場合には、その組織・ユーザが所属する最上位組織と組織が先に登録されている必要があります。また、最上位組織・組織を削除する場合には、その最上位組織・組織に所属する全ユーザと全組織が削除されている必要があります。

組織を追加する場合に、別の組織を権利組織にしたり、登録済みの共用メールボックスを共有したりするためには、権利組織や共用メールボックスを先に登録する必要があります。

ユーザを追加する場合に、上長ユーザや上長役職名を設定するためには、上長ユーザや上長役職名を先に登録する必要があります。

gmaxset コマンドを実行すると、メール定義ファイルの内容をチェックします。

移動するユーザレコードが存在する場合、ユーザ削除によってユーザ任意情報も削除されるため、ユーザ任意情報を定義していると、その保存と回復処理が gmaxset コマンドの前後で自動的に実行されます。gmaxset コマンドは保存と回復処理のあいだは待ち状態になります。ただし、移動の DM と AM レコードを別々に実行した場合は回復されません。ユーザ任意情報の保存と、回復処理で異常が発生した場合、「15. ユーザ任意情報の概要」を参照してください。

4.4.4 gmaxset コマンドのチェック内容

gmaxset コマンドのチェック内容を表 4-3 に示します。

表 4-3 gmaxset コマンドのチェック内容

項番	チェック内容	誤りがある場合の実行部処理結果欄	
		異常レコード	正常レコード
1	実行ユーザは正しいか		処理中断
2	アドレスサービスは起動しているか		処理中断
3	ユーザ登録ファイルの形式は正しいか		処理中断
4	メール定義ファイルは正しいか		処理中断
5	ユーザ任意情報を保存できるか		処理中断
6	サーバがユーザ情報を更新できる環境か	×	
7	指定した最上位組織 ID、組織 ID、ユーザ ID などがサーバに登録されているか	×	

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

項番	チェック内容	誤りがある場合の実行部処理結果欄	
		異常レコード	正常レコード
8	各 ID やニックネームなど、重複が許されない項目が重複していないか	×	
9	ユーザ任意情報を回復できるか	-	

4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド

マルチサーバ構成の場合、gmaxset コマンドでマスタ管理サーバに登録した最上位組織、組織、ユーザの追加・移動・変更・削除がアドレスサーバにレプリケーションされたかを確認します。

4.5.1 nxsrepstat コマンドの使用方法

(1) 実行条件

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> ¥bin¥nxsrepstat で実行してください。

マスタ管理サーバとすべてのアドレスサーバでアドレスサービスが起動している状態で実行してください(アドレスサービスが起動していないアドレスサーバのレプリケーション状態は確認できません)。

(2) 形式

nxsrepstat [オプション]

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-h ドメイン名 / ホスト名 :

レプリケーションの完了・未完了を調べるアドレスサーバのドメイン名又はホスト名を指定します。複数のアドレスサーバの状態を調べる場合には、ドメイン名又はホスト名を、(コンマ)で区切って指定してください。なお、マスタ管理サーバのドメイン名又はホスト名を指定した場合は正常終了します。

このオプションを省略した場合は、すべてのアドレスサーバのレプリケーション状態を表示します。

nxsrepstat コマンドを実行する場合は、追加・移動・変更・削除の対象となった最上位組織、組織、ユーザのホームサーバを指定して、マスタ管理サーバからのレプリケーションが完了しているかを確認してください。

-s メッセージ抑止指示 :

メッセージ抑止指示に従いメッセージの制御をします。

「0」メッセージを表示しない。

「1」メッセージを表示する（標準出力に出力する）。

「0」と「1」以外を指定した場合はエラーになります。

このオプションを省略した場合は、メッセージを表示します。

-c :

このオプションを指定すると、メッセージ及び戻り値が拡張されて、より詳しい情報が確認できます。

このオプションを指定しないと、「トランザクションレコード処理中」と「トランザクションレコードあり」を区別しないで「トランザクションあり」と表示します。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。nxsrepstat コマンドは、複数のアドレスサーバへのレプリケーション状態を確認できます。このとき、それぞれのアドレスサーバの状態が異なった場合は、一番大きい値が戻り値になります。例えば、アドレスサーバの状態が戻り値 53 と 104 だった場合、nxsrepstat コマンドの戻り値は 104 になります。

0

指定したアドレスサーバへのレプリケーションが完了しています。

1

指定したアドレスサーバにバージョン 02-00 又は 02-10 のサーバが含まれています。バージョン 02-00 又は 02-10 のサーバへのレプリケーションの状態は不明です。それ以外のアドレスサーバへのレプリケーションは完了しています。

2

指定したアドレスサーバにバージョン 02-10 のレプリケーション中継サーバが含まれています。バージョン 02-10 のレプリケーション中継サーバへのレプリケーションの状態は不明です。それ以外のアドレスサーバへのレプリケーションは完了しています。

3

指定したアドレスサーバの中に状態を確認できないアドレスサーバが含まれています。それ以外のアドレスサーバへのレプリケーションは完了しています。

50

指定したアドレスサーバの中にレプリケーション中のアドレスサーバが含まれています。レプリケーション中継サーバに対する情報がマスタ管理サーバ上に存在しません。オプション -c を指定した場合だけ、この戻り値が返ります。

51

指定したアドレスサーバの中にレプリケーション中のアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がマスタ管理サーバ上に存在します。オプション -c を指定した場合だけ、この戻り値が返ります。

4. 一括登録ユティリティのコマンド

52

指定したアドレスサーバの中にレプリケーション中のアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がレプリケーション中継サーバ上に存在します。オプション `-c` を指定した場合だけ、この戻り値が返ります。

53

指定したアドレスサーバの中にレプリケーション中のアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がアドレスサーバ上に存在します。オプション `-c` を指定した場合だけ、この戻り値が返ります。

100

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。バージョンが 02-00 よりも古いアドレスサーバに対するレプリケーションが中断しています。

101

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。レプリケーション中継サーバに対する情報がマスタ管理サーバ上に存在しています。

102

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がマスタ管理サーバ上に存在しています。

103

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がレプリケーション中継サーバ上に存在しています。

104

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がアドレスサーバ上に存在していません。

105

指定したアドレスサーバの中にレプリケーションを中断しているアドレスサーバが含まれています。アドレスサーバに対する情報がレプリケーション中継サーバ上に存在しています。

254

確認したアドレスサーバの中にアドレスサービスが起動されていないものがあります。

255

一部又はすべてのアドレスサーバのレプリケーション状態を取得できません

(5) 実行結果

指定したアドレスサーバへのレプリケーションが完了したかは戻り値, 又はメッセージで確認してください。

メッセージについては、「7.5 nxsrepstat コマンドのメッセージ」を参照してください。

4.5.2 nxsrepstat コマンドの使用例

nxsrepstat コマンドの使用例について説明します。

使用例では, 前提として nxsrepstat コマンドを実行できる状態で, コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> %bin になっていることとします。

(1) レプリケーションの状態を詳細まで確認する場合

レプリケーションの状態を確認するアドレスサーバのホスト名が ws157, ws159 の場合は次のように実行します。

```
nxsrepstat -c -h ws157,ws159
```

4.5.3 nxsrepstat コマンドの使用上の注意事項

バージョン 02-10 以前のアドレスサーバに対するレプリケーション状態は確認できません。

オプション -h で指定するドメイン名又はホスト名には, hosts ファイルに登録されているホスト名, 又は DNS (Domain Name System) サーバに登録されているドメイン名を指定してください。

4.6 メールボックスの回復 LOAD_MB コマンド

SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスなどの情報を回復します。回復することでユーザ、組織の移動後にも移動前に送受信したメール、パスワード、IMAP などの個人情報を使用できるようになります。

4.6.1 LOAD_MB コマンドの使用方法

(1) 実行条件

ユーザ、組織の移動・変更先のホームサーバで実行してください。

Object Server を起動した状態で実行してください。

システム管理者でログオンして実行してください。

コマンドプロンプト上で <インストール先ディレクトリ> \bin\LOAD_MB と実行してください。

LOAD_MB コマンドを実行するサーバには、gmaxchk コマンドによるチェックが完了したユーザ登録ファイルが必要です。チェックが完了したユーザ登録ファイルを実行するサーバに転送しておいてください。

LOAD_MB コマンドを実行するサーバには、SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスなどの情報のファイルが必要です。ファイルを実行するサーバに転送しておいてください (FTP で転送する場合は「binary」で転送します)。

マスタ管理サーバで gmaxset コマンドを実行後、nxsrepstat コマンドでレプリケーションが完了していることを確認してから実行してください。

SAVE_MB コマンドで掲示板の未既読の情報を保存した場合は、LOAD_MB コマンドはサーバの掲示板の整合性が確保されている状態で実行してください。整合性が確保されていない状態や整合性確保中には実行しないでください。

(2) 形式

LOAD_MB [オプション] ユーザ登録ファイル名 退避ディレクトリ名

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ユーザ登録ファイル名には、チェック済みのユーザ登録ファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、128 バイト以内の文字列で指定してください。ユーザ登録ファイル

名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

退避ディレクトリ名には、SAVE_MB コマンドで保存したファイルを格納したディレクトリ (LOAD_MB コマンドを実行するホームサーバと同一名のディレクトリまで) を絶対パスで指定してください。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。複数のオプションを指定する場合、次のことに注意してください。

- 組織の情報を回復する場合はオプション `-g`、又は `-a` を指定する必要があります。
- オプション `-g` と同時にオプション `-a` は指定できません。
- 同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

`-v` :

標準出力に実行中のユーザ登録ファイルのレコード (行) を出力します。

`-e` 実行結果出力先ディレクトリ :

指定したディレクトリに次の実行結果ファイルを出力します。

- 回復したユーザのユーザ ID、組織の組織 ID を出力したファイル : `load_mb.lst`
- 回復時のエラーログ : `load_mb.log`

オプション `-e` の指定がない場合は、環境変数 `"tmp"` に定義されているディレクトリに実行結果のファイルを出力します。環境変数 `"tmp"` に定義がない場合は、C ドライブのルートディレクトリに実行結果のファイルを出力します。

`-g` :

保存ファイルから組織の共用メールボックスの情報だけを回復します。ユーザのメールボックス情報やパスワードなどは回復しません。オプション `-a` とは同時に指定できません。

`-a` :

保存ファイルにあるすべての情報 (ユーザのメールボックスの情報や組織の共用メールボックスの情報など) を回復します。オプション `-g` とは同時に指定できません。

! 注意事項

オプション `-g`、又は `-a` がない場合は、ユーザの情報だけが回復されます。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

- 5: 退避ユーザ数が 0
- 6: ユーザ未登録, 組織未登録
- 13: データベースへのログインに失敗
- 14: メールボックスにメールが存在する
- 15: データベースエラー
- 16: そのほかのエラー

(5) 実行結果

エラーがあった場合には標準出力, 及び<実行結果出力先ディレクトリ>
¥load_mb.log ファイルにメッセージを出力します。既に load_mb.log ファイルが存在
した場合には追加で出力されます。

LOAD_MB コマンドのメッセージについては、「7.3 SAVE_MB/LOAD_MB コマン
ドのメッセージ」を参照して, 対処してください。

回復が実行されたユーザ名及び組織 ID を, <実行結果出力ディレクトリ>
¥load_mb.lst ファイルに出力します。既に load_mb.lst ファイルが存在した場合には
追加で出力されます。

! 注意事項

load_mb.log ファイルと load_mb.lst ファイルは, ファイルサイズの上限を超えた場合,
ファイル名 + ".sav" というファイルになります。既に .sav ファイルが存在した場合,
.sav ファイルは上書きされます。

4.6.2 LOAD_MB コマンドの使用例

LOAD_MB コマンドの使用例について説明します。

使用例では, 前提として LOAD_MB コマンドを実行できる状態で, コマンドプロンプト
上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> ¥bin になっていることと
します。また, LOAD_MB コマンドに指定するユーザ登録ファイルは
c:¥temp¥data.csv, 回復するメールボックスのデータが保存されているディレクトリは
c:¥temp¥ws157 としています。

(1) 組織の共用メールボックスの情報を回復する場合

次に示すようにコマンドを実行すると, 組織の共用メールボックスの情報だけを回復し
ます。

```
LOAD_MB -g c:¥temp¥data.csv c:¥temp¥ws157
```

(2) 保存されているすべての情報を回復する場合

次に示すようにコマンドを実行すると保存されているすべての情報を回復します。

```
LOAD_MB -a c:¥temp¥data.csv c:¥temp¥ws157
```

4.6.3 LOAD_MB コマンドの使用上の注意事項

LOAD_MB コマンドでメールボックスを回復する場合、メールボックスが空でないと回復できません。

送信回覧または受信回覧を保持したままユーザを移動することはできません。送信回覧は回収または破棄をした後に、受信回覧は回送及び削除をした後に、ユーザの移動を行ってください。

LOAD_MB コマンドでメールボックスを回復した場合、移動したユーザは次の点に注意してください。

- 移動する前に発信した回覧メールは不達になります。再度回覧メールを発信してください。

LOAD_MB コマンドでメールボックスを回復した場合、移動したユーザに対してメールを送る場合は、次の点に注意してください。

- 移動したユーザに送信していたメールを同じ宛先に再送する場合、その宛先を O/R 名からニックネームに書き換えて発信してください。

LOAD_MB コマンドはシステム管理者で実行してください。

4.7 メールボックスの閉塞の強制解除 gmmopnmb コマンド

メールボックスの閉塞状態を強制的に解除するコマンドです。gmmopnmb コマンドでメールボックスの閉塞を解除すると、SAVE_MB コマンドで保存した情報を回復できなくなる場合があります。そのため、注意事項を読んでから実行してください。注意事項については、「4.7.3 gmmopnmb コマンドの使用上の注意事項」を参照してください。

4.7.1 gmmopnmb コマンドの使用方法

(1) 実行条件

閉塞を解除したいメールボックスがあるホームサーバにシステム管理者でログオンして実行してください。

例えば、サーバ A からサーバ B にユーザを移動する場合、gmaxset コマンド実行前はユーザのホームサーバはサーバ A なので、そこで gmmopnmb コマンドを実行します。gmaxset コマンド実行後は、ホームサーバはサーバ B に移動しているので、サーバ B で gmmopnmb コマンドを実行します。

Object Server を起動した状態で実行してください。

コマンドプロンプト上で <インストール先ディレクトリ> %bin%gmmopnmb と実行してください。

(2) 形式

gmmopnmb [オプション] ユーザ ID 又は組織 ID

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ユーザ ID 又は組織 ID には、メールボックスの閉塞を解除したいユーザ又は組織の ID を指定してください（組織 ID を指定する場合は、オプション -g が必要です）。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-g :

組織のメールボックスの閉塞を解除する場合に指定します。オプション -g を指定したときは、指定した ID を組織 ID と判断して、その組織の共用メールボックスの閉塞を

解除します。オプション `-g` を省略した場合は、指定した ID をユーザ ID と判断して、そのユーザのメールボックスの閉塞を解除します。

`-e` 実行結果出力先ディレクトリ：

指定したディレクトリに、エラーログファイル `gmmopnmb.log` を出力します。

オプション `-e` の指定がない場合は、環境変数 `"tmp"` に定義されたディレクトリに出力します。環境変数 `"tmp"` が定義されていないときは、Cドライブのルートディレクトリに出力します。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

13 : データベースへのログインに失敗

15 : データベースエラー

16 : そのほかのエラー

(5) 実行結果

メールボックスの閉塞が解除されたかは戻り値、又はメッセージで確認してください。

エラーがあった場合には標準出力、及び<実行結果出力先ディレクトリ>

`¥gmmopnmb.log` ファイルにメッセージを出力します。既に `gmmopnmb.log` ファイルが存在した場合に、コマンドを実行した結果、エラーがあったときにはファイルを上書きします。エラーがなかったときにはファイルを削除します。

`gmmopnmb` のメッセージは、`SAVE_MB/LOAD_MB` コマンドのメッセージに含まれています。メッセージの詳細は、「7.3 `SAVE_MB/LOAD_MB` コマンドのメッセージ」を参照してください。

4.7.2 gmmopnmb コマンドの使用例

`gmmopnmb` コマンドの使用例を次に示します。

使用例では、前提として `gmmopnmb` コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> `¥bin` になっていることとします。

(1) `gmaxset` コマンド実行前にユーザのメールボックスの閉塞を強制解除する場合

移動前のホームサーバで、次に示すようにコマンドを実行すると、ユーザ ID が `A0001` であるユーザのメールボックスの閉塞を強制解除します。

4. 一括登録ユーティリティのコマンド

```
gmmopnmb A0001
```

(2) gmaxset コマンド実行後に組織のメールボックスの閉塞を強制解除する場合

移動後のホームサーバで、次に示すようにコマンドを実行すると、組織 ID が Aeigyo である組織のメールボックスの閉塞を強制解除します。

```
gmmopnmb -g Aeigyo
```

4.7.3 gmmopnmb コマンドの使用上の注意事項

gmmopnmb コマンドによる閉塞の強制解除には、次のような問題点があります。なお、問題点は gmaxset コマンドの実行前と実行後で異なります。

- gmaxset コマンド実行前の場合
再度 SAVE_MB コマンドを実行してメールボックスを保存する必要があります。これは、閉塞を強制解除した後に送受信したメールを保存するためです。
- gmaxset コマンド実行後の場合
LOAD_MB コマンドを実行しても、閉塞を解除したメールボックスには保存したデータを回復できません。このため、メールボックスなどが初期化されます。

gmmopnmb コマンドはシステム管理者で実行してください。

5

一括登録ユーティリティの使用例

この章では、一括登録ユーティリティの使用例をサンプルを使って説明します。

-
- 5.1 サンプルの構成

 - 5.2 データ追加の例

 - 5.3 ユーザ情報の変更の例

 - 5.4 ユーザのサーバ間移動の例

 - 5.5 データ削除の例

 - 5.6 組織のサーバ間移動の例

 - 5.7 サーバ構成の変更の例

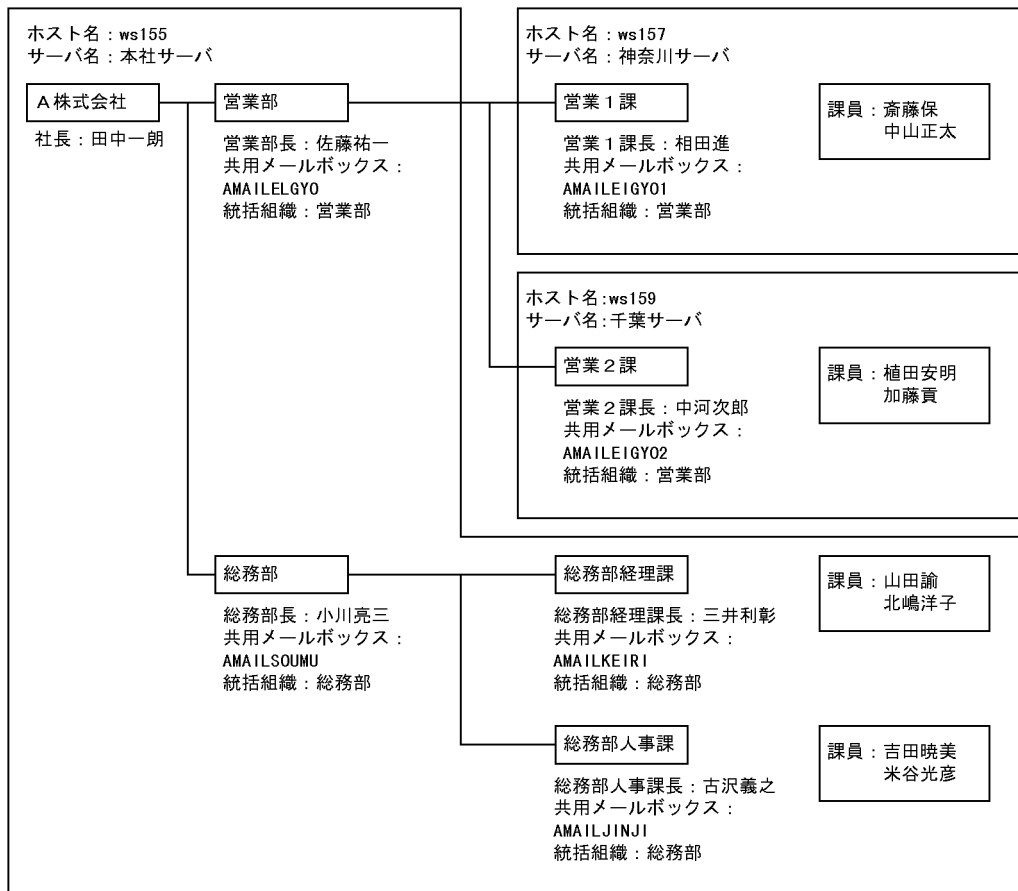
 - 5.8 サーバ環境の移行の例
-

5.1 サンプルの構成

一括登録ユティリティで最上位組織情報、組織情報、ユーザ情報を登録するサンプルの構成を説明します。サンプルでは、架空の会社である A 株式会社に Groupmax の環境を構築することを想定しています。

A 株式会社の構成を図 5-1 に示します。

図 5-1 A 株式会社の構成（一括登録ユティリティ用）



A 株式会社は本社が東京にあり、営業部と総務部の二つの部で構成されています。社内では回線使用量を押さえて応答時間の短縮を図るため、地域別にサーバを配置しています。各部、各課には共用メールボックスがあり、各課の共用メールボックスの統括組織はそれぞれの部を指定します。

図 5-1 の A 株式会社の構成に対する設定項目の指定例を表 5-1 から表 5-8 に示します。

! 注意事項

ユーザ登録ファイルは、70の項目を持つCSVファイルです。表5-1から表5-8の項番は、ユーザ登録ファイルの70の項目の中で何番目に設定する項目であることを表しています。

表 5-1 最上位組織 (A 株式会社)

項番	項目	サンプル
7	最上位組織 ID	Akaisya
9	職種	商社
17	組織略称	ASYA
25	電話番号	03-1234-0000
26	専用線番号	0000
27	FAX 番号	03-1234-0000
31	日本語組織名	A 株式会社
32	英語組織名	A Ltd
33	郵便番号	140
34	住所	東京都

表 5-2 組織 (営業部)

項番	項目	サンプル		
4	MTA 名	MWS155	MWS157	MWS159
8	組織 ID	Aeigy0	Aeigy01	Aeigy02
15	ホームサーバ	ws155	ws157	ws159
17	組織略称	営業部	営業 1 課	営業 2 課
24	引継フラグ	0 (引き継がない)	0 (引き継がない)	0 (引き継がない)
25	電話番号	03-1234-1000	045-123-1001	047-123-1002
26	専用線番号	1000	1001	1002
27	FAX 番号	03-1234-1000	045-123-1001	047-123-1002
31	日本語組織名	A 社営業部	A 社営業部営業 1 課	A 社営業部営業 2 課
32	英語組織名	eigy0	eigy01	eigy02
33	郵便番号	140	245	260
34	住所	東京都	神奈川県	千葉県
35	共用メールボックス追加フラグ	1 (新規)	1 (新規)	1 (新規)
36	共用メールボックス ID	AMAILEIGYO	AMAILEIGYO1	AMAILEIGYO2

5. 一括登録ユティリティの使用例

項番	項目	サンプル		
37	統括組織 ID	Aeigyō	Aeigyō	Aeigyō
41	タイプ	1 (メール組織)	1 (メール組織)	1 (メール組織)

表 5-3 組織 (総務部)

項番	項目	サンプル		
4	MTA 名	MWS155	MWS155	MWS155
8	組織 ID	Asoumu	Akeiri	Ajinji
15	ホームサーバ	ws155	ws155	ws155
17	組織略称	総務部	総務部経理課	総務部人事課
24	引継フラグ	0 (引き継がない)	0 (引き継がない)	0 (引き継がない)
25	電話番号	03-1234-2000	03-1234-2001	03-1234-2002
26	専用線番号	2000	2001	2002
27	FAX 番号	03-1234-2000	03-1234-2001	03-1234-2002
31	日本語組織名	A 社総務部	A 社総務部経理課	A 社総務部人事課
32	英語組織名	soumu	keiri	jinji
33	郵便番号	140	140	140
34	住所	東京都	東京都	東京都
35	共用メールボックス追加フラグ	1 (新規)	1 (新規)	1 (新規)
36	共用メールボックス ID	AMAILSOUMU	AMAILKEIRI	AMAILJINJI
37	統括組織 ID	Asoumu	Asoumu	Asoumu
41	タイプ	1 (メール組織)	1 (メール組織)	1 (メール組織)

表 5-4 ユーザ (社長:会社直属)

項番	項目	サンプル
4	MTA 名	MWS155
5	ユーザ ID	A0001
9	役職	A 社社長
10	日本語名	田中一郎
11	英語姓	Tanaka
12	英語名	Ichirou
13	ニックネーム	I.Tanaka
15	ホームサーバ	ws155
24	引継フラグ	0 (引き継がない)

項番	項目	サンプル
25	電話番号	03-1234-0001
26	専用線番号	0001
27	FAX 番号	03-1234-0001
41	タイプ	1 (メールユーザ)

表 5-5 ユーザ (部長)

項番	項目	サンプル	
4	MTA 名	MWS155	MWS155
5	ユーザ ID	A0101	A0201
9	役職	A 社営業部長	A 社総務部長
10	日本語名	佐藤佑一	小川亮三
11	英語姓	Sato	Ogawa
12	英語名	Yuichi	Ryouzou
13	ニックネーム	Y.Sato	R.Ogawa
15	ホームサーバ	ws155	ws155
24	引継フラグ	1 (引き継ぐ)	1 (引き継ぐ)
41	タイプ	1 (メールユーザ)	1 (メールユーザ)

表 5-6 ユーザ (課長)

項番	項目	サンプル			
4	MTA 名	MWS157	MWS159	MWS155	MWS155
5	ユーザ ID	A0111	A0121	A0211	A0221
9	役職	A 社営業 1 課長	A 社営業 2 課長	A 社経理課長	A 社人事課長
10	日本語名	相田進	中河次郎	三井利彰	古沢義之
11	英語姓	Aida	Nakagawa	Mitsui	Furusawa
12	英語名	Susumu	Jiro	Toshiaki	Yoshiyuki
13	ニックネーム	S.Aida	J.Nakagawa	T.Mitsui	Y.Furusawa
15	ホームサーバ	ws157	ws159	ws155	ws155
24	引継フラグ	1 (引き継ぐ)	1 (引き継ぐ)	1 (引き継ぐ)	1 (引き継ぐ)
41	タイプ	1 (メールユーザ)	1 (メールユーザ)	1 (メールユーザ)	1 (メールユーザ)

5. 一括登録ユーティリティの使用例

表 5-7 ユーザ（課員：営業部）

項番	項目	サンプル			
4	MTA 名	MWS157	MWS157	MWS159	MWS159
5	ユーザ ID	A0112	A0113	A0122	A0123
9	役職	A 社営業 1 課員	A 社営業 1 課員	A 社営業 2 課員	A 社営業 2 課員
10	日本語名	斎藤保	中山正太	植田安明	加藤貢
11	英語姓	Saitou	Nakayama	Ueda	Katou
12	英語名	Tamotsu	Syouta	Yasuaki	Mitsugu
13	ニックネーム	T.Saito	S.Nakayama	Y.Ueda	M.Katou
15	ホームサーバ	ws157	ws157	ws159	ws159
24	引継フラグ	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）
41	タイプ	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）

表 5-8 ユーザ（課員：総務部）

項番	項目	サンプル			
4	MTA 名	MWS155	MWS155	MWS155	MWS155
5	ユーザ ID	A0212	A0213	A0222	A0223
9	役職	A 社経理課員	A 社経理課員	A 社人事課員	A 社人事課員
10	日本語名	山田諭	北嶋洋子	吉田暁美	米谷光彦
11	英語姓	Yamada	Kitajima	Yoshida	Yonetani
12	英語名	Satoshi	Yoko	Akemi	Mitsuhiko
13	ニックネーム	S.Yamada	Y.kitajima	A.Yoshida	M.Yonetani
15	ホームサーバ	ws155	ws155	ws155	ws155
24	引継フラグ	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）	1（引き継ぐ）
41	タイプ	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）	1（メールユーザ）

5.2 データ追加の例

データ追加のサンプルファイルは、<インストール先ディレクトリ>
¥sample¥Aasya.csv です。このファイルを基にデータ追加の例を説明します。

(1) サンプルの説明

サンプルファイル Aasya.csv は、A 株式会社の構成（最上位組織，組織，ユーザ）を新規に追加する場合のユーザ登録ファイルです。Aasya.csv ファイルには，データを追加する順番に従って，最上位組織，組織，ユーザの順番でデータが設定されています。

ユーザが Aasya.csv ファイルを編集して，ユーザ自身の環境（最上位組織，組織，ユーザ）を追加するユーザ登録ファイルを作成する場合，サンプルファイルのとおり，最上位組織，組織，ユーザ登録に必要なすべての項目を設定する必要があります。

また，Aasya.csv ファイルをそのままユーザの使用するサーバ環境に登録する場合，Aasya.csv ファイルのユーザ，組織の MTA 名やサーバ名を，ユーザの使用するサーバ環境と一致させる必要があります。そのため，Aasya.csv ファイルの MTA 名，ホームサーバ，Scheduler サーバ，Workflow サーバ，Document Manager サーバなどの各設定値をユーザのサーバ環境の値に修正してください。

MTA 名については，ルーティンググループ詳細ダイアログボックスに登録済みの MTA 名を設定してください。登録済み MTA 名の詳細は，「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」（Windows 用）を参照してください。

(2) データの追加手順

データ追加の例として，サンプルファイルでデータを追加する手順を次に示します。

なお，この例ではインストール先ディレクトリを C:¥Groupmax¥Addr と仮定しています。

1. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）でコマンドプロンプトを起動して，<インストール先ディレクトリ> ¥bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。
次のように実行してください。
cd c:¥Groupmax¥Addr¥bin
2. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxchk コマンドを実行します。
Aasya.csv をチェックします。次のように実行してください。
gmaxchk -v c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Aasya.csv
3. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。
サンプルデータの追加をマスタ管理サーバに登録します。次のように実行してください。
gmaxset -v m c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Aasya.csv
4. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で nxsrepstat コマンドを実行します。

5. 一括登録ユティリティの使用例

サンプルデータの追加がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat
```


5.3 ユーザ情報の変更の例

ユーザ情報の変更のサンプルファイルは、<インストール先ディレクトリ>
¥sample¥Uasya.csv です。このファイルを基にユーザ情報の変更の例を説明します。

(1) サンプルの説明

サンプルファイル Uasya.csv は、A 株式会社の総務部経理課に所属する 3 人のニックネームを変更する場合のユーザ登録ファイルです。そのため、Uasya.csv のニックネームには、変更後の新しいニックネームが指定されています。

ニックネームはユーザ登録ファイルの処理区分 C (変更) で変更できるため、処理区分に C (変更) を設定します。また、処理区分に C を設定した場合、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行は必要ありません。

(2) ユーザ情報の変更手順

ユーザ情報の変更の例として、サンプルファイルでユーザ情報を変更する手順を次に示します。

この例ではインストール先ディレクトリを c:¥Groupmax¥Addr と仮定しています。

1. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) でコマンドプロンプトを起動して、<インストール先ディレクトリ> ¥bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。
次のように実行してください。
cd c:¥Groupmax¥Addr¥bin
2. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) で gmaxchk コマンドを実行します。
Uasya.csv をチェックします。次のように実行してください。
gmaxchk -v c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Uasya.csv
3. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) で gmaxset コマンドを実行します。
新しいニックネームに更新します。次のように実行してください。
gmaxset -v m c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Uasya.csv
4. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) で nxsrepstat コマンドを実行します。
ニックネームの変更がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。
nxsrepstat

5.4 ユーザのサーバ間移動の例

ユーザのサーバ間移動のサンプルファイルは、<インストール先ディレクトリ>
¥sample¥Masya.csv です。このファイルを基にユーザのサーバ間移動の例を説明しま
す。

(1) サンプルの説明

サンプルファイル Masya.csv は、A 株式会社の営業部営業 2 課の課員 2 名が営業 1 課に
移動するため、ホームサーバを千葉サーバから神奈川サーバへ変更する例です。そのた
め、Masya.csv の所属組織 ID やホームサーバは変更後の営業 1 課の値が指定されていま
す。

ユーザ移動の場合、処理区分に必ず M (移動) を設定する必要があります。また、
SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行が必要になります。

(2) データの移動手順

データ移動の例として、サンプルファイルでデータを移動する手順を次に示します。

この例ではインストール先ディレクトリを c:¥Groupmax¥Addr と仮定しています。ま
た、データ退避先を c:¥temp に設定しています。

1. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) でコマンドプロンプトを起動して、<インストール
先ディレクトリ> ¥bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。
次のように実行してください。
cd c:¥Groupmax¥Addr¥bin
2. 本社サーバ (マスタ管理サーバ) で gmaxchk コマンドを実行します。
Masya.csv をチェックします。次のように実行してください。
gmaxchk -v c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Masya.csv
3. Masya.csv を本社サーバ (マスタ管理サーバ) から千葉サーバと神奈川サーバへ転送
します。
チェックが完了した Masya.csv を、千葉サーバと神奈川サーバの
c:¥Groupmax¥Addr¥sample に転送してください。
4. 千葉サーバで SAVE_MB コマンドを実行します。
移動するユーザのメールアドレスなどの情報をデータ退避先に保存します。カレント
ディレクトリを<インストール先ディレクトリ> ¥bin にした後で、次のように実行し
てください。
SAVE_MB -v -i c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Masya.csv c:¥temp
5. SAVE_MB コマンドで保存したメールアドレスの退避データをディレクトリごと、千
葉サーバから神奈川サーバに転送します。
退避データのディレクトリ c:¥temp¥ws157

6. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。
移動するユーザを削除した後，ホームサーバを神奈川サーバに変更して再登録します。次のように実行してください。

```
gmaxset -v m c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Masya.csv
```
7. 神奈川サーバで nxsrepstat コマンドを実行します。
ユーザの移動が神奈川サーバにレプリケーションされているかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat -h ws157
```
8. 神奈川サーバで LOAD_MB コマンドを実行します。
転送したメールボックスのデータを神奈川サーバで回復します。カレントディレクトリを <インストール先ディレクトリ> ¥bin にした後で，次のように実行してください。

```
LOAD_MB -v c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Masya.csv c:¥temp¥ws157
```

5.5 データ削除の例

データ削除のサンプルファイルは、<インストール先ディレクトリ>
¥sample¥Dasya.csv です。このファイルを基にデータ削除の例を説明します。

(1) サンプルの説明

サンプルファイル Dasya.csv は、A 株式会社の構成（最上位組織，組織，ユーザ）をすべて削除する場合のユーザ登録ファイルです。

ユーザが Dasya.csv ファイルを編集して、ユーザ自身のサーバ環境で利用する場合は、サンプルファイルのとおり削除の対象になる組織種別，処理区分，各 ID（ユーザの場合はユーザ ID，組織の場合は組織 ID，最上位組織の場合は最上位組織 ID）を設定する必要があります。また，設定する順番は，データを削除する順番に従ってユーザ，組織，最上位組織の順で設定してください。

(2) データの削除手順

データ削除の例として，サンプルファイルでデータを削除する手順を次に示します。

この例ではインストール先ディレクトリを c:¥Groupmax¥Addr と仮定しています。

1. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）でコマンドプロンプトを起動して，<インストール先ディレクトリ> ¥bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。

次のように実行してください。

```
cd c:¥Groupmax¥Addr¥bin
```

2. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxchk コマンドを実行します。

Dasya.csv をチェックします。次のように実行してください。

```
gmaxchk -v c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Dasya.csv
```

3. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。

データの削除をマスタ管理サーバに登録します。次のように実行してください。

```
gmaxset -v m c:¥Groupmax¥Addr¥sample¥Dasya.csv
```

4. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で nxsrepstat コマンドを実行します。

データの削除がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxrepstat
```

5.6 組織のサーバ間移動の例

ここでは、A 株式会社が図 5-1 の状態から、営業 1 課を本社サーバに移動する例を説明します。なお、この例にはサンプルファイルはありません。

5.6.1 組織移動の概要

この例では、営業 1 課に所属する全組織、全ユーザを神奈川サーバ（ホームサーバ名：ws157）から本社サーバ（ホームサーバ名：ws155）に移動します。営業 1 課の全データを本社サーバに移動することで、神奈川サーバを本社サーバに統合することができます。

移動する組織（営業 1 課）の配下に組織、又はユーザが存在する場合、組織を移動することができません。このような場合、組織を移動するには、二つの方法があります。

配下の組織、又はユーザを一時的に別の組織に退避（移動）してから組織を移動する方法

組織と、配下の組織、及びユーザをまとめて移動する方法

後者の方法では、ユーザ登録ファイルが複雑になり、gmaxchk 後のユーザ登録ファイルのレコード（行）の移動も必要になるため、誤った編集をおこなうとユーザデータが初期化されてしまう可能性があります。そのため通常は、前者の方法で組織移動を実行してください。

5.6.2 データ移動の手順

次に、組織のサーバ間移動の手順を、二つの方法についてそれぞれ説明します。

（1）配下の組織又はユーザを、一時的に別の組織に退避（移動）してから組織を移動する方法

移動対象の組織の配下の組織又はユーザを、一時的に別の組織に退避してから組織を移動する場合に必要な作業は、大きく分けると次の三つです。

1. 配下の組織、又はユーザを別の組織の配下に変更する。
2. 移動する組織のホームサーバを変更する。
3. 別の組織の配下に退避させた組織、又はユーザを、元の組織の配下に変更する。

この例では、まず退避用の組織を作成した後、営業 1 課の配下ユーザ 3 名を一時的に退避用の組織の配下に変更します。そして営業 1 課の配下の組織・ユーザがいなくなった時点で営業 1 課を本社サーバに移動します。その後で、退避用の組織の配下に変更したユーザ 3 名を元の営業 1 課の配下に移動することで営業 1 課の全データを神奈川サーバから本社サーバに移動します。このため一括登録ユティリティを 3 回実行することになります。手順は多くなりますが、安全に移動処理を実行できるため、通常はこの方法で移動を実行してください。

5. 一括登録ユティリティの使用例

営業 1 課を移動する作業の実例を次に示します。なお、この例ではデータ退避先を `c:\temp` と設定しています。

(a) 営業 1 課の配下のユーザ 3 名を退避用の組織の配下に変更する

1. 環境をバックアップします。

2. 営業 1 課の配下データを一時的に退避するための組織を作成します。

退避用の組織は一時的に使用するだけなので、任意のデータで作成してください。ただし、退避用の組織が所属する最上位組織は、退避するデータ（営業 1 課の配下）が所属する最上位組織と同じでなければなりません。この例では、A 株式会社下に "workorg" という組織 ID で作成したものとします。

3. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `gmaxexp` コマンドを実行して、営業 1 課直下に所属する登録情報を出力します。

所属組織を変更するので、オプション `s` で処理区分に `C` を設定します。また、営業 1 課直下の情報が出力されるようにオプション `t` を指定します。次のように実行してください。

`gmaxexp -s C -g Aeigy01 -t gu c:\temp\Aeigy01T.csv`

コマンドを実行した結果の `Aeigy01T.csv` の例を次に示します。

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
U		C	MWS157	A0112		Aeigy01		齋藤 保				ws157
U		C	MWS157	A0111		Aeigy01		相田 進				ws157
U		C	MWS157	A0113		Aeigy01		中山 正太				ws157

4. 出力した `Aeigy01T.csv` ファイルを、表計算ソフトを使用して所属組織 ID を営業 1 課（`Aeigy01`）から退避用組織（`workorg`）に修正します。

修正後の `Aeigy01T.csv` の例を次に示します。

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
U		C	MWS157	A0112		workorg		齋藤 保				ws157
U		C	MWS157	A0111		workorg		相田 進				ws157
U		C	MWS157	A0113		workorg		中山 正太				ws157

5. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `gmaxchk` コマンドを実行して、作成したファイルをチェックします。
次のように実行してください。
`gmaxchk -v c:\temp\Aeigy01T.csv`
6. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `gmaxset` コマンドを実行します。
移動するユーザ、及び組織を削除した後、ホームサーバを本社サーバに変更して再登録します。次のように実行してください。
`gmaxset -v m c:\temp\Aeigy01T.csv`
7. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `nxsrepstat` コマンドを実行します。
所属組織 ID の変更がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。
`nxsrepstat`

(b) 営業 1 課のホームサーバを変更する

1. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `gmaxexp` コマンドを実行して、営業 1 課の登録情報を出力します。
ホームサーバを変更するので、オプション `s` で処理区分に `M` を設定します。次のように実行してください。
`gmaxexp -s M -g Aeigy01 -o g c:\temp\Aeigy01.csv`
コマンドを実行した結果の `Aeigy01.csv` の例を次に示します。

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
G		M	MWS157			Aeigy01				A 社営業部 営業 1 課		ws157

2. 出力した `Aeigy01.csv` ファイルを、表計算ソフトを使用して移動後の本社サーバのデータに修正します。
修正が必要な項目は、MTA 名、ホームサーバなどです。
修正後の `Aeigy01.csv` の例を次に示します。

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
G		M	MWS155			Aeigy01				A 社営業部 営業 1 課		ws155

3. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で `gmaxchk` コマンドを実行して、作成したファイルをチェックします。
次のように実行してください。
`gmaxchk -v c:\temp\Aeigy01.csv`

5. 一括登録ユーティリティの使用例

4. Aeigy01.csv を神奈川サーバへ転送します。

チェックが完了した Aeigy01.csv を、神奈川サーバの c:\temp に転送してください。

5. 神奈川サーバで SAVE_MB コマンドを実行します。

移動する組織の共用メールボックスなどの情報を、データ退避先に保存します。組織のデータを保存するため、オプションに -g を必ず指定します。次のように実行してください。

```
SAVE_MB -v -i -g c:\temp\Aeigy01.csv c:\temp
```

6. SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスの退避データを、ディレクトリごと神奈川サーバから本社サーバに転送します。

退避データのディレクトリ c:\temp\ws155

7. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。

移動する組織を削除した後、ホームサーバを本社サーバに変更して再登録します。次のように実行してください。

```
gmaxset -v m c:\temp\Aeigy01.csv
```

8. 神奈川サーバで nxsrepstat コマンドを実行します。

組織の移動（削除）が神奈川サーバにレプリケーションされているかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat -h ws157
```

9. 本社サーバで LOAD_MB コマンドを実行します。

転送したメールボックスのデータを本社サーバで回復します。組織のデータを回復するため、オプションに -g を必ず指定します。次のように実行してください。

```
LOAD_MB -v -g c:\temp\Aeigy01.csv c:\temp\ws155
```

(c) 退避用の組織に移動したユーザを営業1課の配下に戻す

1. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxexp コマンドを実行して、退避用組織の直下に所属する登録情報を出力します。

ホームサーバを変更するので、オプション s で処理区分に M を設定します。また、退避用組織の直下の情報が出力されるようにオプション t を指定します。次のように実行してください。

```
gmaxexp -s M -g workorg -t gu c:\temp\workorg.csv
```

コマンドを実行した結果の workorg.csv の例を示します。

# 組織 種別	処 理 種 別	処 理 区 分	MTA 名	ユー ザ ID	...	所属 組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織 名	...	ホーム サーバ
U		M	MWS1 57	A01 12		worko rg		齋藤 保				ws157

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
U		M	MWS157	A0111		workorg		相田 進				ws157
U		M	MWS157	A0113		workorg		中山 正太				ws157

2. 出力したデータから、所属組織 ID を営業 1 課に戻し、ホームサーバに関する項目も移動後の本社サーバのデータに修正します。

修正が必要な項目は、所属組織 ID、MTA 名、ホームサーバ、Scheduler サーバ、Workflow サーバ、Document Manager サーバなどです。

修正後の workorg.csv の例を次に示します。

# 組織種別	処理種別	処理区分	MTA 名	ユーザ ID	...	所属組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織名	...	ホームサーバ
U		M	MWS155	A0112		Aeigo1		斎藤 保				ws155
U		M	MWS155	A0111		Aeigo1		相田 進				ws155
U		M	MWS155	A0113		Aeigo1		中山 正太				ws155

3. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxchk コマンドを実行して、作成したファイルをチェックします。

次のように実行してください。

```
gmaxchk -v c:\temp\workorg.csv
```

4. workorg.csv を神奈川サーバへ転送します。

チェックが完了した workorg.csv を、神奈川サーバの c:\temp に転送してください。

5. 神奈川サーバで SAVE_MB コマンドを実行します。

移動するメールボックスなどの情報をデータ退避先に保存します。すべてのデータを保存するためオプションに -a を指定します。次のように実行してください。

```
SAVE_MB -v -i -a c:\temp\workorg.csv c:\temp
```

6. SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスの退避データを、ディレクトリごと神奈川サーバから本社サーバに転送します。

退避データのディレクトリ c:\temp\ws155

7. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。

移動するユーザを削除した後、所属組織を営業 1 課に、ホームサーバを本社サーバに変更して再登録します。次のように実行してください。

5. 一括登録ユーティリティの使用例

```
gmaxset -v m c:\temp\workorg.csv
```

8. 神奈川サーバで nxsrepstat コマンドを実行します。

ユーザの移動（削除）が神奈川サーバにレプリケーションされているかを確認します。次のように実行してください。

```
nxprepstat -h ws157
```

9. 本社サーバで LOAD_MB コマンドを実行します。

転送したメールボックスのデータを本社サーバで回復します。すべてのデータを回復するためオプションに -a を指定します。次のように実行してください。

```
LOAD_MB -v -a c:\temp\workorg.csv c:\temp\ws155
```

10. 作成した退避用の組織（workorg）を削除します。

（2）組織とその配下の組織又はユーザをまとめて移動する方法

この移動方法では、組織とその配下の組織又はユーザを、一つのユーザ登録ファイルに記述して移動を行います。この方法では、ユーザ登録ファイルが複雑になり、ユーザ登録ファイルの編集を誤るとユーザデータが初期化される可能性もあるため、一括登録ユーティリティの操作方法や注意事項を熟知されていない方は実行しないでください。通常は「(1) 配下の組織又はユーザを、一時的に別の組織に退避（移動）してから組織を移動する方法」で実行してください。

この組織移動では、本社サーバから営業1課のデータを出力して、それを基に本社サーバに移動するユーザ登録ファイルを作成します。作成したファイルを使って組織移動を行います。

この例ではデータ退避先を c:\temp と設定しています。

1. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxexp コマンドを実行して、営業1課の登録情報を出力します。

ホームサーバを変更するので、オプション s で処理区分に M を設定します。また、営業1課に所属する全組織、全ユーザが出力されるように指定します。次のように実行してください。

```
gmaxexp -s M -g Aeigy01 -a gu c:\temp\Aeigy01.csv
```

コマンドを実行した結果出力される Aeigy01.csv の例を次に示します。

#組織 種別	処理 種別	処理 区分	MTA 名	ユー ザ ID	...	所属 組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織 名	...	ホーム サーバ
G		M	MWS1 57			Aeigy 01				A 社営業部 営業1課		ws157
U		M	MWS1 57	A01 12		Aeigy 01		斎藤 保				ws157

#組織 種別	処理 種別	処理 区分	MTA名	ユー ザID	...	所属 組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織 名	...	ホーム サーバ
U		M	MWS1 57	A01 11		Aeigy o1		相田 進				ws157
U		M	MWS1 57	A01 13		Aeigy o1		中山 正 太				ws157

- 出力した Aeigo1.csv ファイルを、表計算ソフトを使用して移動後の本社サーバのデータに修正します。
修正が必要な項目は、MTA名、ホームサーバ、Scheduler サーバ、Workflow サーバ、Document Manager サーバなどです。
- 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxchk コマンドを実行して、作成したファイルをチェックします。
次のように実行してください。

```
gmaxchk -v c:\temp\Aeigo1.csv
```

コマンドを実行した結果の Aeigo1.csv の例を次に示します。

#組織 種別	処理 種別	処理 区分	MTA名	ユー ザID	...	所属 組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織 名	...	ホーム サーバ
G	M	D M	MWS1 55			Aeigy o1				A 社営業部 営業1課		ws155
G	M	A M	MWS1 55			Aeigy o1				A 社営業部 営業1課		ws155
U	M	D M	MWS1 55	A01 12		Aeigy o1		斎藤 保				ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 12		Aeigy o1		斎藤 保				ws155
U	M	D M	MWS1 55	A01 11		Aeigy o1		相田 進				ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 11		Aeigy o1		相田 進				ws155
U	M	D M	MWS1 55	A01 13		Aeigy o1		中山 正 太				ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 13		Aeigy o1		中山 正 太				ws155

- チェック後のファイルを削除、追加の順番にソートして、データを正しい順番に並べ替えます。
移動処理では移動前データを削除（処理区分：DM）した後、移動後データで登録（処理区分：AM）します。そのため、移動前データの削除、移動後データの追加の順

5. 一括登録ユーティリティの使用例

番に並べた後、削除は、ユーザ、下位組織、上位組織、最上位組織の順番に、追加は、最上位組織、上位組織、下位組織、ユーザの順番に並べ替える必要があります。営業1課の移動では、次のようにユーザの削除、組織の削除、組織の追加、ユーザの追加の順番に並べ替えます。並べ替えには表計算ソフトを使用すると便利です。ここでは値の編集はしないで、レコードの並べ替えだけを実行してください。また、移動以外の処理で処理区分に DM や AM を設定することはできません。ユーザ登録ファイルを作成するときは、処理区分に DM や AM を設定しないでください。

#組織 種別	処理 種別	処理 区分	MTA 名	ユー ザ ID	...	所属 組織 ID	...	日本語名	...	日本語組織 名	...	ホーム サーバ
U	M	D M	MWS1 55	A01 13		Aeigy o1		中山 正 太				ws155
U	M	D M	MWS1 55	A01 11		Aeigy o1		相田 進				ws155
U	M	D M	MWS1 55	A01 12		Aeigy o1		斎藤 保				ws155
G	M	D M	MWS1 55			Aeigy o1				A 社営業部 営業 1 課		ws155
G	M	A M	MWS1 55			Aeigy o1				A 社営業部 営業 1 課		ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 12		Aeigy o1		斎藤 保				ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 11		Aeigy o1		相田 進				ws155
U	M	A M	MWS1 55	A01 13		Aeigy o1		中山 正 太				ws155

- 環境をバックアップします。
- 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxchk コマンドを再実行して、並べ替えたファイルをチェックします。
チェックが完了したファイルを修正した場合、必ず gmaxchk コマンドを実行し直してください。
次のように実行してください。
gmaxchk -v c:\%temp%\Aeigy01.csv
- Aeigy01.csv を神奈川サーバへ転送します。
チェックが完了した Aeigy01.csv を、神奈川サーバの c:\%temp に転送してください。
- 神奈川サーバで SAVE_MB コマンドを実行します。
移動する組織、ユーザのメールボックスなどの情報をデータ退避先に保存します。組織とユーザの両方のデータを保存するため、オプションに -a を必ず指定します。次のように実行してください。
SAVE_MB -v -i -a c:\%temp%\Aeigy01.csv c:\%temp

9. SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスの退避データを、ディレクトリごと神奈川サーバから本社サーバに転送します。
退避データのディレクトリ `c:\temp\ws155`
10. 本社サーバ（マスタ管理サーバ）で gmaxset コマンドを実行します。
移動するユーザ，組織を削除した後，ホームサーバを本社サーバに変更して再登録します。次のように実行してください。
`gmaxset -v m c:\temp\Aeigy01.csv`
11. 神奈川サーバで nxsrepstat コマンドを実行します。
ユーザの移動（削除）が神奈川サーバにレプリケーションされているかを確認します。次のように実行してください。
`nxsrepstat -h ws157`
12. 本社サーバで LOAD_MB コマンドを実行します。
転送したメールボックスのデータを本社サーバで回復します。すべてのデータを回復するため，オプションに `-a` を必ず指定します。次のように実行してください。
`LOAD_MB -v -a c:\temp\Aeigy01.csv c:\temp\ws155`

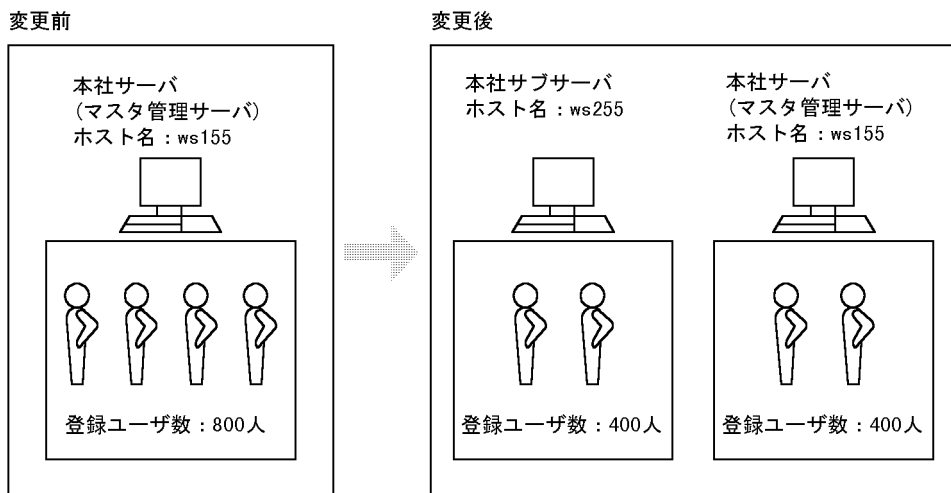
5.7 サーバ構成の変更の例

ここでは応用例として、A 株式会社で本社サーバの登録ユーザ数が増加したため、サーバを増設し、一部のユーザを増設サーバに移動する例を説明します。また、この例では、一括登録ユーティリティを使用したユーザ移動に伴う関連の設定についても総合的に説明します。なお、この例にはサンプルファイルはありません。

(1) サーバ構成の変更の概要

この例では、図 5-2 のように本社サーバの登録ユーザ数が 800 人と多くなったため、本社サブサーバを追加して、400 人を本社サブサーバに移動することで負荷分散を図ります。なお、一括登録ユーティリティを実行する前にサーバ追加作業やそれに伴う環境設定などは完了しているものとします。

図 5-2 サーバ構成の変更



この構成変更では、本社サーバから登録済みのユーザ情報を出力して、それを基にサブサーバに移動するユーザのユーザ登録ファイルを作成します。作成したファイルを使ってユーザ移動を行います。

また、ユーザ移動前に、兼任ユーザの情報やグループ・掲示板のメンバ情報を出力しておくことで、ユーザ移動によって削除される兼任ユーザやグループ・掲示板メンバ設定を回復します。グループ・掲示板のメンバ情報の出力については、「11.1 登録済みグループ・掲示板メンバ情報の出力 gmaxgexp コマンド」を参照してください。

(2) サーバ構成の変更手順

移動のスケジュール、及びその実行手順を次のように計画しました。

ユーザ登録ファイルの作成とチェックを金曜日までに完了させ、利用頻度が少ない土曜日に実際のユーザ移動を行い、日曜日を予備日としました。作業では手順 15 と 16 のよ

うに、一括登録ユーティリティと一括登録ユーティリティ以外のデータ転送などは並行して行うことができます。

この例ではデータ退避先を `c:\temp`、本社サブサーバのホームサーバ名を `ws255` と設定しています。

! 注意事項

作業時間は目安ですので、サーバ性能やメールの使用状況などによっては大幅に異なる場合があります。この例では、移動するユーザの送受信メールは 50 通前後、サーバ性能やネットワーク状態も良好であると仮定しています。また、実行するコマンドも使用環境によって例と異なる場合があります。

1. 一括登録ユーティリティ実行前の準備をします。
 実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）及び本社サブサーバ、実行日時：金曜日午前中
 一括登録ユーティリティを実行する前に必要なサーバの追加や追加に伴う設定などを行います。次の作業を行います。
 - サーバ追加
 - サーバのメール設定
 - 掲示板レプリカ情報の設定
 - 掲示板記事の整合性確保
2. `gmaxexp` コマンドで、処理区分に `M` を設定して全登録ユーザを出力します。
 実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 13:00 ~ 13:20
 カレントディレクトリを <インストール先ディレクトリ> `¥bin` にした後で、次のように実行してください。

```
gmaxexp -s M -a u c:¥temp¥idou.csv
```

 出力したファイルから移動ユーザのユーザ登録ファイルを作成します。
3. `gmaxexp` コマンドで、処理区分に `M` を設定して全兼任ユーザを出力します。
 実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 13:20 ~ 13:30
 次のように実行してください。

```
gmaxexp -s M -a y u c:¥temp¥kennin.csv
```

 出力したファイルから兼任ユーザ再登録用のユーザ登録ファイルを作成します。
4. `gmaxgexp` コマンドで、処理区分に `U` を設定してグループ・掲示板のメンバ情報をすべて出力します。
 実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 13:30 ~ 13:40
 次のように実行してください。

```
gmaxgexp -s U tb c:¥temp¥group.csv
```
5. 移動するユーザの権利組織の設定などを記録します。
 実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 13:40 ~ 15:00
 ユーザの移動で、設定値が初期化される項目の値を記録しておきます。移動後、記録した値で再登録します。

5. 一括登録ユーティリティの使用例

6. 移動ユーザのユーザ登録ファイルを作成します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 15:00 ~ 16:30
手順 2 で出力した idou.csv ファイルから移動しないユーザのデータをすべて削除します。また、移動ユーザのホームサーバなどを、本社サーバから本社サブサーバに修正します。
7. 兼任ユーザのユーザ登録ファイルを作成します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 16:30 ~ 17:30
手順 3 で出力した kennin.csv ファイルから移動しないユーザの兼任ユーザデータをすべて削除します。kennin.csv ファイルには、移動するユーザの兼任ユーザデータだけが残ります。
8. adpdaexp コマンドで、兼任ユーザのユーザ任意情報を保存します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 17:30 ~ 17:40
手順 7 で作成した兼任ユーザのユーザ登録ファイルを使用して、兼任ユーザのユーザ任意情報を保存します。このファイルはユーザ任意情報の回復（手順 18）で使用します。ユーザ任意情報を使用していない場合は、このコマンドを実行する必要はありません。
次のように実行してください。
adpdaexp -f kennin.csv -e adpdaexp.log -p A pdadata
9. gmaxchk コマンドで idou.csv ファイルをチェックします。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 17:40 ~ 18:30
手順 6 で作成した移動ユーザのユーザ登録ファイルをチェックします。次のように実行してください。このファイルは移動ユーザの登録（手順 16）で使用します。
gmaxchk -v c:\temp\idou.csv
10. gmaxchk コマンドで kennin.csv ファイルをチェックします。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 18:30 ~ 19:00
手順 7 で作成した兼任ユーザのユーザ登録ファイル（kennin.csv）に誤りがなければチェックします。このファイルは兼任ユーザの再登録（手順 17）で使用します。次のように実行してください。
gmaxchk -v c:\temp\kennin.csv
11. gmaxgchk コマンドで group.csv ファイルをチェックします。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 19:00 ~ 19:20
手順 4 で出力したグループ定義ファイル（group.csv）をチェックします。このファイルは、グループ・掲示板のメンバの再登録（手順 19）で使用します。次のように実行してください。
gmaxgchk -v c:\temp\group.csv
12. idou.csv ファイルを本社サブサーバに転送します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 19:20 ~ 19:30
チェックが完了したユーザ登録ファイル（idou.csv）を本社サーバから本社サブサーバへ転送します。

13. ユーザの移動準備をします。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：金曜日 21:00 ~
自動削除デーモンを起動するなどして、移動するユーザのメールを削除したり、環境
をバックアップしたりしてください。
14. SAVE_MB コマンドで移動するユーザのメールボックスなどの情報を保存します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 7:30 ~ 11:00
手順 8 のユーザ登録ファイルを基に保存します。保存した情報は、LOAD_MB コマ
ンドで回復します。次のように実行してください。
SAVE_MB -i -v c:¥temp¥idou.csv c:¥temp
15. 退避データを本社サブサーバに転送します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 11:00 ~ 12:30
SAVE_MB コマンドで保存した退避データを、本社サーバから本社サブサーバへ転送
します。
16. gmaxset コマンドを実行して、ユーザを移動します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 11:00 ~ 13:00
手順 8 のユーザ登録ファイル（idou.csv）を基に、ユーザ移動処理を行います。次の
ように実行してください。
gmaxset -v m c:¥temp¥idou.csv
17. gmaxset コマンドを実行して、移動したユーザの兼任ユーザを再登録します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 13:00 ~ 14:00
手順 10 のユーザ登録ファイル（kennin.csv）を基に、移動したユーザの兼任ユーザ
を再登録します。兼任ユーザを設定していない場合は、このコマンドを実行する必要
はありません。次のように実行してください。
gmaxset -v m c:¥temp¥kennin.csv
18. 兼任ユーザのユーザ任意情報を回復します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 14:00 ~ 14:20
手順 8 で保存したデータ（pdadata）を基に、兼任ユーザのユーザ任意情報を回復し
ます。ユーザ任意情報を使用していない場合は、このコマンドを実行する必要はあり
ません。次のように実行してください。
adpdaset -f pdadata -e adpdaset.log
19. gmaxgset コマンドを実行して、移動したユーザのグループ・掲示板のメンバ情報を
再登録します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 14:20 ~ 14:50
手順 11 のグループ定義ファイル（group.csv）を基に、移動したユーザのグループ・
掲示板のメンバ情報を再登録します。次のように実行してください。
gmaxgset -v c:¥temp¥group.csv
20. 移動したユーザの権利組織などを再登録します。
実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 14:50 ~ 16:20
一括登録ユティリティで設定できない情報のうち、ユーザ移動で設定値が初期化され

5. 一括登録ユティリティの使用例

る手順 5 で記録した値を運転席から再登録します。

21. nxsrepstat コマンドでユーザの移動などが本社サブサーバに反映されているかを確認します。

実行サーバ：本社サーバ（マスタ管理サーバ）、実行日時：土曜日 16:20 ~ 17:00

移動したユーザの登録，兼任ユーザの再登録，グループ情報，権利組織情報などが本社サブサーバに反映されているか，レプリケーション状態を確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat -h ws255
```

すべての項目が反映されれば次の項目に進みます。

22. ユーザの移動先で LOAD_MB コマンドを実行して，メールボックスの情報などを回復します。

実行サーバ：本社サブサーバ，実行日時：土曜日 17:00 ~ 20:50

カレントディレクトリを <インストール先ディレクトリ> ¥bin にした後で，次のように実行してください。

```
LOAD_MB -v c:¥temp¥idou.csv c:¥temp¥ws255
```

本社サブサーバで，手順 14 で保存したメールボックスなどの情報を回復します。

23. ユーザ移動が完了したかを確認します。

実行サーバ：クライアント，実行日時：土曜日 20:50 ~ 21:50

移動したユーザの ID でクライアントからログインして，送受信メールの状態やメールの送受信ができるかを確認します。

注

移動するユーザのメールを削除しないと SAVE_MB/LOAD_MB コマンドでメールボックスを保存・回復する時間が多くかかります。移動するユーザ数，又はメールボックス容量が多い場合，メールの削除を行ってください。

また，この例のように一括登録ユティリティで多数の移動・変更処理を行う場合，必ず Groupmax 環境のバックアップを取得してください。移動・変更処理が少ない場合でも可能な限りバックアップは取得するようにしてください。

5.8 サーバ環境の移行の例

ここでは、サーバマシンの変更やインストールドライブの変更など、サーバ環境を移行する例を説明します。なお、この例にはサンプルファイルはありません。

(1) サーバ環境の移行の概要

使用しているハードウェアの入れ替えや構成変更を行う場合には、移行対象サーバのデータを一括登録ユティリティの `gmaxexp` コマンドや `SAVE_MB` コマンドを使用して保存し、新しい環境に回復してください。

(2) サーバ環境の移行の注意点

この方法では、`gmaxset` コマンドや `gmaxgset` コマンドで登録できる情報と、`LOAD_MB` コマンドや `adpdaset` コマンドで回復できるデータだけが移行できます。その他の情報を移行することはできません。一括登録ユティリティでは設定できない掲示板、掲示板記事、及びサーバの設定などは移行できません。移行できない項目については、「3.2.6 `gmaxset` コマンドによる移動処理の注意点」、「3.2.8 一括登録ユティリティで実行できる機能」、及び「10.2.1 グループ・掲示板メンバー一括登録ユティリティで実行できる機能」を参照してください。ユーザ任意情報については、「15. ユーザ任意情報の概要」を参照してください。掲示板、掲示板記事、及びサーバの設定については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

さらに次の点に注意する必要があります。

移行前後の Address Server、及び Mail Server のバージョン・リビジョンは同じにしてください。バージョン・リビジョンが違う場合、保存したデータを回復できない可能性があります。

移行前後の Groupmax サーバのホームサーバ名と MTA 名の設定は同じにしてください。設定を変更した場合、ユーザ登録ファイルの該当項目を修正する必要があります。

掲示板を再登録して、掲示板アクセス権を移行前の状態に戻す場合、掲示板 ID は移行前と同じにしてください。掲示板 ID を変更した場合、グループ定義ファイルの該当項目を修正する必要があります。

掲示板と掲示板記事は移行できません。掲示板の記事はクリアされます。このため、`SAVE_MB` コマンドを実行する場合に、掲示板未既読情報を保存することはできません。`SAVE_MB` コマンドで `-i` オプション、又は `-j` オプションは指定しないでください。

ユーザ ID、組織 ID、及び共用メールボックス ID を変更すると、`SAVE_MB` コマンドで保存したメールボックスなどの情報を回復することができません。

マルチサーバ構成で移行対象サーバがマスタ管理サーバの場合は、全サーバを再構築する必要があります。次の順番で作業してください。

5. 一括登録ユーティリティの使用例

1. 全アドレスサーバでサーバ削除を行います。
サーバ削除を行う前に、メールボックスの保存が必要です
2. マスタ管理サーバを移行します。
3. 全アドレスサーバでサーバ追加を実行して、元の状態に戻します。
サーバ追加後に、メールボックスの回復が必要です。

(3) サーバ環境の移行の手順

一括登録ユーティリティのコマンドと注意点をサーバ構成別に示します。この例ではデータ退避先を `c:\temp`、ホームサーバ名を `hostname` と設定しています。これらの値は実行する環境に応じて変更してください。また、実行内容については、「5.7 サーバ構成の変更の例」も参照してください。

(a) シングルサーバ構成の場合

1. 移行前サーバで `gmaxexp` コマンドを実行して登録情報保存用データを出力します。
例) `gmaxexp -s A -a c c:\temp\c_data.csv`
`gmaxexp -s M -a gu c:\temp\gu_data.csv`
`gmaxexp -s M -a -y u c:\temp\yu6_data.csv`
2. 移行前サーバで `gmaxgexp` コマンドを実行してグループ・掲示板メンバ保存用データを出力します。
例) `gmaxgexp -s U tb c:\temp\group.csv`
3. 移行前サーバで `SAVE_MB` コマンドを実行して移行対象サーバに所属する全メールボックスを保存します。掲示板の記事の未既読情報を保存することはできません。
例) `gmaxchk -v c:\temp\gu_data.csv`
`SAVE_MB -v -m -w -b -d -r -a c:\temp\gu_data.csv c:\temp`
4. 移行前サーバで `adpdaexp` コマンドを実行して、ユーザ任意情報を保存します。
例) `adpdaexp -f c:\temp\gu_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\gu_pda`
`adpdaexp -f c:\temp\yu6_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\yu6_pda`
5. 移行前サーバでユーザ任意情報の見出しを表示して `c:\temp\pda_def.csv` ファイルに `csv` 形式で記録します。
例) `adpdhead -l -e adpdhead.log`
実行結果の画面表示を `c:\temp\pda_def.csv` ファイルに `csv` 形式で記録します。
6. 一括登録ユーティリティでは設定できない情報を、運転席などで表示して記録します。
 - サーバの設定内容 (サイト情報, MTA 情報, システムオプション, 役職定義など)
 - 掲示板情報
 - 移行対象ユーザに運転席から設定した権利組織設定, ユーザ管理権限, 及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など
7. 保存した `c:\temp` 以下のすべてのデータを, 移行後サーバの `c:\temp` にコピーします。また, `gmpublicinfo` ファイルや `gmaxmdef.csv` ファイルなどの設定ファイルも移

行後サーバにコピーします。

8. 移行後サーバでプログラムのインストールとセットアップを行い、次の項目を移行前サーバと同じ状態に回復して、一括登録ユーティリティを実行できるようにします。
 - サーバの設定内容（サイト情報，MTA 情報，システムオプション，役職定義など）
 - 掲示板情報
 9. 登録情報保存用データから最上位組織情報を回復します。


```
例) gmaxchk -v c:¥temp¥c_data.csv
      gmaxset -v m c:¥temp¥c_data.csv
```
 10. 登録情報保存用データから組織情報，及びユーザ情報を回復します。

まず c:¥temp¥gu_data.csv ファイルのレコードの順番が適切か，組織，ユーザの位置関係と上長ユーザ ID，統括組織，及び共用メールボックスなどの依存関係に問題がないか見直します。問題がなければ gmaxchk コマンドと gmaxset コマンドを実行して登録情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:¥temp¥gu_data.csv
      gmaxset -v m c:¥temp¥gu_data.csv
```
 11. 登録情報保存用データから兼任ユーザ情報を回復します。


```
例) gmaxchk -v c:¥temp¥u6_data.csv
      gmaxset -v m c:¥temp¥u6_data.csv
```
 12. 掲示板が再登録されている事を確認した後，マスタ管理サーバでグループ・掲示板メンバ保存用データからグループ・掲示板メンバ情報を回復します。


```
例) gmaxgchk -v c:¥temp¥group.csv
      gmaxgset -v c:¥temp¥group.csv
```
 13. 移行後サーバで LOAD_MB コマンドを実行してメールボックスを回復します。


```
例) nxsrepstat
      LOAD_MB -v -a c:¥temp¥gu_data.csv c:¥temp¥hostname
```
 14. 一括登録ユーティリティでは設定できない項目を運転席から回復します。
 - 移行対象ユーザに運転席から設定した権利組織設定，ユーザ管理権限，及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など
 15. 移行後サーバで adpdhead コマンドを実行して，ユーザ任意情報の見出しを定義します。


```
例) adpdhead -f c:¥temp¥pda_def.csv -e adpdhead.log
```
 16. 移行後サーバで adpdaset コマンドを実行して，ユーザ任意情報を回復します。


```
例) adpdaset -f c:¥temp¥gu_pda -e adpdaset.log
      adpdaset -f c:¥temp¥u6_pda -e adpdaset.log
```
- (b) マルチサーバ構成でアドレスサーバを移行する場合
1. マスタ管理サーバで gmaxexp コマンドを実行して登録情報保存用データを出力します。

5. 一括登録ユーティリティの使用例

```
例) gmaxexp -s M -a gu c:\temp\gu_data.csv
      gmaxexp -s M -a yu c:\temp\yu6_data.csv
      gmaxexp -s D -a gu c:\temp\del_data.csv
```

- 出力した登録情報保存用データから移行しない情報をすべて削除します。
出力したファイルから移行しない組織、ユーザ、及び兼任ユーザに関するレコードをすべて削除します。ホームサーバをキーにしてソートしたり、grep コマンドを実行すると移行しないデータを簡単に削除できます。
- マスタ管理サーバで gmaxgexp コマンドを実行して、グループ・掲示板メンバ保存用データを出力します。
例) gmaxgexp -s U tb c:\temp\group.csv
- 作成した c:\temp\gu_data.csv ファイルの内容をチェックして、移行前サーバに転送します。このファイルは SAVE_MB コマンドを実行するときに使用します。
例) gmaxchk -v c:\temp\gu_data.csv
c:\temp\gu_data.csv ファイルを移行前サーバに転送
- 移行前サーバで SAVE_MB コマンドを実行して、移行対象サーバに所属する全メールボックスを保存します。掲示板の記事の未既読を保存することはできません。
例) SAVE_MB -v -m -w -b -d -r -a c:\temp\gu_data.csv c:\temp
- マスタ管理サーバで adpdaexp コマンドを実行して、ユーザ任意情報を保存します。
例) adpdaexp -f c:\temp\gu_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\gu_pda
adpdaexp -f c:\temp\yu6_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\yu6_pda
- 一括登録ユーティリティでは設定できない情報を運転席などから記録します。
 - サーバの設定内容（サイト情報、MTA 情報など）
 - 掲示板情報（移行するサーバに掲示板を設定している場合）
 - 移行対象ユーザに運転席から設定した権利組織設定、ユーザ管理権限、及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など
- 移行前サーバのサーバ削除を実行します。
 - 運転席から移行するサーバに設定している全マスタ掲示板とレプリカ掲示板の削除
 - サーバの削除
例) gmaxchk -v c:\temp\del_data.csv
gmaxset -v m c:\temp\del_data.csv
- 移行前サーバで保存した c:\temp 以下のデータを、すべて移行後サーバの c:\temp にコピーします。また、gmpublicinfo ファイルや gmaxmdef.csv ファイルなどの設定ファイルも移行後サーバにコピーします。
- 移行後サーバでプログラムのインストールとセットアップ、及びサーバ追加を行い、次の項目を移行前サーバの状態に回復して、一括登録ユーティリティを実行できるように設定します。
 - サーバの設定内容（サイト情報、MTA 情報など）

- ・ 掲示板情報（移行するサーバに掲示板を設定している場合）

11. マスタ管理サーバで登録情報保存用データから組織，ユーザ情報を回復します。
 まず c:\temp\gu_data.csv ファイルのレコードの順番が適切かを確認します。次に組織，ユーザの位置関係と上長ユーザ ID，統括組織，及び共用メールボックスなどの依存関係に問題がないか見直します。問題がなければ，gmaxchk コマンドと gmaxset コマンドを実行して登録情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:\temp\gu_data.csv
      gmaxset -v m c:\temp\gu_data.csv
```

12. マスタ管理サーバで登録情報保存用データから兼任ユーザ情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:\temp\yu6_data.csv
      gmaxset -v m c:\temp\yu6_data.csv
```

13. 掲示板データが再登録されている事を確認して，マスタ管理サーバでグループ・掲示板メンバ保存用データからグループ・掲示板メンバ情報を回復します。

```
例) gmaxgchk -v c:\temp\group.csv
      gmaxgset -v c:\temp\group.csv
```

14. 移行後サーバで LOAD_MB コマンドを実行して，メールボックスを回復します。

```
例) nxsrepmat
      LOAD_MB -v -a c:\temp\gu_data.csv c:\temp\hostname
```

15. 一括登録ユティリティでは設定できない項目を運転席から回復します。

- ・ 移行対象ユーザに運転席から設定した権利組織設定，ユーザ管理権限，及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など

16. マスタ管理サーバで adpdaset コマンドを実行して，ユーザ任意情報を回復します。

```
例) adpdaset -f c:\temp\gu_pda -e adpdaset.log
      adpdaset -f c:\temp\yu6_pda -e adpdaset.log
```

17. マスタ管理サーバで，移行後サーバに adpdhead コマンドを実行して，ユーザ任意情報を配信します。

```
例) adpdhead -d hostname -e adpdhead.log
```

18. 掲示板の整合性確保を行います。

(c) マルチサーバ構成でマスタ管理サーバを移行する場合

1. マスタ管理サーバで gmaxexp コマンドを実行して，登録情報保存用データを出力します。

```
例) gmaxexp -s A -a c c:\temp\c_data.csv
      gmaxexp -s M -a gu c:\temp\gu_data.csv
      gmaxexp -s M -a y u c:\temp\yu6_data.csv
      gmaxexp -s D -a gu c:\temp\del_data.csv
```

2. マスタ管理サーバで gmaxgexp コマンドを実行して，グループ・掲示板メンバ保存用データを出力します。

5. 一括登録ユーティリティの使用例

例) `gmaxgexp -s U tb c:\temp\group.csv`

- 作成した `c:\temp\gu_data.csv` ファイルの内容をチェックして、全サーバに転送します。このファイルは `SAVE_MB` コマンドを実行するときに使用します。

例) `gmaxchk -v c:\temp\gu_data.csv`

`c:\temp\gu_data.csv` ファイルを全サーバに転送

- 全サーバで `SAVE_MB` コマンドを実行して、すべてのメールボックスを保存します。掲示板の記事の未既読情報を保存することはできません。

例) `gmaxchk -v c:\temp\gu_data.csv`

`SAVE_MB -v -m -w -b -d -r -a c:\temp\gu_data.csv c:\temp`

- マスタ管理サーバで `adpdaexp` コマンドを実行して、ユーザ任意情報を保存します。

例) `adpdaexp -f c:\temp\gu_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\gu_pda`

`adpdaexp -f c:\temp\gu6_data.csv -e adpdaexp.log -p A c:\temp\gu6_pda`

- マスタ管理サーバでユーザ任意情報の見出しを表示して、`c:\temp\pda_def.csv` ファイルに csv 形式で記録します。

例) `adpdhead -l -e adpdhead.log`

実行結果の画面表示を、`c:\temp\pda_def.csv` ファイルに csv 形式で記録します。

- 一括登録ユーティリティでは設定できない情報を、運転席などで表示して記録します。
 - 全サーバの設定内容 (サイト情報, MTA 情報, システムオプション, 役職定義など)
 - 全掲示板情報
 - 全ユーザに運転席から設定した権利組織設定, ユーザ管理権限, 及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など

- ユーザ削除を実行します。

例) `gmaxchk -v c:\temp\del_data.csv`

`gmaxset -v m c:\temp\del_data.csv`

- 全アドレスサーバのサーバ削除を実行します。

- 運転席から全サーバに設定しているマスタ掲示板とレプリカ掲示板の削除
- サーバの削除

- 移行前サーバで保存した `c:\temp` 以下のデータをすべて移行後サーバの `c:\temp` にコピーします。また、`gmpublicinfo` ファイルや `gmaxmdef.csv` ファイルなどの設定ファイルも移行後サーバにコピーします。

- 移行後サーバでプログラムのインストールとセットアップ, 及びサーバ追加を行った後、全サーバで次の項目を移行前の状態に回復して、一括登録ユーティリティを実行できるように設定します。

- 全サーバの設定内容 (サイト情報, MTA 情報, システムオプション, 役職定義など)
- 全掲示板情報

12. マスタ管理サーバで登録情報保存用データから最上位組織情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:%temp%c_data.csv
     gmaxset -v m c:%temp%c_data.csv
```

13. マスタ管理サーバで登録情報保存用データから組織、ユーザ情報を回復します。

まず c:%temp%gu_data.csv ファイルのレコードの順番が適切か確認します。
次に組織、ユーザの位置関係と上長ユーザ ID、統括組織、及び共用メールボックスなどの依存関係に問題がないか見直します。問題がなければ、gmaxchk、gmaxset コマンドを実行して登録情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:%temp%gu_data.csv
     gmaxset -v m c:%temp%gu_data.csv
```

14. マスタ管理サーバで、登録情報保存用データから兼任ユーザ情報を回復します。

```
例) gmaxchk -v c:%temp%u6_data.csv
     gmaxset -v m c:%temp%u6_data.csv
```

15. 掲示板データが再登録されているのを確認した後、マスタ管理サーバでグループ・掲示板メンバ保存用データからグループ・掲示板メンバ情報を回復します。

```
例) gmaxgchk -v c:%temp%group.csv
     gmaxgset -v c:%temp%group.csv
```

16. 全サーバで LOAD_MB コマンドを実行して、メールボックスを回復します。

```
例) nxsrepstat
     LOAD_MB -v -a c:%temp%gu_data.csv c:%temp%hostname
```

17. 一括登録ユーティリティでは設定できない項目を、運転席から回復します。

- 全ユーザに運転席から設定した権利組織設定、ユーザ管理権限、及びメール属性を持つアドレスユーザの O/R 名設定など

18. マスタ管理サーバで adpdhead コマンドを実行して、ユーザ任意情報の見出しを定義します。

```
例) adpdhead -f c:%temp%pda_def.csv -e adpdhead.log
```

19. マスタ管理サーバで adpdaset コマンドを実行して、ユーザ任意情報を回復します。

```
例) adpdaset -f c:%temp%gu_pda -e adpdaset.log
     adpdaset -f c:%temp%u6_pda -e adpdaset.log
```

20. マスタ管理サーバで、全サーバに adpdhead コマンドを実行して、ユーザ任意情報を配信します。

```
例) adpdhead -d hostname -e adpdhead.log
```


6

一括登録ユーティリティの データシート

ここでは、一括登録ユーティリティのコマンドの実行条件や実行時間の目安を説明します。

6.1 一括登録ユーティリティの実行条件

6.2 一括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安

6.3 一括登録ユーティリティのトラブルシューティング

6.1 一括登録ユーティリティの実行条件

一括登録ユーティリティのコマンドの実行条件を表 6-1 に示します。

表 6-1 一括登録ユーティリティのコマンドの実行条件

項番	コマンド名	条件	実行サーバ
1	gmaxchk コマンド	なし	マスタ管理サーバ
2	gmaxset コマンド	システム管理者でログオンする。 アドレスサーバが起動している。	マスタ管理サーバ
3	gmaxexp コマンド	システム管理者でログオンする。 Object Server が起動している。	マスタ管理サーバ
4	SAVE_MB コマンド	システム管理者でログオンする。 Object Server が起動している。	保存するユーザ，組織のメールボックスが存在するホームサーバ
5	LOAD_MB コマンド	システム管理者でログオンする。 Object Server が起動している。	ユーザ，組織のメールボックスを回復するホームサーバ
6	gmmopnmb コマンド	システム管理者でログオンする。 Object Server が起動している。	閉塞を解除するユーザ，組織のホームサーバ

注

起動されていないアドレスサーバにはレプリケーションされません。アドレスサービスを起動後，整合性確保を実行してください。

6.2 一括登録ユティリティのコマンド実行時間の目安

一括登録ユティリティのコマンドを実行するために必要な時間の目安を示します。ここで示す実行時間の目安は、使用する環境によって左右されます。そのため、作業計画では余裕を持った時間を見積もってください。

実行時間の目安を算出するに当たっては、Pentium(R) II 266MHz 相当の CPU を搭載したコンピュータを想定しています。

6.2.1 gmaxchk コマンドの実行時間

gmaxchk コマンドの実行時間の目安を表 6-2 に示します（単位：秒）。なお、実行中のレコード表示（オプション -v）は指定しない場合の値です。また、対象とする組織、ユーザはメール属性を持つアドレス組織、メール属性を持つアドレスユーザです。

表 6-2 gmaxchk コマンドの実行時間

件数	組織				ユーザ			
	追加 (A)	削除 (D)	変更 (C)	移動 (M)	追加 (A)	削除 (D)	変更 (C)	移動 (M)
10	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒	1 秒
100	2 秒	2 秒	2 秒	2 秒	2 秒	2 秒	2 秒	2 秒
1,000	4 秒	4 秒	4 秒	4 秒	5 秒	4 秒	4 秒	5 秒

6.2.2 gmaxset コマンドの実行時間

gmaxset コマンドの実行時間の目安を表 6-3 に示します（単位：秒）。この実行時間の目安の値は、下記条件の場合です。

- メールボックスが空の状態
- ユーザ任意情報が未定義の状態
- 実行中のレコード表示（オプション -v）を指定しない

ユーザ任意情報を定義している場合は gmaxset コマンドの前後でユーザ任意情報の保存と回復が行われるため、その分だけ gmaxset コマンドの実行時間が長くなります。

マルチサーバ構成の場合、gmaxset コマンドの処理が終了してもアドレスサーバへのレプリケーションが完了しているとは限りません。レプリケーション状態の確認については、「4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド」を参照してください。

6. 一括登録ユティリティのデータシート

表 6-3 gmaxset コマンドの実行時間

件数	組織				ユーザ			
	追加 (A)	削除 (D)	変更 (C)	移動 (M)	追加 (A)	削除 (D)	変更 (C)	移動 (M)
10	15 秒	30 秒	7 秒	40 秒	15 秒	25 秒	7 秒	40 秒
100	140 秒	250 秒	60 秒	395 秒	150 秒	240 秒	60 秒	390 秒
1,000	1,365 秒	2,500 秒	505 秒	3,940 秒	1,485 秒	2,390 秒	575 秒	3,865 秒

6.2.3 gmaxexp コマンドの実行時間

gmaxexp コマンドの実行時間の目安を表 6-4 に示します (単位: 秒)。最上位組織 10, 組織 100, ユーザ 1,000 を登録してある状態を想定しています。

表 6-4 gmaxexp コマンドの実行時間

出力条件	目安値 (単位: 秒)
全最上位組織	3
全組織	6
全ユーザ	50
全登録情報	55

6.2.4 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間

SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間の目安を表 6-5 に示します (単位: 秒)。性能算出時の条件は、以下の項目を想定しています。

各ユーザのメールボックスの送信メール保持数: 10

各ユーザのメールボックスの受信メール保持数: 10

各組織の共用メールボックスの送信メール保持数: 10

各組織の共用メールボックスの受信メール保持数: 10

各組織の共用メールボックスの保留メール保持数: 10

各メールの本文の大きさ: 1KB

各メールの添付ファイル数: 1

各メールの添付ファイルの大きさ: 50KB

掲示板未既読管理情報・パスワード情報の保存指定 (オプション -i): あり

各ユーザの参照掲示板数: 5

表 6-5 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間

対象ユーザ数 / 対象組織数	SAVE_MB コマンド		LOAD_MB コマンド	
	組織	ユーザ	組織	ユーザ
10	65 秒	35 秒	75 秒	45 秒
100	675 秒	355 秒	865 秒	535 秒

次に、メール保持数の増加による実行時間の変化を示します（単位：秒）。SAVE_MB コマンドの実行時間を表 6-6 に、LOAD_MB コマンドの実行時間を表 6-7 に示します。ここでは、1 組織、1 ユーザを対象としています。メール保持数以外の条件は、上記と同一です。

表 6-6 1 組織，1 ユーザ当たりの SAVE_MB コマンドの実行時間

メール保持数（単位：通）					組織	ユーザ
組織			ユーザ			
送信	受信	保留	送信	受信		
10	10	10	10	10	3 秒	2 秒
100	10	10	100	10	19 秒	19 秒
500	10	10	500	10	76 秒	65 秒

表 6-7 1 組織，1 ユーザ当たりの LOAD_MB コマンドの実行時間

メール保持数（単位：通）					組織	ユーザ
組織			ユーザ			
保留	送信	受信	送信	受信		
10	10	10	10	10	4 秒	2 秒
100	10	10	100	10	21 秒	20 秒
500	10	10	500	10	79 秒	77 秒

6.3 一括登録ユーティリティのトラブルシューティング

一括登録ユーティリティでよく質問される内容とその対応策について説明します。

6.3.1 一括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング

ユーザがクライアントからメールにログインできない

対処

ユーザ移動のため、メールボックスが閉塞されている可能性があります。「3.2.5 メールボックスの閉塞の強制解除」を参照してください。

一括登録ユーティリティを実行するとき、実行するサーバ以外のアドレスサーバのアドレスサービスは起動しておく必要があるか

対処

`gmaxset` コマンド以外のコマンドの場合、コマンドを実行するサーバ以外のアドレスサーバを起動しておく必要はありません。

`gmaxset` コマンドの場合、すべてのアドレスサーバのアドレスサービスを起動させてください。起動していないアドレスサーバがあった場合、登録情報がレプリケーションされないため、起動してから整合性確保を実行してください。

バッチプログラムや AT コマンドで一括登録ユーティリティを実行するとエラーになる

対処

実行ユーザ不正の可能性がありますが。

一括登録ユーティリティは Groupmax のシステム管理者で実行してください。

`gmaxexp` コマンドで出力したデータをユーザ登録ファイルとして使用すると、`gmaxset` コマンドでエラーになる

対処 1

表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成したため、先頭が 0 で始まるデータの先頭 0 の部分が欠落した可能性があります。

例えば、ユーザ ID に 00301 と設定していた場合、表計算ソフトで読み込むとユーザ ID は 301 になります。この場合、00301 と 301 は違う ID のため、一括登録ユーティリティを実行しても期待どおりの結果が得られません。

Microsoft(R) Excel の場合の回避策を次に示します。この方法を使えば、先頭の 0 がそのまま文字列として読み込まれます。

1. `gmaxexp` コマンドで出力したファイルの拡張子を `.txt` に変更して、テキストファイルにする。
2. Microsoft(R) Excel でそのテキストファイルを開き、テキストファイルウィザードですべての列の属性を文字列にする。

対処 2

出力したユーザに指定していた上長ユーザが削除されている可能性があります。上長ユーザとして指定されたユーザを削除しても、ユーザに指定されている上長ユーザ ID は削除されません。そのため、存在しないユーザを上長ユーザ ID として指定しているのでエラーになります。上長ユーザ ID を指定している場合、指定しているユーザが登録されているか確認してください。

実行すると「GMB056E システムエラーが発生しました。 付加情報：OpenSCManager」が表示される

対処

システム管理者に Administrator 権限がない可能性があります。システム管理者の権限を確認してください。

6.3.2 gmaxexp コマンドのトラブルシューティング

兼任ユーザ情報が出力されない

対処

gmpublicinfo ファイルに次の記述をしてください。

```
ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y
```

詳細は「4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド」を参照してください。

最上位組織 Groupmax_system の全情報を出力しないようにしたい

対処

gmpublicinfo ファイルに次の記述をしてください。

```
NOTEXP_GMAXSYS=Y
```

```
NOTEXP_SYSUSER=Y
```

詳細は「4.1 登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド」を参照してください。

6.3.3 gmaxchk コマンドのトラブルシューティング

実行すると設定項目数異常のエラーが発生する

対処

項目数が 70 項目ではありません。表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成した場合、70 番目の項目に半角スペースを 1 文字入力しないと、ファイルを保存するときに項目が削除されて保存されます。

6.3.4 SAVE_MB コマンドのトラブルシューティング

メール属性のないアドレスユーザでも SAVE_MB コマンドは実行できるか

対処

実行できます。オプション -i を指定すれば、ユーザのパスワードやパスワードの有効期間などを保存できます。

実行しても標準出力に何も表示されない。save_mb.log ファイルも save_mb.lst ファイルも作成されない

対処 1

指定したユーザ登録ファイルに移動するデータ（処理区分が "M" のレコード）がない、又は実行したアドレスサーバに移動対象のデータ（ホームサーバとするユーザ、組織）がない可能性があります。ユーザ登録ファイルの処理区分に "M" のレコードが存在する、又は実行したアドレスサーバをホームサーバとする移動レコードが存在するかを確認してください。

対処 2

組織の移動を行う場合に、コマンドオプションに -g 又は -a を指定していない可能性があります。オプション -g 又は -a を指定することで共用メールボックスを保存します。

メールサーバでない（単なるアドレスサーバ）環境でアドレスユーザの移動を行う場合でも、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行する必要があるか

対処

メールサーバでない環境でアドレスユーザを移動する場合も、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行しないとパスワードが初期化されます。これを防ぐために、SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行してください。

6.3.5 gmaxset コマンドのトラブルシューティング

実行すると更新対象とするデータがないと指摘される

対処 1

ユーザ登録ファイルの処理区分が空欄の状態では gmaxchk コマンドを実行している可能性があります。

gmaxexp コマンドを使ってユーザ登録ファイルを作成した場合、処理区分に値を設定しないで gmaxchk コマンドを実行すると、すべてのレコードの先頭に # が挿入されて、コメントとして扱われるため処理するデータがなくなります。

対処 2

ユーザ登録ファイルの実行結果欄に最初から「 」が設定されている可能性があります。

gmaxset コマンドは実行結果欄が「 」の場合、既に登録済みと判断して登録処理を行いません。ユーザ登録ファイルを作成する場合、実行結果欄に値を設定しないでください。

対処 3

gmaxchk コマンドを実行して、ユーザ登録ファイルをチェックしていない可能性があります。

gmaxset コマンドなど一括登録ユーティリティで指定できるユーザ登録ファイルは gmaxchk コマンドですべてのレコードのチェック結果欄が になったファイルだ

けです。

データを変更したのに、サーバに登録されていない

対処 1

処理区分 C では変更できない項目があります。変更しようとしている項目が、変更できる項目かを確認してください。

処理区分 C で変更できない項目の場合は、処理区分 M で変更してください。詳細は「3.2.1 処理区分 M (移動) と C (変更) の違い」を参照してください。

対処 2

処理区分 C で登録済みの項目の値を削除する場合、項目削除機能を使用しないで削除しようとしている可能性があります。処理区分 C で値を削除する場合に値を設定しないと値は変更されません。例えば、ある組織に所属するユーザを最上位組織の直下に移動する場合や、あるユーザに設定した Workflow サーバを削除する場合、所属組織 ID や Workflow サーバに空白を設定したり、値を設定しないで gmaxset コマンドを実行すると、登録されている値は変更 (削除) されません。登録されている値を削除する場合、項目削除機能を使用して設定値を削除する必要があります。項目削除機能の詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」の「(4) 登録されている最上位組織, 組織, ユーザの情報の項目削除について」を参照してください。

ある組織下のユーザを、所属する最上位組織直下に処理区分 C (変更) で変更できるか

対処

項目削除機能を使用して変更できます。所属組織 ID を空白ではなく、項目削除文字列を設定してください。詳細は「2.8.4 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項」の「(4) 登録されている最上位組織, 組織, ユーザの情報の項目削除について」を参照してください。

一括登録ユティリティで最上位組織直下にユーザは登録できるか

対処

所属組織 ID を指定しなければ最上位組織直下にユーザを登録できます。

gmaxset コマンド実行中にディスクフル, 又はシャットダウンなどの障害が発生した

対処

ユーザ登録ファイルの途中のレコードまで登録が完了していても、実行部処理結果 (M) 欄には 印が設定されません。gmaxexp コマンドや運転席を使用して、どこまで登録が完了しているかを確認してから、未登録部分だけを再実行してください。

実行すると「GMB049E ファイル (<インストール先ディレクトリ> \nxsdir\nxsmta) がオープンできません。」と表示される

対処

Mail Server をインストールしていない環境で、メール属性ありの組織やユーザ

6. 一括登録ユティリティのデータシート

を登録しようとしている可能性があります。
ユーザ登録ファイルのタイプが正しいか、Mail Server がインストールされているかを確認してください。

6.3.6 LOAD_MB コマンドのトラブルシューティング

メールボックス容量より容量の多いメールボックスの回復は正しくできるか

対処

メールの回復は正しく実行されます。ただし、自動削除デーモンが起動すれば指定容量までメールが削除されます。

実行すると「GMB005W 警告：ホームサーバ***にユーザは未登録です。」が表示される

対処

マスタ管理サーバで登録した情報が、LOAD_MB コマンドを実行しているサーバにレプリケーションされていない可能性があります。nxsrepstat コマンドでレプリケーション状態を確認してください。

LOAD_MB コマンドを実行する前に誤ってメールボックスの閉塞を解除したため、メールボックスの回復ができなくなった

対処

閉塞を解除した後に送受信したメールと SAVE_MB コマンドで保存したメールを統合することはできません。

まず、現在のメールボックスの内容をクライアントから保存してください。次にメールボックスを回復したいユーザのデータを変更しないで処理区分に M (移動) を指定して gmaxchk と gmaxset コマンドを実行します。これにより、解除後に送受信されたメールは削除されます。この後 LOAD_MB コマンドを実行すれば、SAVE_MB コマンドで保存したメールボックスの状態に回復することができます。

7

一括登録ユーティリティの メッセージ一覧

一括登録ユーティリティの各コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。

-
- 7.1 gmaxexp コマンドのメッセージ

 - 7.2 gmaxchk コマンドのメッセージ

 - 7.3 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドのメッセージ

 - 7.4 gmaxset コマンドのメッセージ

 - 7.5 nxsrepstat コマンドのメッセージ
-

7.1 gmaxexp コマンドのメッセージ

gmaxexp コマンドのメッセージについて説明します。

表示されるメッセージ形式は次の通りです。

GM B 001 E
1 2 3 4

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)

2.gmaxexp コマンドの場合 「B」

3.4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

警告メッセージの場合 「W」

GMB003E ファイル *** が作成できません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルが作成できません。

対処

ファイルに書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから、再実行してください。

GMB007E ディレクトリ *** が見つかりません。

要因

ディレクトリが見つかりませんでした。

対処

ディレクトリが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB009E システム管理者権限で実行してください。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者でログインしてから再実行してください。

GMB011E 未サポートのデータベース *** のため処理できません。

要因

未サポートのデータベースのため処理できません。

対処

このバージョンでは対処できません。

GMB012E ××××の実行ができません。

要因

××××の実行ができませんでした。

××××には、<インストールディレクトリ> ¥bin¥nxcheckDB, 又は<インストールディレクトリ> ¥bin¥gmmxoddb が入ります。

対処

ファイルの実行権限があるかどうかを確認して、実行できない場合は障害受付窓口に連絡してください。

GMB017E ホームサーバの情報取得に失敗しました。

付加情報：××××

要因

ユーザや組織に設定している Groupmax ホームサーバ情報の取得に失敗しました。

付加情報には失敗したユーザ ID, 又は組織 ID が表示されます。

対処

Groupmax ホームサーバ情報が正しく登録されているか確認してから再実行してください。付加情報に表示した ID のホームサーバ情報を確認してください。誤りがない場合、その ID の情報を運転席から更新してください。

GMB022E 環境変数 *** の値が長過ぎます。

要因

環境変数の設定値が制限長を超えています。

対処

環境変数の値を修正してから、再実行してください。

GMB023E ファイル *** が見つかりません。

要因

ファイルが見つかりませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB024E ファイル *** の形式が不正です。

要因

ファイル *** の形式が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB025E DB へのログインに失敗しました。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

付加情報：×××××

要因

データベースへのログインに失敗しました。Mail Server の環境が壊れている可能性があります。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB026E DB からのログアウトに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースからのログアウトに失敗しました。Mail Server の環境が壊れている可能性があります。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

メモリ確保に失敗しました。

対処

ほかの処理を終了してから、再実行してください。

GMB040E テーブルのオープンに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースのテーブルをオープンするのに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB041E FETCH に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

FETCH に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB048E PREPARE に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

PREPARE に失敗しました。

対処

障害受付窓口にご連絡してください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルがオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口にご連絡してください。

GMB050E ファイル *** にエラーログを出力しました。

要因

登録情報出力処理でエラー（警告エラーを含む）がありました。

対処

エラーログ内のメッセージに対応する処置を実行してください。

GMB052E *** ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

*** ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

gmsetup.ini ファイルの場合は、<インストールディレクトリ> \bin\setup ディレクトリに gmsetup.ini が存在するかを確認してください。存在しなかった場合は、障害受付窓口にご連絡してください。その他のファイルの場合は、障害受付窓口にご連絡してください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

GMB055E ディレクトリ *** の読み込みに失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

ディレクトリの読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口にご連絡してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

システムエラーが発生しました。

対処

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

障害受付窓口に連絡してください。

GMB057E DB が正常に起動されていません。

付加情報：×××××

要因

データベースが正常に起動されていません。

対処

データベースを起動してから、再実行してください。

GMB059E COMMIT に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースの COMMIT 処理に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB069E ファイル *** のレコード n の設定に誤りがあります。

要因

オプション -f で指定したフィルタファイルのレコード n に誤りがあります。n には、誤りのあるレコード番号を表示します。

対処

フィルタファイルの誤りを修正してから、再実行してください。

GMB070E XXID*** は登録されていません。

要因

指定 XXID*** は登録されていませんでした。
XX には最上位組織，組織又はユーザを表示します。

対処

必要があれば，登録済み ID を指定して再実行してください。

GMB071E ファイル *** にドメイン ID*** の情報がありません。

要因

ファイルの内容が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB072E ファイル *** への書き込みでエラーが発生しました。

付加情報：×××××

要因

ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

対処

ファイルに書き込み権限があるかを確認してから，再実行してください。

GMB073E 本サーバは、Groupmax Address マスタ管理サーバではありません。

要因

実行サーバは、マスタ管理サーバではありませんでした。

対処

実行サーバがマスタ管理サーバであるかを確認してください。gmaxexp コマンドはマスタ管理サーバでだけ実行できます。

GMB075E ファイル *** が重複しています。

要因

指定したファイルが重複しています。

対処

正しいファイルを指定してから、再実行してください。

GMB076E ファイル *** が見つかりません。

要因

指定したファイルが見つかりませんでした。

対処

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB077E ファイル *** のディレクトリが見つかりません。

要因

指定したファイルのディレクトリが見つかりませんでした。

対処

ディレクトリが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB080E Address 環境変数設定処理に失敗しました。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB085E Groupmax Address が停止しています。

要因

アドレスサービスが停止しています。

対処

アドレスサービスを起動してから、再実行してください。

GMB120E Address_Mail セットアップを行ってから起動してください。

要因

セットアップを行わずに gmaxexp コマンドを実行しました。

対処

セットアップが完了した環境で実行してください。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

GMB013I 中止要求により処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB014I n件の登録情報を出力しました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

7.2 gmaxchk コマンドのメッセージ

gmaxchk コマンドのメッセージについて説明します。

表示されるメッセージ形式は次のとおりです。

```
GM  B  001  E
 1  2   3   4
```

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)

2. gmaxchk コマンドの場合 「B」

3. 4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

警告メッセージの場合 「W」

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから、再実行してください。

GMB005E ユーザ登録ファイル *** が見つかりません。

要因

ユーザ登録ファイル *** が見つかりませんでした。

対処

ユーザ登録ファイルを確認してから、再実行してください。

GMB007E ディレクトリ *** が見つかりません。

要因

ディレクトリが見つかりませんでした。

対処

ディレクトリが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB022E 環境変数 *** の値が長過ぎます。

要因

環境変数 *** の設定値が制限長を超えています。

対処

環境変数 *** の値を修正してから、再実行してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報：×××××

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

使用していないアプリケーションの処理を終了してから、再実行してください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルがオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB078E ファイル *** の読み込みに失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイル *** の読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB079E ファイル *** の書き込みに失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイル *** の書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB080E Address 環境変数設定処理に失敗しました。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB100E ファイル *** の n レコード「項目名」の設定に誤りがあります。

要因

n レコードの「項目名」の項目に誤りがあります。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB101E ファイル *** の n レコード 「項目名」は最大値を超えています。

要因

n レコードの「項目名」の項目は、最大値を超えています。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB102E ログファイル *** のオープンに失敗しました。

要因

ログファイル *** がオープンできませんでした。

対処

ログファイル *** を削除してから再実行してください。

GMB103E ファイル *** の n レコード 入力必須項目「項目名」が設定されていません。

要因

n レコードの入力必須項目「項目名」が設定されていません。

対処

指定した処理区分で必要な入力必須項目「項目名」が設定されているか確認してください。

GMB104E *** から #### への名称変更に失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

表示されたファイル名の変更に失敗しました。

対処

ファイルに権限があるかどうか確認してください。

GMB105E ファイル名 *** の指定が長すぎます。

要因

ファイル名の長さは128バイトまでです。

対処

ファイル名を短くして、再実行してください。

GMB106E n レコード MTA 名は登録されていません。

要因

n レコードで指定した M T A 名は登録されていません。

対処

登録されている M T A 名を指定して、再実行してください。

GMB107E n レコード M T A 名又は、ホームサーバ名の設定に誤りがあります。

要因

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

n レコードで指定したホームサーバ名に対応する M T A 名ではありません。又は指定された M T A 名に対応するホームサーバ名ではありません。

対処

M T A 名, 又はホームサーバ名を修正してから, 再実行してください。

GMB108E ファイル *** は, 指定できません。

要因

ファイル名に拡張子 ".bak" を持つファイルを指定しています。

対処

ファイル名を正しく指定してから, 再実行してください。

GMB109E ファイル *** の n レコード レコード内の最大長をオーバーしました。処理を中断します。

要因

n レコードが最大長を超えています。

対処

レコードの内容が正しいか確認してください。

GMB110E ファイル *** の n レコード 設定項目数 (項目数) が異常です。処理を中断します。

要因

n レコードの設定項目数が誤っています。

対処

設定項目数が正しいかを確認してください。

GMB111E ファイル *** の n レコード 入力必須項目「項目名」が設定されていません。処理を中断します。

要因

n レコードで入力必須項目が指定されていません。

対処

必要な項目がすべて設定されているかを確認してください。

GMB112E ファイル *** の n レコード 「項目名」は最大長を超えています。処理を中断します。

要因

n レコードの「項目名」の項目は最大長を超えています。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB113E ファイル *** の n レコード 「項目名」の設定に誤りがあります。処理を中断します。

要因

n レコードの「項目名」の項目に誤りがあります。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB114E 指定されたユーザ登録ファイルは、規定のフォーマットではありません。

要因

ファイル内のフォーマットが統一されていません。

対処

ファイル内のフォーマットを統一してから再実行してください。

GMB115E ファイル *** の m レコードと n レコード 指定された情報が一意ではありません。

要因

m レコードと n レコードで指定された情報が一意ではありません。

対処

m レコードと n レコードで指定された情報が一意かどうかを確認してください。

GMB116E ファイル *** の n レコード 「メールボックス容量」に指定した定義タイプ ### はありません。

要因

n レコードで指定された定義タイプ ### は登録されていません。

対処

正しい定義タイプ名を設定するか、又は定義タイプ ### を登録してから、再実行してください。

GMB119E 環境変数 *** の設定に誤りがあります。

要因

環境変数 *** の値が誤っています。

対処

環境変数 *** の値を、英数字だけを使用した 16 文字以内の文字列にしてください。

GMB024I 一括登録チェック処理を開始します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB025I n レコードをチェック中です。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB026I 一括登録チェック処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB027I 一意性チェック処理を開始します。しばらくお待ちください。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

GMB028I 一意性チェック処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB029I エラーが発生している場合、*** ディレクトリにログ情報があります。参照してください。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB030I 処理の中止要求を受け付けました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB031I 中止要求により処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB011W 指定された項目削除文字列 (***) とファイル中の項目削除文字列 (***) が異なります。

要因

前回指定した項目削除文字列と今回指定した項目削除文字列が違います。

対処

指定した項目削除文字列が正しいかを確認してください。

GMB012W ファイル中に項目削除文字列 (***) が存在しますが、項目削除文字列の指定がありません。

要因

前回実行時に項目削除文字列指定がありましたが、今回は指定されていません。

対処

項目削除文字列を指定する必要があるかを確認してください。

7.3 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドのメッセージ

SAVE_MB コマンド、及び LOAD_MB コマンドのメッセージについて説明します。

出力されるメッセージ形式は次のとおりです。

```
GM  B  001  E
 1  2   3   4
```

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)
2. SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの場合 「B」
3. 4 のメッセージ区分での連続番号
4. エラーメッセージの場合 「E」
 情報メッセージの場合 「I」
 警告メッセージの場合 「W」

GMB002E ロックファイル *** が存在します。

要因

別の SAVE_MB/LOAD_MB コマンドが動作中です。

対処

SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの処理が終了してから、再実行してください。別の SAVE_MB/LOAD_MB コマンドが動作していないのに、このメッセージが表示されるときは次のコマンドを実行してください。

```
del ロックファイル名
```

GMB003E ファイル *** が作成できません。

付加情報： x x x x x

要因

ファイルが作成できません。

対処

ファイルの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから、再実行してください。

GMB005E ユーザ登録ファイル *** が見つかりません。

要因

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

ユーザ登録ファイル *** が見つかりませんでした。

対処

ユーザ登録ファイルを確認してから、再実行してください。

GMB006E ユーザ登録ファイル *** の内容が不正です。

要因

ユーザ登録ファイル *** の内容が不正です。

対処

ユーザ登録ファイル *** の内容を修正してから、再実行してください。

なお、gmaxchk コマンドでユーザ登録ファイルにエラーがないことを確認してから、再実行するようにしてください。

GMB007E ディレクトリ *** が見つかりません。

要因

ディレクトリ *** が見つかりませんでした。

対処

正しいディレクトリを指定してから、再実行してください。

GMB009E システム管理者権限で実行してください。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者でログインしてから再実行してください。

GMB011E 未サポートのデータベース *** のため処理できません。

要因

未サポートのデータベースのため処理できません。

対処

このバージョンでは対処できません。

GMB012E x x x x x の実行ができません。

要因

x x x x x の実行ができませんでした。

x x x x x には、<インストールディレクトリ> ¥bin¥nxcheckDB、又は<インストールディレクトリ> ¥bin¥gmmxoddb が入ります。

対処

ファイルの実行権限があるかどうかを確認して、実行できない場合は障害受付窓口
に連絡してください。

GMB013E ディレクトリ *** が作成できません。

付加情報：x x x x x

要因

ディレクトリ *** が作成できません。

対処

ディレクトリの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB015E 退避ファイル *** が見つかりません。

要因

退避ファイルが見つかりませんでした。

対処

退避ファイルがあるかを確認してから、再実行してください。ファイルが存在しない場合は、ファイルを作成してください。

GMB016E ユーザ登録ファイルをオープンできません。

付加情報： x x x x x

要因

ユーザ登録ファイルをオープンできませんでした。

対処

ユーザ登録ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB017E ホームサーバの情報取得に失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

ホームサーバの情報取得に失敗しました。

対処

ホームサーバが登録されているかを確認してから、再実行してください。

GMB019E ユーザ情報が不正です。

要因

ユーザ登録ファイル中に設定されているユーザ情報が不正です。

対処

gmaxchk コマンドを実行してエラーになる不正なユーザ情報を修正してから、再実行してください。

GMB020E ユーザは未登録です。

要因

ユーザは未登録でした。

対処

ユーザを登録してから、再実行してください。

GMB022E 環境変数 *** の値が長過ぎます。

要因

環境変数 *** の設定値が制限長を超えています。

対処

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

環境変数 *** の値を修正してから、再実行してください。

GMB023E ファイル *** が見つかりません。

要因

ファイル *** が見つかりませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB024E ファイル *** の形式が不正です。

要因

ファイル *** の形式が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB025E DB へのログインに失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

データベースへのログインに失敗しました。Mail Server の環境が壊れている可能性があります。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB026E DB からのログアウトに失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

データベースからのログアウトに失敗しました。Mail Server の環境が壊れている可能性があります。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB027E 退避ファイルのクローズでエラーが発生しました。

付加情報： x x x x x

要因

退避ファイルのクローズでエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB031E *** はテーブル *** 用の退避ファイルではありません。

要因

退避ファイルが壊れています。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

使用していないアプリケーションの処理を終了してから、再実行してください。

GMB033E 退避ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

退避ファイル *** がオープンできませんでした。

対処

エラーの要因を確認してから、再実行してください。

GMB034E 退避ファイル *** の n 行目が不正です。

付加情報： × × × × ×

要因

退避ファイル *** が壊れています。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB035E 退避ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

退避ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB038E 退避ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

退避ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB039E 退避ファイルのフラッシュでエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

退避ファイルのフラッシュでエラーが発生しました。

対処

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

障害受付窓口に連絡してください。

GMB040E テーブルのオープンに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースのテーブルのオープンに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB041E FETCH に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

FETCH に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB042E DELETE に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

DELETE に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB043E UPDATE に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

UPDATE に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB044E INSERT に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

INSERT に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB046E 退避ファイル *** の n 行目に長過ぎる文字列があります。

付加情報：×××××

要因

退避ファイル *** が壊れています。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB047E スキーマの設定に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

スキーマの設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB048E PREPARE に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

PREPARE に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイル *** がオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB050E ファイル *** にエラーログを出力しました。

要因

バックアップ、又はリストア処理でエラー（警告エラーを含む）がありました。

対処

エラーログ内のメッセージに従って、対処をしてください。

GMB052E *** ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

*** ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

gmsetup.ini ファイルの場合は、<インストールディレクトリ> \bin\setup ディレクトリに gmsetup.ini が存在するかを確認してください。存在しなかった場合は、障害受付窓口に連絡してください。その他のファイルの場合は、障害受付窓口に連絡してください。

GMB053E ***** の実行ができません。

要因

***** の実行ができませんでした。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

***** には nxcheckDB.exe 又は gmmxoddb.exe が入ります。

対処

ファイルが存在するかを確認してください。存在しなかった場合は、障害受付窓口に連絡してください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

GMB055E ディレクトリ *** の読み込みに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ディレクトリの読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報：×××××

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB057E DB が正常に起動されていません。

付加情報：×××××

要因

データベースが正常に起動されていませんでした。

対処

データベースを起動してから、再実行してください。

GMB059E COMMIT に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースの COMMIT 処理に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB060E ROLLBACK に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

データベースの ROLLBACK 処理に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB063E メールボックス *** の閉塞に失敗しました。

要因

メールボックスの閉塞に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB064E メールボックス *** の閉塞解除に失敗しました。

要因

メールボックスの閉塞解除に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB065E メールボックス閉塞の初期化処理に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

メールボックス閉塞の初期化処理に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB066E メールユーザではありません。

要因

メール属性を持たないアドレスユーザに対して保存又は回復を実行しました。

対処

メール属性を持つアドレスユーザに対して保存又は回復を実行してください。

GMB067E メールが存在するため、リストアできません。

要因

メールが存在するため回復が実行できませんでした。

対処

メールを削除してから、再実行してください。

GMB078E ファイル *** の読み込みに失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイル *** の読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

GMB079E ファイル *** の書き込みに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ファイル *** の書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB080E Address 環境変数設定処理に失敗しました。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB091E メール組織ではありません。

要因

メール属性を持たない組織に対して、保存又は回復を実行しました。

対処

メール属性を持つ組織に対して、保存又は回復を実行してください。

GMB092E 組織は未登録です。

要因

組織未登録でした。

対処

組織を登録してから、再実行してください。

GMB093E メールボックス *** のロックに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

メールボックス *** のロックに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB094E メールボックス *** のロック解除に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

メールボックス *** のロック解除に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB095E メールボックス *** のメールを削除できなかったため、リストアできません。

要因

メールボックス *** のクリアに失敗しました。

対処

メールを削除してから再実行してください。

GMB120E Address_Mail セットアップを行なってから起動してください。

要因

セットアップを行わずに SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行しました。

対処

セットアップが完了した環境で実行してください。

GMB001I 処理中止要求を受け付けました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB002I バックアップ処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB003I リストア処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB022I ユーザ *** を処理中です。 n レコード

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB023I 組織 *** を処理中です。 n レコード

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB001W 警告：指定されたホームサーバは登録されてません。

付加情報： x x x x x

要因

指定されたホームサーバは登録されていません。

対処

< OS インストール先ディレクトリ > ¥system32¥drivers¥etc¥hosts ファイル, 又は DNS サーバ, 又は hosts ファイルにドメイン名又はホスト名を登録してください。

GMB002W 警告：ファイル *** が削除できませんでした。

付加情報： x x x x x

要因

ファイルが削除できませんでした。

7. 一括登録ユーティリティのメッセージ一覧

対処

ファイルの書き込み権限があるかを確認してから、ファイルを削除してください。

GMB004W 警告：ユーザは未登録です。

付加情報：×××××

要因

ユーザは未登録です。

対処

必要があればユーザを登録してから、再実行してください。

GMB005W 警告：ホームサーバ *** にユーザは未登録です。

付加情報：×××××

要因

ホームサーバにユーザは未登録です。

対処

必要があればユーザを登録してから、再実行してください。

GMB006W 警告：ディレクトリ *** に退避ファイルがありません。

要因

回復が正常に終了しているのに再実行しました。又は、指定したディレクトリに退避ファイルがありません。

対処

必要があればディレクトリに退避ファイルを保存してから、再実行してください。

GMB007W 警告：組織は未登録です。

付加情報：×××××

要因

組織は未登録です。

対処

必要があれば組織を登録してから、再実行してください。

GMB008W 警告：ホームサーバ *** に組織は未登録です。

付加情報：×××××

要因

ホームサーバに組織は未登録です。

対処

必要があれば組織を登録してから、再実行してください。

GMB009W 警告：共用メールボックス ID が異なるため処理しません。

付加情報：×××××

要因

保存する組織の共用メールボックス ID と回復する組織の共用メールボックス ID が

異なるため、処理しませんでした。

対処

ユーザ登録ファイルの共用メールアドレス ID を保存する組織の共用メールアドレス ID にしてから、再実行してください。

7.4 gmaxset コマンドのメッセージ

gmaxset コマンドのメッセージについて説明します。

表示されるメッセージ形式は次のとおりです。

GM B 001 E
1 2 3 4

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)

2.gmaxset コマンドの場合 「B」

3.4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

警告メッセージの場合 「W」

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから、再実行してください。

GMB005E ユーザ登録ファイル (***) が見つかりません。

要因

ユーザ登録ファイル *** が見つかりませんでした。

対処

ユーザ登録ファイルを確認してから、再実行してください。

GMB007E ディレクトリ *** が見つかりません。

要因

ディレクトリが見つかりませんでした。

対処

正しいディレクトリを指定してから、再実行してください。

GMB009E システム管理者権限で実行してください。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者でログインしてから再実行してください。

GMB017E ホームサーバの情報取得に失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

ユーザや組織に設定している Groupmax ホームサーバ情報の取得に失敗しました。
付加情報には失敗したユーザ ID , 又は組織 ID が表示されます。

対処

Groupmax ホームサーバ情報が正しく登録されているか確認してから再実行してください。付加情報に表示した ID のホームサーバ情報を確認してください。誤りがない場合、その ID の情報を運転席から更新してください。

GMB022E 環境変数 *** の値が長過ぎます。

要因

環境変数の設定値が制限長を超えています。

対処

環境変数の値を修正してから、再実行してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

メモリ確保に失敗しました。

対処

ほかの処理を終了してから、再実行してください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルがオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB052E *** ファイルの読み込みに失敗しました。

要因

*** ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

gmsetup.ini ファイルの場合は、<インストールディレクトリ> \¥bin¥setup ディレクトリに gmsetup.ini が存在するかを確認してください。存在しなかった場合は、障害受付窓口に連絡してください。その他のファイルの場合は、障害受付窓口に連絡してください。

GMB053E ***** の実行ができません。

付加情報： × × × × ×

要因

***** の実行ができませんでした。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

***** には adpdaexp.exe 又は adpdaset.exe が入ります。

対処

ファイルが存在するかを確認してください。存在しなかった場合は、障害受付窓口に連絡してください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報：×××××

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB073E 本サーバは、Groupmax Address マスタ管理サーバではありません。

要因

実行サーバは、マスタ管理サーバではありませんでした。

対処

実行サーバがマスタ管理サーバであるかを確認してください。gmaxset コマンドはマスタ管理サーバでだけ実行できます。

GMB078E ファイル *** の読み込みに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ファイル *** の読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB079E ファイル *** の書き込みに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ファイル *** の書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB080E *** (I D) に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ユーザ追加，ユーザ削除，ユーザ変更，組織追加，組織削除，組織変更，最上位組織追加，最上位組織削除，最上位組織変更のどれかの処理に失敗しました。

対処

付加情報：×××××を参考にして対策してください。

GMB085E Groupmax Address が停止しています。

要因

アドレスサービスが停止しています。

対処

アドレスサービスを起動してから，再実行してください。

GMB100E ファイル***のnレコード「項目名」の設定に誤りがあります。

要因

nレコードの「項目名」の項目に誤りがあります。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB101E ファイル***のnレコード「項目名」は最大値を超えています。

要因

nレコードの「項目名」の項目は，最大値を超えています。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB102E ログファイル***のオープンに失敗しました。

要因

ログファイル***がオープンできませんでした。

対処

ログファイル***を削除してから再実行してください。

GMB103E ファイル***のnレコード 入力必須項目「項目名」が設定されていません。

要因

nレコードの入力必須項目「項目名」が設定されていません。

対処

指定した処理区分で必要な入力必須項目「項目名」が設定されているか確認してください。

GMB104E *** から### への名称変更失敗しました。

付加情報：×××××

要因

表示されたファイル名の変更に失敗しました。

対処

ファイルに権限があるかどうか確認してください。

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

GMB105E ファイル名 *** の指定が長すぎます。

要因

ファイル名の長さは128バイトまでです。

対処

ファイル名を短くして、再実行してください。

GMB106E n レコード MTA 名は登録されていません。

要因

n レコードで指定した MTA 名は登録されていません。

対処

登録されている MTA 名を指定して、再実行してください。

GMB107E n レコード MTA 名又は、ホームサーバ名の設定に誤りがあります。

要因

n レコードで指定したホームサーバ名に対応する MTA 名ではありません。又は指定された MTA 名に対応するホームサーバ名ではありません。

対処

MTA 名、又はホームサーバ名を修正してから、再実行してください。

GMB108E ファイル *** は、指定できません。

要因

ファイル名に拡張子 ".bak" を持つファイルを指定しています。

対処

ファイル名を正しく指定してから、再実行してください。

GMB109E ファイル *** の n レコード レコード内の最大長をオーバーしました。処理を中断します。

要因

n レコードが最大長を超えています。

対処

レコードの内容が正しいか確認してください。

GMB110E ファイル *** の n レコード 設定項目数(項目数)が異常です。処理を中断します。

要因

n レコードの設定項目数に誤りがあります。

対処

設定項目数が正しいかを確認してください。

GMB111E ファイル *** の n レコード 入力必須項目「項目名」が設定されていません。処理を中断します。

要因

n レコードで入力必須項目が指定されていません。

対処

必要な項目がすべて設定されているかを確認してください。

GMB112E ファイル *** の n レコード 「項目名」は最大長を超えています。処理を中断します。

要因

n レコードの「項目名」の項目は最大長を超えています。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB113E ファイル *** の n レコード 「項目名」の設定に誤りがあります。処理を中断します。

要因

n レコードの「項目名」の項目に誤りがあります。

対処

「項目名」が正しく設定されているかを確認してください。

GMB114E 指定されたユーザ登録ファイルは、規定のフォーマットではありません。

要因

ファイル内のフォーマットが統一されていません。

対処

ファイル内のフォーマットを統一してから再実行してください。

GMB115E ファイル *** の m レコードと n レコード 指定された情報が一意ではありません。

要因

m レコードと n レコードで指定された情報が一意ではありません。

対処

m レコードと n レコードで指定された情報が一意かどうかを確認してください。

GMB116E ファイル *** の n レコード 「メールボックス容量」に指定した定義タイプ ### はありません。

要因

n レコードで指定された定義タイプ ### は登録されていません。

対処

正しい定義タイプ名を設定する、又は定義タイプ ### を登録してから、再実行してください。

GMB117E ユーザ登録ファイルの中に、更新対象とするデータがありません。

要因

ユーザ登録ファイルの中には、このサーバで更新対象となるデータが存在しません。

対処

ユーザ登録ファイルの内容を確認してください。

GMB118E 更新異常がありますので実行結果を確認してください。

7. 一括登録ユーティリティのメッセージ一覧

要因

入力項目の不整合などのため更新処理が正常に行えません。

対処

ユーザ登録ファイルの実行結果、及び要因を確認して、項目を修正してください。

GMB120E Address_Mail セットアップを行ってから起動してください。

要因

セットアップを行わずに gmaxset コマンドを実行しました。

対処

セットアップが完了した環境で実行してください。

GMB121E ユーザ任意属性出力コマンド (adpdaexp) が異常終了しました。(戻り値 =n)

要因

adpdaexp コマンドが異常終了しました。

対処

adpdaexp コマンドが正常に実行できる状態か確認してください。adpdaexp コマンドのエラー要因を取り除いてから gmaxset コマンドを再度実行してください。

GMB122E ユーザ任意属性設定コマンド (adpdaset) が異常終了しました。(戻り値 =n)

要因

adpdaset コマンドが異常終了しました。

対処

adpdaset コマンドが正常に実行できる状態か確認してください。adpdaset コマンドのエラー要因を取り除いてから gmaxset コマンドを再度実行してください。ユーザ登録ファイルの実行結果欄が でも gmaxset コマンドが正常終了するまで再実行してください。

GMB029I エラーが発生している場合、*** ディレクトリにログ情報があります。参照してください。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB032I ユーザ追加 ユーザ ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB033I ユーザ削除 ユーザ ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB034I ユーザ変更 ユーザ ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB035I (最上位)組織追加 (最上位)組織 ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB036I (最上位)組織削除 (最上位)組織 ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB037I (最上位)組織変更 (最上位)組織 ID

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB038I Address 更新処理を開始します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB039I Address 更新処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB040I 処理の中止を受け付けました。終了処理を行います。

要因

キーボードで [Ctrl]+[C] が押されました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

7.5 nxsrepstat コマンドのメッセージ

nxsrepstat コマンド実行時のメッセージについて説明します。

指定したホスト名が長すぎます

要因

コマンド引数に指定したドメイン名又はホスト名が256文字以上です。

対処

正しいドメイン名又はホスト名を指定して再実行してください。

指定したホスト名は存在しません (XXXX)

要因

XXXX のドメイン名又はホスト名を持つアドレスサーバはアドレス管理ドメイン内に存在しません。

対処

正しいドメイン名又はホスト名を指定して再実行してください。

引数に指定したホスト名のチェックでエラーが発生しました (XXXX)

要因

マスタ管理サーバのアドレスサービスは開始されていますが、XXXX のドメイン名又はホスト名を持つアドレスサーバのアドレスサービスが開始されていません。

対処

XXXX のドメイン名又はホスト名を持つアドレスサーバのアドレスサービスを起動してから、再実行してください。

中継サーバのチェックでエラーが発生しました (XXXX)

要因

マスタ管理サーバのアドレスサービスは開始されていますが、XXXX のドメイン名又はホスト名を持つレプリケーション中継サーバのアドレスサービスが開始されていません。

対処

XXXX のドメイン名又はホスト名を持つアドレスサーバのアドレスサービスを起動してから、再実行してください。

通信開始時にエラーが発生しました

要因

マスタ管理サーバのアドレスサービスが開始されていません。

対処

マスタ管理サーバのアドレスサービスを起動してから、再実行してください。

システムで異常が発生しました (詳細コード)

要因

システムで異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

コマンド引数のサーバ名が無効です (XXXX)

要因

XXXX と指定したドメイン名又はホスト名が不正です。

対処

正しいドメイン名又はホスト名を指定して再実行してください。

アドレスサーバまたは所属中継サーバへの要求送信に失敗しました (XXXX)

要因

マスタ管理サーバとアドレスサーバ又はレプリケーション中継サーバ (XXXX) との間で通信エラーが発生しました。

対処

アドレスサーバ又はレプリケーション中継サーバのアドレスサービスが起動しているか確認してください。

アドレスサーバまたは所属中継サーバからの結果受信に失敗しました (XXXX)

要因

マスタ管理サーバとアドレスサーバ又はレプリケーション中継サーバ (XXXX) との間で通信エラーが発生しました。

対処

アドレスサーバ又はレプリケーション中継サーバのアドレスサービスが起動しているか確認してください。

トランザクションレコードなし (XXXX)

要因

XXXX をドメイン名又はホスト名に持つアドレスサーバへのレプリケーションは完了しています。

対処

正常なので対処は不要です。

トランザクションレコード処理中 (XXXX)

要因

XXXX をドメイン名又はホスト名に持つアドレスサーバへのレプリケーションは続行中です。-c オプションを指定している場合だけ出力します。

対処

しばらく経ってから再実行して確認してください。

トランザクションレコードあり (XXXX)

要因

XXXX をドメイン名又はホスト名に持つアドレスサーバへのレプリケーションは中

7. 一括登録ユティリティのメッセージ一覧

断しています。

対処

整合性確保を行うことにより、レプリケーションを開始します。

指定したホストのアドレスサーバが起動されていません (XXXX)

要因

XXXX をドメイン名又はホスト名に持つアドレスサーバのアドレスサービスが停止しています。

対処

アドレスサービスを起動してから再実行してください。

指定したホストの所属中継サーバのアドレスサーバが起動されていません (XXXX)

要因

XXXX をドメイン名又はホスト名に持つレプリケーション中継サーバのアドレスサービスが停止しています。

対処

レプリケーション中継サーバのアドレスサービスを起動してから再実行してください。

8

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの概要

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの機能やコマンドの構成などを説明します。

8.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの機能

8.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティ（コマンド）の構成

8.3 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの作業の流れ

8.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの機能

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティは、次に示す作業を Address Server (Mail Server) に一括して実行する機能です (逆に登録されているグループや掲示板のメンバの情報を一括して出力することもできます)。

グループの追加・削除

グループへのメンバ (組織, ユーザ) の追加・削除・更新

掲示板へのメンバ (最上位組織, 組織, ユーザ, グループ) の追加・削除・更新

掲示板のメンバのアクセス権の変更

8.1.1 グループの追加・削除

グループとは、組織の階層構造とは無関係にユーザ、組織をひとまとめにして、名前を付けたものです。グループの追加・削除は、新規にグループを追加したり、登録済みのグループを削除する機能です。

グループの追加

Address Server にグループを新規に追加します。グループを追加するときには、グループを構成するメンバとなるユーザ、組織を指定できます。なお、グループのメンバに、最上位組織やグループを指定することはできません。

グループの削除

Address Server に登録されているグループを削除します。なお、グループに登録されているメンバも自動的に削除されます。

8.1.2 グループへのメンバの追加・削除・更新

既に登録されているグループに対してメンバの追加・削除・更新をする機能です。

グループのメンバの追加

Address Server に登録されているグループにメンバとなるユーザ、組織を追加します。

グループのメンバの削除

Address Server に登録されているグループからメンバを削除します。

グループのメンバの更新

Address Server に登録されているグループのメンバを更新します。

更新とは、既存のメンバ構成を、新しいメンバ構成と置換する操作です。例えば、あるグループの既存のメンバ構成がユーザ A, ユーザ B, ユーザ C であったのを、新しいメンバ構成であるユーザ B, ユーザ C, ユーザ D に変更する必要が発生した

とします。既存のメンバ構成からユーザ A を削除，ユーザ D を追加して新しいメンバ構成にした場合，削除と追加で 2 回の処理が必要です。こんなときに，既存のメンバ構成と新しいメンバ構成を置換する更新を実行します。更新ならば 1 回の処理でメンバ構成を変更できます。

8.1.3 掲示板へのメンバの追加・削除・更新

掲示板に対して，グループの場合と同様にメンバの追加・削除・更新をする機能です。ただし，グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティでは，掲示板を作成することはできません。あらかじめ，運転席から掲示板を作成しておく必要があります。

掲示板のメンバの追加

Mail Server に登録されている掲示板にメンバとなる最上位組織，組織，ユーザ，グループを追加します。また，追加するメンバには掲示板のアクセス権を設定します。

掲示板のメンバの削除

Mail Server に登録されている掲示板からメンバを削除します。

掲示板のメンバの更新

Mail Server に登録されている掲示板のメンバを更新します。更新の機能は，グループの場合と同じです。

！ 注意事項

掲示板のメンバとなるユーザは，メール属性を持つアドレスユーザだけです。

8.1.4 掲示板のメンバのアクセス権の変更

掲示板のメンバには，次の 4 種類のアクセス権のうちのどれかが設定されています。

N

掲示板の記事の読み取りも書込みもできない権限です。

R

掲示板の記事の読み取りだけができる権限です

W

掲示板の記事の読み取りと書き込みができる権限です。自分が作成した記事を削除することができます。

D

掲示板の記事の読み取りと書き込みだけでなく，記事の削除ができる権限です。

「掲示板のメンバのアクセス権の変更」は，メンバごとに設定されている，これらのアクセス権を変更する機能です。

8.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ（コマンド）の構成

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティは次の三つのユーティリティ（コマンド）から構成されます。

`gmaxgchk` コマンド（グループ・掲示板メンバー括登録チェックユーティリティ）
ユーザが作成した Address Server（Mail Server）に登録する情報が格納されているグループ定義ファイルとグループデータファイルに誤りがないかをチェックします。

`gmaxgset` コマンド（グループ・掲示板メンバー括登録実行ユーティリティ）
グループ定義ファイルとグループデータファイルの情報を Address Server（Mail Server）に登録します。

`gmaxgexp` コマンド（グループ・掲示板メンバー登録情報出力ユーティリティ）
Address Server（Mail Server）に登録済みのグループや掲示板のメンバー情報を出力します。出力する形式はグループ定義ファイルやグループデータファイルと同じです。

8.3 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの作業の流れ

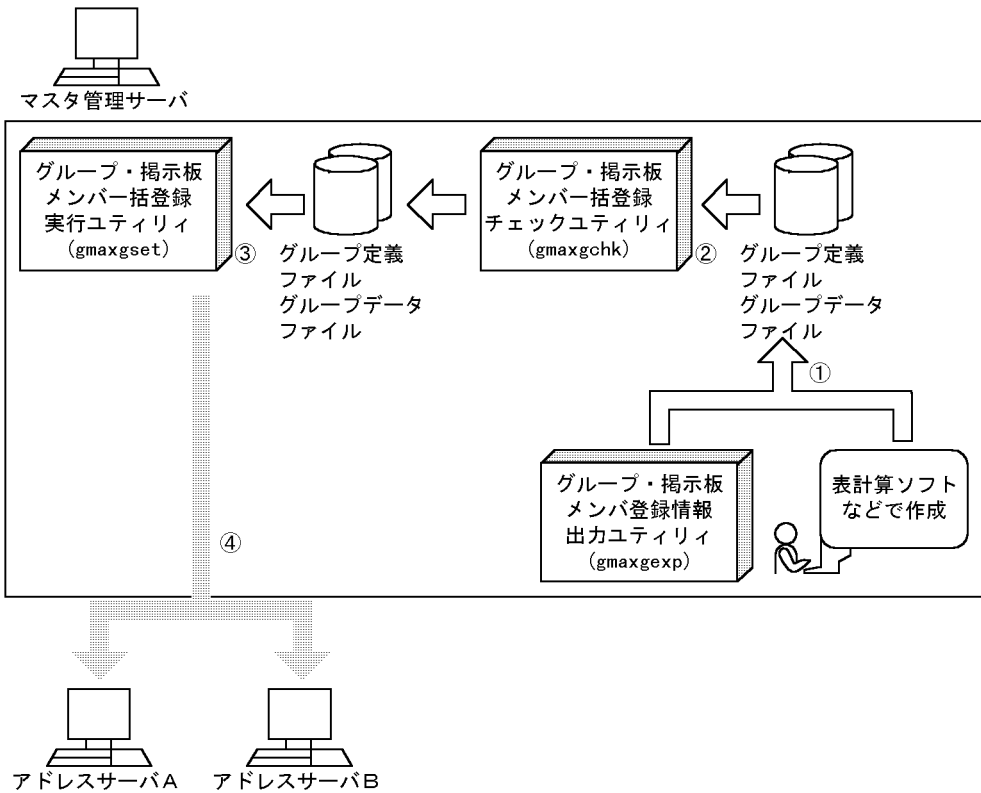
グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティでは次の作業を行います。

1. グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成
Address Server (Mail Server) に登録するグループや掲示板のメンバ情報を設定したグループ定義ファイルやグループデータファイルを作成します。作成には `gmaxgexp` コマンド (グループ・掲示板メンバ登録情報出力ユティリティ) の出力ファイルや表計算ソフトなどを使います。
2. `gmaxgchk` コマンド (グループ・掲示板メンバー括登録チェックユティリティ) の実行
作成したグループ定義ファイルやグループデータファイルに誤りがないかを `gmaxgchk` コマンドを実行してチェックします。
3. `gmaxgset` コマンド (グループ・掲示板メンバー括登録実行ユティリティ) の実行
チェックが完了したグループ定義ファイルとグループデータファイルの情報をマスター管理サーバに登録します。登録した情報はアドレスサーバ (メールサーバ) にレプリケーションされます。

図 8-1 にグループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使用した一連の作業の流れを示します。

8. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの概要

図 8-1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの作業の流れ



- ①グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成
- ②グループ・掲示板メンバー括登録チェックユーティリティの実行
- ③グループ・掲示板メンバー括登録実行ユーティリティの実行
- ④マスタ管理サーバの登録情報のアドレスサーバへのレプリケーション

9

グループ・掲示板メンバー 括登録ユーティリティのユー ザ作成ファイル

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行に必要な、グループ定義ファイルとグループデータファイルについて説明します。

-
- 9.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行に必要なファイル
 - 9.2 グループ定義ファイルの項目
 - 9.3 グループデータファイルの項目
 - 9.4 グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成方法
-

9.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行に必要なファイル

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを使って、グループや掲示板に対するメンバの追加・削除などを登録するには次の二つのファイルをユーザが作成する必要があります。

グループ定義ファイル

グループデータファイル

9.1.1 グループ定義ファイル

グループ定義ファイルとは、次に示すような内容を指定した CSV (Comma Separated Value) ファイルです。

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行する処理種別 (グループ, グループのメンバ, 掲示板のメンバ, 掲示板のメンバのアクセス権)

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行する処理区分 (追加, 削除, 更新, 変更)

処理種別・処理区分の対象となるメンバを指定したグループデータファイルの名称

9.1.2 グループデータファイル

グループデータファイルとは、グループ定義ファイルで定義した処理種別と処理区分の対象となるメンバを最上位組織, 組織, ユーザ, グループの ID で指定した CSV ファイルです。ただし、それぞれの ID を一つのファイルの中に混在させて指定できないため、グループデータファイルは ID の種類ごとに次の四つに分かれています。

最上位組織用データファイル

処理の対象となるメンバが最上位組織の場合に、その最上位組織 ID を指定したファイルです。

組織用データファイル

処理の対象となるメンバが組織の場合に、その組織 ID を指定したファイルです。

ユーザ用データファイル

処理の対象となるメンバがユーザの場合に、そのユーザ ID を指定したファイルです。

グループ用データファイル

処理の対象となるメンバがグループの場合に、そのグループ ID を指定したファイルです。

なお、グループデータファイルの名称は、グループ定義ファイルに指定した名称と同じ

にする必要があります。

9.2 グループ定義ファイルの項目

グループ定義ファイルに設定する項目について説明します。

9.2.1 グループ定義ファイルの項目とその内容

グループ定義ファイルの 1 レコード（行）には 13 項目分の領域を確保する必要があります。グループ定義ファイルの 13 項目の名称と項目に設定する内容を次に示します。なお、項目の説明の先頭にある数字は項番を意味します。

13 項目のうちグループ定義ファイルの作成時に設定が必要な項目は、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティで実行する処理（グループの追加・削除、グループ又は掲示板のメンバの追加・削除・更新、掲示板のアクセス権の変更）によって異なります。

注意

- 文字列の先頭や最後に全角スペース又は半角スペースを設定しても、Address Server への登録では無視されます。
- 全角文字が設定できる項目で、全角スペースを設定しても Address Server への登録では半角スペース 2 個として登録されます。
- 英小文字と英大文字は区別されます。設定する値は英小文字と英大文字の違いまで正しく指定してください。ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、英小文字か英大文字だけが異なるグループ ID、掲示板 ID を指定することはできません。
- グループ用データファイル名欄を除いて、値を設定しない項目や設定する必要がない項目には、半角スペースを含めて何も設定しないでください。

1 処理種別

"#" (コメント), "T" (グループ), "M" (グループのメンバ), "L" (掲示板のメンバ), "A" (掲示板のメンバのアクセス権) を指定します。

2 処理区分

"A" (追加), "D" (削除), "U" (更新), "C" (変更) を指定します。省略した場合、コメントのレコード（行）として扱います。"C" (変更) は、処理種別が "A" (掲示板のメンバのアクセス権) の場合にだけ指定できます。

3 チェック結果

gmaxgchk コマンドがチェック結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。

4 チェック部エラー要因

gmaxgchk コマンドがチェックした結果、設定項目に誤りがある場合にエラー要因を出力します。設定は不要ですが、項目欄は必ず確保してください。

5 実行結果

gmaxgset コマンドが実行結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。

6 実行部エラー要因

gmaxgset コマンドを実行した結果、エラーが発生した場合のエラー要因を出力します。設定は不要ですが、項目欄は必ず確保してください。

7 グループ ID

処理対象のグループのグループ ID を指定します。数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、8 バイトまでの文字列で指定してください。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, , (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ?, %, - (マイナス), &

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

", \$, &, *, , (コンマ), : , ; , < , > , ? , ¥ , ^ , |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字かだけが異なるグループ ID (例 :a1234 と A1234) を指定することはできません。

8 グループ名

登録するグループのグループ名を指定します。全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイトまでの文字列で指定します。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, , (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, 半角スペース, ?, /, % (句点), 「, 」 (読点), ・ (中点), ° (濁点), ° (半濁点), - (マイナス), &

9 掲示板 ID

処理対象の掲示板の掲示板 ID を指定します。数字、英小文字、英大文字、及び次の半角記号を使用して、5 バイトまでの文字列で指定してください (先頭文字には英小文字又は英大文字だけが指定できます)。

:, |, =, <, >, \$, !, ~ (チルダ), ", . (ピリオド), #, @, (,), +, , (コンマ), _ , ^ (ハット), ` (バッククォート), {, }, [,], *, ;, ¥, ?, %, - (マイナス), &

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は次の半角記号は使用できません。

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのユーザ作成ファイル

" , \$, & , * , , (コンマ) , : , ; , < , > , ? , ¥ , ^ , |

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字だけが異なる掲示板 ID (例 :a1234 と A1234) を指定することはできません。

10 ユーザ用データファイル名

ユーザ用データファイルのファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定します。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド実行時のカレントディレクトリからの相対パスを指定できます。

11 組織用データファイル名

組織用データファイルのファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定します。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド実行時のカレントディレクトリからの相対パスを指定できます。

12 最上位組織用データファイル名

最上位組織用データファイルのファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定します。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド実行時のカレントディレクトリからの相対パスを指定できます。

13 グループ用データファイル名

グループ用データファイルのファイル名を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定します。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド実行時のカレントディレクトリからの相対パスを指定できます。

表計算ソフトでグループ定義ファイルを作成した場合に、グループ用のデータファイル名を指定しないときは、半角スペースを指定してください。

9.2.2 処理別のグループ定義ファイルの設定項目

グループ定義ファイルに設定が必要な項目は、表 9-1 に示すようにグループ・掲示板メンバー括登録ユティリティで実行する処理（グループの追加・削除、グループ又は掲示板のメンバの追加・削除・更新、掲示板のアクセス権の変更）によって異なります。

グループ定義ファイルを作成するときには、実行する処理に合わせて表 9-1 を参照して、必要な項目を設定するようにしてください。

表 9-1 処理別のグループ定義ファイルの設定項目一覧

項番	設定項目	グループの追加	グループの削除	グループのメンバーの追加	グループのメンバーの削除	グループのメンバーの更新	掲示板のメンバーの追加	掲示板のメンバーの削除	掲示板のメンバーの更新	掲示板のアクセス権の変更
1	処理種別	T	T	M	M	M	L	L	L	A
2	処理区分	A	D	A	D	U	A	D	U	C
3	チェック結果	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4	チェック部エラー要因	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	実行結果	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6	実行部エラー要因	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	グループID						-	-	-	-
8	グループ名		-	-	-	-	-	-	-	-
9	掲示板ID	-	-	-	-	-				
10	ユーザ用データファイル名		-							
11	組織用データファイル名		-							

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのユーザ作成ファイル

項番	設定項目	グループの追加	グループの削除	グループのメンバの追加	グループのメンバの削除	グループのメンバの更新	掲示板のメンバの追加	掲示板のメンバの削除	掲示板のメンバの更新	掲示板のアクセス権の変更
12	最上位組織用データファイル名	-	-	-	-	-				
13	グループ用データファイル名	-	-	-	-	-				

(凡例)

- : 必ず設定しなければならないことを示します。
- : 任意で設定することを示します。
- ×: 値を設定してはいけないことを示します。
- : の付いている項目の一つ以上を設定することを示します。
- : 設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。
- 上記以外: 表中の値を設定することを示します。

注

不要なグループデータファイル名は設定する必要はありません。例えば、グループのメンバの追加で、メンバとしてユーザだけを追加する場合、ユーザ用データファイル名にだけ、グループデータファイルの名称を設定します(組織用、最上位組織用、グループ用データファイル名は空欄にしてください)。
 項番 10 ~ 13 にグループデータファイル名を設定した場合は、設定した名称でグループデータファイルを作成する必要があります。設定した名称のグループデータファイルがないと、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティでエラーが発生します。

9.3 グループデータファイルの項目

グループデータファイルの1レコード(行)には6項目分の領域を確保する必要があります。表9-2にグループデータファイルの6項目の名称とそこに設定する内容を示します。

グループデータファイルは、ユーザ用データファイル、組織用データファイル、最上位組織用データファイル、及びグループ用データファイルの4種類があります。この4種類の違いは、次に示すようにファイルの5番目の項目に設定するIDの種類だけです。

- 最上位組織用データファイルの場合は、最上位組織IDを設定します。
- 組織用データファイルの場合は、組織IDを設定します。
- グループ用データファイルの場合は、グループIDを設定します。
- ユーザ用データファイルの場合は、ユーザIDを設定します。

グループデータファイルには、グループ定義ファイルに指定した処理種別と処理区分の対象であるメンバのID(ユーザID、組織ID、最上位組織ID、グループID)を指定します。

！ 注意事項

グループ定義ファイルに定義した処理種別が「掲示板のメンバ(L)」又は「掲示板のメンバのアクセス権(A)」の場合は、ファイルの6番目の項目に掲示板のアクセス権も設定しません。

表9-2 グループデータファイルの設定項目とその内容

項番	設定項目	内容
1	チェック結果	gmaxgchk コマンドがチェック結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。
2	チェック部エラー要因	gmaxgchk コマンドがチェックした結果、設定項目に誤りがある場合にエラー要因を出力します。設定は不要ですが、項目欄は必ず確保してください。
3	実行結果	gmaxgset コマンドが実行結果を出力します。値は設定できませんが、項目欄は必ず確保してください。
4	実行部エラー要因	gmaxgset コマンドを実行した結果、エラーが発生した場合のエラー要因を出力します。設定は不要ですが、項目欄は必ず確保してください。

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのユーザ作成ファイル

項番	設定項目	内容
5	ID	<p>グループ定義ファイルで指定した処理（グループの追加，グループのメンバの追加・削除・更新など）の対象となるメンバの ID を指定します。指定する ID は，グループデータファイルの種類によって異なります。ユーザ用データファイルの場合はユーザ ID，組織用データファイルの場合は組織 ID，最上位組織用データファイルの場合は最上位組織 ID，グループ用データファイルの場合は，グループ ID を指定してください。</p>
6	アクセス権	<p>グループ定義ファイルの処理区分が「掲示板のメンバ（L）」又は「掲示板のメンバのアクセス権（A）」の場合は，掲示板のメンバのアクセス権を半角英大文字の "R"(読み)，"W"(書き)，"D"(削除)，"N"(権限無し)で指定します。表計算ソフトでグループデータファイルを作成した場合で，アクセス権を指定しないときは，半角スペースを指定してください。</p>

9.4 グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成方法

グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成方法を次の二つの手順に分けて説明します。

グループ定義ファイルとグループデータファイルの基になるデータを用意する
表計算ソフトやテキストエディタで作成する

9.4.1 グループ定義ファイルとグループデータファイルの基になるデータを用意する

Address Server に登録済みの情報を出力して、ユーザのグループ定義ファイルやグループデータファイルに利用する方法について説明します。グループや掲示板が登録されていない場合には、運転席からテストとしてグループや掲示板を登録して、その情報を出力することを試してください。

gmaxgexp コマンドを使うと、Address Server に登録済みのグループや掲示板のメンバーの情報が、グループ定義ファイルやグループデータファイルと同じ形式でファイルに出力できます。グループのメンバーと掲示板のメンバーの両方を出力する場合は、マスタ管理サーバのコマンドプロンプトで次のように実行します。

```
<インストール先ディレクトリ>%bin%gmaxgexp tb <出力先ファイル名>
```

オプションなどの指定を変更すれば、特定のグループや掲示板のメンバーだけを出力したり、グループのメンバーは出力しないで掲示板のメンバーだけを出力したりできます。gmaxgexp コマンドの詳細は、「11.1 登録済みグループ・掲示板メンバー情報の出力 gmaxgexp コマンド」を参照してください。

出力したファイルを表計算ソフトやテキストエディタで編集して、グループ定義ファイルとグループデータファイルを作成します。

9.4.2 表計算ソフトやテキストエディタで作成する

Microsoft(R) Excel などの表計算ソフトやメモ帳などのテキストエディタを使ってグループ定義ファイルとグループデータファイルを作成する方法を説明します。

表計算ソフトとテキストエディタのどちらを使ってもグループ定義ファイルとグループデータファイルは作成できます。しかし、表計算ソフトを使った方がデータが見やすいため作成が容易です。

(1) 表計算ソフトで作成する

表計算ソフトで作成する場合、各レコード(行)のセルに項目の値を設定します。値を

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのユーザ作成ファイル

設定する必要がないセルには、データを入力しないでください。

注意

- グループ定義ファイルは、1行に13項目分の領域を確保する必要があります。このため、13番目のセルにデータを設定しない場合は、半角スペースを1文字設定する必要があります。
- グループデータファイルは、1行に6項目分の領域を確保する必要があります。このため、表計算ソフトで作成する場合は、1レコード（行）目はコメントレコードにする（1番目のセルに#を設定する）必要があります。また、6番目のセルにデータを設定しない場合は、半角スペースを1文字設定する必要があります。

表計算ソフトで作成したグループ定義ファイルとグループデータファイルを保存する場合、保存形式に「CSV形式（コンマ区切り形式）」を選択して保存します。

表計算ソフトで作成したグループ定義ファイルとグループデータファイルの例を次に示します。「課長グループ」という名称でグループを追加する場合の例です。グループのメンバーとして、ユーザ用グループデータファイル（c:\temp\userdata.csv）でユーザを3人追加しています。なお、領域を確保するためにグループ定義ファイルの13番目、グループデータファイルの6番目のセルに、半角スペースを設定します。また、グループデータファイルの1レコード（行）目をコメントにしています。

グループ定義ファイルの例

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
T	A					katyou	課長グループ		c:\temp\userdata.csv			

グループデータファイル（c:\temp\userdata.csv）の例

1	2	3	4	5	6
#					
				A0111	
				A0211	
				A0221	

（2）テキストエディタで作成する

メモ帳などのテキストエディタで作成する場合、各レコード（行）に各項目の値を、（コンマ）で区切って設定します。値を設定する必要がない場合は、コンマだけを設定します。

項目の値にコンマが含まれる場合は、項目の値全体を"（ダブルクォーテーション）で囲んで設定してください。

例

項目の値 : 12,345
 設定する値 : "12,345"

項目の値にダブルクォーテーションが含まれる場合は、ダブルクォーテーション 1 文字につきダブルクォーテーション 2 文字を設定した上で、項目の値全体をダブルクォーテーションで囲んで設定してください。

例

項目の値 : AB"c"D
 設定する値 : "AB""c""D"

! 注意事項

グループ定義ファイルの 1 行には、13 項目分の領域を確保する必要があります。このため、テキストエディタで作成する場合は、1 行に 12 個のコンマが必要です。また、グループデータファイルの 1 行には、6 項目分の領域を確保する必要があります。このため、テキストエディタで作成する場合は、1 行に 5 個のコンマが必要です。

テキストエディタで作成したグループ定義ファイルとグループデータファイルの例を次に示します。表計算ソフトの例と同じ状況でのグループ定義ファイルとグループデータファイルです。

グループ定義ファイルの例

```
T,A,,,,katyou,課長グループ,,c:¥temp¥udata.csv,,,
```

グループデータファイル (c:¥temp¥udata.csv) の例

```
,,,,A0111,  

,,,,A0211,  

,,,,A0221,
```

9.4.3 グループ定義ファイルとグループデータファイル作成時の注意事項

グループ定義ファイルとグループデータファイルを作成するときに注意が必要な事項について説明します。

(1) コメントについて

グループ定義ファイルでは、次の二つのレコード (行) がコメントとして扱われます。

- 処理種別 (1 番目の項目) が # で始まっているレコード (行)
- 処理区分に何も設定されていないレコード (行)

グループデータファイルでは、チェック結果 (1 番目の項目) が # で始まっているレ

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのユーザ作成ファイル

コード（行）をコメントとして扱います。

コメントのレコード（行）はグループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンドでは無視されます。

（2）グループ定義ファイルとグループデータファイルの関係

グループ定義ファイルの 10 ~ 13 番目の項目にグループデータファイルの名称を指定した場合には、指定した名称でグループデータファイルを必ず作成してください。なお、作成したグループデータファイルには、グループデータファイルの種類に従った正しい ID を設定してください（例えば、ユーザ用データファイルには必ずユーザ ID を設定してください）。ID を設定しなかった場合には、gmaxgechk コマンド実行時にエラーになります。

グループ定義ファイルに同一のグループデータファイルを複数指定することはできません。また、グループ定義ファイルとグループデータファイルのファイル名（ピリオド以下の拡張子を除いた部分も含む）が同一のファイルを指定することもできません。末尾（拡張子）が .bak のファイルを指定することもできません。

（3）兼任ユーザについて

運転席からの操作では、グループや掲示板のメンバに兼任ユーザを登録することができます。登録した兼任ユーザは、gmaxgexp コマンドの実行でファイルに出力することもできます。

しかし、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティでは、兼任ユーザを扱うことができません。gmaxgexp コマンドで出力した兼任ユーザが含まれるファイルをグループデータファイルに利用した場合はエラーが発生します。

兼任ユーザをグループや掲示板のメンバとして登録している環境では、gmaxgexp コマンドによる出力ファイルに兼任ユーザ ID が含まれていないかを確認してください。

（4）処理区分 U（更新）でのメンバの削除

処理区分 U（更新）でグループや掲示板のメンバを削除する場合、グループ定義ファイルにグループデータファイルを指定しないと、変更なしとして処理されます。メンバを削除するには、コメントだけ又は空のグループデータファイルを指定してください。

例えば、グループ ID が「group1」であるグループに、メンバとしてユーザ A、B と組織 M、N が登録されていたとします。処理区分 U で、ユーザをすべて削除する（組織はそのまま残します）場合は、次のような削除用のグループデータファイルを準備します（又は、空のグループデータファイルを準備します）。削除用のグループデータファイルの名称は仮に c:\temp\delete.csv とします。

削除用グループデータファイル（c:\temp\delete.csv）

9. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのユーザ作成ファイル

1	2	3	4	5	6
#					

グループ定義ファイルには、削除用グループデータファイルの名称を設定します。次のように作成してください（13番目のセルには半角スペースを設定します）。グループ定義ファイルを作成したらグループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行してください。

グループ定義ファイル

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
M	U					group1			c:\temp\delete.csv			

10 グループ・掲示板メンバー 括登録ユティリティの実行 手順

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使用して、グループの情報や掲示板のメンバーの情報を登録する手順について説明します。グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使用するときは、この手順どおりに実行してください。

10.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの作業手順

10.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティ実行時の注意点

10.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの作業手順

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを使用して、グループの追加・削除、グループや掲示板のメンバーの追加・削除・更新、及び掲示板のメンバーのアクセス権の変更を登録する手順を次に示します。太い枠で囲まれた項目は実行が必要な項目です。それ以外は実行するのが望ましい項目です。



凡例

: 必須 : 任意

10.1.1 グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでグループの情報や掲示板のメンバーの情報を登録するには、登録する情報を記述したグループ定義ファイルとグループデータファイルを作成する必要があります。

グループ定義ファイルとグループデータファイルの内容と設定項目の詳細は、「9. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのユーザ作成ファイル」を参照してください。

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティは、ここで作成したグループ定義ファイルとグループデータファイルを基にして Address Server にグループの情報や掲示板のメンバーの情報を登録します。

10.1.2 環境のバックアップ

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティではグループや掲示板のメンバの情報を追加・変更・削除するため、誤った使い方をした場合やトラブルが発生した場合は、データが消えてしまうことがあります。このような場合に備えて、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを実行する前に Groupmax の環境をバックアップすることを推奨します。

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティ実行中にトラブルが発生しても、バックアップのデータがあればグループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを実行する前の状態に戻すことができます。

バックアップの詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(Windows 用)を参照してください。

10.1.3 gmaxgchk コマンドの実行

グループ・掲示板メンバー括登録チェックユティリティ (gmaxgchk コマンド) は、ユーザが作成したグループ定義ファイルとグループデータファイルに誤りがないかをチェックします。gmaxgchk コマンドの詳細は、「11.2 グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック gmaxgchk コマンド」を参照してください。

チェックした結果、誤りを発見した場合は、グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック結果欄が「 」以外になります。チェック結果欄が「 」以外になったときは、チェック部エラー要因欄を参照して誤りを修正してください。

誤りを修正したら、gmaxgchk コマンドを再実行してグループ定義ファイルとグループデータファイルを再チェックします。チェック結果欄がすべて「 」になるまで修正とチェックを繰り返してください。

チェック結果欄がすべて「 」になった場合、それ以降グループ定義ファイルとグループデータファイルを修正しないでください。もし修正したときには、gmaxgchk コマンドを再実行する必要があります。

10.1.4 gmaxgset コマンドの実行

マスタ管理サーバでグループ・掲示板メンバー括登録実行ユティリティ (gmaxgset コマンド) を実行して、グループの情報や掲示板のメンバの情報などをマスタ管理サーバに登録します。gmaxgset コマンドの詳細は、「11.3 グループ・掲示板メンバ情報の登録 gmaxgset コマンド」を参照してください。

マルチサーバ構成の場合、登録した情報はマスタ管理サーバから各アドレスサーバ (メールサーバ) に自動的にレプリケーションされます。

gmaxgset コマンドで登録できるのは、gmaxgchk コマンドでのチェックが完了したグループ定義ファイルとグループデータファイルの情報です。チェックが完了していない

10. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの実行手順

ファイルを指定した場合は、情報が登録されません。

また、`gmaxgset` コマンドがグループ定義ファイルとグループデータファイルの情報を登録するときには、マスタ管理サーバに登録済みの情報とのチェックを実行して、正しい情報だけを登録します（`gmaxgchk` コマンドは、グループ定義ファイルとグループデータファイル内のチェックだけしか行っていないため、ここで二重登録などのエラーが発生する可能性があります）。エラーがあった場合は、グループ定義ファイルとグループデータファイルの実行結果欄が「`x`」になります。正常に登録された場合は「」になります。

エラーがあった場合は、グループ定義ファイルとグループデータファイルを修正して、「10.1.3 `gmaxgchk` コマンドの実行」から手順を繰り返してください。ただし、グループ定義ファイルとグループデータファイルを修正するときに、正常に登録されたレコード（行）を削除する必要はありません。`gmaxgset` コマンドでは、実行結果欄が「」のレコード（行）は無視されるため、同じデータが2度登録されることはありません。

10.1.5 レプリケーション状態の確認

マルチサーバ構成の場合、`gmaxgset` コマンドでマスタ管理サーバに登録した情報が各アドレスサーバ（メールサーバ）にレプリケーションされているかを、レプリケーション状態確認コマンド（`nxrepstat` コマンド）を実行して確認します。`nxrepstat` コマンドの詳細は、「4.5 レプリケーション状態の確認 `nxrepstat` コマンド」を参照してください。

10.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ実行時の注意点

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行するときに注意すべき点について説明します。

10.2.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行できる機能

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行できる機能を次に示します。

なお、ユーザ、組織、及び最上位組織については、「3.2.8 一括登録ユーティリティで実行できる機能」を参照してください。

グループの追加・削除・変更

グループのメンバの追加・削除・変更
(対象は組織、ユーザ)

掲示板のメンバの追加・削除・変更・アクセス権の変更
(対象は最上位組織、組織、ユーザ、グループ)

また、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行できない機能を表 10-1 に示します。回避策を参考にして対処してください。

表 10-1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行できない機能

実行できない機能	回避策
兼任ユーザのグループ・掲示板のメンバへの登録	運転席から設定する
掲示板の登録・削除	運転席から設定する

10.2.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ実行の制限

次の場合には、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行しないでください。

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド実行中

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの同一コマンドを同時に複数実行しないでください。

稼働中バックアップの作業中

稼働中バックアップの作業中は、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行しないでください。

アドレスサーバの回復作業で使用する `adcnsget` コマンド実行中

10. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの実行手順

マスタ管理サーバで `adcnsget` コマンド実行中は、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを実行しないでください。

運転席の名前データベースダイアログでの「バックアップ」、又は「リストア」中
運転席の名前データベースダイアログでの「バックアップ」、又は「リストア」作業中は、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを実行しないでください。

11 グループ・掲示板メンバー 括登録ユーティリティのコマ ンド

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンドの詳細についてを説明します。コマンド実行時のメッセージについては、「14. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのメッセージ一覧」を参照してください。

11.1 登録済みグループ・掲示板メンバ情報の出力 `gmaxgexp` コマンド

11.2 グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック
`gmaxgchk` コマンド

11.3 グループ・掲示板メンバ情報の登録 `gmaxgset` コマンド

11.1 登録済みグループ・掲示板メンバ情報の出力 gmaxgexp コマンド

Address Server に登録されているグループの情報や掲示板のメンバの情報などをファイルに出力します。出力するファイルは、グループ定義ファイルやグループデータファイルと同じ形式です。このため、gmaxgexp コマンドで出力したファイルを編集することでグループ定義ファイルやグループデータファイルとして利用できます。

11.1.1 gmaxgexp コマンドの使用方法

(1) 実行条件

マスタ管理サーバにシステム管理者でログオンして実行してください。

マスタ管理サーバでアドレスサービスが起動している状態で実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> ¥bin¥gmaxgexp と実行してください。

(2) 形式

gmaxgexp [オプション] コマンド引数 ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列やコマンド引数は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

ファイル名には、Address Server に登録されている情報を出力するファイルの名称を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定してください。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

指定したファイルにはグループ定義ファイルと同じ形式で次の情報が出力されます。

出力する情報がグループの場合

グループ名、グループ ID、メンバの ID を出力したファイルの名称

出力する情報が掲示板の場合

掲示板 ID、メンバの ID を出力したファイルの名称

指定したファイルが既に存在する場合、ファイルの末尾に情報が追加されます。

新規のファイルを指定した場合、ファイルの先頭行に見出し（コメント行）が出力されます。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-f フィルタファイル名：

情報を出力するグループ ID や掲示板 ID を指定する場合、グループ ID、掲示板 ID を定義した CSV 形式のフィルタファイルを作成してその名称を指定します。フィルタファイルの名称には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。各 ID は複数指定できます。

フィルタファイルは次のような形式で作成してください。グループ ID と掲示板 ID を一つずつ定義する場合の例です。

```
t,グループID[Enter]
b,掲示板ID[Enter]
```

t, b, ,(コンマ) は半角文字で指定してください。最終行の [Enter] は省略してもかまいません。

! 注意事項

gmaxgexp コマンド実行時、フィルタファイルが開いていないことを確認してください。テキストエディタなどでこのファイルを開いていると実行時にエラーになります。

-e エラーログ出力先ディレクトリ：

指定したディレクトリにエラーログファイル gmaxgexp.log を出力します。オプション -e の指定がない場合、環境変数 "tmp" に定義されたディレクトリにエラーログを出力します。環境変数 "tmp" に定義がない場合、C ドライブのルートディレクトリに出力されます。

-s 処理区分：

出力する登録情報のファイルに設定する処理区分 (A, D, U, C) を指定します。このオプションを省略した場合、処理区分を空欄にしてファイルを出力します。また、指定した処理区分が設定できない場合 (例えば、処理区分に C (掲示板のメンバーのアクセス権変更) を設定するように指定しても、グループのメンバーのレコード (行) には設定できません)、処理区分を空欄にしてファイルを出力します。処理区分が空欄のレコード (行) は、gmaxgchk コマンドと gmaxgset コマンドでは、コメントとして扱われるためチェック対象又は実行対象になりません。

(4) コマンド引数

コマンド引数は省略できません。また、複数のコマンド引数を同時に指定することができます。ただし、同一コマンド引数を複数指定することはできません。

t：

グループ情報を出力します。

11. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド

b :

掲示板のメンバ情報を出力します。

(5) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

10 : 指定情報なし

16 : 起動パラメタの指定誤り, ファイルアクセスエラー, 設定環境誤り,

システムエラー

(6) 実行結果

グループや掲示板のメンバの ID は, gmaxgexp コマンドが作成するファイルに出力されます。ファイルの名称は表 11-1 のようになります。なお, 出力されるファイルの形式は, グループデータファイルと同じです。

表 11-1 出力されるグループや掲示板のメンバの ID ファイル

ファイルの種類	グループ	掲示板
ユーザ ID が出力されるファイル	usrXXXXX.csv	usrXXXXX.csv
組織 ID が出力されるファイル	orgXXXXX.csv	orgXXXXX.csv
最上位組織 ID が出力されるファイル	-	comXXXXX.csv
グループ ID が出力されるファイル	-	grpXXXXX.csv

XXXXX は出力されるファイルの通し番号で同じレコード (行) の各ファイルは同じ番号になります。例えば, 同じ掲示板のメンバにユーザとグループが登録されていた場合, ユーザ ID の出力されるファイルが usr00001.csv ならば, グループ ID の出力されるファイルは grp00001.csv になります。

出力されるファイル名が既に存在する場合, そのファイルの次の番号を設定します。また, 該当するメンバが存在しない場合, ファイルは作成されません (例えば, メンバにユーザが登録されていないときは, ユーザ ID が出力されるファイルは作成されません)。メンバがまったく登録されていない場合, グループ定義ファイルのレコード (行) はコメントになります。

出力したグループ定義ファイルの処理種別は, グループの情報を出力するときは M (グループのメンバ), 掲示板の情報を出力するときは L (掲示板のメンバ) になります。ただし, オプション -s で処理区分を指定した場合に, 掲示板の情報を出力するときは, L (掲示板のメンバ) 又は A (掲示板のメンバのアクセス権) のどちらか適切なほうが処理種別に設定されます。

エラーがあった場合には標準出力、及び<エラーログ出力先ディレクトリ>
 %gmaxgexp.log ファイルにメッセージを出力します。既に gmaxgexp.log ファイルが
 存在した場合に、実行した結果エラーがあったときにはファイルを上書きします。エ
 ラーがなかったときにはファイルを削除します。

gmaxgexp コマンドのメッセージについては、「14.1 gmaxgexp コマンドのメッセ
 ージ」を参照してください。

11.1.2 gmaxgexp コマンドの使用例

gmaxgexp コマンドの使用例を説明します。

使用例では、前提として gmaxgexp コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト
 上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> %bin になっていることと
 します。また、情報の出力先は c:%temp%gdata.csv ファイルとします。

(1) 全データを出力する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、gdata.csv ファイルとメンバの ID ファイルには
 登録済みの全グループと全掲示板のメンバの情報が出力されます。掲示板のメンバにつ
 いては、メンバごとのアクセス権についても出力されます。

```
gmaxgexp tb c:%temp%gdata.csv
```

(2) 全グループのメンバ情報を出力し、出力するデータの処理区分に U を設定する場合

次に示すようにコマンドを実行すると、gdata.csv ファイルとグループのメンバの ID
 ファイルには登録済みの全グループの情報が出力されます。また、オプション -s で出力
 した gdata.csv の処理区分には U が設定されます。

```
gmaxgexp -s U t c:%temp%gdata.csv
```

(3) 情報を出力するグループ・掲示板を指定する場合

特定のグループや掲示板のメンバの情報を出力する場合は、出力する情報の種類（グ
 ループ、又は掲示板）とその ID を記述した CSV 形式のフィルタファイルを作成して出
 力対象を指定します。グループ ID が「A00101」のグループと掲示板 ID が「a1341」の
 掲示板のメンバを出力するためのフィルタファイル c:%temp%gfilter.csv を次に示します。

<pre>t, A00101 b, a1341</pre>

作成した c:%temp%gfilter.csv を使って、次に示すようにコマンドを実行すると、登録情

11. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド

報が gdata.csv ファイルとメンバの ID ファイルに出力されます。

```
gmaxgexp -f c:¥temp¥gfilter.csv tb c:¥temp¥gdata.csv
```

11.1.3 gmaxgexp コマンドの使用上の注意事項

gmaxgexp コマンドで出力したファイルを、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで使用する場合、処理区分の指定が必要です。処理区分を指定しない場合、そのレコード（行）はコメント行として無視されます。

運転席からの操作でグループや掲示板のメンバに兼任ユーザを登録していた場合に、gmaxgexp コマンドを実行して出力したグループの情報や掲示板のメンバの情報には兼任ユーザのユーザ ID が含まれています。しかし、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでは、兼任ユーザをグループや掲示板のメンバに登録することはできません。このため、gmaxgexp コマンドの出力ファイルをグループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで使用する場合は、兼任ユーザのユーザ ID が含まれていないかを確認してください。

gmaxgexp コマンドはシステム管理者で実行してください。

11.2 グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック gmaxgchk コマンド

ユーザが作成したグループ定義ファイルに誤りがないかをチェックします。

また、次の場合にはグループ定義ファイル中に設定されているグループデータファイルもチェックします。

- グループの追加
- グループのメンバの追加・削除・更新
- 掲示板のメンバの追加・削除・更新・アクセス権の変更

チェックした結果、異常がなかったファイルだけが Address Server への登録に使用できません。

11.2.1 gmaxgchk コマンドの使用方法

(1) 実行条件

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> ¥bin¥gmaxgchk と実行してください。

(2) 形式

gmaxgchk [オプション] グループ定義ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

グループ定義ファイル名には、チェックを実施するグループ定義ファイルの名称を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定してください。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ定義ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

なお、ここで指定したグループ定義ファイル中に名称が設定されているグループデータファイルもチェックの対象になります。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-v :

11. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド

標準出力に実行中のグループ定義ファイルのレコード（行）を出力します。

-q :

グループデータファイル内の ID がユニークかどうかをチェックしない場合に指定します。グループデータファイルに重複データが全くない場合に指定することができます。

注意

オプション -q を指定した場合、ユニークチェックが行われないのでグループデータファイルのチェックが不十分になります。このため、オプション -q を使用しない運用を推奨します。

-e エラーログ出力先ディレクトリ :

指定したディレクトリにエラーログファイル gmaxgchk.log を出力します。

オプション -e を指定しなかった場合は、環境変数 "tmp" に定義されているディレクトリに出力します。環境変数 "tmp" が定義されていないときは、C ドライブのルートディレクトリに出力します。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

9 : グループ定義ファイル内にエラーあり ,
グループデータファイル内にエラーあり

16 : 起動パラメタに指定誤り , ファイルアクセスエラー , システムエラー ,
設定項目数誤り

(5) 実行結果

gmaxgchk コマンドがグループ定義ファイルをチェックした結果は、グループ定義ファイルのチェック結果欄（3番目の項目）に次のよう出力されます。

- すべての項目が正しく設定されている場合は「 」
- グループ定義ファイル内に誤りがある場合は「 × 」
- グループデータファイル内に誤りがある場合は「 」

また、ユニークチェックが実行されていない場合は、スペースを出力します。

チェック結果欄が「 × 」又は「 」の場合には、チェック部エラー要因欄（4番目の項目）にエラーの要因も出力されます（ただし、複数のエラーがあっても、エラーの要因は一つしか表示されません）。

gmaxgchk コマンドがグループデータファイルをチェックした結果は、グループデータファイルのチェック結果欄（1番目の項目）に次のよう出力されます。

- すべての項目が正しく設定されている場合は「 」
- 設定に誤りがある場合は「 x 」

ユニークチェックが実行されていない場合は、スペースを出力します。ただし、ユニークチェックなしのオプション（オプション -q）で実行している場合は「 」を出力します。

チェック結果欄が「 x 」の場合には、チェック部エラー要因欄（2番目の項目）にエラーの要因も出力されます。

エラーがあった場合には標準出力、及び<エラーログ出力先ディレクトリ> %gmaxgchk.log ファイルにメッセージを出力します。既に gmaxgchk.log ファイルが存在した場合に、実行した結果エラーがあったときにはファイルを上書きします。エラーがなかったときにはファイルを削除します。

gmaxgchk コマンドのメッセージについては、「14.2 gmaxgchk コマンドのメッセージ」を参照してください。

チェック実行前のグループ定義ファイルとグループデータファイルは、拡張子を .bak にして同じディレクトリにバックアップファイルとして保存されます。既に bak 拡張子を付けたファイルが存在した場合は、拡張子に 1 から昇順の番号を付けて保存されます。

例えば、グループ定義ファイル c:\temp\gdata.csv とユーザ用グループデータファイル c:\temp\user.csv を gmaxgchk コマンドでチェックした場合、チェック前のファイルは c:\temp ディレクトリに gdata.bak と user.bak という名称で保存されます。また、既に gdata.bak と user.bak というファイルが存在した場合は、gdata.bak1 と user.bak1 という名称で保存されます。

gmaxgchk コマンドの実行を中断する場合は、[Ctrl]+[C] を入力します。

11.2.2 gmaxgchk コマンドの使用例

gmaxgchk コマンドの使用例について説明します。

使用例では、前提として gmaxgchk コマンドを実行できる状態で、コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> %bin になっていることとします。また、gmaxgchk コマンドのチェック対象となるグループ定義ファイルは c:\temp\gdata.csv としています。

(1) 標準出力に実行中のレコード（行）を出力する場合

次に示すように gmaxgchk コマンドを実行すると、処理を実行しているグループ定義ファイルのレコード（行）の情報が出力されます。

```
gmaxgchk -v c:\temp\gdata.csv
```

11.2.3 gmaxgchk コマンドの使用上の注意事項

gmaxgchk コマンド実行時、グループ定義ファイルやグループデータファイルが開いていないことを確認してください。テキストエディタなどでファイルを開いていると実行時にエラーになります。

エラーがあった場合は修正した後、gmaxgchk コマンドを再実行して、必ず、各レコード（行）のすべての項目が正しく設定されていることを確認してください。

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでは、兼任ユーザをグループや掲示板のメンバとして登録したり、削除したりすることはできません。gmaxgexp コマンドで出力したファイルをグループデータファイルに使っているのに、gmaxgchk コマンドで「一括登録データファイルの n レコード「ユーザ ID」の設定に誤りがあります。」というエラーが発生する場合は、グループデータファイルに兼任ユーザのユーザ ID が含まれていないことを確認してください。

gmaxgchk コマンドでチェックが完了したグループ定義ファイルとグループデータファイルの位置を変更しないでください。ファイルの位置を変更した場合は、gmaxgchk コマンドを再度実行してください。

11.2.4 gmaxgchk コマンドのチェック内容

gmaxgchk コマンドのチェックの内容を表 11-2 に示します。gmaxgchk コマンドは項番 1 から順番にチェックを実行します。

表 11-2 gmaxgchk コマンドのチェック内容

項番	チェック内容	異常レコード		正常レコード	
		グループ定義ファイル	グループデータファイル	グループ定義ファイル	グループデータファイル
1	グループ定義ファイルの各レコードの項目数は 13 項目か	x ¹	-	-	
2	グループデータファイルは存在するか	x	-	空白	
3	グループデータファイルの各レコードの項目数は 6 項目か	1	-	空白	
4	グループ定義ファイルの文字種別、文字列長が正しいか、設定が必要なすべての項目にデータがあるか	x	-	空白	
5	グループデータファイルにメンバの ID が一つ以上設定されているか	x	-	空白	
6	グループデータファイルの文字種別、文字列長が正しいか、設定が必要なすべての項目にデータがあるか		x 又は 空白 ²	空白	

項番	チェック内容	異常レコード		正常レコード	
		グループ定義ファイル	グループデータファイル	グループ定義ファイル	グループデータファイル
7	グループデータファイルのメンバのIDが重複していないか		×又は 3	空白	
8	グループ定義ファイル内で、グループデータファイルの名称が重複していないか	×			

注 1

処理が中断されます。

注 2

グループデータファイルの異常レコードには×，正常レコードには空白が設定されます。

注 3

グループデータファイルの異常レコードには×，正常レコードには が設定されます。ただし，ユニークチェックを行わない設定の場合にはすべてのレコードに が設定されます。

11.3 グループ・掲示板メンバ情報の登録 gmaxgset コマンド

グループ定義ファイルとグループデータファイルの内容に従って、グループの追加・削除、グループや掲示板のメンバの追加・削除・更新、及び掲示板のメンバに対するアクセス権の変更を登録します。

11.3.1 gmaxgset コマンドの使用方法

(1) 実行条件

マスタ管理サーバにシステム管理者でログオンして実行してください。

マスタ管理サーバでアドレスサービスが起動している状態で実行してください。

コマンドプロンプト上で<インストール先ディレクトリ> %bin%gmaxgset と実行してください。

(2) 形式

gmaxgset [オプション] グループ定義ファイル名

! 注意事項

オプションの文字列は、大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の違いまで正しく指定してください。

グループ定義ファイル名には、gmaxgchk コマンドによるチェックが完了したグループ定義ファイルの名称を半角文字、及び全角文字を使用して、絶対パスで 260 バイトに収まるように指定してください。相対パスで指定する場合も絶対パスで 260 バイトになるようにしてください。グループ定義ファイル名には絶対パス、又はコマンド実行ディレクトリからの相対パスを指定することができます。

(3) オプション

オプションは省略したり、複数指定したりできます。ただし、同一オプションを複数指定した場合は、最後に指定したオプションが有効になります。

-v :

標準出力に実行中のグループ定義ファイルのレコード(行)を出力します。

-e エラーログ出力先ディレクトリ :

指定したディレクトリにエラーログファイル gmaxgset.log を出力します。

オプション -e を指定しなかった場合は、環境変数 "tmp" に定義されているディレクトリに出力します。環境変数 "tmp" が定義されていないときは、C ドライブのルート

ディレクトリに出力します。

(4) 戻り値

戻り値を次に示します。

0 : 正常終了

4 : 中止要求で終了

6 : 更新データがない

9 : 登録, 更新失敗あり

16 : 起動パラメタの指定誤り, ファイルアクセスエラー, 環境設定誤り,
システムエラー

(5) 実行結果

gmaxgset コマンドを実行した結果は, 次の実行結果欄に出力されます。

- グループ定義ファイルの 5 番目の項目
- グループデータファイルの 3 番目の項目

処理が正常に終了した場合は「○」、エラーが発生した場合は「×」を出力します。実行結果欄が「×」の場合, 実行部エラー要因欄(グループ定義ファイル: 6 番目の項目, グループデータファイル: 4 番目の項目)にエラーの要因を出力します。

なお, グループ定義ファイルの実行結果欄に「×」が出力された場合で, グループデータファイルにエラーの要因があるときは, グループ定義ファイルのエラー要因欄にエラーの要因があるグループデータファイルの種類(最上位組織用, 組織用, ユーザ用, グループ用)が出力されます。

グループの追加で, グループデータファイルの処理がエラーになった場合, グループのメンバの追加は実行されませんが, グループ自身の追加は実行されます。

エラーがあった場合には標準出力, 及び<エラーログ出力先ディレクトリ>¥gmaxgset.log ファイルにメッセージを出力します。既に gmaxgset.log ファイルが存在した場合に, 実行した結果エラーがあったときにはファイルを上書きします。エラーがなかったときにはファイルを削除します。

gmaxgset コマンドのメッセージについては, 「14.3 gmaxgset コマンドのメッセージ」を参照して, 対処してください。

11.3.2 gmaxgset コマンドの使用例

gmaxgset コマンドの使用例について説明します。

使用例では, 前提として gmaxgset コマンドを実行できる状態で, コマンドプロンプト上のカレントディレクトリが<インストール先ディレクトリ> ¥bin になっていることと

11. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド

します。また、gmaxgset コマンドに指定するグループ定義ファイルは c:¥temp¥gdata.csv としています。

(1) 標準出力に実行中のレコード(行)を出力する場合

次に示すように gmaxgset コマンドを実行すると、処理を実行しているグループ定義ファイルのレコード(行)の情報が出力されます。

```
gmaxgset -v c:¥temp¥gdata.csv
```

11.3.3 gmaxgset コマンドの使用上の注意事項

gmaxgset コマンド実行時、グループ定義ファイルやグループデータファイルが開いていないことを確認してください。テキストエディタなどでファイルを開いていると実行時にエラーになります。

gmaxgset コマンドはシステム管理者で実行してください。

12 グループ・掲示板メンバー 括登録ユティリティの使用 例

この章では、グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの使用例について説明します。

12.1 グループの追加の例

12.2 グループの削除の例

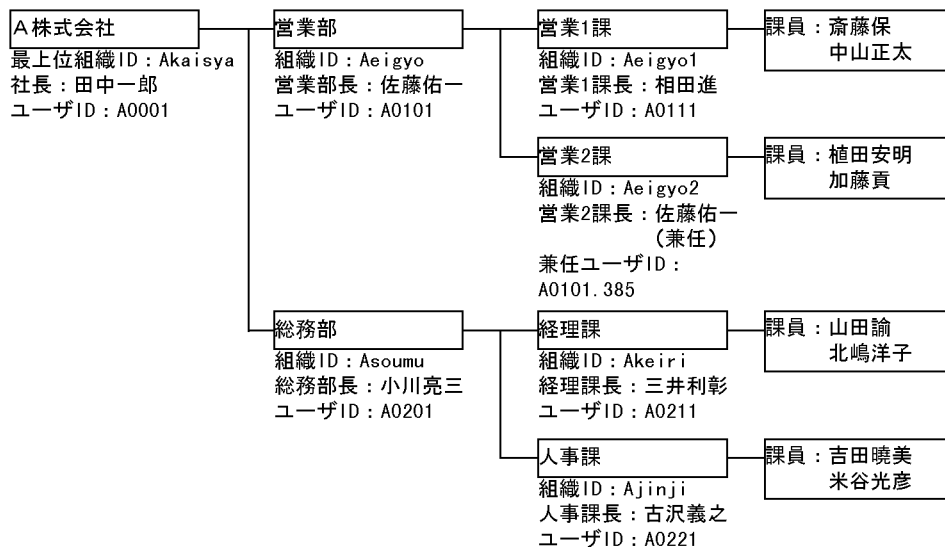
12.3 掲示板のメンバ追加の例

12.4 掲示板のメンバ更新の例

12.1 グループの追加の例

図 12-1 に示した架空の会社である A 株式会社 にグループを追加する作業を例として説明します。

図 12-1 A 株式会社の構成（グループ・掲示板メンバー括ユティリティ用）



(1) グループ追加の概要

ここでは、例として A 株式会社の営業 1 課，営業 2 課，経理課，及び人事課の課長をメンバとするグループを追加します。

グループを追加する場合には、追加するグループのグループ名やグループ ID を決めたり、グループのメンバとなるユーザや組織の ID を調べたりする必要があります。

A 株式会社の課長グループの場合は、次に示すとおりです。

グループ名：課長グループ

グループ ID : katyou

メンバ：

営業 1 課長

相田進（ユーザ ID : A0111）

営業 2 課長（営業部長が兼務）

佐藤佑一（兼任ユーザ ID : A0101.385）

経理課長

三井利彰（ユーザ ID : A0211）

人事課長

古沢義之（ユーザ ID：A0221）

ここで、注意する必要があるのは営業 2 課長が、営業部長である佐藤佑一の兼任ユーザとして登録されていることです。グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでは、兼任ユーザを扱うことができません。

兼任ユーザをグループや掲示板のメンバとして登録する場合は、運転席から操作してください。運転席からの操作については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」（Windows 用）を参照してください。

このため、例では営業 2 課長を除く 3 人の課長をグループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを使って登録します。

（2）グループ追加の手順

A 株式会社の課長グループを追加する手順を次に示します。

なお、この例ではインストール先ディレクトリを c:\¥Groupmax¥Addr と仮定しています。また、グループ定義ファイルを c:\¥temp¥Ateigi.csv、グループデータファイルを c:\¥temp¥udata.csv としています。

- 表計算ソフトでグループ定義ファイル（c:\¥temp¥Ateigi.csv）を作成します。
次に示すようにグループ定義ファイルを作成してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
T	A					katyou	課長グループ		c:\¥temp¥udata.csv			

領域を確保するために、半角スペースを 13 番目のセルに入力します。また、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV 形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

- 表計算ソフトでグループデータファイル（c:\¥temp¥udata.csv）を作成します。
課長グループに追加するメンバはユーザだけなので、ユーザ用のグループデータファイルだけを作成します。
次に示すように追加するユーザのユーザ ID を入力して、ユーザ用のグループデータファイルを作成してください。

1	2	3	4	5	6
#					
				A0111	
				A0211	
				A0221	

12. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの使用例

領域を確保するために、1レコード(行)目をコメントにします。また、各レコードの6番目のセルに半角スペースを入力します。なお、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV形式(コンマ区切り形式)」にしてください。

3. コマンドプロンプトを起動して、<インストール先ディレクトリ> \bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。

次のように実行してください。

```
cd c:\Groupmax\Addr\bin
```

4. gmaxgchk コマンドを実行します。

Ateigi.csv と udata.csv をチェックします。次のように実行してください。

```
gmaxgchk -v c:\temp\Ateigi.csv
```

エラーが発生した場合は、グループ定義ファイルとグループデータファイルを修正して、gmaxgchk コマンドでエラーを再チェックしてください。

5. gmaxgset コマンドを実行します。

課長グループの追加をマスタ管理サーバに登録します。次のように実行してください。

```
gmaxgset -v c:\temp\Ateigi.csv
```

6. nxsrepstat コマンドを実行します。

課長グループの追加がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat
```


12.2 グループの削除の例

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使ってグループを削除する作業について説明します。

(1) グループの削除の概要

ここでは、例として「12.1 グループの追加の例」で追加した課長グループを削除します。

グループを削除する場合には、削除するグループのグループ ID を調べる必要があります。

A 株式会社の課長グループの場合は、次に示すとおりです。

グループ ID : katyou

(2) グループ削除の手順

A 株式会社の課長グループを削除する手順を次に示します。

なお、この例ではインストール先ディレクトリを `c:\Groupmax\Addr` と仮定しています。また、グループ定義ファイルを `c:\temp\Dteigi.csv` としています（グループを削除するときには、グループデータファイルを作成する必要はありません）。

- 表計算ソフトでグループ定義ファイル（`c:\temp\Dteigi.csv`）を作成します。
次に示すように削除する課長グループのグループ ID（`katyou`）を 7 番目のセルに入力して、グループ定義ファイルを作成してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
T	D					katyou						

領域を確保するために、半角スペースを 13 番目のセルに入力します。また、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV 形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

- コマンドプロンプトを起動して、<インストール先ディレクトリ> \bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。
次のように実行してください。
`cd c:\Groupmax\Addr\bin`
- `gmaxgchk` コマンドを実行します。
`Dteigi.csv` をチェックします。次のように実行してください。
`gmaxgchk -v c:\temp\Dteigi.csv`
- `gmaxgset` コマンドを実行します。
グループの削除をマスタ管理サーバに登録します。次のように実行してください。

12. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの使用例

```
gmaxgset -v c:\temp\Dteigi.csv
```

5. nxsrepstat コマンドを実行します。

グループの削除がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat
```

12.3 掲示板のメンバ追加の例

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使って掲示板にメンバを追加する作業について説明します。

! 注意事項

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティでは、掲示板自身を登録することはできません。掲示板にメンバを追加する場合は、あらかじめ運転席を使って掲示板を登録しておいてください。

(1) 掲示板のメンバ追加の概要

ここでは、例として「課長連絡用掲示板」という名称の掲示板に「12.1 グループの追加の例」で登録した課長グループと社長をメンバとして追加します。

掲示板にメンバを追加する場合には、掲示板 ID と掲示板に追加するメンバ（最上位組織、組織、ユーザ、グループ）の ID を調べる必要があります。

「課長連絡用掲示板」へのメンバ追加の場合は、次に示すとおりです。

掲示板 ID : a1289

追加するメンバの ID

社長

田中一郎 (ユーザ ID : A0001)

グループ

課長グループ (グループ ID : katyou)

(2) 掲示板のメンバ追加の手順

「課長連絡用掲示板」にメンバを追加する手順を次に示します。

なお、この例ではインストール先ディレクトリを `c:\¥Groupmax¥Addr` と仮定しています。また、グループ定義ファイルを `c:\¥temp¥Bateigi.csv`、ユーザ用のグループデータファイルを `c:\¥temp¥Udata.csv`、グループ用のグループデータファイルを `c:\¥temp¥Gdata.csv` とします。

1. 表計算ソフトでグループ定義ファイル (`c:\¥temp¥Bateigi.csv`) を作成します。
次に示すように、9 番目のセルに掲示板 ID (a1289)、10 番目のセルにユーザ用のグループデータファイルの名称、13 番目のセルにグループ用のグループデータファイルの名称を入力して、グループ定義ファイルを作成してください。

12. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの使用例

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1 1	1 2	13
L	A							a1289	c:¥temp¥Udata.csv			c:¥temp¥Gdata.csv

また、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

- 表計算ソフトでユーザ用のグループデータファイル（c:¥temp¥Udata.csv）を作成します。
次に示すように登録する社長のユーザ ID を 5 番目のセルに、掲示板のアクセス権（ここでは D にしています）を 6 番目のセルに入力して、ユーザ用のグループデータファイルを作成してください。

1	2	3	4	5	6
#					
				A0001	D

領域を確保するために、1 レコード（行）目をコメントにします。なお、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

- 表計算ソフトでグループ用のグループデータファイル（c:¥temp¥Gdata.csv）を作成します。
次に示すように登録する課長グループの ID を 5 番目のセルに、掲示板のアクセス権（ここでは W にしています）を 6 番目のセルに入力して、グループ用のグループデータファイルを作成してください。

1	2	3	4	5	6
#					
				katyou	W

領域を確保するために、1 レコード（行）目をコメントにします。なお、ファイルを保存するときに保存形式を「CSV形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

- コマンドプロンプトを起動して、<インストール先ディレクトリ> ¥bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。
次のように実行してください。
cd c:¥Groupmax¥Addr¥bin
- gmaxgchk コマンドを実行します。
グループ定義ファイル c:¥temp¥Bateigi.csv、グループデータファイル

c:\%temp%\Udata.csv と c:\%temp%\Gdata.csv をチェックします。次のように実行してください。

```
gmaxgchk -v c:\%temp%\Bateigi.csv
```

6. gmaxgset コマンドを実行します。

掲示板へのメンバ追加を登録します。次のように実行してください。

```
gmaxgset -v c:\%temp%\Bateigi.csv
```

7. nxsrepstat コマンドを実行します。

掲示板へのメンバ追加がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat
```

12.4 掲示板のメンバ更新の例

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティを使って掲示板のメンバを更新する作業について説明します。

(1) 掲示板のメンバ更新の概要

ここでは、例として「12.3 掲示板のメンバ追加の例」で追加した「課長連絡用掲示板」のメンバを更新します。

更新とは、既存のメンバ構成を、新しいメンバ構成と置換する操作です。例えば、ある掲示板の既存のメンバ構成がユーザ A, ユーザ B, ユーザ C であったのを、新しいメンバ構成であるユーザ B, ユーザ C, ユーザ D に変更する必要が発生したとします。この場合は、既存のメンバ構成からユーザ A を削除、ユーザ D を追加して、新しいメンバ構成にすることもできます。しかし、この方法では削除と追加で 2 回の処理が必要です。更新を使えば、既存のメンバ構成と新しいメンバ構成を置換するだけなので一回の処理でメンバ構成の変更を完了させることができます。

掲示板のメンバを更新するには、メンバを更新する掲示板の ID と更新後のメンバ（最上位組織，組織，ユーザ，グループ）の ID を調べる必要があります。

「課長連絡用掲示板」（掲示板 ID：a1289）の更新前のメンバは、次に示すとおりです。

更新前のメンバ

社長

田中一郎（ユーザ ID：A0001）

グループ

課長グループ（グループ ID：katyou）

更新後のメンバは、社長を削除，営業部長と総務部長の二人を追加して，次に示すようにします。

更新後のメンバ

営業部長

佐藤佑一（ユーザ ID：A0101）

総務部長

小川亮三（ユーザ ID：A0201）

グループ

課長グループ（グループ ID：katyou）

(2) 掲示板のメンバ更新の手順

「課長連絡用掲示板」のメンバを更新する手順を次に示します。

なお，この例ではインストール先ディレクトリを `c:\¥Groupmax¥Addr` と仮定していま

す。また、グループ定義ファイルを `c:\temp\Buteigi.csv` とします。

1. コマンドプロンプトを起動して、<インストール先ディレクトリ> \bin ディレクトリにカレントディレクトリを変更します。

次のように実行してください。

```
cd c:\Groupmax\Addr\bin
```

2. `gmaxgexp` コマンドで現在の「課長連絡用掲示板」のメンバだけを出力します。「課長連絡用掲示板」のメンバだけを出力するためには、掲示板の ID を定義したフィルタファイル `c:\temp\filter.csv` を作成します。次のように作成してください。

b, a1289

作成した `c:\temp\filter.csv` を使って、つぎのようにコマンドを実行します。オプション `-s` を指定して、出力するファイルの処理区分に U (更新) を設定しています。

```
gmaxgexp -f c:\temp\filter.csv -s U b c:\temp\Buteigi.csv
```

コマンドを実行した結果の `Buteigi.csv` の内容を次に示します (コメントによる見出しは省略しています)。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
L	U							a1289	c:\temp\usrXXXXX.csv			c:\temp\grpXXXXX.csv

10 番目のセルの `usrXXXXX.csv` と 13 番目のセルの `grpXXXXX.csv` の XXXXX には数字が入ります。この二つのファイルには掲示板のメンバの ID が設定されます。

`usrXXXXX.csv` の内容を次に示します (コメントによる見出しは省略しています)。

このファイルには社長 (田中一郎) のユーザ ID が設定されています。

1	2	3	4	5	6
				A0001	D

`grpXXXXX.csv` の内容を次に示します (コメントによる見出しは省略しています)。

このファイルには課長グループのグループ ID が設定されています。

1	2	3	4	5	6
				katyou	W

3. 表計算ソフトでユーザ用のグループデータファイル (`c:\temp\usrXXXXX.csv`) を編集します。

次に示すように社長のユーザ ID を削除して、営業部長 (佐藤佑一) と総務部長 (小川亮三) のユーザ ID と掲示板のアクセス権 (ここでは D にしています) を入力しま

12. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの使用例

す。

1	2	3	4	5	6
				A0101	D
				A0201	D

ファイルを保存するときに保存形式を「CSV形式（コンマ区切り形式）」にしてください。

4. gmaxgchk コマンドを実行します。

グループ定義ファイル `c:\%temp%\Buteigi.csv` , グループデータファイル

`c:\%temp%\usrXXXXX.csv` と `c:\%temp%\grpXXXXX.csv` をチェックします。次のように実行してください。

```
gmaxgchk -v c:\%temp%\Buteigi.csv
```

5. gmaxgset コマンドを実行します。

掲示板のメンバ更新をマスタ管理サーバに登録します。次のように実行してください。

```
gmaxgset -v c:\%temp%\Buteigi.csv
```

6. nxsrepstat コマンドを実行します。

掲示板のメンバ更新がレプリケーションされたかを確認します。次のように実行してください。

```
nxsrepstat
```


13

グループ・掲示板メンバー 括登録ユーティリティのデー タシート

ここでは、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンドの実行条件や実行時間の目安を説明します。

13.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行条件

13.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド実行時間の
目安

13.3 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのトラブルシューティ
ング

13.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティの実行条件

グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンドを実行するための条件を表 13-1 に示します。

表 13-1 グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのコマンド実行条件

項番	コマンド名	条件	実行サーバ
1	gmaxgchk コマンド	なし	マスタ管理サーバ, アドレスサーバ ¹
2	gmaxgset コマンド	システム管理者でログオンする。 アドレスサーバのアドレスサービスが起動している。 ²	マスタ管理サーバ
3	gmaxgexp コマンド	システム管理者でログオンする。 アドレスサーバのアドレスサービスが起動している。	マスタ管理サーバ

注 1

マスタ管理サーバで実行することを推奨します。

注 2

アドレスサービスが起動されていないアドレスサーバにはレプリケーションされません。アドレスサービスを起動後、整合性確保を実行してください。

13.2 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンドを実行するために必要な時間の目安を示します。ここで示す実行時間の目安は、使用する環境によって左右されます。そのため、作業計画では余裕を持った時間を見積もってください。

実行時間の目安を算出するに当たっては、Pentium(R) II 266MHz 相当の CPU を搭載したコンピュータを想定しています。

13.2.1 gmaxgchk コマンドの実行時間

gmaxgchk コマンドの実行時間の目安を表 13-2 に示します（単位：秒）。

1 グループデータファイル当たり 20 レコード（行）ある状態を想定しています。なお、実行中のレコード表示（オプション -v）は指定しない場合の値です。

表 13-2 gmaxgchk コマンドの実行時間

件数	グループ (追加・削除・変更)	グループのメンバ (追加・削除・変更)	掲示板アクセス権のメンバ (追加・削除・変更)
10	1 秒	2 秒	3 秒
100	1 秒	15 秒	30 秒
1,000	5 秒	160 秒	420 秒

13.2.2 gmaxgset コマンドの実行時間

gmaxgset コマンドの実行時間の目安を表 13-3 に示します（単位：秒）。

なお、実行中のレコード表示（オプション -v）は指定しない場合の値です。

表 13-3 gmaxgset コマンドの実行時間

項目	グループ	掲示板アクセス権
追加（10 件）	15 秒	-
削除（10 件）	15 秒	-
メンバ追加（100 件）	85 秒	75 秒
メンバ削除（100 件）	55 秒	50 秒
アクセス権の変更（100 件）	-	50 秒

13.2.3 gmaxgexp コマンドの実行時間

gmaxgexp コマンドの実行時間の目安を表 13-4 に示します（単位：秒）。

登録状態は、各グループ・掲示板に 100 メンバを想定しています。したがって、30 グループの情報出力では、3,000 レコード（行）の情報が出力されます。

表 13-4 gmaxgexp コマンドの実行時間

登録グループ・掲示板数	グループメンバ出力	掲示板アクセス権メンバ出力
10	20 秒	25 秒
20	45 秒	45 秒
30	60 秒	65 秒

13.3 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのトラブルシューティング

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでよく質問される内容とその対応策について説明します。

13.3.1 グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング

メンバがいるグループ、掲示板を削除する場合、メンバは別に削除する必要があるか
対処

削除する必要はありません。グループ、掲示板を削除した場合、グループのメンバ、掲示板のメンバも自動的に削除されます。

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行する場合、実行するサーバ以外のアドレスサーバのアドレスサービスは起動しておく必要があるか

対処

`gmaxgset` コマンド以外のグループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの場合は、実行するサーバ以外のアドレスサーバの起動条件はありません。

`gmaxgset` コマンドを実行する場合、すべてのアドレスサーバのアドレスサービスを起動しておいてください。起動していないアドレスサーバがあった場合、登録情報がレプリケーションされないため、起動した後で整合性確保を実行してください。

バッチプログラムや AT コマンドでグループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行するとエラーになる

対処

実行ユーザ不正の可能性がります。

一括登録ユーティリティは `Groupmax` のシステム管理者で実行してください。

`gmaxgexp` コマンドで出力したデータをグループ定義ファイルやグループデータファイルとして使用するとエラーになる

対処 1

兼任ユーザがグループデータファイルに記述されている可能性があります。グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティでは、兼任ユーザはメンバとして登録できません。詳細は「9.4.3 グループ定義ファイルとグループデータファイル作成時の注意事項」を参照してください。

対処 2

表計算ソフトでグループ定義ファイルやグループデータファイルを作成したために、先頭が 0 で始まるデータの先頭 0 の部分が欠落した可能性があります。グループ ID やユーザ ID などに数字だけを設定している場合、出力したファイルを

13. グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのデータシート

表計算ソフトで読み込むと先頭のゼロがなくなる場合があります。例えば、グループ ID に 00301 と設定していた場合、表計算ソフトで読み込むとグループ ID は 301 になります。この場合、00301 と 301 は違う ID のため、グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティを実行しても期待どおりの結果が得られません。Microsoft(R) Excel の場合の回避策を次に示します。この方法を使えば先頭の 0 がそのまま文字列として読み込まれます。

- 1.gmaxgexp コマンドで出力したファイルの拡張子を .txt に変更して、テキストファイルにする。
- 2.Microsoft(R) Excel でそのファイルを開き、テキストファイルウィザードですべての列の属性を文字列にする。

実行すると「GMB056E システムエラーが発生しました。 付加情報：OpenSCManager」が表示される

対処

システム管理者に Administrator 権限がない可能性があります。システム管理者の権限を確認してください。

13.3.2 gmaxgexp コマンドのトラブルシューティング

実行してもデータが出力されない

対処

グループ、掲示板が登録されていない可能性があります。運転席から登録状況を確認してください。

処理区分を設定するオプション -s を指定しても、設定されないレコードがある

対処

オプション -s で指定した処理区分を設定できないレコード（行）の可能性があります。例えば、オプション -s で処理区分に C を設定するように指定しても、C が設定できるのは掲示板のメンバに対してだけです。グループのメンバを出力したレコード（行）の処理区分は空白のままになります。

13.3.3 gmaxgchk コマンドのトラブルシューティング

実行すると設定項目数異常のエラーが発生する

対処

項目数が不適切です。グループ定義ファイルの場合は 13 項目、グループデータファイルの場合は 6 項目あるかを確認してください。

表計算ソフトでグループ定義ファイルを作成する場合、各レコードの最後の項目（13 番目の項目）に値を設定しないときは半角スペースを 1 文字入力してください。

表計算ソフトでグループデータファイルを作成する場合、1 レコード（行）目をコメント（1 番目の項目に # を設定したレコードにする）にしてください。また、

各レコードの最後の項目（6番目の項目）に値を設定しないときは半角スペースを1文字入力してください。

表計算ソフトでファイルを作成する場合に、上の記述を実行しないと項目が削除されます。

グループデータファイルが存在しないというエラーになる

対処

グループデータファイルの指定方法が間違っています。グループデータファイルは、名前だけでなく場所までグループ定義ファイルで正しく指定してください。グループデータファイルの場所を相対パス (Udata.csv など) でなく、絶対パス (c:\temp\Udata.csv など) で指定すると、グループ定義ファイルをほかの場所に移動しても正しく処理できます。

13.3.4 gmaxgset コマンドのトラブルシューティング

gmaxgset コマンドを実行してもデータが登録されない

対処 1

グループ定義ファイルの処理区分が空欄の状態では gmaxgchk コマンドを実行している可能性があります。

gmaxgexp コマンドを使ってグループ定義ファイルを作成した場合に、処理区分が空欄の状態では gmaxgchk コマンドを実行すると、レコード（行）の先頭に # が挿入されて、コメントとして扱われるため処理するデータがなくなります。

対処 2

グループ定義ファイルの実行結果欄が最初から「 」の可能性があります。gmaxgset コマンドは実行結果欄が「 」の場合、そのレコード（行）は登録済みだと判断して登録処理を行いません。グループ定義ファイル、グループデータファイルを作成する場合、実行結果欄に値を設定しないでください。

対処 3

gmaxgchk コマンドを実行していない可能性があります。gmaxgset コマンドで指定できるファイルは gmaxgchk コマンドですべてのレコード（行）のチェック結果欄が「 」になったファイルだけです。

メンバーの更新で、メンバーを削除できない

対処

メンバーの更新で、すべてのメンバーを削除するには、コメントだけのグループ定義ファイルを指定する必要があります。何も指定しない場合、メンバーは更新されません。詳細は「9.4.3 グループ定義ファイルとグループデータファイル作成時の注意事項」を参照してください。

gmaxgset コマンド実行中にディスクフル、又はシャットダウンなどの障害が発生した

対処

13. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのデータシート

グループ定義ファイルの途中のレコードまで登録が完了していても、実行結果欄には 印が設定されません。gmaxgexp コマンドや運転席を使用して、どこまで登録が完了しているか確認してから、未登録部分だけを再実行してください。

14 グループ・掲示板メンバー 括登録ユーティリティのメッ セージ一覧

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの各コマンドを実行したときに出力されるメッセージについて説明します。

-
- 14.1 gmaxgexp コマンドのメッセージ

 - 14.2 gmaxgchk コマンドのメッセージ

 - 14.3 gmaxgset コマンドのメッセージ
-

14.1 gmaxgexp コマンドのメッセージ

gmaxgexp コマンドのメッセージについて説明します。

gmaxgexp コマンドのメッセージ形式は次のとおりです。

GM B 001 E
1 2 3 4

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM 固定

2. gmaxgexp コマンドの場合 「B」

3. 4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

GMB003E ファイル *** が作成できません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルが作成できません。

対処

ファイルに書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから、再実行してください。

GMB007E ディレクトリ *** が見つかりません。

要因

ディレクトリが見つかりません。

対処

ディレクトリが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB009E システム管理者権限で実行してください。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者で再実行してください。

GMB023E ファイル *** が見つかりません。

要因

指定したファイルが見つかりません。

対処

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報： × × × × ×

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

使用していないアプリケーションの処理を終了してから、再実行してください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報： × × × × ×

要因

ファイルがオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB050E ファイル (***) にエラーログを出力しました。

要因

登録実行処理でエラー（警告エラーを含む）がありました。

対処

エラーログ内のメッセージに従って、対処をしてください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報： × × × × ×

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB069E ファイル *** のレコード *** の設定に誤りがあります。

要因

グループフィルタファイル（グループや掲示板の ID を定義したフィルタファイル）での設定に誤りがありました。

14. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのメッセージ一覧

対処

グループフィルタファイルに設定誤りがあるかを確認してから、再実行してください。

GMB073E 本サーバは、Groupmax Address マスタ管理サーバではありません。

要因

実行サーバが、マスタ管理サーバではありません。

対処

実行サーバがマスタ管理サーバであるかを確認してください。gmaxgexp コマンドは、マスタ管理サーバでだけ実行できます。

GMB075E ファイル *** が重複しています。

要因

グループ定義ファイルとグループフィルタファイル（グループや掲示板の ID を定義したフィルタファイル）の名称が重複しています。

対処

別々のファイルを指定してから、再実行してください。

GMB079E ファイル *** の書き込みに失敗しました。

付加情報：×××××

要因

ファイルの書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB080E *** 処理に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

登録情報管理の開始、グループ情報出力、掲示板アクセス権限情報出力、登録情報管理の終了のどれかの処理に失敗しました。

対処

付加情報を参考にして対策してください。

GMB081E Groupmax Address に aaaalD*** は、登録されていません。

要因

Address Server に、グループ ID(***)、掲示板 ID(***)、ユーザ ID(***)、組織(***)、又は最上位組織(***) は登録されていませんでした。

対処

グループフィルタファイル（グループや掲示板の ID を定義したフィルタファイル）を確認してから、再実行してください。

GMB085E Groupmax Address が停止しています。

要因

アドレスサービスが停止しています。

対処

アドレスサービスを起動させてから、再実行してください。

GMB086E ファイル***の名称変更に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

指定したファイル名の名称変更に失敗しました。

対処

指定したファイルが存在するディレクトリに書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB087E グループ ID*** が、登録されていました。

要因

グループ ID*** が、登録されていました。

対処

グループ ID が正しく設定されているか確認してください。

GMB088E ファイルの名称が長すぎます。

要因

ファイル名の長さは 512 文字までです。

対処

ファイル名を短くしてから、再実行してください。

GMB120E Address_Mail セットアップを行ってから起動してください。

要因

セットアップを実行しないで gmaxexp コマンドを実行しました。

対処

セットアップが完了した環境で実行してください。

GMB013I 中止要求により処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB020I グループ・掲示板メンバ登録出力処理を開始します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB021I グループ・掲示板メンバ登録出力処理を終了します。出力件数 = nn

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

14.2 gmaxgchk コマンドのメッセージ

gmaxgchk コマンドのメッセージについて説明します。

gmaxgchk コマンドのメッセージ形式は次のとおりです。

GM G 001 E
1 2 3 4

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)

2.gmaxgchk コマンドの場合 「G」

3.4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

GMG001E n レコード 設定項目数が異常です。処理を中断します。(m)

要因

n レコードで設定項目数が誤っています。(m は設定した項目数)

対処

設定項目数が正しいかを確認してください。

GMG002E 一括登録データファイル(***)の n レコード 設定項目数が異常です。処理を中断します。(m)

要因

グループデータファイル(***)の n レコードで設定項目数が誤っています。(m は設定した項目数)

対処

設定項目数が正しいかを確認してください。

GMG003E n レコード 「<指定値>」の設定に誤りがあります。

要因

n レコードの「<指定値>」の項目に誤りがあります。

対処

<指定値> が正しく設定されているかを確認してください。

GMG004E 一括登録データファイル(***)の n レコード 「<指定値>」の設定に誤りがあります。

要因

グループデータファイル(***)の n レコードの「<指定値>」の設定に誤りがあります。

対処

<指定値> が正しく設定されているかを確認してください。

GMG005E n レコード「<指定値>」が設定されていません。

要因

n レコードで<指定値>が設定されていません。

対処

必要な項目がすべて設定されているかを確認してください。

GMG006E 一括登録データファイル(***)の n レコード「<指定値>」が設定されていません。

要因

グループデータファイル(***)の n レコードで<指定値>が設定されていません。

対処

必要な項目がすべて設定されているかを確認してください。

GMG007E n レコードの(***)と m レコードの(***)の情報が一意ではありません。

要因

n レコードで指定された(***)と m レコードで指定された(***)の情報が一意ではありません。

対処

n レコードで指定された(***)と m レコードで指定された(***)の情報が一意かどうかを確認してください。

GMG008E 一括登録データファイル(***)の n レコードと m レコードで指定された情報が一意ではありません。

要因

グループデータファイル(***)の n レコードと m レコードで指定された情報が一意ではありません。

対処

グループデータファイル(***)の n レコードと m レコードで指定された情報が一意かどうかを確認してください。

GMG009E n レコード一括登録データファイルが一つも指定されていません。

要因

グループデータファイルが指定されていません。

対処

一つ以上のグループデータファイルを指定してください。

GMG010E n レコード 指定した一括登録データファイル全てが空データです。

要因

指定したグループデータファイルの中身すべてが、空データです。

対処

指定したグループデータファイルにデータを記述してください。

GMG011E ファイル(***)が作成できません。(ind = X X X X , error = X X X X)

14. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのメッセージ一覧

要因

出力されたファイルが作成できませんでした。

対処

ディレクトリに書き込み権限があるかを確認してください。

GMG012E ファイル(***)のオープンに失敗しました。(ind = X X X X , error = X X X X)

要因

出力されたファイルをオープンできませんでした。

対処

ファイルに読み込み権限があるかを確認してください。又は、指定したファイルが存在することを確認してください。

GMG013E ファイル(***)の削除に失敗しました。(ind = X X X X , error = X X X X)

要因

出力されたファイルの削除に失敗しました。

対処

ディレクトリに書き込み権限があるかを確認してください。

GMG014E ファイル(***)の名称変更に失敗しました。(ind = X X X X , error = X X X X)

要因

出力されたファイルの名称変更に失敗しました。

対処

ディレクトリに書き込み権限があるかを確認してください。

GMG015E ディスクの空きがありません。

要因

処理に必要な空き容量が不足しました。

対処

不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を確保してください。

GMG016E システムエラーが発生しました。(module = X X X X , ind = X X X X , error = X X X X)

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMG017E ファイルシステムの入出力エラーが発生しました。(ind = X X X X , error = X X X X)

要因

ファイル入出力処理中にエラーが発生しました。

対処

ファイルシステムに異常がないかを確認してください。

GMG018E メモリ確保に失敗しました。

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

使用していないアプリケーションの処理を終了してから、再実行してください。

GMG019E パラメタの指定に誤りがあります。

要因

パラメタの指定が誤っています。

対処

パラメタを正しく入力してから、再実行してください。

GMG020E ファイル名称 (***) が長すぎます。

要因

ファイル名称の長さは 512 文字までです。

対処

ファイル名称を短くしてから、再実行してください。

GMG021E エラーログ出力先ディレクトリ (***) が存在しません。

要因

指定したエラーログ出力先ディレクトリが存在しません。

対処

エラーログ出力先ディレクトリを正しく入力してから、再実行してください。

GMG022E ユーザ作成グループ定義ファイル (***) が見つかりません。

要因

指定したグループ定義ファイルが見つかりません。

対処

グループ定義ファイル名を正しく入力してから、再実行してください。

GMG023E ユーザ作成グループデータファイル (***) が見つかりません。

要因

指定したグループデータファイルが見つかりません。

対処

グループデータファイル名を正しく入力してから、再実行してください。

GMG024E n レコード レコード内の最大長をオーバーしました。処理を中断します。

要因

n レコードで最大長を超えています。

対処

レコード内容が正しいかを確認してください。

14. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのメッセージ一覧

GMG025E 一括登録データファイル(***)の n レコード レコード内の最大長をオーバーしました。処理を中断します。

要因

グループデータファイル(***)の n レコードで最大長を超えています。

対処

レコード内容が正しいかを確認してください。

GMG026E Address 環境変数設定処理に失敗しました。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMG001I グループ・掲示板メンバ登録チェック処理を開始します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMG002I n レコード をチェック中です。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMG003I グループ・掲示板メンバ登録チェック処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMG004I エラーが発生している場合, (***) にログ情報があります。参照してください。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMG005I 処理の中止要求を受け付けました。

対処

情報メッセージのため対処不要です。

GMG006I 中止要求により, 処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

14.3 gmaxgset コマンドのメッセージ

gmaxgset コマンドのメッセージについて説明します。

gmaxgset コマンドのメッセージ形式は次のとおりです。

```
GM  B  001  E
 1  2   3   4
```

1. メッセージを表示するプログラム区分 GM(固定)

2.gmaxgset コマンドの場合 「B」

3.4 のメッセージ区分での連続番号

4. エラーメッセージの場合 「E」

情報メッセージの場合 「I」

警告メッセージの場合 「W」

GMB003E ファイル(***)が作成できません。

付加情報：×××××

要因

ファイルが作成できません。

対処

ファイルに書き込み権限があるかを確認してから，再実行してください。

GMB004E パラメタが不正です。

要因

パラメタが不正です。

対処

パラメタを確認してから，再実行してください。

GMB007E ディレクトリ(***)が見つかりません。

要因

ディレクトリが見つかりません。

対処

ディレクトリが存在するかを確認してから，再実行してください。

GMB009E システム管理者権限で実行してください。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者で再実行してください。

GMB023E ファイル(***)が見つかりません。

14. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのメッセージ一覧

要因

指定したファイルが見つかりません。

対処

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

付加情報：×××××

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

使用していないアプリケーションの処理を終了してから、再実行してください。

GMB049E ファイル(***)がオープンできません。

付加情報：×××××

要因

ファイルがオープンできませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB050E ファイル(***)にエラーログを出力しました。

要因

登録実行処理でエラー（警告エラーを含む）がありました。

対処

エラーログ内のメッセージに従って、対処をしてください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報：×××××

要因

システムエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB073E 本サーバは、Groupmax Address マスタ管理サーバではありません。

要因

実行サーバが、マスタ管理サーバではありません。

対処

実行サーバがマスタ管理サーバであることを確認してください。gmaxgset コマンドは、マスタ管理サーバでだけ実行できます。

GMB074E 一括登録グループ定義ファイルの中に、更新対象となるデータがありません。

要因

グループ定義ファイルの中に、更新対象となるデータがありません。

対処

グループ定義ファイルの内容を確認してから、再実行してください。

GMB078E ファイル***の読み込みに失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

ファイル***の読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB079E ファイル(***)の書き込みに失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

ファイルの書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

GMB080E (***)処理に失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

登録情報管理の開始、グループ追加、グループ削除、グループのメンバ追加、グループのメンバ削除、グループのメンバ更新、掲示板のメンバ追加、掲示板のメンバ削除、掲示板のメンバ更新、掲示板のアクセス権変更の内のどれかの処理に失敗しました。

対処

付加情報を参考にして対策してください。

GMB081E a a a a に b b b b ID***は、登録されていません。

要因

グループ、掲示板、又はアドレスサーバに、ユーザ ID、組織 ID、最上位組織 ID、又はグループ ID***は、登録されていませんでした。

対処

グループフィルタファイル(グループや掲示板の ID を定義したフィルタファイル)を確認してから、再実行してください。

GMB082E a a a a ID***は、メール属性を持たないため登録できません。

14. グループ・掲示板メンバー括登録ユティリティのメッセージ一覧

要因

ユーザ ID*** は、メール属性を持っていませんでした。

対処

メール属性を持っているかを確認してから、再実行してください。

GMB083E a a a a に b b b b ID*** は、登録済みです。

要因

グループ、掲示板、又は Address Server に、ユーザ ID、組織 ID、最上位組織 ID、又はグループ ID*** は、登録済みでした。

対処

既に登録されているかを確認してから、再実行してください。

GMB085E Groupmax Address が停止しています。

要因

アドレスサービスが停止しています。

対処

アドレスサービスを起動させてから、再実行してください。

GMB086E ファイル *** の名称変更に失敗しました。

付加情報： x x x x x

要因

指定したファイル名の名称変更に失敗しました。

対処

指定したファイルが存在するディレクトリに書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

GMB088E ファイルの名称が長すぎます。

要因

指定したファイル名の長さは 512 文字までです。

対処

ファイル名を短くしてから、再実行してください。

GMB089E ファイル *** の n レコード 最大長を超える項目があります。

要因

指定したファイル *** の n レコードに最大長を超える項目があります。

対処

項目の内容を短くしてから、再実行してください。

GMB090E 更新異常がありますので実行結果を確認してください。

要因

入力パラメタの不整合、ファイルアクセスエラーなどによって正常な更新処理が行えませんでした。

対処

グループ定義ファイル，グループデータファイルの実行結果と要因を確認してエラー箇所を修正してください。

GMB096E ファイル *** の n レコード 項目数が異常です。

要因

指定したファイル *** の n レコードの項目数が正しくありません。

対処

n レコードの項目数を正しく設定してから，再実行してください。

GMB120E Address_Mail セットアップを行ってから起動してください。

要因

セットアップを行わずに gmagset コマンドを実行しました。

対処

セットアップが完了した環境で実行してください。

GMB001I 処理中止要求を受け付けました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB013I 中止要求により処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB017I グループ・掲示板メンバ登録実行処理を開始します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB018I グループ・掲示板メンバ登録実行処理を終了します。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB019I a a a a 処理実行中 b b b b ID***

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

GMB010W グループ *** の登録に成功しましたが，一部又は全てのメンバ登録は失敗しました。

要因

グループの登録は成功しましたが，グループへのメンバ登録は失敗しました。

対処

エラーメッセージに対応する対処をしてください。ただし，該当するグループを再登録する必要はありません。

15 ユーザ任意情報の概要

ユーザ任意情報の機能や設定方法について説明します。

15.1 ユーザ任意情報の概要

15.2 ユーザ任意情報の定義方法

15.3 ユーザ任意情報の定義例

15.4 ユーザ任意情報の保存と回復

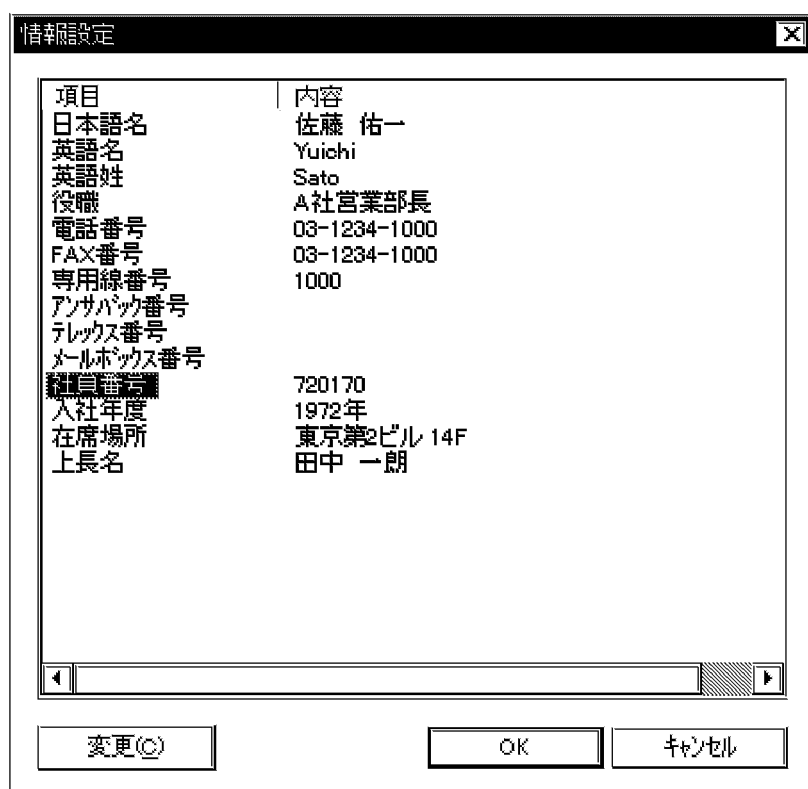
15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス

15.1 ユーザ任意情報の概要

ユーザ任意情報とは、Address Server 固定の見出し（日本語名、英語名、役職、電話番号などのユーザ情報）とは別に、システム管理者が任意の見出し（例えば、社員番号、勤務地、プロフィールなどの項目）を定義して、ユーザがそれらの見出しに値を設定したり、参照したりするための機能です。

ユーザ任意情報を利用すれば、Address Server 固定の見出しでは存在しない情報を任意に定義できるため、Groupmax を利用している各ユーザの環境に適応した運用が可能です。ユーザ任意情報は、電子アドレス帳から Address Server 固定の見出し（ユーザ情報）を参照・更新するのと同じ手順で参照したり、自分のユーザ任意情報を設定・更新したりすることができます。

次のダイアログは、システム管理者がユーザ任意情報の見出しとして、"社員番号"、"入社年度"、"在席場所"、及び"上長名"を定義し、それぞれの見出しに対する値を設定したユーザ（佐藤 佑一）の情報をクライアントから参照した例です。



The screenshot shows a dialog box titled "情報設定" (Information Settings). It contains a table with two columns: "項目" (Item) and "内容" (Content). The items listed are: 日本語名 (Japanese Name), 英語名 (English Name), 英語姓 (English Surname), 役職 (Position), 電話番号 (Phone Number), FAX番号 (FAX Number), 専用線番号 (Dedicated Line Number), アンパック番号 (Unpack Number), テックス番号 (Telex Number), メールボックス番号 (Mailbox Number), 社員番号 (Employee Number), 入社年度 (Year of Entry), 在席場所 (Work Location), and 上長名 (Supervisor Name). The corresponding content for each item is: 佐藤 佑一 (Sato Yuichi), Yuichi, Sato, A社営業部長 (A Company Sales Manager), 03-1234-1000, 03-1234-1000, 1000, (blank), (blank), (blank), (blank), 720170, 1972年 (1972), 東京第2ビル 14F (Tokyo 2nd Building 14F), and 田中 一朗 (Tanaka Ichiro). Below the table are three buttons: "変更(C)" (Change), "OK", and "キャンセル" (Cancel).

項目	内容
日本語名	佐藤 佑一
英語名	Yuichi
英語姓	Sato
役職	A社営業部長
電話番号	03-1234-1000
FAX番号	03-1234-1000
専用線番号	1000
アンパック番号	
テックス番号	
メールボックス番号	
社員番号	720170
入社年度	1972年
在席場所	東京第2ビル 14F
上長名	田中 一朗

15.2 ユーザ任意情報の定義方法

クライアントからユーザ任意情報を参照・更新するには、システム管理者がユーザ任意情報として設定する見出しを定義する必要があります。ここでは、システム管理者が見出しを定義する方法について説明します。

ユーザ任意情報の見出しの定義作業の流れ

ユーザ任意情報を使用する場合、まずユーザが使用する見出し（例えば、社員番号、勤務地、プロフィールなどの項目）を定義した csv ファイルを作成します。次に、`adpthead` コマンドを使用して作成した csv ファイルを Address Server に登録します。マルチサーバ構成の場合、登録した見出しを各サーバにレプリケーションさせます。これで各ユーザは、システム管理者が定義した見出しについてクライアントから参照・設定できます。

15.2.1 見出し定義ファイルの作成

ユーザ任意情報として使用したい見出し（例えば、社員番号、勤務地、プロフィールなどの項目）を定義したファイル（見出し定義ファイル）を作成します。見出し定義ファイルは、,（コンマ）で区切られた csv 形式で、一つの見出しを 1 レコード（行）に記述します。

(1) 見出し定義ファイルの設定内容

見出し定義ファイルを作成する場合に必要な項目と内容を示します。

1 種別

次に示す半角文字から一つ選んでレコードの処理種別を指定します。コメントを指定した場合、その行の内容は登録されません。

- A : 見出しを新規に追加する場合に指定します。
- C : 既に定義している見出しの名称を変更する場合に指定します。
- D : 既に定義している見出しを削除する場合に指定します。
- # : 指定したレコードをコメントとして扱います。

2 見出し ID

見出しを識別する ID を指定します。組織 ID のように、システム管理者が見出しを管理する場合に使用します。任意の文字列を指定できますが、見出しを識別するためユニークである必要があります。また、一度設定した見出し ID は変更できません。

種別に A を指定した場合は、新規の見出し ID を指定してください。種別に C 又は D を指定した場合は、既存の見出し ID を指定してください。

見出し ID には、数字、英小文字、英大文字、及び -（マイナス）を使用して 8 バイトまでの文字列で指定してください（-（マイナス）は文字列の先頭に使用できません）。

15. ユーザ任意情報の概要

ただし、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、COM1 ~ COM9, com1 ~ com9, PRN, 及び prn という文字列は指定できません。

また、アドレス管理ドメイン内に Windows NT のアドレスサーバが一台でも存在した場合は、大文字か小文字かだけが異なる文字列（例 :abc12345 と Abc12345）も指定できません。

3 見出し

クライアントに表示する見出しの名称（例えば、社員番号、勤務地、プロフィールなどの項目）を指定してください。

見出しには、全角文字、数字、英小文字、英大文字、半角片仮名、及び次の半角記号を使用して、32 バイトまでの文字列で指定してください。

: , | , = , < , > , \$, ! , ~ (チルダ) , " , . (ピリオド) , # , @ , (,) , + , , (コンマ) , _ , ^ (ハット) , ` (バッククォート) , { , } , [,] , * , ; , ¥ , 半角スペース , ? , / , % , 。 (句点) , 「 , 」 , (読点) , ・ (中点) , ` (濁点) , ° (半濁点) , - (マイナス) , &

表 15-1 見出し定義ファイルの設定内容

項番	設定項目	見出し追加	見出しの名称変更	見出し削除	最大文字列長
1	種別	A	C	D	1
2	見出し ID				8
3	見出し			-	32

(凡例)

: 必ず設定しなければならないことを示します。

- : 設定する必要がないことを示します。値を設定しないでください。

上記以外：表中の値を設定することを示します。

(2) 見出し定義ファイル作成時の注意事項

見出し定義ファイルを作成する場合は、次の点に注意してください。

1レコード（行）には、一つの見出ししか登録できません。

設定する見出しに、,(コンマ)や"(ダブルクォーテーション)が含まれる場合、見出し全体をダブルクォーテーションで囲んでください。また、見出しにダブルクォーテーションが含まれる場合、ダブルクォーテーション 1文字につきダブルクォーテーション 2文字を設定してください。テキストファイルで見出し定義ファイルを作成する場合は、以上の点に注意してください。

例

設定したい見出しの名称：12,345

見出し定義ファイルに記述する値："12,345"

設定したい見出しの名称：AB"c"D

見出し定義ファイルに記述する値："AB""c""D"

(3) 見出し定義ファイルの例

見出し定義ファイルの例を次に示します。

(a) 新規に見出しとして"年齢"を追加する場合

表計算ソフトで見出し定義ファイルを作成する場合

1	2	3
A	PDAID01	年齢

テキストファイルで見出し定義ファイルを作成する場合

A,PDAID01, 年齢

(b) 登録済みの見出しの"年齢"を"生年月日"に変更する場合

表計算ソフトで見出し定義ファイルを作成する場合

1	2	3
C	PDAID01	生年月日

テキストファイルで見出し定義ファイルを作成する場合

C,PDAID01, 生年月日

(c) 登録済みの見出しの"生年月日"を削除する場合

表計算ソフトで見出し定義ファイルを作成する場合

1	2
D	PDAID01

テキストファイルで見出し定義ファイルを作成する場合

D,PDAID01

15.2.2 見出し定義ファイルの登録

作成した見出し定義ファイルを, adphead コマンドを使用して Address Server に登録します。adphead コマンドは, コマンドプロンプトから引数 -f に見出し定義ファイル名を指定して実行します。

(1) 実行条件の確認

見出し定義ファイルを登録する場合、次の条件をすべて満たしているか確認してください。

すべての Address Server のアドレスサービスが起動している。

システム管理者でログオンしている。

(2) adpdhead コマンドの実行

コマンドプロンプトを起動して adpdhead コマンドを実行します。次のように指定してください。adpdhead コマンドの詳細については「15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス」を参照してください。

<インストール先ディレクトリ> %bin%adpdhead -f 見出し定義ファイル -e ログファイル

<インストール先ディレクトリ> : Address Server をインストールしたフォルダを指定します。

見出し定義ファイル : 見出し定義ファイルを保存した場所とファイル名を指定します。

ログファイル : エラー時に作成されるログファイルの生成場所とファイル名を指定します。

例えば、Address Server を d:\Groupmax\Addr にインストールし、見出し定義ファイルを c:\work\pd_def.csv に保存し、ログファイルを c:\temp\adpdhead.log に出力する場合、コマンドプロンプト上で次のようにコマンドを実行してください。

```
d:\Groupmax\Addr\bin\adpdhead -f c:\work\pd_def.csv -e  
c:\temp\adpdhead.log
```

(3) 注意事項

見出しは最大 8 項目まで登録できます。既に 8 項目定義している場合、新たに定義を追加することはできません。

15.2.3 登録内容の確認

adpdhead コマンドを実行した結果が正しく Address Server に登録されているか確認します。adpdhead コマンドで引数 -l を指定すると、登録済みの見出しを表示することができます。

実行条件や指定方法などは「15.2.2 見出し定義ファイルの登録」と同じです。コマンドプロンプトを起動して adpdhead コマンドを次のように実行してください。

<インストール先ディレクトリ> %bin%adpdhead -l -e ログファイル

コマンドを実行すると、画面上に登録済みの見出し ID と見出しが、,(コンマ)で区切

られて表示されます。見出し定義ファイルで設定したとおりに登録されているか確認してください。

15.2.4 登録内容のレプリケーション

マルチサーバ構成の場合、登録した見出しは、そのままではほかのサーバにレプリケーションされません。adpdhead コマンドを使用して、必ずほかの Address Server に登録内容をレプリケーションしてください。シングルサーバ構成の場合、この作業を行う必要はありません。

実行条件や指定方法などは「15.2.2 見出し定義ファイルの登録」と同じです。コマンドプロンプトを起動して adpdhead コマンドを次のように実行してください。

```
<インストール先ディレクトリ> %bin%adpdhead -d ドメイン名/ホスト名 -e ログファイル
```

ドメイン名/ホスト名：レプリケーションする Address Server のドメイン名又はホスト名を指定します。レプリケーションする Address Server が複数ある場合、コマンドを複数回実行してすべてのサーバにレプリケーションされるようにしてください。

レプリケーション実行が終了したら、nxsrepstat コマンドを実行して、正常にレプリケーションされたかを確認してください。nxsrepstat コマンドの詳細については「4.5 レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド」を参照してください。

! 注意事項

見出しの登録やアドレスサーバの追加などを実行した場合、adpdhead コマンドに -l オプションを指定して見出しのレプリケーションを必ず実行してください。見出しのレプリケーションを実行した場合は、見出しの値も同時にレプリケーションされますが、ユーザがクライアントから設定した見出しの値は随時自動的にレプリケーションされるため、定期的はこのコマンドを実行する必要はありません。

15.3 ユーザ任意情報の定義例

ここでは、ユーザ任意情報の見出しの定義方法について実行例を示します。

(1) 見出し定義の実行概要

この例では、ホスト名 ws155 (マスタ管理サーバ) と ws255 (アドレスサーバ) という 2 台の Address Server で運用されており、現在見出しは 4 件登録されているものとします。登録されている内容は "社員番号", "勤務地", "在席場所", 及び "所属上長" です。この例では, "勤務地" を削除して, 新たに "入社年度" を追加します。同時に "所属上長" を "上長名" に変更します。

(2) 見出しの変更手順

システム管理者でサーバにログインして, Address Server が 2 台とも稼働していることを確認します。次に, コマンドを実行してユーザ任意情報の項目を登録します。

1. 現在のユーザ任意情報の登録状態を確認します。

次のコマンドを実行します。

```
adpdhead -l -e c:\temp\adpdhead.log
```

現在のユーザ任意情報の登録状態が表示されます。

```
PDAID01, 社員番号  
PDAID02, 勤務地  
PDAID03, 在席場所  
PDAID04, 所属上長
```

2. 変更する項目を定義した見出し定義ファイルを作成します。
次のファイルを作成して, c:\work\pd_def.csv に保存します。

```
D, PDAID02  
A, PDAID05, 入社年度  
C, PDAID04, 上長名
```

3. 見出し定義ファイルを Address Server に登録します。

次のコマンドを実行します。

```
adpdhead -f c:\work\pd_def.csv -e c:\temp\adpdhead.log
```

4. 登録内容を確認します。

次のコマンドを実行します。

```
adpdhead -l -e c:\temp\adpdhead.log
```

次のように表示されれば, 正しくマスタ管理サーバに登録されています。

```
PDAID01, 社員番号  
PDAID03, 在席場所  
PDAID04, 上長名  
PDAID05, 入社年度
```

5. 登録内容をアドレスサーバにレプリケーションします。

次のコマンドを実行します。

```
adpdhead -d ws255 -e c:\temp\adpdhead.log
```

- レプリケーション確認コマンドを実行してレプリケーション状態を確認します。

次のコマンドを実行します。

```
nxsrepstat
```

コマンドの戻り値が 0 で、次のように表示されれば、正しくレプリケーションされています。

トランザクションコードなし (ws255)

15.4 ユーザ任意情報の保存と回復

マスタ管理サーバを入れ替えたり、主体ユーザを移動したりする場合には、クライアントから設定した見出しの値を保存するコマンド (adpdaexp) と、見出しの値を回復するコマンド (adpdaset) を使用して、見出しの値を移行する必要があります。ここでは、見出しの値の保存と回復の方法について説明します。adpdaexp 及び adpdaset コマンドの詳細については「15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス」を参照してください。

15.4.1 ユーザ任意情報の移行

システム管理者が設定した見出しは、見出し定義ファイルに記述するため、サーバを入れ替えても、同じファイルを使用して移行後のサーバに同一の見出しを登録できます。しかし、ユーザがクライアントから設定した見出しの値にはそのようなデータファイルがありません。このため、サーバを入れ替えたり、ユーザを削除したりすると設定値が消去されます。そこで、ユーザが登録した見出しの値を保存する adpdaexp コマンドと回復する adpdaset コマンドを使用して、見出しの値を移行します。

見出しの値を保存・回復するコマンドは次のような場合に使用します。

マスタ管理サーバを入れ替える場合

システム管理者が定義した見出しや、ユーザが設定した見出しの値は、マスタ管理サーバからアドレスサーバに配信されるため、マスタ管理サーバを入れ替えると、登録済みのユーザ任意情報がすべて消去されます。アドレスサーバを入れ替える場合は、入れ替えたアドレスサーバに、マスタ管理サーバのユーザ任意情報をレプリケーションするよう指定することで、ユーザ任意情報を引き継ぎます。

兼任ユーザが存在するユーザ（主体ユーザ）を一括登録ユティリティを使用して移動する場合

主体ユーザを移動すると、主体ユーザがいったん消去されるため、兼任ユーザも自動的に消去されます。そのため、兼任ユーザで設定した見出しの値が消去されます。この場合、兼任ユーザを再登録した後で、見出しの値を回復する必要があります。

ユーザ任意情報のバックアップを取得する場合

ユーザ任意情報だけをバックアップする場合、adpdaexp コマンドで見出しの値を保存できます。保存した見出しの値は adpdaset コマンドで回復できます。

15.4.2 ユーザ任意情報の保存と回復の方法

ここでは、ユーザがクライアントから設定した見出しの値を保存する方法と、保存したデータを使用して見出しの値を回復する方法について説明します。

(1) 実行条件の確認

見出しの値の保存と回復を実行する場合、次のすべての条件を満たしているか確認してください。

すべての Address Server のアドレスサービスが起動している。

システム管理者でログオンしている。

(2) ユーザ任意情報の保存方法

見出しの値を保存する場合、コマンドプロンプトを起動して adpdaexp コマンドを実行します。adpdaexp コマンドの詳細については「15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス」を参照してください。

次のように指定してください。

```
<インストール先ディレクトリ> %bin%\adpdaexp -f ユーザ登録ファイル -e ログファイル
-p A 保存ファイル名
```

<インストール先ディレクトリ> : Address Server をインストールしたフォルダを指定します。

ユーザ登録ファイル : 保存するユーザを gmaxexp コマンドで出力したファイルを指定します。

ログファイル : エラー時に作成されるログファイルの生成場所とファイル名を指定します。

保存ファイル名 : 見出しの値を保存するファイルを指定します。

例えば、Address Server を d:\Groupmax\Addr にインストールし、保存するユーザのユーザ登録ファイルを c:\temp\User.csv に出力し、ログファイルを c:\temp\adpdaexp.log に出力し、ユーザ任意情報の設定値を c:\work\pdadata に保存する場合、コマンドプロンプト上で次のようにコマンドを実行してください。

```
d:\Groupmax\Addr\bin\adpdaexp -f c:\temp\User.csv -e
c:\temp\adpdaexp.log -p A c:\work\pdadata
```

(3) ユーザ任意情報の回復方法

見出しの値を回復する場合、コマンドプロンプトを起動して adpdaset コマンドを実行します。adpdaset コマンドの詳細については「15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス」を参照してください。

次のように指定してください。

```
<インストール先ディレクトリ> %bin%\adpdaset -f 保存ファイル名 -e ログファイル
```

<インストール先ディレクトリ> : Address Server をインストールしたフォルダを指定します。

保存ファイル名 : adpdaexp コマンドで見出しの値を保存したファイル名を指定します。

ログファイル : エラー時に作成されるログファイルの生成場所とファイル名を指定します。

例えば、Address Server を d:\Groupmax\Addr にインストールし、adpdaexp コマンドで保存したユーザ任意情報の設定値保存ファイルが c:\work\pdadata、ログファイルを

15. ユーザ任意情報の概要

c:¥temp¥adpdaset.log に出力する場合、コマンドプロンプト上で次のようにコマンドを実行してください。

```
d:¥Groupmax¥Addr¥bin¥adpdaset -f c:¥work¥pdadata -e  
c:¥temp¥adpdaset.log
```

(4) 注意事項

単純に保存したものを回復する作業の場合は、adpdaexp コマンドで保存したユーザ任意情報のファイルの内容を変更しないで、そのまま adpdaset コマンドで回復してください。

adpdaexp コマンドの f オプションには、保存するユーザを一括登録ユーティリティの gmaxexp コマンドで出力したユーザ登録ファイルを指定してください。

兼任ユーザの見出しの値を保存する場合、adpdaexp コマンドの f オプションで指定するユーザ登録ファイルのユーザ ID には、主体ユーザではなく兼任ユーザ ID が設定されているユーザ登録ファイルを指定してください。

兼任ユーザの見出しの値は、保存したときと同一の兼任ユーザ ID の場合だけ回復することができます。兼任ユーザ ID が異なる場合、保存したユーザ任意情報は回復できません。

15.4.3 ユーザ任意情報の保存と回復の例

次に、ユーザ任意情報の保存と回復の実例を示します。

(1) ユーザ任意情報の保存と回復の概要

この例では、移行前サーバに登録されているすべてのユーザについて、見出しの値を保存し、移行後サーバで保存した見出しの値を回復します。移行後サーバは、ユーザ任意情報の設定値以外の情報（ユーザの登録状態や見出し ID など）はすべて移行前サーバと同一の状態に回復されているものとします。

(2) ユーザ任意情報の保存と回復の手順

移行前サーバと移行後サーバに、システム管理者でログインして、両方のサーバで Address Server が稼働していることを確認します。また、登録状態や見出し ID など同一であることを確認します。確認したら、次の手順どおりにコマンドを実行してユーザ任意情報の見出しの値を移行します。

1. 移行前サーバで、gmaxexp コマンドを使用してすべてのユーザ情報を出力します。
兼任ユーザも出力するため、gmpublicinfo ファイルに「ADDITIONAL_POSITION_EXP=Y」の記述があることを確認してから、次のコマンドを実行してください。
gmaxexp -a u c:¥temp¥usr.csv
2. 移行前サーバで、見出しの値を保存します。

次のコマンドを実行します。

```
adpdaexp -f c:\%temp%\usr.csv -e c:\%temp%\adpdaexp.log -p A c:\%work%\pdadata
```

3. 移行前サーバで保存したファイル（c:\%work%\pdadata）を、移行後サーバの c:\%work にコピーします。
4. 移行後サーバで、見出しの値を回復します。

次のコマンドを実行します。

```
adpdaset -f c:\%work%\pdadata -e c:\%temp%\adpdset.log
```

15.5 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス

ユーザ任意情報のコマンドは、次の三つのコマンドで構成されます。

adpdhead コマンド

ユーザが設定するユーザ任意情報の見出しを設定するコマンドです。システム管理者がこのコマンドを実行して見出し（例えば、社員番号、勤務地、プロフィールなどの項目）を登録することで、ユーザはクライアントからユーザ任意情報が参照・更新できるようになります。また、ユーザ任意情報の見出しを登録する以外に、登録した見出しのレプリケーションや登録内容の表示もできます。

adpdaexp コマンド

ユーザがクライアントから設定した見出しの値を保存するコマンドです。このコマンドで見出しの値のバックアップが作成できます。

adpdaset コマンド

adpdaexp コマンドで保存した見出しの値を回復するコマンドです。このコマンドで見出しの値をリストアすることができます。

15.5.1 adpdhead コマンド

マスタ管理サーバに見出しの登録、変更、削除、一覧表示、見出し及び見出しの値のアドレスサーバへの配信を実行します。なお、登録できる見出しの最大数は 8 です。

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているか確認してください。

すべての Address Server でアドレスサービスが起動している。

システム管理者でログオンしている。

(1) コマンド書式

構文

```
adpdhead -f 見出し定義ファイル名 [-i] [-d ドメイン名又はホスト名 [オプション]
```

引数とオプション

-f 見出し定義ファイル名：

見出し定義ファイルのファイル名を指定します。ファイルの形式については「(2) 見出し定義ファイルの形式」を参照してください。

-l：

システム管理者が定義した見出しの一覧を表示します。次のように見出し ID と見出しがコンマで区切られて表示されます。

見出し ID, 見出し

-d ドメイン名又はホスト名：

システム管理者が設定した見出しや、ユーザが設定した見出しの値を、指定し

たサーバに配信します。

-e ログファイル :

エラーが発生した場合に、標準出力に加えて指定したファイルにもメッセージを出力します。

-s :

エラーメッセージを標準出力に表示しないことを指定します。

-h :

コマンドのオプションに関するヘルプを標準出力に表示します。このオプションを指定すると、ほかのオプションは無視され、ヘルプの表示だけ行います。

(2) 見出し定義ファイルの形式

1 行を 1 レコードとし、各レコードには最大 3 項目の値を設定します。値と値は、(コンマ) で区切る csv 形式で指定します。各項目の内容は次のように設定します。

第 1 項 種別 レコードの種別を A, C, D, # から指定します。A は見出しの追加, C は見出しの名称の変更, D は見出しの削除, # はコメントを意味します。

第 2 項 見出し ID 見出しを識別する ID を 8 バイト以内で指定します。

第 3 項 見出し クライアントに表示する見出しの名称を 32 バイト以内で指定します。

例えば、次の例では、第 1 レコードで見出し " 社員番号 " を見出し ID "PDAID01" として追加します。第 2 レコードで登録済みの見出し " 勤務地 " (見出し ID "PDAID02") を削除します。

```
A, PDAID01, 社員番号
D, PDAID02
```

(3) 戻り値

0

正常に処理を終了しました。又はヘルプを表示しました。

1

コマンドラインの書き方に誤りがあります。

2

メモリ不足が発生しました。

3

ドメイン名又はホスト名に誤りがあります。

4

[Ctrl]+[C] による中止要求を受け付けました。

10

見出し定義ファイルの内容に誤りがあります。

15. ユーザ任意情報の概要

11

見出し定義ファイルが見つかりません。

12

見出し定義ファイルの操作でエラーが発生しました。

20

ログファイルのパス名に誤りがあります。

21

ログファイルの操作でエラーが発生しました。

40

システムでエラーが発生しました。

98

システム情報の取得に失敗しました。

99

動作環境の設定に失敗しました。

(4) メッセージ

```
Usage: adpdhead {-f in_file | -l | -d domain_name} [-e error_file] [-s] [-h]
```

要因

コマンドのオプションや引数指定に誤りがあります。

対処

コマンドのオプションや引数を見直して再度実行してください

エラー出力先ファイルにアクセスエラーが発生しました。

要因

ログファイルの操作でエラーが発生しました。

対処

コマンドを実行したときにログファイルにアクセスできるか見直して再実行してください。

エラー出力先ファイルのパス名に誤りがあります。

要因

引数で指定したログファイルのパス名に誤りがあります。

対処

ログファイルのパスが正しいか見直して再実行してください。

環境変数の設定に失敗しました (kind = XXX, exitcode = 99, ret = XX, errno = XX)。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

管理サーバのドメイン名の取得に失敗しました (ret = XX,errno = XX)。

要因

内部のシステムファイルの操作に失敗しました。

対処

システム管理者でログインしているか確認してください。問題がない場合は障害受付窓口に連絡してください。

処理の中止要求を受け付けました。

要因

ユーザからの処理の中止要求 (Ctrl-C) を受け付けました。

対処

登録内容を確認して、必要ならば再実行してください。

ドメイン名またはホスト名に誤りがあります。

要因

引数で指定したドメイン名又はホスト名に誤りがあります。

対処

ドメイン名又はホスト名が正しいか見直して再実行してください。

見出し定義ファイルが見つかりません。

要因

引数で指定した見出し定義ファイルのパス名に誤りがあります。

対処

見出し定義ファイルのパスが正しいか見直して再実行してください。

見出し定義ファイルで指定した「見出し」が長すぎます (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードの見出しに誤りがあります。

対処

括弧内に示されたレコードの見出しの長さを見直して再実行してください。

見出し定義ファイルで指定した「見出し」に誤りがあります (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードの見出しに誤りがあります。

対処

括弧内に示されたレコードの見出しの文字を見直して再実行してください。

見出し定義ファイルで指定した「見出し ID」が長すぎます (line=XX)。

要因

15. ユーザ任意情報の概要

見出し定義ファイルの XX レコードの見出し ID に誤りがあります。

対処

括弧内に示されたレコードの見出し ID の長さを見直して再実行してください。

見出し定義ファイルで指定した「見出し ID」に誤りがあります (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードの見出し ID に誤りがあります。

対処

括弧内に示されたレコードの見出し ID の文字を見直して再実行してください。

見出し定義ファイルにアクセスエラーが発生しました (errno=XX)。

要因

見出し定義ファイルの操作でエラーが発生しました。

対処

コマンドを実行したときに見出し定義ファイルにアクセスできるか見直して再実行してください。

見出し定義ファイルの行が長すぎます (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードの長さが長過ぎます。

対処

括弧内に示されたレコードの設定内容を見直してください。

見出し定義ファイルの種別が「A」または「C」のとき「見出し」が必須です (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードに見出しが設定されていません。

対処

括弧内に示されたレコードの見出しを設定して再実行してください。

見出し定義ファイルの種別に誤りがあります (line=XX)。

要因

見出し定義ファイルの XX レコードの種別に誤りがあります。

対処

括弧内に示されたレコードの種別を見直して再実行してください。

メモリ不足が発生しました。

要因

サーバの空きメモリが不足しています。

対処

サーバのメモリを増設する、使用していないアプリケーションを終了して空きメモリを増やす、仮想記憶容量を増やすなどの方法でアプリケーションが使用

できるメモリ容量を増やしてください。

ユーザ任意情報の見出しの数が上限値に達しています (ID=XXXX)。

要因

システムに登録できる見出しの上限を超えて登録しようとしています。

対処

登録できる見出しの最大数は 8 です。新規に見出しを追加する場合、最大数を超えないように、既存の見出しを削除してから登録してください。

上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認してください。不明な場合は障害受付窓口にご連絡ください。

15.5.2 adpdaexp コマンド

ユーザがクライアントから登録した見出しの値を保存します。このコマンドで見出しのバックアップを作成できます。

このコマンドを実行する前に、次の条件を満たしているか確認してください。

マスタ管理サーバのアドレスサービスが起動している。

システム管理者でログオンしている。

(1) コマンド書式

構文

```
adpdaexp [-f ユーザ登録ファイル] [-e ログファイル] [-m ID[,ID]] [-s] [-h] -p A 保存ファイル
```

引数とオプション

-f ユーザ登録ファイル :

見出しの値を保存するユーザを記述したファイルを、128 文字以内で指定します。ファイルは、一括登録ユーティリティの gmaxexp コマンドで出力したユーザ登録ファイルを指定します。ユーザ登録ファイルに記述のないユーザの見出しの値は保存されません。このオプションを指定しなかった場合、全ユーザの見出しの値を保存します。

-e ログファイル :

エラーが発生した場合に、標準出力に加えて、指定したファイルにもメッセージを出力します。ログファイル名は 128 文字以内で指定してください。

-m ID :

保存する見出し ID を指定します。コンマで区切って複数指定することもできます。見出し ID と見出し ID の間は、空白などを挿入しないでコンマだけで区切ってください。このオプションを指定しなかった場合、すべての見出しの値を保存します。例えば、見出し ID が "PDAID02" と "PDAID05" の見出しの値だけを保存する場合は、次のように指定します。

15. ユーザ任意情報の概要

-m PDAID02, PDAID05

-s :

エラーメッセージを標準出力に表示しないことを指定します。

-h :

コマンドのオプションに関するヘルプを標準出力に表示します。このオプションを指定すると、ほかのオプションは無視され、ヘルプの表示だけ行います。

-p A :

見出しの値を保存する場合に指定する引数です。必ずこのとおりに指定してください。

保存ファイル :

見出しの値を保存するファイル名を、128文字以内で指定します。保存したファイルは、adpdaset コマンドで指定して見出しの値を回復することができます。既に保存ファイルが存在する場合、既存のファイルに追加します。保存したファイルの内容を変更してはいけません。

(2) 戻り値

0

正常に処理を終了しました。又はヘルプを表示しました。

4

[Ctrl]+[C] による中止要求を受け付けました。

10

m オプションで指定された見出し ID がシステムに登録されていません。又は、m オプション指定時にシステムに見出し ID が 1 件も登録されていません。

16

システムでエラーが発生しました。

(3) メッセージ

Usage: adpdaexp [-f in_file] [-e error_file] [-p A|D] [-m ID[,ID]] [-s] [-h] out_file

要因

コマンドのオプションや引数指定に誤りがあります。

対処

コマンドのオプションや引数を見直して再度実行してください

GMB003E ファイルが作成できません。

付加情報: X X X X X

要因

ファイル作成に失敗しました。

対処

ファイルに書き込み権限があるかどうか確認して再実行してください。

GMB017E ホームサーバ情報の取得に失敗しました。

付加情報：X X X X X

要因

ホームサーバの情報が取得できませんでした。

対処

ホームサーバが登録されているかどうか確認して再実行してください。

GMB023E ファイル *** が見つかりません。

要因

指定したファイルが見つかりません。

対処

ファイルが存在するかどうか確認して再実行してください。

GMB032E メモリ確保に失敗しました。

要因

サーバの空きメモリが不足しています。

対処

サーバのメモリを増設する、使用していないアプリケーションを終了して空きメモリを増やす、仮想記憶容量を増やすなどの方法でアプリケーションが使用できるメモリ容量を増やしてください。

GMB049E ファイル *** がオープンできません。

付加情報：X X X X X

要因

ファイルを開けませんでした。

対処

障害受付窓口にご連絡ください。

GMB050E ファイル *** にエラーログを出力しました。

要因

登録情報出力処理で警告を含むエラーがありました。

対処

ログファイルを確認して、メッセージに対応する対処を実行してください。

GMB054E ユーザアカウント *** 以外の方は実行できません。処理を終了します。

要因

システム管理者以外のユーザがコマンドを実行しました。

対処

システム管理者で再実行してください。

15. ユーザ任意情報の概要

GMB056E システムエラーが発生しました。

付加情報：X X X X X

要因

OS の処理でエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口にご連絡ください。

GMB069E ファイル *** のレコード n の設定に誤りがあります。

要因

f オプションで指定したユーザ登録ファイルの n レコードの設定に誤りがありました。

対処

ユーザ登録ファイルの誤りを修正して再実行してください。オプションで指定するユーザ登録ファイルは、gmaxexp コマンドで出力したファイルを指定してください。

GMB075E ファイル *** が重複しています。

要因

ユーザ登録ファイル，保存ファイル，又はログファイルの名称が重複しています。

対処

別々のファイルを指定して再実行してください。

GMB078E ファイル *** の読み込みに失敗しました。

付加情報：X X X X X

要因

ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口にご連絡ください。

GMB079E ファイル *** の書き込みに失敗しました。

付加情報：X X X X X

要因

ファイルの書き込みに失敗しました。

対処

障害受付窓口にご連絡ください。

GMB080E *** 処理に失敗しました。

付加情報：X X X X X

要因

登録情報の開始処理，ユーザ任意情報一覧の取得処理，ユーザ ID の取得処理，

見出し ID 一覧の取得処理のどれかに失敗しました。

対処

付加情報を参考にしてください。不明な場合は障害受付窓口にご連絡ください。

GMB088E ファイルの名称が長すぎます。

要因

指定したファイル名の長さが上限を超えています。

対処

ファイル名を短くして再実行してください。

GMB104E *** から ### への名称変更に失敗しました。

付加情報：X X X X X

要因

表示されたファイルの名称変更に失敗しました。

対処

ファイルにアクセス権限があるか確認してください。

GMB123E 指定された見出し I D*** は重複しています。

要因

m オプションで指定した見出し ID が重複しています。

対処

m オプションで指定した見出し ID を修正して再度実行してください。

GMB124E 見出し I D*** はシステムに登録されていません。

要因

m オプションで指定した見出し ID*** は adpdhead コマンドで登録されていません。

対処

見出し ID が間違っていないか確認して再実行してください。

GMB125E 見出し I D がシステムに登録されていません。

要因

見出し ID が一つも登録されていません。

対処

このコマンドは見出しの値を保存するコマンドのため、見出しを登録してから実行してください。

GMB126E 指定された見出し I D*** は最大長を超えています。

要因

m オプションの引数で指定した見出し ID*** は最大長を超えています。

対処

15. ユーザ任意情報の概要

見出し ID*** を修正して再度実行してください。

GMB127E 指定された見出し ID が不正です。

要因

m オプションの引数で指定した見出し ID が不正です。

対処

見出し ID を修正して再度実行してください。

GMB013I 中止要求により処理を終了します。

要因

ユーザからの処理の中止要求 (Ctrl-C) を受け付けました。

対処

情報メッセージです。保存処理を中断したため、保存ファイルを消去して再実行してください。

GMB014I n 件の登録情報を出力しました。

要因

処理が終了したため、保存した見出しの値を表示しました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認してください。不明な場合は障害受付窓口にご連絡ください。

15.5.3 adpdaset コマンド

adpdaexp コマンドで保存した見出しの値を回復します。このコマンドで見出しのリストアが実行できます。

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているか確認してください。

すべての Address Server のアドレスサービスが起動している。

システム管理者でログオンしている。

(1) コマンド書式

構文

```
adpdaset -f 保存ファイル [-t] [-e ログファイル] [-s] [-h]
```

引数とオプション

-f 保存ファイル :

adpdaexp コマンドで指定した見出しの値を保存したファイルを指定します。

-t :

処理の途中で異常を検知した場合、処理を停止することを指定します。

-e ログファイル :

エラーが発生した場合に、標準出力に加えて、指定したファイルにもメッセージを出力します。

-s :

エラーメッセージを標準出力に表示しないことを指定します。

-h :

コマンドのオプションに関するヘルプを標準出力に表示します。このオプションを指定すると、ほかのオプションは無視され、ヘルプの表示だけ行います。

(2) 戻り値

0

正常に処理を終了しました。又はヘルプを表示しました。

1

コマンドラインの書き方に誤りがあります。

2

メモリ不足が発生しました。

3

動作環境の設定に失敗しました。

4

[Ctrl]+[C] による中止要求を受け付けました。

10

保存ファイルの内容に誤りがあります。

11

保存ファイルが見つかりません。

12

保存ファイルの操作でエラーが発生しました。

13

保存ファイルの内容が不正です。

20

ログファイルのパス名に誤りがあります。

21

ログファイルの操作でエラーが発生しました。

40

システムでエラーが発生しました。

90

システムでエラーが発生しました。

(3) メッセージ

-e で指定したパスが長すぎます。

要因

ログファイルのパス名の長さが長過ぎます。

対処

ログファイルのパス名を短くして再実行してください。

-f で指定したパスが長すぎます。

要因

保存ファイルのパス名の長さが長過ぎます。

対処

保存ファイルのパス名を短くして再実行してください。

Usage:adpdaset -f in_file [-t] [-e error_file] [-s] [-h]

要因

コマンドのオプションや引数指定に誤りがあります。

対処

コマンドのオプションや引数を見直して再度実行してください

エラー出力先ファイルにアクセスエラーが発生しました。(path=XXXXXX,line=XX)

要因

ログファイルの操作でエラーが発生しました。

対処

コマンドを実行したときにログファイルにアクセスできるか見直して再実行してください。

エラー出力先ファイルのパス名に誤りがあります。(path=XXXXXX)

要因

引数で指定したログファイルのパス名に誤りがあります。

対処

ログファイルのパスが正しいか見直して再実行してください。

環境変数の設定に失敗しました (kind = XXX,ret = XX,errno = XX)。

要因

内部の環境変数設定に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

処理の中止要求を受け付けました。

要因

ユーザからの注意要求 (Ctrl-C) を受け付けました。

対処

回復状態を確認して、必要ならば再実行してください。

任意情報定義ファイルが見つかりません。(path=XXXXXX)

要因

保存ファイルが見つかりませんでした。

対処

f オプションで指定した値が正しいか見直して再実行してください。

任意情報定義ファイルで入出力エラーが発生しました。(path=XXXXXX,line=XX)

要因

保存ファイルの操作でエラーが発生しました。

対処

コマンドを実行したときに保存ファイルにアクセスできるか見直して再実行してください。

任意情報定義ファイルにアクセスエラーが発生しました。(path=XXXXXX)

要因

保存ファイルの操作でエラーが発生しました。

対処

コマンドを実行したときに保存ファイルにアクセスできるか見直して再実行してください。

マスタ管理サーバのドメイン名の取得に失敗しました (ret = XX,errno = XX)。

要因

内部のシステムファイルの操作に失敗しました。

対処

システム管理者でログインしているか確認してください。問題がない場合は障害受付窓口に連絡してください。

メモリ不足が発生しました。

要因

サーバの空きメモリが不足しています。

対処

サーバのメモリを増設する、使用していないアプリケーションを終了して空きメモリを増やす、仮想記憶容量を増やすなどの方法でアプリケーションが使用できるメモリ容量を増やしてください。

上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認してください。不

15. ユーザ任意情報の概要

明な場合は障害受付窓口に連絡してください。例えば、「任意情報定義ファイルで XXXXX が長すぎます。」や「任意情報定義ファイルで XXXXX に誤りがあります。」のように、任意情報定義ファイルに関するエラーメッセージの場合、adpdaexp で取得した保存ファイルが壊れている可能性があります。保存ファイルの作成が正常に実行されたか、保存ファイルを改変していないかなど確認してください。また、保存ファイルのバックアップがある場合、バックアップから見出しの値の回復を試みてください。

16 Groupmax Directory Server の概要

Address Server のオプション プログラムプロダクトである P-2446-7L24 Groupmax Directory Server Version 3 の概要について説明します。

16.1 Groupmax Directory Server とは

16.2 Groupmax Directory Server の機能

16.3 導入の前に

16.4 Groupmax Directory Server のインストールとアンインストール

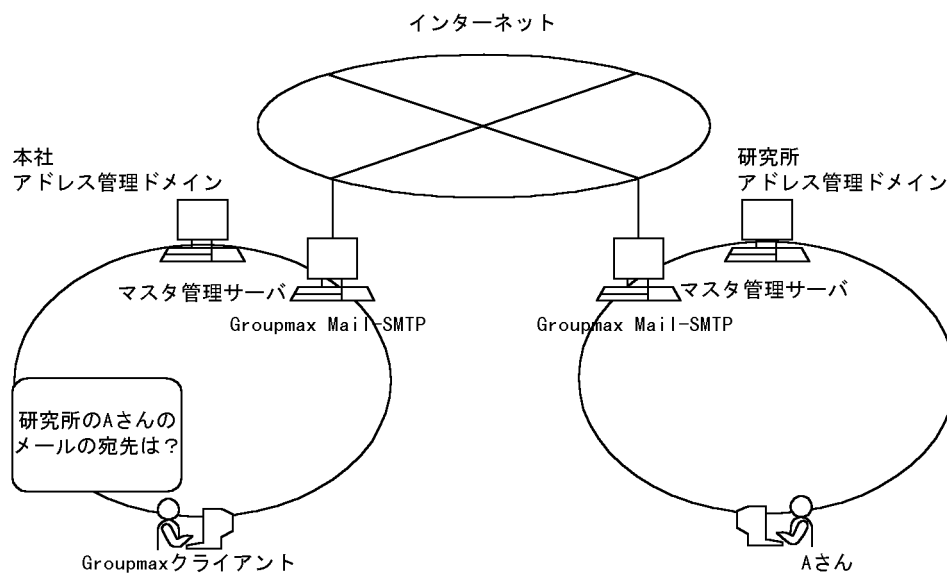
16.1 Groupmax Directory Server とは

Groupmax Directory Server は、複数のアドレス管理ドメイン間でそれぞれのアドレス情報を共有できるようにするためのシステムです。アドレス情報の共有を実現する手段には LDAP を利用しています。

(1) Groupmax Directory Server が導入されていない場合

Groupmax Directory Server が導入されていない場合は、自分が所属しているアドレス管理ドメイン（以降、自アドレス管理ドメインと呼びます）のユーザに関してはアドレス情報（メールの宛先など）を検索できます。しかし、ほかのアドレス管理ドメイン（以降、他アドレス管理ドメインと呼びます）に関してはアドレス情報を検索することはできません。

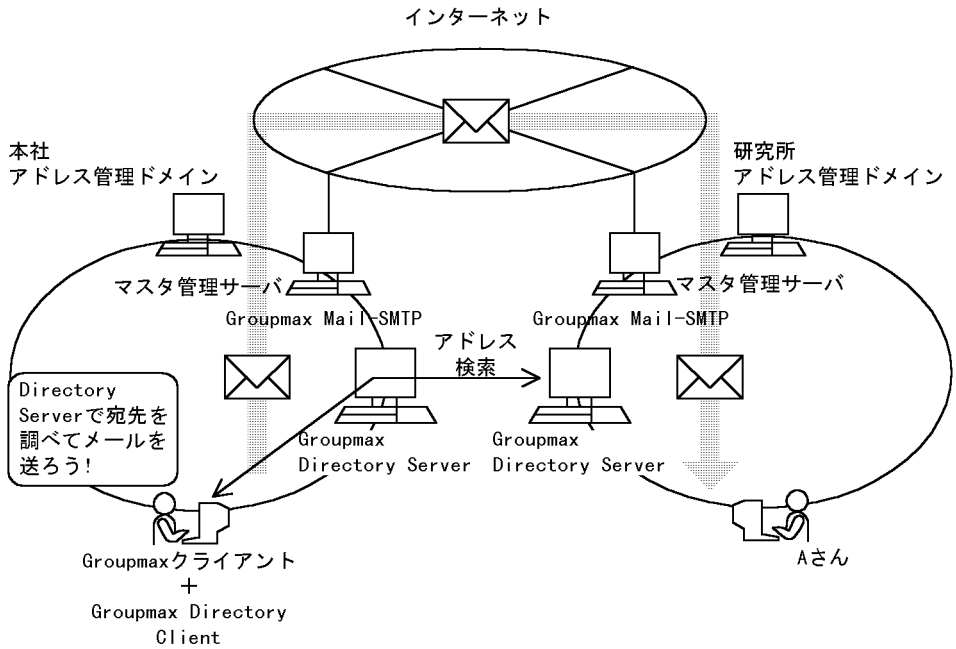
図 16-1 Groupmax Directory Server の導入前



(2) Groupmax Directory Server が導入されている場合

Groupmax Directory Server が導入されていれば、自アドレス管理ドメインだけではなく、Groupmax Directory Server を持つ他アドレス管理ドメインに所属しているユーザのアドレス情報を検索することができます（クライアントには、Groupmax Directory Client が必要です）。

図 16-2 Groupmax Directory Server の導入後



また、Groupmax Directory Server Version 3 から汎用ディレクトリサーバ（Netscape社のディレクトリサーバなど）に登録されているアドレス情報を利用することもできるようになりました。

！ 注意事項

アドレス管理ドメインを越えてメールをやり取りする場合には、インターネットメールの機能を利用する必要があります。Groupmax でインターネットメールの機能を使うには Mail-SMTP が必要です。

16.2 Groupmax Directory Server の機能

Groupmax Directory Server の主な機能は次の五つです。

LDAP によるアドレス情報の公開

Groupmax Directory Server は、LDAP を利用してアドレス管理ドメイン内のアドレス情報を、ほかのアドレス管理ドメインなどから参照できるようにする機能を持っています。

Address Server に登録されているアドレス情報の変換

Groupmax Directory Server は、Address Server に登録されているユーザ、組織の情報を利用してアドレス情報を公開します。ただし、Address Server の情報はそのままでは Groupmax Directory Server に利用できません。このため、Groupmax Directory Server で利用できるように Address Server に登録されているユーザ、組織の情報を変換する機能を持っています。

接続先ディレクトリサーバの登録

Groupmax Directory Server は、接続可能なほかのアドレス管理ドメインの Groupmax Directory Server のホスト名や IP アドレスなどを登録する機能を持っています。

この機能を利用すれば、Groupmax Directory Client は調べたいアドレス情報が登録されている Groupmax Directory Server のホスト名や IP アドレスを意識する必要がありません。

汎用ディレクトリサーバとの接続

Groupmax Directory Server だけでなく、Netscape 社などの汎用ディレクトリサーバが公開しているアドレス情報を、Groupmax Directory Client から参照できるようにする機能を持っています。

Groupmax Directory Client から参照できるアドレス情報の項目と汎用ディレクトリサーバが公開している情報の項目には差異があります。この差異は、Groupmax Directory Server に変換テーブルを用意して、項目同士を対応付けることで解消します。

アドレス情報の変更を自動的に反映する

Groupmax Directory Server は、Address Server に登録されているアドレス情報を変換して公開します。しかし、情報の変換後に発生したアドレス情報の変更（ユーザ、組織などの追加・変更・削除）は、Information Propagator が自動的に Groupmax Directory Server に反映します。

16.3 導入の前に

(1) Address Server のバージョンについて

Groupmax Directory Server を導入する前に、Address Server のバージョンを確認してください。Address Server のバージョンが 02-31 以前の場合、Groupmax Directory Server は動作しません。

(2) Address Server に登録されている情報について

Groupmax Directory Server を導入するためには、Address Server に登録されている情報が次に示す条件を満たしている必要があります。

最上位組織 ID が、英字の大文字と小文字を区別しないでユニークである。

組織 ID が、同じ最上位組織を持つ組織内で、英字の大文字と小文字を区別しないでユニークである。

ユーザ ID、ニックネーム、ユーザ英語姓名が、同じ組織内で、英字の大文字と小文字を区別しないでユニークである。

条件を満たしていない場合は、Address Server の情報を修正してから Groupmax Directory Server を導入してください。

16.4 Groupmax Directory Server のインストールとアンインストール

Groupmax Directory Server のインストールとアンインストールの操作について説明します。

16.4.1 インストール

Groupmax Directory Server は、マスタ管理サーバとマスタ管理サーバ以外のサーバのどちらにもインストールできます。

(1) インストール時の注意事項

Groupmax Directory Server が既にインストールされている場合は、「Groupmax Directory Server」サービスと「Information Propagator」サービスを停止してからインストールしてください。

System Agent が既にインストールされている場合は、System Agent と SNMP (Simple Network Management Protocol) サービスを停止してからインストールしてください。なお、インストール後にシステム統合運用管理機能を使用する場合は、SNMP サービスを再起動してください。

02-30 以前のバージョンに対して更新インストールした場合、必ずセットアップを再実行してください。セットアップを再実行しないと、システム統合運用管理機能から Groupmax Directory Server を正しく操作できない場合があります。

(2) インストール手順

Groupmax Directory Server をインストールするには次の手順に従います。

1. システム管理者のアカウントでログオンします。
2. Groupmax Directory Server の INSTALL.EXE を起動します。
Directory Server インストールダイアログが表示されます。
3. 会社名と個人名を入力して、「開始」を選択します。
インストール先になるディレクトリを指定するダイアログが表示されます。
4. インストール先ディレクトリを指定して、「続行」を選択します。
インストール先ディレクトリについては後述します。
5. 表示された終了確認ダイアログで「終了」を選択します。

次に Groupmax Directory Server のインストール先ディレクトリについて説明します。

インストール先ディレクトリ

Groupmax Directory Server のインストール先ディレクトリは、通常、次の優先順

位でデフォルト値が設定されます。

1. 新規インストールの場合。
 <OS インストールドライブ>:\¥Win32app¥Hitachi¥Groupmax¥Directory
2. 既に Groupmax Directory Server がインストールされている場合
 前回インストールしたディレクトリ

なお、インストール先ディレクトリを変更する場合には、次の形式で指定してください。

ドライブ名:ディレクトリ名

16.4.2 アンインストール

(1) アンインストール時の注意事項

Groupmax Directory Server を運用している環境で、Address Server をアンインストール後に再インストールを行う場合は、Groupmax Directory Server についても一緒にアンインストール及び再インストールを行ってください。

System Agent がインストールされている場合は、System Agent と SNMP サービスを停止してから Groupmax Directory Server をアンインストールしてください。なお、アンインストール後にシステム統合運用管理機能を使用する場合は、SNMP サービスを再起動してください。

アンインストール時には「Groupmax Directory Server」サービス、「Information Propagator」サービスを停止してください。

(2) アンインストール手順

Groupmax Directory Server をアンインストールするには次の手順に従います。

1. < Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ > ¥dirremov.exe を実行します。
 実行後に、インストール先ディレクトリに dirremov.inf が存在するかどうかを確認してください。
 存在しなかった場合
 インストール先ディレクトリ以下のファイルとディレクトリをエクスプローラなどを使って削除してください。
 存在した場合
 レジストリエディタで次のキーが存在するかを確認します。
 HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥GmaxDirectory キー
 キーが存在するときは、キー以下を削除します。その後でインストール先ディレクトリ以下のファイルとディレクトリを削除してください。
2. スナップショットを作成していた場合は、スナップショット作成のスケジュールジョブを以下の方法で削除してください。

16. Groupmax Directory Server の概要

- コマンドプロンプトより at コマンドを入力し、「mksrvsnapshot」を実行するステータス ID (タスク ID) を確認してください。
- 確認したステータス ID を指定して、次のようにコマンドを実行します。
at ステータス ID /delete

17 Groupmax Directory Server のセットアップ

Groupmax Directory Server を運用するために必要なセットアップの操作について説明します。

-
- 17.1 セットアップの流れと注意事項

 - 17.2 構成情報の設定

 - 17.3 レプリケーション情報の設定

 - 17.4 Address Server に登録されているデータの変換

 - 17.5 Groupmax Directory Server へのデータの移行

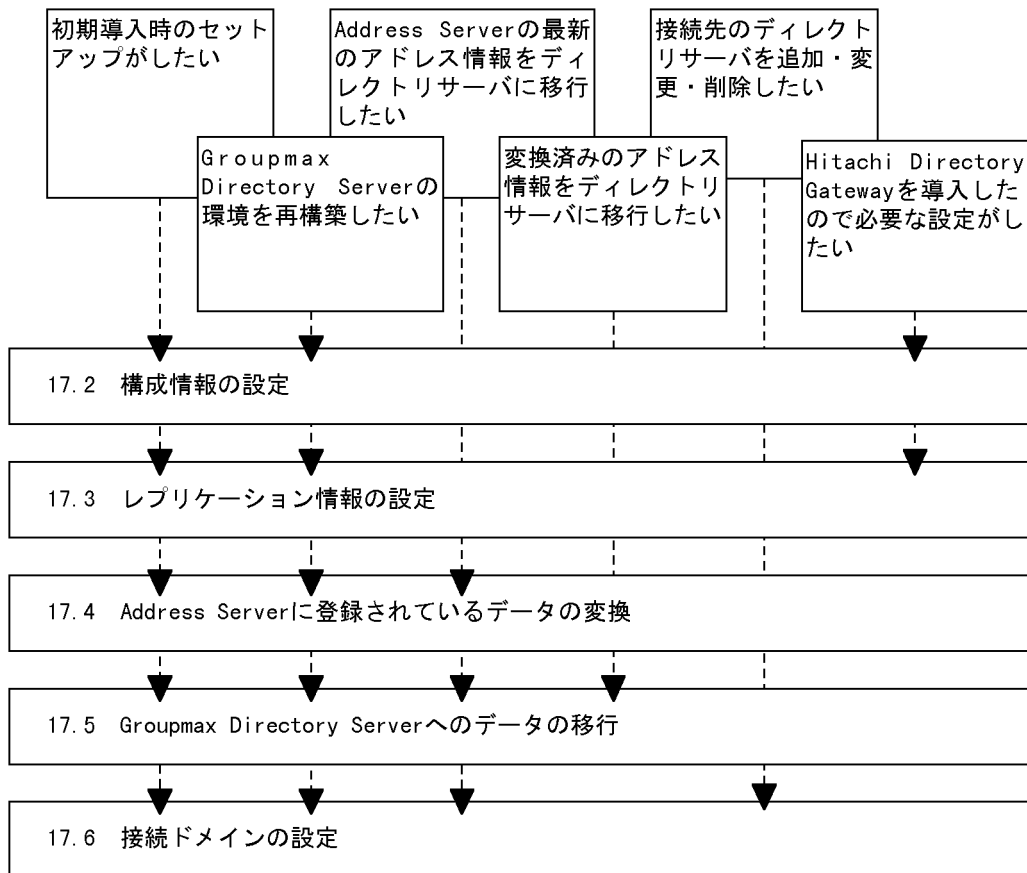
 - 17.6 接続ドメインの設定
-

17.1 セットアップの流れと注意事項

17.1.1 セットアップの流れ

Groupmax Directory Server のセットアップの流れを図 17-1 に示します。セットアップの目的に合わせて の部分を参照してください。

図 17-1 Groupmax Directory Server のセットアップの流れ



17.1.2 セットアップ時の注意事項

セットアップ時の注意事項を、Groupmax Directory Server をマスタ管理サーバにインストールした場合と、マスタ管理サーバ以外にインストールした場合に分けて説明します。

(1) マスタ管理サーバにインストールした場合の注意事項

セットアップ時に、マスタ管理サーバにロックを掛けるため、次のことが実行できま

せん。

- 運転席からの更新操作
- クライアントの PC ユーザ管理からのユーザの登録・削除・変更
- 電子アドレス帳からのユーザ情報の更新
- 下位掲示板の作成・削除
- 一括登録ユティリティの使用

初期導入時のセットアップでは、マスタ管理サーバを一時的に停止する必要があります。このため、上記の制限に加えて次のことも実行できません。

- マスタ管理サーバをホームサーバとしているユーザのログイン

(2) マスタ管理サーバ以外にインストールした場合の注意事項

セットアップ時には、マスタ管理サーバの「Address Server」サービスを起動しておいてください。

セットアップ時には、セットアップを実行しているアドレスサーバの「Address Server」サービスを一時的に停止する必要があります。なお、サービスの停止中は、次のことが実行できません。

- セットアップ中のアドレスサーバをホームサーバとしているユーザのログイン
- 運転席からの更新操作
- クライアントの PC ユーザ管理からのユーザの登録・削除・変更
- 電子アドレス帳からのユーザ情報の更新
- 下位掲示板の作成・削除
- 一括登録ユティリティの使用

17.2 構成情報の設定

構成情報の設定では Groupmax ドメインのドメイン名、管理レベルなどや管理者ログイン名、パスワードなどの情報を設定します。

Groupmax Directory Server の初期導入の場合は、Directory Server セットアップアイコンを起動して構成情報を設定してください。

! 注意事項

マスタ管理サーバ以外のサーバに Groupmax Directory Server をインストールした場合は、そのサーバの「Address Server」サービスを停止する必要があります。

17.2.1 構成情報の設定ダイアログの表示

構成情報は、構成情報の設定ダイアログで設定します。ダイアログは次の操作で表示できます。

Directory Server セットアップアイコンを起動する。

Directory Server セットアップ - 構成情報の設定

Directory サーバの設定

Groupmaxドメイン管理レベル 組織 組織単位

Groupmaxドメインが所属する国名 (C): JP

Groupmaxドメインが所属する組織名 (C): hitachi

Groupmaxドメイン名 (D): soft

ドメインの日本語名称 (Q): ソフトウェア開発本部

管理者ログイン名 (L): manager

管理者パスワード (P): *****

パスワード再入力 *****

データと設定ファイルの格納場所 (S): E:\Groupmax\Directory#config 参照(w)...

OK キャンセル

17.2.2 構成情報の設定ダイアログの項目

構成情報の設定ダイアログから設定できる項目について説明します。

Groupmax ドメイン管理レベル

Groupmax ドメイン管理レベルとは、ディレクトリサーバが X.500 のどの階層を管理しているかを意味するものです。ここでは、Groupmax のドメイン間の管理レベルを組織で行うか、組織単位で行うかを選択します。デフォルトは「組織」です。なお、このダイアログで設定するドメイン関連の項目では、X.500 と Groupmax のそれぞれの階層管理方式をマッピングするルールに従って値を設定します。例えば、日本の会社で、会社内を一つの Groupmax ドメインで管理する場合は、次のようになります。

- Groupmax ドメイン管理レベル : 組織
- Groupmax ドメインが所属する国名 : JP
- Groupmax ドメインが所属する組織名 : (設定できません)
- Groupmax ドメイン名 : 会社名

また、アメリカの会社で、会社内を部単位に複数の Groupmax ドメインで管理する場合は、次のようになります。

- Groupmax ドメイン管理レベル : 組織単位
- Groupmax ドメインが所属する国名 : US
- Groupmax ドメインが所属する組織名 : 会社名
- Groupmax ドメイン名 : 部名

Groupmax ドメインが所属する国名

国名をリストから選択します。

国名を設定しない場合は(なし)を選択します。デフォルトは JP です。

Groupmax ドメインが所属する組織名

Groupmax ドメイン管理レベルで組織単位を選択した場合に設定します。それ以外の場合は設定できません。

Groupmax ドメイン名

ほかと重複しないアドレス管理ドメイン名を、64 文字以内で設定します。

Groupmax Directory Server の初期導入時に必ず設定してください。

ドメインの日本語名称

Groupmax ドメインの日本語名称を、128 文字以内で設定します。設定名称はレジストリに登録されます。セットアップを再実行した場合には、レジストリに登録された値が表示されます。

管理者ログイン名

ディレクトリファイルの管理者のログイン名を設定します。Groupmax Directory Server の初期導入時に必ず設定してください。

17. Groupmax Directory Server のセットアップ

なお、管理者ログイン名は、Groupmax Directory Server 独自のもので、Groupmax Directory Server の管理や Directory データベースのメンテナンスに使用されます。したがって、Windows NT のユーザ管理とは関係ありません。

管理者パスワード

管理者のログイン名に対するパスワードを設定します。このパスワードは、確認のため次の「パスワード再入力」の欄に再度入力してください。

なお、管理者パスワードには " (ダブルクォーテーション) と ¥ は使用できません。

データと設定ファイルの格納場所

ディレクトリファイルと slapd.conf の格納場所を設定します。なお、導入時のデフォルトは OS インストールドライブにある次のディレクトリです。

< Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ > ¥config

「参照」を選択して標準のファイル選択ダイアログからデータと設定ファイルの格納場所を選択することもできます。

17.2.3 構成情報の設定ダイアログでの操作

初期導入の場合は、「17.2.2 構成情報の設定ダイアログの項目」で説明した項目を設定した後「OK」を選択してください。

! 注意事項

初期導入で設定した「Groupmax ドメインが所属する国名」、「Groupmax ドメインが所属する組織名」、「Groupmax ドメイン名」、「ドメインの日本語名称」は、アンインストールしてから再インストールしないかぎり変更できません。設定に誤りがないかを確認してください。

初期導入以外の場合は「管理者ログイン名」と「管理者パスワード」だけが変更できません。必要な項目を変更した後、「OK」を選択してください。

「OK」を選択すると、レプリケーション情報の設定ダイアログが表示されます。このダイアログについては、「17.3 レプリケーション情報の設定」を参照してください。

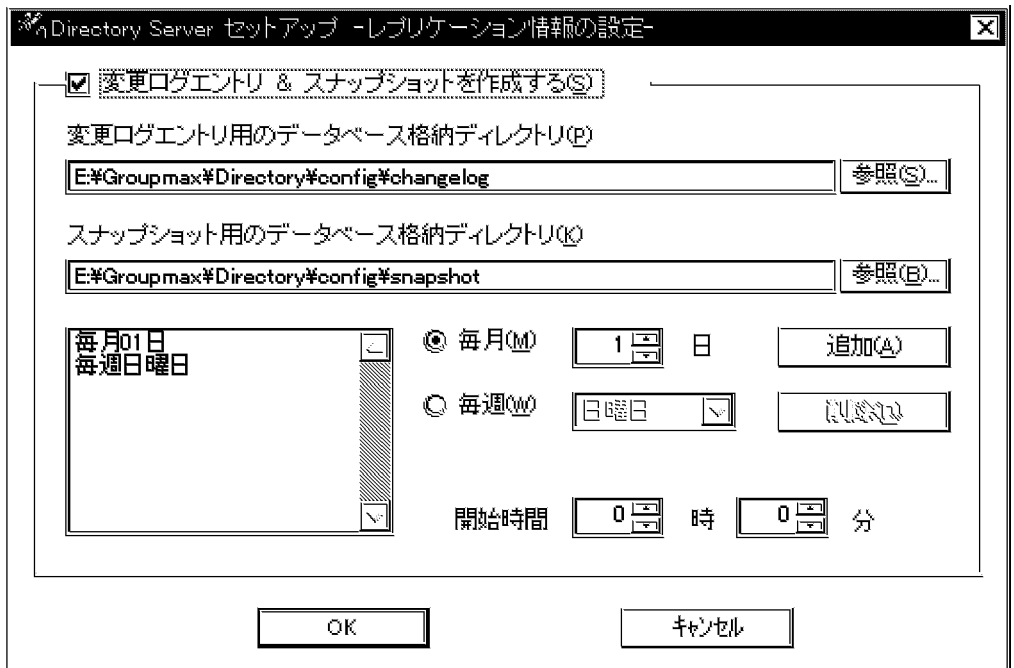
17.3 レプリケーション情報の設定

レプリケーション情報の設定では、Hitachi Directory Gateway が導入されている場合に必要になる情報を設定します。Hitachi Directory Gateway は、他アドレス管理ドメインのアドレス情報を高速に検索できるようにするソフトウェアです。詳細は、マニュアル「日立ディレクトリサービス 管理者ガイド」を参照してください。

17.3.1 レプリケーション情報の設定ダイアログの表示

レプリケーション情報は、レプリケーション情報の設定ダイアログで設定します。ダイアログは、次の操作で表示できます。

Directory Server セットアップアイコンを起動後、構成情報の設定ダイアログで「OK」を選択する。



17.3.2 レプリケーション情報の設定ダイアログの項目

レプリケーション情報の設定ダイアログから設定できる項目について説明します。

変更ログエントリ&スナップショットを作成する

変更ログエントリとスナップショットを作成する場合にチェックします。

変更ログエントリとは、自アドレス管理ドメインの登録情報の変更部分（ユーザや組織の追加・変更・削除など）を集めたものです。変更ログエントリがあれば、変更があった場合に登録情報をすべて更新しなくても、変更ログエントリの内容を反

映するだけでデータベースを最新の状態にできます。

スナップショットとは、自アドレス管理ドメインの登録情報の中でアドレス管理ドメイン間接続をした場合に必要になる属性だけを集めたものです。自アドレス管理ドメインの登録情報に比べて、登録情報から必要な属性だけを集めたスナップショットはデータのサイズが小さくなります。

変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリ

変更ログエントリが格納されるディレクトリを指定します。デフォルトは < Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ > ¥config¥changelog です。

スナップショット用のデータベース格納ディレクトリ

スナップショットが格納されるディレクトリを指定します。デフォルトは < Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ > ¥config¥snapshot です。

スナップショット作成日と開始時間の設定

作成日の設定は、「毎月」又は「毎週」を選択して指定します。

「毎月」を選択した場合は、毎月何日にスナップショットを作成するかを指定してください。

「毎週」を選択した場合は、毎週何曜日にスナップショットを作成するかを指定してください。

作成日を指定してから「追加」を選択するとリストボックスに作成日が表示されます。なお、スナップショット作成日は複数設定できます。削除する場合は、リストボックスから作成日を選んだ状態で、「削除」を選択してください。

開始時間は「時」と「分」で指定します。指定した時間からスナップショットの作成が開始されます。なお、開始時間はリストボックスに表示されたすべての作成日に対して有効になります。

！ 注意事項

スナップショットの作成日の指定は OR 条件です。「毎月 4 日」と「毎週土曜日」にスナップショットを作成するように設定した場合、その月に 4 日は 1 回、土曜日は 4 回あればスナップショットは 5 回作成されます。ただし、4 日と土曜日が重なっていたときには、スナップショットの作成回数は 1 回減って 4 回になります。

17.3.3 レプリケーション情報の設定ダイアログでの操作

！ 注意事項

Hitachi Directory Gateway が導入されていない場合は、「変更ログエントリ&スナップショットを作成する」がチェックされていないことを確認してから「OK」を選択してください。

「17.3.2 レプリケーション情報の設定ダイアログの項目」で説明した項目を設定した後

「OK」を選択します。

初期導入時には、構成情報の設定ダイアログで設定した内容を確認するダイアログが表示されます。

！ 注意事項

構成情報の設定ダイアログで設定した「Groupmax ドメインが所属する国名」、「Groupmax ドメインが所属する組織名」、「Groupmax ドメイン名」、「ドメインの日本語名称」は、アンインストールしてから再インストールしないかぎり変更できません。

設定に誤りがない場合は「OK」を選択してください。誤りがある場合は、「キャンセル」を選択して、構成情報を設定し直してください。

マスタ管理サーバに Groupmax Directory Server をインストールしている場合

「Address Server のサービスを再起動する必要があります。再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

- 「OK」を選択すると、「Address Server」サービスを再起動します。
「Address Server」サービスの再起動が完了すると、Address-Directory Data Converter ダイアログが表示されます。
- 「キャンセル」を選択すると、「Address Server」サービスを再起動しないでセットアップを終了します。

注意

次の場合には、「OK」を選択して「Address Server」サービスを再起動すると障害が発生することがあります。そのため、「キャンセル」を選択して手動で「Address Server」サービスを再起動した後、セットアップを再実行してください。

- 「Address Server」サービスの動作を前提とするサービス（SMTP メール接続など）を利用している場合
- 「Address Server」サービスの起動時に、手動でサイトを起動している場合

マスタ管理サーバ以外に Groupmax Directory Server をインストールしている場合

Address-Directory Data Converter ダイアログが表示されます。

Address-Directory Data Converter ダイアログについては、「17.4 Address Server に登録されているデータの変換」を参照してください。

17.4 Address Server に登録されているデータの変換

Address Server に登録されているデータの変換では、Address Server（正確にはマスタ管理サーバの Address Master データベース）に登録されている最上位組織、組織、ユーザのデータを、Groupmax Directory Server で使えるデータに変換します。変換したデータは、一時ファイルに保存されます。

！ 注意事項

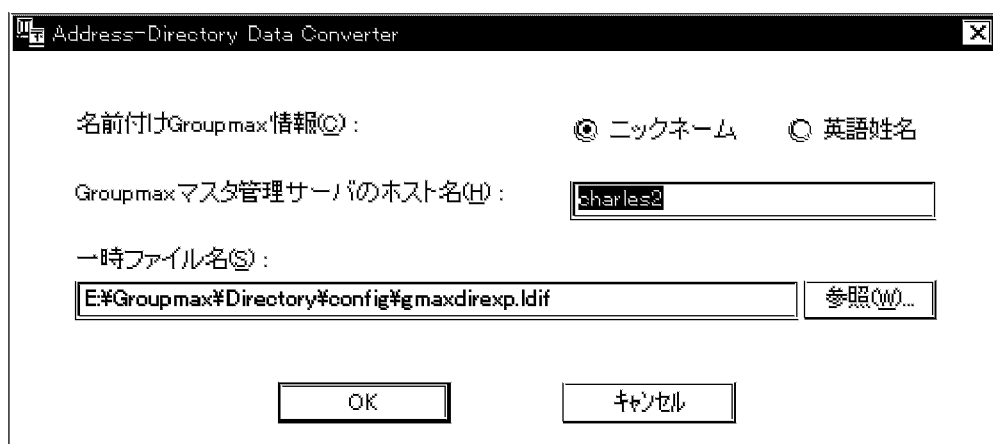
マスタ管理サーバからデータを取り出すため、マスタ管理サーバの「Address Server」サービスを起動しておく必要があります。また、マスタ管理サーバ以外に Groupmax Directory Server をインストールした場合は、インストールしたサーバの「Address Server」サービスを停止する必要があります。

17.4.1 Address - Directory Data Converter ダイアログの表示

データの変換は、Address - Directory Data Converter ダイアログで実行します。ダイアログは次の操作で表示できます。

Directory Server セットアップアイコンを起動して操作してきた場合は、構成情報の設定ダイアログとレプリケーション情報の設定ダイアログで「OK」を選択する。

Directory データコンバータアイコンを起動する。



17.4.2 Address - Directory Data Converter ダイアログの項目

Address - Directory Data Converter ダイアログから設定できる各項目について説明します。

名前付け Groupmax 情報

ニックネームか英語姓名のどちらかを選択します。

Address Server に英語姓名が ICHIROU TANAKA , ニックネームが I.TANAKA という人物が登録されていたとします。

ニックネームを選択した場合、この人物の CN は I.TANAKA になります。

英語姓名を選択した場合、この人物の CN は ICHIROU TANAKA になります。

Groupmax マスタ管理サーバホスト名

マスタ管理サーバのホスト名を、255 文字以内で設定します。また、ホスト名の代わりに IP アドレスで指定することもできます。初期導入時に必ず設定してください。ここで設定したホスト名は、以後デフォルトとなります。

なお、ホスト名に変更があった場合には、設定し直してください。

一時ファイル名

変換したデータを格納する一時ファイルの名称を設定します。導入時のデフォルトは次の名称です。

< Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ >

¥config¥gmdirexp.ldif

「参照」を選択して標準のファイル選択ダイアログから一時ファイル名を選択することもできます。

17.4.3 Address - Directory Data Converter ダイアログでの操作

「17.4.2 Address - Directory Data Converter ダイアログの項目」で説明した項目を設定した後「OK」を選択します。データの変換処理が始まり、Address-Directory Data Converter の状況出力ダイアログが表示されます。変換処理が正常に終了すると、Address-Directory Data Converter セットアップダイアログが表示されます。このダイアログについては、「17.5 Groupmax Directory Server へのデータの移行」を参照してください。

17.5 Groupmax Directory Server へのデータの移行

Groupmax Directory Server へのデータの移行では、「17.4 Address Server に登録されているデータの変換」で変換したデータを Groupmax Directory Server に移行します。

! 注意事項

Groupmax Directory Server にデータを移行するため、「Groupmax Directory Server」サービスを停止する必要があります。

17.5.1 Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの表示

データの移行は、Address-Directory Data Converter セットアップダイアログで実行します。ダイアログは、次の操作で表示できます。

Address-Directory Data Converter ダイアログでデータの変換を実行する。
変換が終了するとダイアログが表示されます。

Directory インポートユティリティアイコンを起動する。



17.5.2 Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの項目

Address - Directory Data Converter セットアップダイアログから設定できる項目について説明します。

移行するファイル名

Address-Directory Data Converter ダイアログで変換したデータのファイル名を指定します。デフォルトでは、Address-Directory Data Converter ダイアログで最後に変換したファイル名が自動的に設定されています。

「参照」を選択して標準のファイル選択ダイアログからファイルを選択することもで

きます。

17.5.3 Address - Directory Data Converter セットアップダイアログでの操作

「移行するファイル名」にファイル名を指定した後、「OK」を選択します。

初期導入の場合は、データが Groupmax Directory Server に移行されます。

初期導入以外の場合で、既にデータを Groupmax Directory Server に移行したことがあるときは、「データファイルが存在します。上書きしますか？」というメッセージが表示されます。既存のデータを残したい場合、「キャンセル」を選択して移行処理を行わないようにしてください。「OK」を選択すると、既存のデータに上書きしてデータが移行されます。

また、既に接続ドメインの設定をしたことがあるときは、「接続ドメインの設定を引継ぎますか？」というメッセージが表示されます。設定を引き継ぐ場合、「OK」を選択します。設定を引き継がない場合、「キャンセル」を選択します。

Directory Server セットアップアイコンを起動してここまで操作してきた場合

データの移行が完了すると「Groupmax Directory Server」サービスを起動するかを確認する「Directory サーバを起動しますか？」というメッセージが表示されます。

「OK」を選択するとサービスが起動されます。

サービスが起動すると「接続ドメインの接続先アドレスを設定しますか？」というメッセージが表示されます。「OK」を選択すると接続ドメイン一覧ダイアログが表示されます。このダイアログについては「17.6 接続ドメインの設定」を参照してください。

Directory データコンバータ又は Directory インポートユティリティアイコンを起動して操作してきた場合

データの移行が完了するとセットアップが終了します。

17.6 接続ドメインの設定

接続ドメインの設定では、接続する他アドレス管理ドメインの Groupmax Directory Server の追加・変更・削除ができます。

また、Groupmax Directory Server Version 3 からは、他アドレス管理ドメインの Groupmax Directory Server だけではなく、Netscape 社のディレクトリサーバなどの汎用ディレクトリサーバを追加・変更・削除することもできます。

! 注意事項

接続ドメインの設定をする場合は、「Groupmax Directory Server」サービスを起動しておく必要があります。

17.6.1 接続ドメイン一覧ダイアログの表示

接続ドメインの設定は、接続ドメイン一覧ダイアログで行います。ダイアログは次の操作で表示できます。

Directory Server セットアップアイコンを起動後、Address - Directory Data Converter セットアップダイアログでデータの移行までを実行する。

ドメイン情報設定ユーティリティアイコンを起動する。
アイコンを起動すると次のダイアログが表示されます。

接続ドメインのアドレス設定

管理者のDN(D):

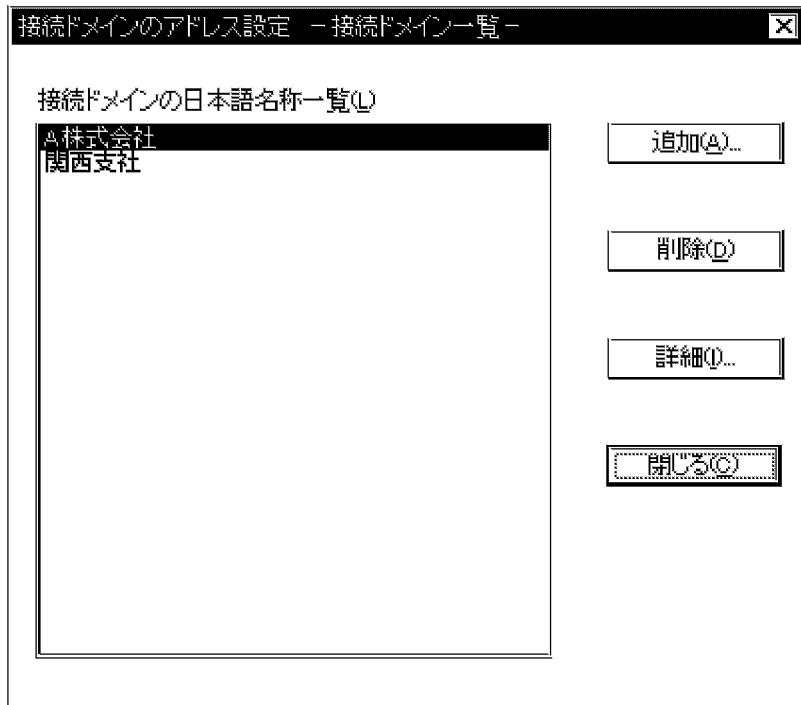
管理者のパスワード(P):

ドメインのホスト名(H):

サービス名(ポート番号)(S):

ダイアログの管理者のパスワードに「17.2 構成情報の設定」で設定した管理者パスワードを設定します。必要な項目を設定して「OK」を選択すれば、接続ドメイン一覧ダイアログが表示されます。

次に接続ドメイン一覧ダイアログを示します。



17.6.2 接続ドメインの追加・変更・削除の操作

接続するドメインのディレクトリサーバを追加・変更・削除する操作を説明します。

！ 注意事項

Groupmax Directory Client で自アドレス管理ドメイン内の宛先検索を行うためには、自アドレス管理ドメインの Groupmax Directory Server の情報を入力してください。初期導入の場合には、最初に「追加」を選択すると自アドレス管理ドメインの情報を入力できます。

追加，変更の場合

1. 「追加」，又は「詳細」を選択します。
 接続するアドレス管理ドメインの情報を新規に追加する場合は、「追加」を選択します。ドメインの情報を変更する場合は、接続ドメインの日本語名称一覧からドメインを選択した後、「詳細」を選択します。
 接続ドメイン設定ダイアログが表示されます。
2. 接続ドメイン設定ダイアログの項目を設定します。
 項目の詳細は、「17.6.3 接続ドメイン設定ダイアログの項目」を参照してください。
3. 「追加」，「更新」又は「スキーマ設定」を選択します。
 接続するドメインのディレクトリサーバが Groupmax Directory Server の場合は、「追加」又は「更新」を選ぶと接続ドメインの追加・変更は終了です。

汎用ディレクトリサーバの場合は、「スキーマ設定」を選択します。以降の操作については「17.6.4 スキーマの設定」を参照してください。

削除の場合

ドメインの情報を削除する場合は、接続ドメインの日本語名称一覧からドメインを選択した後、「削除」を選択します。

17.6.3 接続ドメイン設定ダイアログの項目

次に示す接続ドメイン設定ダイアログの項目について説明します。

接続ドメインの日本語名称

接続するドメインの日本語名を設定します。Groupmax Directory Client にもここで指定した日本語名が表示されるため、次の点に注意して名称を設定してください。

- Groupmax Directory Client のユーザが見て、ドメインを識別できるようにする
- ドメインのディレクトリサーバが、Groupmax Directory Server なのか汎用ディレクトリサーバなのか分かるようにする

接続ドメインのホスト名

接続するドメインのディレクトリサーバのホスト名又は IP アドレスを、255 文字以内で設定します。

ホスト名で設定するには、Groupmax Directory Client がインストールされているすべての PC の hosts ファイルに、接続するドメインのディレクトリサーバのホスト名と IP アドレスの対応を記述する必要があります。

ただし、Groupmax Directory Client から DNS サーバを参照することで、ホスト名と IP アドレスの対応付けができる場合は、hosts ファイルに接続ドメインのホスト

名と IP アドレスの対応を記述する必要はありません。

接続ドメインのサービス名 (ポート番号)

接続するドメインのディレクトリサーバのサービス名、又はポート番号を設定します。この項目は、省略できます。省略した場合は、デフォルト値 (ポート番号: 389) が設定されます。

サービス名で設定するには、Services ファイルにサービス名とポート番号の対応を記述する必要があります。

接続ドメインの DN

DN(Distinguished Name) とは、ディレクトリサーバに登録されたエントリ情報の識別名のことです。

接続するドメインのディレクトリサーバが Groupmax Directory Server の場合は、その Groupmax Directory Server で「17.2 構成情報の設定」で設定した各項目を組み合わせて設定してください。自アドレス管理ドメインの Groupmax Directory Server の情報については、Directory Server セットアップアイコンを起動して確認してください。自アドレス管理ドメイン以外については、その Groupmax Directory Server の管理者に問い合わせしてください。

次に設定例を幾つか示します。なお、例では、設定されている各項目の値を最初に示し、続いて対応する DN の例を挙げています。また、各項目の値の順番は次のとおりです。

ドメイン管理レベル：ドメインが所属する国名：ドメインが所属する組織名：ドメイン名

(設定例)

- 組織：なし：(設定されない)：会社名
o=会社名
- 組織：J P：(設定されない)：会社名
o=会社名,c=JP
- 組織単位：なし：会社名：部名
ou=部名,o=会社名
- 組織単位：J P：会社名：部名
ou=部名,o=会社名,c=JP

接続するのが汎用ディレクトリサーバの場合は、そのディレクトリサーバの管理者に「suffix」を問い合わせ設定してください。

優先メールボックス

優先メールボックスには、次のリスト項目が設定されていますので、必要に応じて選択してください。ただし、この項目はディレクトリサーバタイプが「Groupmax Directory Server」の場合にだけ有効です。

(なし)：

Groupmax Directory Client の外部宛先台帳から、ユーザが検索できなくなります。ユーザ一覧も出力されません。

17. Groupmax Directory Server のセットアップ

mail :

SMTP アドレスだけを使用します。

textEncodedORAddress :

O/R 名だけを使用します。

ディレクトリサーバタイプ

ディレクトリサーバタイプには、次のリスト項目が設定されていますので、必要に応じて選択してください。LDAP Directory Server を選択した場合は、スキーマの設定が必要です。「スキーマ設定」を選択してください。スキーマの設定については、「17.6.4 スキーマの設定」を参照してください。

Groupmax Directory Server :

接続ドメインのディレクトリサーバが Groupmax Directory Server の場合に選択してください。

LDAP Directory Server :

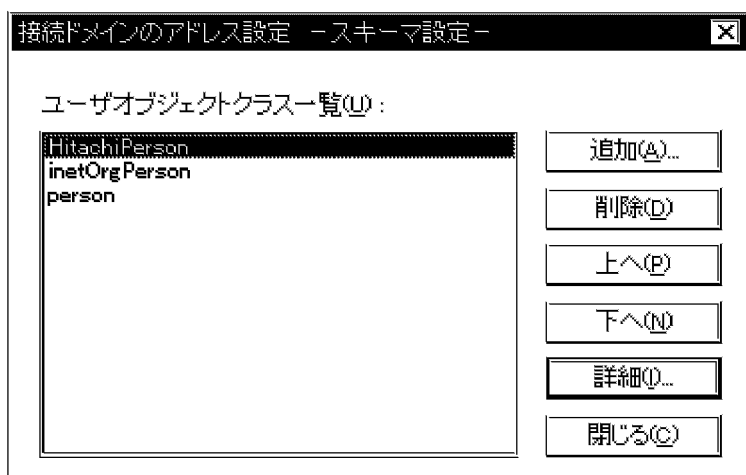
接続ドメインのディレクトリサーバが汎用ディレクトリサーバ (Netscape 社のディレクトリサーバなど) の場合に選択してください。

17.6.4 スキーマの設定

汎用ディレクトリサーバのユーザを検索するためのスキーマ (定義規則) を設定します。

(1) スキーマ設定ダイアログ

接続ドメイン設定ダイアログで「スキーマ設定」を選択すると、スキーマ設定ダイアログが表示されます。



スキーマの設定を追加する場合

「追加」を選択します。スキーマ詳細設定ダイアログが表示されます。このダイアログでの操作については「(2) スキーマ詳細設定ダイアログ」を参照してください。

スキーマの設定を参照・変更する

「詳細」を選択します。スキーマ詳細設定ダイアログが表示されます。このダイアログでの操作については「(2) スキーマ詳細設定ダイアログ」を参照してください。

スキーマの設定を削除する

ユーザオブジェクトクラス一覧から削除したいオブジェクトクラスを選んだ状態で「削除」を選択する。

オブジェクトクラスの優先順位を変更する

ユーザオブジェクトクラス一覧では、上に表示されるオブジェクトクラスほど優先順位が高くなります。優先順位を変更するには、変更したいオブジェクトクラスを選んだ状態で「上へ」又は「下へ」を選択します。

(2) スキーマ詳細設定ダイアログ

スキーマ設定ダイアログで「追加」又は「詳細」を選択するとスキーマ詳細設定ダイアログが表示されます。

オブジェクトクラスが登録されていない状態で「追加」を選択した場合

「ユーザオブジェクトクラス」と属性名の対応付けの各項目にデフォルト値が設定されたダイアログが表示されます（下に示したダイアログに設定されているのがデフォルト値です）。

オブジェクトクラスが登録されている状態で「追加」を選択した場合

属性名の対応付けの各項目にだけデフォルト値が設定されたダイアログが表示されます。

「詳細」を選択した場合

設定済みの情報が表示されます。なお、ダイアログ中央のボタンは「更新」に変わります。

接続ドメインのアドレス設定 - スキーマ詳細設定 -

*ユーザオブジェクトクラス(O):

- 属性名の対応付け -

名前(N):	<input type="text"/>
英語姓(S):	<input type="text" value="sn"/>
英語名(O):	<input type="text" value="givenName"/>
ニックネーム(N):	<input type="text" value="initials"/>
*メールアドレス(M):	<input type="text" value="mail"/>
役職(P):	<input type="text" value="title"/>
電話番号(T):	<input type="text" value="telephoneNumber"/>
専用線番号(O):	<input type="text"/>
ファックス番号(F):	<input type="text" value="facsimileTelephoneNumber"/>
テレックス番号(X):	<input type="text"/>
アンサバック番号(B):	<input type="text"/>
組織略称(R):	<input type="text"/>

注意

- スキーマ詳細設定ダイアログでは、Groupmax Directory Client から参照できる項目（名前、メールアドレスなど）に対して、汎用ディレクトリサーバでどんな属性名が付けられているかを設定します。接続する汎用ディレクトリサーバの管理者に問い合わせて、設定する内容に誤りがないようにしてください。誤りがあった場合は、検索ができません。
- *（アスタリスク）が付いた項目（「ユーザオブジェクトクラス」と「メールアドレス」）が必須項目です。それ以外はオプション項目です。オプション項目は、設定を省略することもできます。ただし、Groupmax Directory Client の外部宛先台帳で検索項目として指定できる「名前」、「英語姓」、「英語名」、「ニックネーム」、及び「役職」については設定することを推奨します。
- Groupmax Directory Client の外部宛先台帳からユーザを参照する場合、名前の項目には、次の優先順位で情報が表示されます。
 - (1)「名前」
 - (2)「ニックネーム」
 - (3) "cn" 属性
 例えば、「名前」に属性を割り当てていない場合や割り当てた属性の値がない場合は、「ニックネーム」が表示されます。「ニックネーム」もない場合は、「cn」属性の値が表示されます。

ユーザオブジェクトクラス

ユーザが属するオブジェクトクラス名を設定します。一つの接続ドメイン情報に同一のオブジェクトクラス名を登録することはできません。(必須項目)

名前

ユーザの日本語名に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

英語姓

ユーザの英語姓に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

英語名

ユーザの英語名に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

ニックネーム

ユーザのニックネームに割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

メールアドレス

ユーザのメールアドレスに割り当てられた属性名を設定します。(必須項目)

役職

ユーザの役職に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

電話番号

ユーザの電話番号に割り当てられた属性名を設定します。電話番号と専用線番号が一つの属性にマルチバリューとして格納されている場合は、電話番号と専用線番号に同一の属性名を設定してください。この場合、マルチバリューで格納された中で「+」で始まる値が電話番号に、「+」で始まらない値が専用線番号となります。通常、「+」で始まる電話番号は国際表記フォーマット電話番号です。(オプション項目)

例 日本表記：0123-45-6789

国際表記：+81-0123-45-6789

専用線番号

ユーザの専用線番号に割り当てられた属性名を設定します。電話番号と専用線番号が一つの属性にマルチバリューとして格納されている場合は、電話番号と専用線番号に同一の属性名を設定してください。この場合、マルチバリューで格納された中で「+」で始まる値が電話番号に、「+」で始まらない値が専用線番号となります。通常、「+」で始まる電話番号は国際表記フォーマット電話番号です。(オプション項目)

例 日本表記：0123-45-6789

国際表記：+81-0123-45-6789

ファックス番号

ユーザのファックス番号に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

テレックス番号

ユーザのテレックス番号に割り当てられた属性名を設定します。テレックス番号と

17. Groupmax Directory Server のセットアップ

アンサバック番号が、IETF RFC 1778 "telexNumber" 属性構文に基づいて一つの属性として定義されている場合は、テレックス番号とアンサバック番号に同一の属性名を設定してください。構文に従ってテレックス番号とアンサバック番号を取得します。これに対して、IETF RFC 1778 "telexNumber" 属性構文に基づいていない場合は、それぞれ別の属性名を設定してください。(オプション項目)

アンサバック番号

ユーザのアンサバック番号に割り当てられた属性名を設定します。テレックス番号とアンサバック番号が、IETF RFC 1778 "telexNumber" 属性構文に基づいて一つの属性として定義されている場合は、テレックス番号とアンサバック番号に同一の属性名を設定してください。構文に従ってテレックス番号とアンサバック番号を取得します。これに対して、IETF RFC 1778 "telexNumber" 属性構文に基づいていない場合は、それぞれ別の属性名を設定してください。(オプション項目)

組織略称

ユーザの組織略称に割り当てられた属性名を設定します。(オプション項目)

18 Groupmax Directory Server の運用

Groupmax Directory Server の運用に関する事項について説明します。

-
- 18.1 Groupmax Directory Server の起動と終了

 - 18.2 Groupmax Directory Server サービスのオプション

 - 18.3 Information Propagator サービスのオプション

 - 18.4 ポート番号を変更して運用する

 - 18.5 システム統合運用管理機能から起動・停止した場合のパラメタ設定

 - 18.6 Groupmax Directory Server 導入後の Address Server の運用

 - 18.7 Mail - SMTP との連携時の運用
-

18.1 Groupmax Directory Server の起動と終了

ここでは、Groupmax Directory Server の起動と終了の操作について説明します。

18.1.1 Groupmax Directory Server の起動

Groupmax Directory Server を起動するには、「Groupmax Directory Server」サービスと「Information Propagator」サービスを起動します。

(1) 「Groupmax Directory Server」サービスの起動

「Groupmax Directory Server」サービスを起動するには、次の手順に従ってください。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動します。
2. サービスリストから「Groupmax Directory Server」サービスを選択します。
3. 「開始」ボタンを選択します。

なお、スタートアップに登録すれば自動起動することができます。この場合、シャットダウン時に自動的にサービスを終了します。

(2) 「Information Propagator」サービスの起動

「Information Propagator」サービスは、運用中に Address Server に発生した最上位組織、組織、ユーザの追加・削除・変更などの情報を Groupmax Directory Server へ反映するサービスです。

「Information Propagator」サービスを起動するには、次の手順に従ってください。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動します。
2. サービスリストから「Information Propagator」サービスを選択します。
3. 「開始」ボタンを選択します。

なお、スタートアップに登録すれば自動起動することができます。この場合、シャットダウン時に自動的にサービスを終了します。

また、「Information Propagator」サービスを起動する前に「Groupmax Directory Server」サービスを起動してください。「Groupmax Directory Server」サービスが起動していない状態で Information Propagator を起動すると「Information Propagator サービスはサービス固有のエラー 2005 を返しました」というエラーを出力して起動に失敗します。

! 注意事項

「Information Propagator」サービスを停止する場合に、メッセージ「KDGA20001-W データの反映に失敗しました。」が表示されているときは、メッセージボックスを閉じてからサービスを停止してください。

18.1.2 Groupmax Directory Server の終了

Groupmax Directory Server を終了する場合には、「Groupmax Directory Server」サービスと「Information Propagator」サービスを終了します。次の手順に従ってください。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動します。
2. サービスリストからサービスを選択します。
「Groupmax Directory Server」サービス又は「Information Propagator」サービスを選択してください。
3. 「停止」ボタンを選択します。

18.2 Groupmax Directory Server サービスのオプション

「Groupmax Directory Server」サービスの起動方法については、既に説明しました。ここでは、「Groupmax Directory Server」サービスの起動時に指定できる三つのオプションについて説明します。

! 注意事項

オプションを指定できるのは「Groupmax Directory Server」サービスを手動で起動する場合だけです。

18.2.1 動作状況をログファイルに出力する

クライアントからの Groupmax Directory Server に対するリクエストとその結果をログファイルに出力するオプションについて説明します。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動して、サービスリストから「Groupmax Directory Server」サービスを選択します。
2. サービスを選択した状態で、スタートアップパラメタにオプションを設定します。次のように設定してください。

/1 ログファイル名

ログファイル名には、出力するログファイルの名称を絶対パスで設定してください。なお、ログファイル名のディレクトリの区切りには ¥ではなく / を使用してください。

例

```
/1 c:/temp/slaped.log
```

3. 「開始」ボタンを選択してサービスを起動します。

! 注意事項

ログファイルには、Groupmax Directory Server の動作状況が追加モードで出力されます。このため、ログファイルのサイズが増大してディスク容量を圧迫する可能性があります。ログファイルのサイズが大きくなった場合は、Groupmax Directory Server を停止してログファイルを削除してください。

18.2.2 構成定義ファイルを指定して起動する

デフォルトでは、インストール直後に実行した構成情報のセットアップで指定した「データと設定ファイルの格納場所」にある slapd.conf の構成を使って「Groupmax

Directory Server」サービスは起動します。

デフォルト以外の構成定義ファイルで「Groupmax Directory Server」サービスを起動する方法について説明します。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動して、サービスリストから「Groupmax Directory Server」サービスを選択します。
2. サービスを選択した状態で、スタートアップパラメタにオプションを設定します。次のように設定してください。

/f 構成定義ファイル名

構成定義ファイル名には、使用する構成定義ファイルの名称を絶対パスで設定してください。なお、構成定義ファイル名のディレクトリの区切りには ¥ではなく / を使用してください。

例

```
/f c:/GmaxDir/DirDB/slapd.conf
```

3. 「開始」ボタンを選択してサービスを起動します。

18.2.3 Groupmax Directory Server サービスのポート番号を一時的に変更する

デフォルトでは、ポート番号に「389」(LDAP プロトコルウェルノウンポート)を使用して「Groupmax Directory Server」サービスはLDAP リクエストを受け付けます。

デフォルト以外のポート番号で、一時的に「Groupmax Directory Server」サービスを起動する方法について説明します。クライアントからの接続確認などをする場合に、この方法でポート番号を一時的に変更してください。ポート番号を変更したまま運用し続ける場合については、「18.4 ポート番号を変更して運用する」を参照してください。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動して、サービスリストから「Groupmax Directory Server」サービスを選択します。
2. サービスを選択した状態で、スタートアップパラメタにオプションを設定します。次のように設定してください。

/p ポート番号

ポート番号には、使用するポート番号を設定してください。

3. 「開始」ボタンを選択してサービスを起動します。

! 注意事項

この方法で「Groupmax Directory Server」サービスのポート番号を変更している間は、スナップショットを作成できません。

18.3 Information Propagator サービスのオプション

「Information Propagator」サービスの起動方法については、既に説明しました。ここでは、「Information Propagator」サービスの起動時に指定できるオプションについて説明します。

オプションを指定すれば、一時的に「Information Propagator」サービスにデフォルト以外のポート番号を使用させることができます（デフォルトのポート番号は「389」です）。

「Groupmax Directory Server」サービスのポート番号を一時的に変更した場合は、このオプションを使って「Information Propagator」サービスにも同じ番号を指定してください。

! 注意事項

オプションを指定できるのは「Information Propagator」サービスを手動で起動する場合だけです。

1. コントロールパネルにあるサービスを起動して、サービスリストから「Information Propagator」サービスを選択します。
2. サービスを選択した状態で、スタートアップパラメタにオプションを設定します。次のように設定してください。

/p ポート番号

ポート番号には、使用するポート番号を設定してください。

3. 「開始」ボタンを選択してサービスを起動します。

18.4 ポート番号を変更して運用する

Groupmax Directory Server のポート番号にデフォルト (389) 以外の番号を使用する場合には次の操作が必要です。

ポート番号を services ファイルに追加する

接続ドメインのサービス名 (ポート番号) を変更する

! 注意事項

Groupmax Directory Server のポート番号を変更して運用する場合には、接続する Groupmax Directory Client や他アドレス管理ドメインのディレクトリサーバにもポート番号の変更を反映する必要があります。

(1) ポート番号を services ファイルに追加する

最初に Groupmax Directory Server が利用するサービス名「ldap」と変更するポート番号の対応を services ファイルに追加します。

1. 次の場所にある services ファイルをメモ帳などのエディタで開きます。
 < OS インストール先ディレクトリ > ¥system32¥drivers¥etc¥services ファイル
2. services ファイルに次の行を追加します。
 ldap ポート番号 /tcp
 ポート番号には、Groupmax Directory Server が利用するポート番号を指定します。

! 注意事項

追加した行の最後には必ず改行を入力してください。

(2) 接続ドメインのサービス名 (ポート番号) を変更する

接続ドメインのアドレス設定ダイアログの自アドレス管理ドメインの詳細で services ファイルに定義したポート番号を指定します。

1. 接続ドメインのアドレス設定ダイアログを表示します。
 インストール直後に新規で Groupmax Directory Server のセットアップをする場合は、セットアップの中で接続ドメインのアドレス設定ダイアログが表示されます。また、ドメイン情報設定ユティリティアイコンを起動してもダイアログを表示できます。
2. 詳細情報を設定するダイアログを表示します。
 「追加」ボタンを選択するか、接続ドメインの日本語名称一覧から自アドレス管理ドメインを選んだ後「詳細」ボタンを選択して、詳細情報を設定するダイアログを表示します。

3. 接続ドメインのサービス名（ポート番号）に使用するポート番号を設定します。
services ファイルに指定したポート番号を設定してください。
手順 2 で「追加」ボタンを選択した場合は、その他の項目も設定してください。
4. 「追加」又は「更新」ボタンを選択します。

! 注意事項

ドメイン情報設定ユーティリティアイコンから起動した場合は、管理者の DN、管理者のパスワード、サービス名（ポート番号）を入力するダイアログが表示されます。このダイアログのサービス名（ポート番号）にも、services ファイルに指定したポート番号を入力してください。

18.5 システム統合運用管理機能から起動・停止した場合のパラメタ設定

Groupmax Directory Server は、システム統合運用管理機能を使用して起動・停止できます。

システム統合運用管理機能を使用して Groupmax Directory Server を起動する場合にも、コントロールパネルのサービスのスタートアップパラメタで指定できるパラメタはすべて指定できます。

指定する場合には、次の規則に従ってパラメタを設定してください。

パラメタを指定する際には Groupmax Directory Server , Information Propagator の順で指定してください。Groupmax Directory Server と Information Propagator の区切りには ; (セミコロン) を使用してください。

; (セミコロン) の前後には必ず 1 文字以上の半角スペースを挿入してください。

最後のパラメタには ; (セミコロン) を付加しないでください。

Groupmax Directory Server , Information Propagator で指定するパラメタが複数ある場合には、パラメタ間は半角スペースで区切ってください。

ファイルのパス名に半角スペースを指定する場合には、パス名を " (ダブルクォーテーション) で囲ってください。

スタートアップパラメタと違って、パス名に ¥ を指定する場合には 1 文字でディレクトリの区切りとしてください (¥¥ とは記述しないでください)。

指定するパラメタは、1 行にすべて記述してください。

システム統合運用管理機能を使って起動する場合のパラメタの指定例を次に示します。

例

```
/f "C:¥Program
files¥HITACHI¥Groupmax¥Directory¥config¥slapd.conf" /l C:/temp/
slapd.log /p 30000 ; /p 30000
```

システム統合運用管理機能からサービスの起動・停止を行う場合の注意事項

Groupmax Directory Server のサービスである「Groupmax Directory Server」と「Information Propagator」は、異常が発生するとメッセージボックスを表示する場合があります。その場合には、次のような対処をお願いします。

- Groupmax Directory Server の場合

システム統合運用管理機能から起動しようとした場合に、いつまでも起動処理中、又は停止処理中 (詳細メッセージでは Starting 又は Stopping) になっているときは、Groupmax Directory Server の動作しているコンピュータにメッセージボックスが表示されている可能性があります。そのときは、障害要因を確認した上で

18. Groupmax Directory Server の運用

再起動してください。

- Information Propagator の場合

Information Propagator では Address Server のデータが Groupmax Directory Server へ反映できなかった場合にメッセージボックスを表示します。このメッセージボックスの表示を抑止するためには、Groupmax Directory Server のセットアップ後、レジストリエディタで「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥GmaxDirectory¥DirectoryServer¥InformationPropagator¥Connect」キーの下に存在するキー（ホスト名でキーが作成されています）の下の「SyncErrorCount」を 0 に設定して運用してください。

システム統合運用管理機能の詳細は、マニュアル「Windows NT Groupmax System Manager - TCP/IP/System Agent - TCP/IP Version 5 システム管理者ガイド」を参照してください。

18.6 Groupmax Directory Server 導入後の Address Server の運用

Groupmax Directory Server は、システム内部での名前付けに利用する Address Server の登録情報に関して半角英字の大文字と小文字を区別しません。そのため、次の点に注意して Address Server を運用してください。

最上位組織 ID は、英字の大文字と小文字を区別しないで、ユニークになるように設定してください。

組織 ID は、同じ最上位組織を持つ組織内で英字の大文字と小文字を区別しないでユニークになるように設定してください。

ユーザ ID、ニックネーム、ユーザ英語姓名は、同じ組織内で英字の大文字と小文字を区別しないで、ユニークになるように設定してください。

18.7 Mail - SMTP との連携時の運用

アドレス管理ドメイン間を Mail - SMTP を利用して相互接続する場合の注意事項について説明します。

(1) アドレスマッピングファイルについて

Directory の o , ou は , O/R 名の O , OU とは関係がありません。したがって , Groupmax Directory Server 用にアドレスマッピングファイルを変更する必要はありません。

(2) Mail - SMTP の MAPPING_MODE について

MAPPING_MODE の設定を「all」で運用することを推奨します。また、「all」の設定から「table」へモードを変更する場合は、Address Server の登録情報から E-mail アドレス情報の削除を行う必要があります。

Mail - SMTP の運用時の「アドレスマッピングルールの優先順位に関する設定 (mapping_mode)」によって以下の作業を行う必要があります。なお、作業はアドレスマッピングファイル (rfc1327-mapping1) が更新されるたびに再実行する必要があります。

(a) MAPPING_MODE の設定が「table」の場合

1. Mail - SMTP をインストールしたコンピュータで、次に示すアドレスマッピングファイルのバックアップを行います。
< Mail - SMTP インストール先ディレクトリ > %rfc1327-mapping1
2. 手順 1 でバックアップしたファイルを、Groupmax Directory Server をインストールしたコンピュータのファイルにリストアします。
< Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ >
%config%rfc1327-mapping1
3. Address Server に登録されている情報から E-mail アドレスを削除します。
4. Directory Server セットアップを起動してデータを再構築します。
5. Information Propagator を起動します。

(b) MAPPING_MODE の設定が「all」の場合

1. Mail - SMTP をインストールしたコンピュータで、次に示すアドレスマッピングファイルのバックアップを行います。
< Mail - SMTP インストール先ディレクトリ > %rfc1327-mapping1
2. 手順 1 でバックアップしたファイルを、Groupmax Directory Server をインストールしたコンピュータのファイルにリストアします。
< Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ >
%config%rfc1327-mapping1

3. Directory Server セットアップを起動してデータを再構築します。
4. Information Propagator を起動します。

(c) MAPPING_MODE の設定が「db」の場合

rfc1327-mapping1 ファイルを Groupmax Directory Server のインストール先ディレクトリにコピーする必要はありません。

1. 既に < Groupmax Directory Server インストール先ディレクトリ >
¥config¥rfc1327-mapping1 ファイルが存在している場合はファイルを削除し、
Directory Server セットアップを起動してデータを再構築してください。
2. Information Propagator を起動してください。

! 注意事項

MAPPING_MODE の設定を「table」とし、かつ運転席より E-mail アドレス情報を削除しなかった場合、Groupmax Directory Server は MAPPING_MODE の設定が「all」で動作しているものとみなし、Address Server に登録されている E-mail アドレス情報を Groupmax Directory Server に登録して動作します。そのため、Address Server から E-mail アドレス情報を削除しない場合は、MAPPING_MODE を「all」に設定し、Groupmax Directory Server のデータを再構築してください。

19 Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

Groupmax Directory Server は、エラーメッセージ及びロギング情報を、それぞれイベントログとログファイルへ出力します。ここでは、出力される各メッセージ情報について説明します。

19.1 イベントログとログファイル

19.2 Groupmax Directory Server のメッセージ

19.3 Information Propagator のメッセージ

19.4 システムメッセージ

19.5 Groupmax Directory Server セットアップ時のメッセージ

19.6 ドメイン情報設定ユティリティのメッセージ

19.1 イベントログとログファイル

イベントログへは、Groupmax Directory Server の開始・終了メッセージ、NEXTID オーバフローなどの警告メッセージ、その他のエラーメッセージが出力されます。これらのメッセージは、Groupmax Directory Server 実行中に発生したイベントを報告するものです。イベントログへ出力するメッセージは「19.2 Groupmax Directory Server のメッセージ」を参照してください。

ログファイルへは、Groupmax Directory Server の処理状態の情報が出力されます。ログファイルによって、Groupmax Directory Server の稼働状態を調べることができます。

19.2 Groupmax Directory Server のメッセージ

ここでは、Groupmax Directory Server のメッセージについて説明します。

なお、< > 内には、それぞれの可変のメッセージが入ります。

KDGA00001-I Groupmax Directory Server からの状態通知です - <状態情報>

Groupmax Directory Server の起動、停止処理の完了を示します。<状態情報>には次のメッセージが表示されます。

slapd starting

Groupmax Directory Server が実行を開始したことを示します。

slapd stopping

Groupmax Directory Server が実行を終了したことを示します。

KDGA00002-W Groupmax Directory Server からの警告です - <警告情報>

Groupmax Directory Server 処理中に続行可能な異常事態が発生したことを示します。<警告情報>には次のメッセージが表示されます。

NEXTID almost overflow (ID 値) :

ディレクトリエントリの ID が上限値に近づきました。あと約 100 エントリは登録可能ですが、それを超えるとディレクトリエントリ ID が重複します。ディレクトリファイルを作成し直してください。

ldbm_cache_open no unused db to close - waiting :

ディレクトリファイルオープン用キャッシュが不足しました。処理に支障はありませんが、処理性能が低下する可能性があります。構成定義ファイル中の index 指定が多すぎると考えられます。

next_id ID 値 : could not open " ファイル名 " :

NEXTID ファイルを入力しようとしたことがオープンできませんでした。

Address-Directory Data Converter セットアップを実行しないで Groupmax Directory Server を起動すると、この警告が出力される場合があります。

KDGA00003-E Groupmax Directory Server でエラーが発生しました - <エラー情報>

要因

Groupmax Directory Server 内で処理続行不可能なエラーが発生しました。クライアントからのリクエスト処理中の場合は、当該リクエスト処理は異常終了します。処理中の Groupmax Directory Server が異常終了する場合があります。<エラー情報>には Groupmax Directory Server 内で発生したエラー内容が表示されます。ただし、Information Propagator が Address Server のデータを Groupmax Directory Server に更新している最中に、外部宛先台帳が検索されると<エラー情報>に「idl_fetch of (¥****) returns NULL (**** は数字です)」を表示したこのメッセージが出力される場合があります。同じメッセージが連続して出力されない

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

限り、この場合は問題ありません。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA00004-E dbm 処理中に <エラー関数> (<ファイル名>) でエラーが発生しました - <エラー内容> (<エラーコード>)

要因

ディレクトリファイルアクセス (dbm) 処理中に外部関数でエラーが発生しました。可変メッセージ部分にはそれぞれ次の情報が表示されます。

- <エラー関数> : dbm 処理中にエラーの発生した関数を示します。
- <ファイル名> : dbm 処理中のファイル名を示します。
- <エラー内容> : <エラー関数> で発生したエラーの内容を示します。
- <エラーコード> : エラー内容を表すコードを示します。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA00005-E dbm 処理に不当なハンドルが渡されました

要因

dbm 処理中に不当なハンドルが検出されました。Groupmax Directory Server 内部処理に矛盾が起きたと考えられます。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA00006-E dbm 処理に必要なメモリを確保できません (<ファイル名>)

要因

dbm 処理に必要なメモリを確保できませんでした。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

dbm 処理に必要なメモリを確保してください。

KDGA00007-E dbm 処理中にディスク容量不足となりました (<ファイル名>)

要因

ディレクトリファイル出力処理中にディスク容量が不足しました。ディレクトリファイルの拡張は構成定義ファイルの dbccachesize の約 25% 単位で行ないます。dbccachesize を小さくすると拡張可能になることもあります。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

Directory Server セットアップで「データと設定ファイルの格納場所」を空き容量の大きいディスクに変更してください。

KDGA00008-E dbm 初期化処理中にエラーが発生しました (<ファイル名>)

要因

ディレクトリファイルの初期作成中にエラーが発生しました。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA00009-E dbm ファイル (<ファイル名>) ヘッダ入力時にエラーが発生しました

要因

ディレクトリファイルのヘッダ情報入力時にエラーが発生しました。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA00010-E dbm ファイル (<ファイル名>) の形式が不当です

要因

ディレクトリファイル中に形式が不当な箇所が発見されました。 Groupmax Directory Server 処理中に処理が中断されて矛盾が発生した可能性があります。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

ディレクトリファイルを作成し直してください。

KDGA00011-E dbm ファイル (<ファイル名>) のブロックチェーンが不当です

要因

ディレクトリファイル中のブロック間の関連情報に不当な箇所が発見されました。 Groupmax Directory Server 処理中に処理が中断されて矛盾が発生した可能性があります。 <ファイル名> には、dbm 処理中のファイル名が表示されます。

対処

ディレクトリファイルを作成し直してください。

KDGA00012-E スタートアップパラメータが不当です。

要因

スタートアップパラメータに不正なオプションを指定しました。

対処

スタートアップパラメータに正しいオプションを指定してください。

KDGA00013-E サービス制御マネージャに接続できません。

要因

サービス制御マネージャに接続できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KDGA00014-E 制御ハンドラ関数を登録できません。戻り値=%d

要因

制御ハンドラ関数を登録できませんでした。

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

対処

システム管理者に連絡してください。

KDGA00015-E サービスステータスを登録できません。戻り値 =%d

要因

サービスステータスを登録できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

KDGA00016-E 構成定義ファイルがオープンできません。

要因

構成定義ファイル (slapd.conf) がオープンできませんでした。

対処

構成定義ファイルが存在するかを確認してください。存在する場合はアクセス権限があるかを確認してください。

KDGA00017-E レジストリの初期化に失敗しました。

要因

レジストリに初期値を設定できませんでした。

対処

システム管理者に連絡してください。

19.3 Information Propagator のメッセージ

(1) ダイアログで表示されるメッセージ

KDGA20001-W データの反映に失敗しました。

要因

Address Server のデータを Groupmax Directory Server に反映できませんでした。

対処

メッセージが表示され続ける場合は、コンバータを用いてディレクトリの情報を作り直してください。

(2) イベントログに出力されるメッセージ

(a) 状態を表すメッセージ

KDGA21001-I Information Propagator からの状態通知です。 - 開始

対処

Information Propagator が実行を開始したことを示します。状態通知のため、対処は不要です。

KDGA21002-I Information Propagator からの状態通知です。 - 終了

対処

Information Propagator が実行を終了したことを示します。状態通知のため、対処は不要です。

KDGA21003-I Information Propagator からの状態通知です。 - データ反映開始

対処

Information Propagator が Address Server のデータを Groupmax Directory Server へ反映し始めたことを示します。状態通知のため、対処は不要です。

KDGA21004-I Information Propagator からの状態通知です。 - データ反映終了

対処

Information Propagator が Address Server のデータを Groupmax Directory Server へ反映し終えたことを示します。状態通知のため、対処は不要です。

KDGA21005-I Information Propagator からの通知です。 - SMTP 変換未サポートとして処理

対処

X.400 の O/R 名から SMTP メールアドレスに変換するためのファイルが正しく設定されていないなどの理由で、変換機能なしで動作を続行します。設定を見直してください

KDGA21006-I Information Propagator からの通知です。 - Gmax Directory Server 停止中

対処

ユーザの操作などで Groupmax Directory Server が停止しています。状態通知のた

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

め、対処は不要です。

(b) 初期化中のエラーを表すメッセージ

KDGA22001-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - unknown

要因

初期化中にエラーが発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA22002-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - メモリ不足

要因

メモリの確保に失敗しました。

対処

不要なアプリケーションを終了するなどしてリソースを確保してください。

KDGA22003-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Directory Server インストールディレクトリ取得失敗

要因

Groupmax Directory Server を正しくインストールしていない、又はインストール後にユーザがレジストリを削除したため、レジストリに登録されているインストール先ディレクトリが取得できませんでした。

対処

Groupmax Directory Server を再インストールしてください。

KDGA22004-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Directory Server インストールディレクトリ取得失敗 <ディレクトリ名>

要因

Groupmax Directory Server を正しくインストールしていない、又はインストール後にユーザがディレクトリを削除したため、インストール先ディレクトリが取得できませんでした。 <ディレクトリ名>には、Groupmax Directory Server のインストール先ディレクトリ名が表示されます。

対処

Groupmax Directory Server を再インストールしてください。

KDGA22005-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - RAS 出力ディレクトリエラー <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator のトレース情報出力先ディレクトリの下にあるファイルに、同一名称のファイルが存在する又はアクセス権がないなどの理由でアクセスができません。 <ディレクトリ名>には、トレース情報出力先ディレクトリ名が表示されます。

対処

トレース情報出力先ディレクトリの存在、及びアクセス権を確認してください。

KDGA22006-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - RAS 出力ディレクトリ作成失敗 <ディレクトリ名>

要因

アクセス権がないために、Information Propagator のトレース情報出力先ディレクトリが作成できません。 <ディレクトリ名> には、トレース情報出力先ディレクトリ名が表示されます。

対処

トレース情報出力先ディレクトリを作成できる権利があるかを確認してください。

KDGA22007-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - RAS 出力ファイル作成失敗 <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator のトレース情報出力先ディレクトリの下に、同一名称のファイルが存在する又はアクセス権がないなどの理由でファイルが作成できません。 <ディレクトリ名> には、トレース情報出力先ディレクトリ名が表示されます。

対処

RAS 出力ファイルは「propa**.trc (** は数字)」という名称で作成されます。トレース情報出力先ディレクトリの下にある RAS 出力ファイルのアクセス権を確認してください。回復しない場合は、トレース情報出力先ディレクトリの下にあるファイル及びディレクトリを削除してください。

KDGA22008-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - RAS レジストリ情報不正

要因

Information Propagator のトレース情報を記憶しているレジストリに異常がありません。

対処

Groupmax Directory Server の再セットアップを行ってください。

KDGA22009-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Address レジストリ情報取得失敗

要因

Address Server をインストールしていないなどの理由で Address Server のレジストリ情報が取得できません。

対処

Address Server を再インストールしてください。

KDGA22010-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Address 環境エラー <ディレクトリ名>

要因

Address Server をインストールしていないなどの理由で、Address Server のインス

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

ツール先ディレクトリの情報が取得できません。 <ディレクトリ名> には、Address Server のインストール先ディレクトリ名が表示されます。

対処

Address Server を再インストールしてください。

KDGA22011-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Directory Server 情報取得失敗

要因

Groupmax Directory Server のセットアップを行っていないなどの理由で、Groupmax Directory Server の情報が取得できません。

対処

Groupmax Directory Server のセットアップを実行します。

KDGA22012-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - SMTP 変換処理初期化失敗

要因

SMTP 変換用ファイルに異常があります。

対処

SMTP 変換用ファイルを確認してください。

KDGA22013-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Directory Server ダウン

要因

Groupmax Directory Server が未起動などの理由で接続できません。

対処

「Directory Server セットアップ」で Groupmax Directory Server の設定を確認してください。

「コントロールパネル」の「サービス」アイコンで「Groupmax Directory Server」の状態が開始になっているか確認します。

KDGA22014-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - Gmax Directory Server バインド失敗

要因

Groupmax Directory Server の設定ファイル (slapd.conf) に異常があるため接続できません。

対処

slapd.conf を編集した場合は元に戻し、再コンバートしてください。

KDGA22015-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - suffix 取得失敗

要因

Groupmax Directory Server の suffix が取得できないため初期化できません。

対処

Groupmax Directory Server セットアップを起動し設定を確認してください。

KDGA22016-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - エラーデータログ出力ディレクトリエラー <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator のエラーデータログ出力ディレクトリの下にあるファイルに、アクセス権がない又は同一名称のファイルが存在するなどの理由でアクセスができません。 <ディレクトリ名> には、エラーデータログ出力ディレクトリ名が表示されます。

対処

エラーデータログ出力ディレクトリの存在、及びアクセス権を確認してください。

KDGA22017-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - エラーデータログ出力ディレクトリ作成失敗 <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator のエラーデータログ出力ディレクトリが、アクセス権がないために作成できません。 <ディレクトリ名> にはエラーデータログ出力ディレクトリ名が表示されます。

対処

エラーデータログ出力ディレクトリを作成できる権利があるかを確認してください。

KDGA22018-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - エラーデータログ出力ファイル作成失敗 <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator のエラーデータログ出力ディレクトリの下に、アクセス権がない又は同一名称のディレクトリが既に存在するなどの理由でファイルが作成できません。 <ディレクトリ名> には、エラーデータログ出力ディレクトリ名が表示されます。

対処

エラーデータログ出力ファイルは「propa**.log (** は数字)」というファイル名で作成されます。エラーデータログ出力ディレクトリの下にあるエラーデータログ出力ファイルのアクセス権を確認してください。回復しない場合は、エラーデータログ出力ディレクトリの下にあるファイル、及びディレクトリを削除してください。

KDGA22019-E Information Propagator 初期化中にエラーが発生しました。 - エラーデータログレジストリ情報不正

要因

Information Propagator のエラーデータログ情報を記憶しているレジストリに異常があります。

対処

Groupmax Directory Server の再セットアップを行ってください。

(c) 実行中のエラーを表すメッセージ

KDGA23001-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - unknown

意味

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA23002-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - メモリ不足

要因

メモリが不足したため、処理が続行できなくなりました。

対処

ほかの不要なアプリケーションを終了してください。

KDGA23003-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - ファイルオープン失敗 <ディレクトリ名>

要因

Information Propagator の使用するファイルがオープンできませんでした。 <ディレクトリ名> には、オープンできなかったファイルが格納されているディレクトリ名が表示されます。

対処

オープンできなかったファイルのアクセス権、及び名称を確認してください。

KDGA23004-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - Groupmax Directory Server へのアクセス権のエラー

要因

Groupmax Directory Server に対して登録する権利がありません。

対処

slapd.conf を修正した場合に発生します。slapd.conf に対して行った修正を元に戻してください。

KDGA23005-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - LDAP アクセスで致命的なエラー発生

要因

接続時のパスワードに誤りがあるか、LDAP を使用できない状況にあります。

対処

slapd.conf ファイルの dn="cn=GmaxInformationPropagator,ou=Miscellaneous Servers,ou= ~ " の userpassword が書き換えられているため、パスワードの認証に失敗しています。Directory DB を作成し直してください。

KDGA23006-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - RAS ファイル出力エラー <ディレクトリ名>

要因

RAS 出力ディレクトリの下にファイルが書き込めません。 <ディレクトリ名> には、RAS 出力ディレクトリ名が表示されます。

対処

RAS ファイルは「propa**.trc (** は数字)」という名称で作成されます。RAS 出力ディレクトリの下にある RAS ファイルのアクセス権を確認してください。回復しない場合は、RAS 出力ディレクトリの下にあるファイル及びディレクトリを削除してください。

KDGA23007-E Information Propagator でエラーが発生しました。 - エラーデータログファイル
出力エラー <ディレクトリ名>

要因

エラーデータログ出力ディレクトリの下にファイルが書き込めません。 <ディレクトリ名> には、エラーデータログ出力ディレクトリが表示されません。

対処

エラーデータログファイルは「propa**.log (** は数字)」という名称で作成されます。エラーデータログ出力ディレクトリの下にあるエラーデータログファイルのアクセス権を確認してください。回復しない場合は、エラーデータログ出力ディレクトリの下にあるファイル及びディレクトリを削除してください。

19.4 システムメッセージ

Information Propagator が異常終了した時、Windows NT から次のメッセージが出力されます。また、このメッセージはイベントログのシステムイベントにも出力されます。

Information Propagator サービスはサービス固有のエラー XXXX を返しました。

要因

XXXX に設定されるコードによって、要因が異なります。

1000 番台

システムエラー (Information Propagator 内部のエラー)

2000 番台

ユーザ環境エラー。主なエラーコードを次に示します。

- 2 0 0 1 : イベントログの初期化失敗
- 2 0 0 2 : RAS ファイルの初期化失敗
- 2 0 0 3 : レジストリ情報取得失敗
- 2 0 0 4 : Address Server 情報の取得失敗
- 2 0 0 5 : Groupmax Directory Server との接続失敗
- 2 0 0 6 : Groupmax Directory Server のインストール先ディレクトリ取得失敗
- 2 0 0 7 : ファイル情報不正
- 2 0 0 8 : ファイル情報不正
- 2 0 0 9 : SMTP エラーログ初期化失敗
- 2 0 1 0 : エラーデータログ初期化失敗

3000 番台

ユーザ資源不足

- 3 0 0 0 : メモリ不足

4000 番台

ユーザのシステム環境エラー

対処

1000 番台と 2000 番台

システムを再インストールするか、障害受付窓口に連絡してください。

3000 番台

不要なプログラムを停止するか、メモリを増設してください。

4000 番台

環境設定をやり直してください。

19.5 Groupmax Directory Server セットアップ時のメッセージ

Groupmax Directory Server セットアップ時のメッセージについて説明します。

KDGA10001-E システム管理者権限で実行してください。

要因

コンバータを起動する権限がありません。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

KDGA10002-E Address-Directory Data Converter は、既に起動しています。複数の起動はできません。処理を中止します。

要因

既に Address-Directory Data Converter が起動しています。

対処

既に起動している Address-Directory Data Converter を終了してから再実行してください。

KDGA10003-E 領域の確保に失敗しました。

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA10004-E 障害が発生しました。アプリケーションを終了してください。

要因

OS からの不当なエラーが返されました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA10005-E 初期化処理に失敗しました。

要因

レジストリ情報が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA10006-E コンフィグレーションファイルがオープンできません。

要因

コンフィグレーションファイルが見つかりません。

対処

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

KDGA10007-E コンフィグレーションファイルが不正です。

要因

コンフィグレーションファイルの内容が不正です。

対処

ファイルを修正してから、再実行してください。

KDGA10008-E データエクスポートファイルが作成できません。関数名 =XXXX, status=XXXX

要因

データエクスポートファイルが作成できませんでした。又は、「Address Server」サービスが再起動されていない可能性があります。
関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

対処

ファイルの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

KDGA10009-E データエクスポートファイルがオープンできません。

要因

データエクスポートファイルが見つかりませんでした。

対処

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

KDGA10010-E Directory インポートユティリティの実行に失敗しました。

要因

プロセスを生成できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA10011-E ディスクに空きがありません。

要因

処理に必要な空き容量が不足しました。

対処

不要なファイルを削除してください。

KDGA10012-E マスタ管理サーバに接続できません。関数名 =XXXX, status=XXXX

要因

環境が設定されていないか、サーバに障害が発生しています。
関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA10013-E マスタ管理サーバは、ロックされています。関数名 =XXXX, status=XXXX

要因

マスタ管理サーバは、ロックされています。
関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

対処

障害受付窓口に連絡ください。

KDGA10014-E ネットワークに障害が発生しました。

マスタ管理サーバのホスト名にネットワークが到達することを確認してから [OK] を押して下さい。ネットワークが未到達の場合は、マスタ管理サーバに掛けたロックを解除できない可能性があります。また、データエクスポートファイルが作成できませんでした。関数名 =XXXX, status=XXXX

要因

ネットワークに障害が発生しました。
データをエクスポートする際に、マスタ管理サーバにロックを掛けます。マスタ管理サーバのホスト名にネットワークが到達しないと、マスタ管理サーバに掛けたロックが解除できません。
関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

対処

マスタ管理サーバにロックが掛かったままだと運用に不都合が発生します。必ず、Address Server の管理者に連絡をしてください。

KDGA10015-E マスタ管理サーバのロックを解除できませんでした。

要因

マスタ管理サーバに掛けたロックが解除できませんでした。

対処

マスタ管理サーバにロックが掛かったままだと運用に不都合が発生します。必ず、Address Server の管理者に連絡をしてください。

KDGA10016-E レジストリの参照に失敗しました。

原因

レジストリを参照するときに異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA10017-E レジストリの設定に失敗しました。

原因

レジストリ値を設定するときに異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA10018-E アドレスサーバのデータファイルがオープンできませんでした。

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

要因

< Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmchname ファイル ,
又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid ファイル
をオープンできませんでした。

対処

対象ファイルを開いているかを確認してください。開いていた場合は閉じてください。

KDGA10019-E アドレスサーバのデータファイルにサーバ ID が存在しません。

要因

< Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmchname ファイル ,
又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid ファイル
内にアドレスデータが存在しません。

対処

Address Server のセットアップを行ってください。
それでもこの現象が起こる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA10020-E DNS 内部状態初期化に失敗しました。

要因

アドレスサーバの DNS 内部情報の初期化に失敗しました。

対処

環境変数 UXPLDIR に値が設定されているか確認してください。
設定されている場合、値が正当なものかを確認してください。
設定されている値に問題がなかったときは、Address Server の再インストールと再
セットアップを行ってください。
それでもこの現象が起こる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA10021-E アドレスサーバの DNS 情報を取得できませんでした。詳細コード=XX

要因

アドレスサーバの DNS 情報を取得することができませんでした。
詳細コードに詳しい情報を示します。

対処

環境変数 UXPLDIR に値が設定されているかを確認してください。
設定されている場合、値が正当なものかを確認してください。
詳細コードが -20 の場合は、不要なアプリケーションを停止してから、再度実行し
てください。
それでもこの現象が起こる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA10022-E DNS テーブルのロックに失敗しました。

要因

アドレスサーバの DNS テーブルのロックに失敗しました。

対処

環境変数 UXPLDIR に値が設定されているかを確認してください。
 設定されている場合、値が正当なものかを確認してください。
 また、Address Server とロック処理で競合した可能性があります。
 しばらく間をおいてから再度実行してください。
 それでもこの現象が起こる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA10023-E Address Server サービスが起動中です。Address Server サービスを停止後、Directory データコンバータを再起動して下さい。

要因

次の二つの要因が考えられます。

- 「Address Server」サービス起動中にコンバータを起動しました。
- < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmchname ファイル、又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid ファイルのデータが壊れたために、マスタ管理サーバ上での動作なのか、マスタ管理サーバ以外のサーバ上での動作なのかが、コンバータで分からなくなった。

対処

マスタ管理サーバ以外のサーバ上でのコンバータの場合、「Address Server」サービスを停止してください。

マスタ管理サーバ上でのコンバータの場合に、このメッセージが出力されたときは、2 番目の要因が考えられます。Address Server の再インストールと再セットアップを行ってください。

それでもこの現象が発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA10001-I 中止要求により処理を終了します。

要因

ユーザが中止ボタンを押しました。

対処

情報メッセージのため対処不要です。

KDGA30001-E システム管理者権限で実行してください。

要因

アプリケーションを起動する権限がありません。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

KDGA30002-E Directory インポートユティリティは、既に起動しています。

複数の起動はできません。処理を中止します。

要因

既にインポートユティリティが起動しています。

対処

既に起動しているインポートユティリティを終了してから再実行してください。

KDGA30003-E 更新処理にエラーが発生しました。実行結果を確認して下さい。

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

要因

更新異常が発生し、正常な更新処理が行えませんでした。

対処

エラーログを参照してください。

KDGA30001-I 中止要求により処理を終了します。

要因

ユーザが中止ボタンを押しました。

対処

情報メッセージのため対処不要です。

KDGA40001-E システム管理者権限で実行してください。

要因

アプリケーションを起動する権限がありません。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

KDGA40002-E Directory Server セットアップは、既に起動しています。複数の起動はできません。処理を中止します。

要因

既に Directory Server セットアップが起動しています。

対処

既に起動している Directory Server セットアップを終了してから再実行してください。

KDGA40003-E 領域の確保に失敗しました。

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA40004-E 障害が発生しました。アプリケーションを終了してください。

要因

OS からの不当なエラーが返されました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40005-E 初期化処理に失敗しました。

要因

レジストリ情報が不正です。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40006-E コンフィグレーションファイルがオープンできません。

要因

コンフィグレーションファイルが見つかりませんでした。

対処

ファイルが存在するかを確認してから、再実行してください。

KDGA40007-E コンフィグレーションファイルが不正です。

要因

コンフィグレーションファイルの内容が不正です。

対処

ファイルを修正してから、再実行してください。

KDGA40008-E コンフィグレーションファイルの作成に失敗しました。

要因

コンフィグレーションファイルが作成できませんでした。

対処

ファイルの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

KDGA40009-E ディレクトリの作成に失敗しました。

要因

ディレクトリが作成できませんでした。

対処

ディレクトリの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

KDGA40010-E 指定されたディレクトリに保存できませんでした。

要因

ディレクトリが作成できませんでした。

対処

ディレクトリの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

KDGA40011-E Address-Directory Data Converter の起動に失敗しました。関数名 =XXXX , status=XXXX

要因

プロセスを生成できませんでした。

関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA40012-E ディレクトリサーバの起動に失敗しました。関数名 =XXXX , status=XXXX

要因

サービスを起動できませんでした。

関数名 =XXXX にはエラーが発生した関数名が、status=XXXX にはエラー内容のステータスコードが表示されます。

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

データスコードが表示されます。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40013-E 接続ドメインのアドレス設定の起動に失敗しました。

要因

プロセスを生成できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA40014-E ディレクトリが存在しません。

要因

データと設定ファイルの格納場所に指定されたディレクトリが存在しません。

対処

ディレクトリを作成した後、再セットアップを行ってください。

KDGA40015-E データと設定ファイルの格納場所と変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリが同じです。ディレクトリを変更してください。

要因

データと設定ファイルの格納場所と変更ログエントリ用の格納ディレクトリが同じです。

対処

データと設定ファイルの格納場所と変更ログエントリ用のディレクトリを異なるディレクトリにしてください。

KDGA40016-E データと設定ファイルの格納場所とスナップショット用のデータベース格納ディレクトリが同じです。ディレクトリを変更してください。

要因

データと設定ファイルの格納場所とスナップショット用の格納ディレクトリが同じです。

対処

データと設定ファイルの格納場所とスナップショット用の格納ディレクトリを異なるディレクトリにしてください。

KDGA40017-E 変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリとスナップショット用のデータベース格納ディレクトリが同じです。ディレクトリを変更してください。

要因

変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリとスナップショット用のデータベース格納ディレクトリが同じです。

対処

変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリとスナップショット用のデータベース格納ディレクトリを異なるディレクトリにしてください。

KDGA40018-E スナップショット構成定義ファイルが作成されませんでした。

要因

スナップショット構成定義ファイルが作成されませんでした。

対処

ファイルの書き込み権限があるかを確認してから、再実行してください。

KDGA40019-E 1 から 31 迄の整数を入力して下さい。

要因

範囲外の値が設定されています。

対処

1 から 31 までの整数を入力してください。

KDGA40020-E 0 から 23 迄の整数を入力して下さい。

要因

範囲外の値が設定されています。

対処

0 から 23 までの整数を入力してください。

KDGA40021-E 0 から 59 迄の整数を入力して下さい。

要因

範囲外の値が設定されています。

対処

0 から 59 までの整数を入力してください。

KDGA40022-E 正の整数を入力して下さい。

要因

範囲外の値が設定されています。

対処

正の整数を入力してください。

KDGA40023-E スケジュールの日付が設定されていません。日付を設定して下さい。

要因

スケジュールの日付が設定されていません。

対処

日付を設定してください。

KDGA40024-E スナップショットの登録に失敗しました。

要因

スナップショットの登録に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40025-E 変更ログエントリの登録に失敗しました。

要因

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

変更ログエントリの登録に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40026-E 変更ログエントリ初期化ファイルが作成できませんでした。

要因

変更ログエントリ初期化ファイルが作成できませんでした。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40027-E Directory Server のサービスは起動中です。

Directory Server セットアップを中止します。

要因

「Groupmax Directory Server」サービスが起動中です。

対処

「Groupmax Directory Server」サービスを停止後、再起動してください。

KDGA40028-E 使用できない文字が含まれています。

要因

使用できない文字が設定されています。

対処

使用できる文字を設定してください。

KDGA40029-E システムで予約しているディレクトリです。

データと設定ファイルの格納場所を変更して下さい。

要因

システムで予約しているディレクトリが設定されました。

対処

データと設定ファイルの格納場所を変更してください。

KDGA40030-E システムで予約しているディレクトリです。

変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリを変更して下さい。

要因

システムで予約しているディレクトリが設定されました。

対処

変更ログエントリ用のデータベース格納ディレクトリを変更してください。

KDGA40031-E システムで予約しているディレクトリです。

スナップショット用のデータベース格納ディレクトリを変更して下さい。

要因

システムで予約しているディレクトリが設定されました。

対処

スナップショット用のデータベース格納ディレクトリを変更してください。

KDGA40032-E Groupmax ドメインのエントリ作成に失敗しました。

要因

Groupmax ドメインのエントリ作成に失敗しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40033-E Schedule サービスの起動に失敗しました。

要因

スナップショット作成のスケジュール起動中に異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40034-E スケジュールの登録に失敗しました。

要因

スナップショット作成のスケジュール登録中に異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40035-E スケジュールの削除に失敗しました。

要因

スナップショット作成のスケジュール削除中に異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40036-E レジストリの設定に失敗しました。

要因

セットアップ情報をレジストリに設定するときに異常が発生しました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA40037-E item.def.dom ファイルが見つかりません。

要因

item.def.dom ファイルにアクセスできないため、セットアップ処理が続行できません。

対処

item.def.dom ファイルが存在するかを確認してください。存在する場合はアクセス権限があるかを確認してください。

KDGA40038-E アドレスサーバのデータファイルのオープンに失敗しました。

要因

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

< Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmcchname ファイル ,
又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid ファイル
をオープンできませんでした。

対処

対象ファイルを開いているかを確認してください。開いていた場合は閉じてください。

KDGA40039-E アドレスサーバのデータファイルにサーバIDが存在しません。

要因

< Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmcchname ファイル ,
又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid ファイル
内にアドレスデータが存在しません。

対処

Address Server のセットアップを行ってください。

それでもこの現象が起こる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA40040-E Address Server サービスが起動中です。Address Server サービスを停止後、
Directory Server セットアップを再起動して下さい。

要因

次の二つの要因が考えられます。

- 「Address Server」サービス起動中にセットアップを起動した。
- < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcmcchname ファイル ,
又は < Address Server インストール先ディレクトリ > %nxcdir%nxcownid
ファイルのデータが壊れたために、マスタ管理サーバ上での動作なのか、マスタ
管理サーバ以外のサーバ上での動作なのか、コンバータで分からなくなった。

対処

マスタ管理サーバ以外のサーバ上でのセットアップの場合、「Address Server」サー
ビスを停止してください。

マスタ管理サーバ上でのセットアップの場合に、このメッセージが出力されたとき
は、2 番目の要因が考えられます。Address Server の再インストールと再セッ
トアップを行ってください。

それでもこの現象が発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

KDGA40001-W 管理者パスワードとパスワードの再入力一致しません。再確認してください。

要因

管理者パスワードとパスワードの再入力一致しません。

対処

管理者パスワードとパスワードの再入力を一致させてください。

19.6 ドメイン情報設定ユティリティのメッセージ

ドメイン情報設定ユティリティ実行時のメッセージについて説明します。

KDGA50001-E システム管理者権限で実行してください。

要因

アプリケーションを起動する権限がありません。

対処

システム管理者のユーザで再実行してください。

KDGA50002-E 接続ドメインのアドレス設定ユティリティは、既に起動しています。複数の起動はできません。処理を中止します。

要因

既に接続ドメインのアドレス設定ユティリティが起動しています。

対処

既に起動している接続ドメインのアドレス設定ユティリティを終了してから再実行してください。

KDGA50003-E 領域の確保に失敗しました。

要因

動作するために必要なメモリが確保できませんでした。

対処

不要なプロセスを終了してから再実行してください。

KDGA50004-E 障害が発生しました。アプリケーションを終了してください。

要因

OS からの不当なエラーが返されました。

対処

障害受付窓口に連絡してください。

KDGA50005-E 接続ドメインのアドレス設定 DLL が見つかりません。

要因

DLL が指定の場所にありません。

対処

DLL を所定の場所に置いてください。

KDGA50006-E 接続ドメインのアドレス設定 DLL が不正です。

要因

DLL が違います。

対処

19. Groupmax Directory Server のメッセージ一覧

正しい DLL にしてください。

KDGA50007-E 接続ドメインの追加 (登録) 処理に失敗しました。

要因

登録権限がありませんでした。

対処

登録権限のあるユーザで更新を行ってください。

KDGA50008-E 接続ドメインの削除に失敗しました。

要因

削除権限がありませんでした。

対処

削除権限のあるユーザで更新を行ってください。

KDGA50009-E 接続ドメインの更新処理に失敗しました。

要因

更新権限がありませんでした。

対処

更新権限のあるユーザで更新を行ってください。

KDGA50010-E 自ドメインのディレクトリサーバに接続できません。

要因

ディレクトリサーバが起動されていないか、接続権限がありません。

対処

確認後、再起動してください。

KDGA50101-I 情報が変更されています。情報を更新しますか？

要因

情報が更新されている状態で、画面を閉じようとしてしました。

ただし、Groupmax Directory Server 02-31 以前のドメイン情報設定ユーティリティで設定された接続ドメイン情報を参照し、「閉じる」ボタンを選択した場合には、接続ドメイン情報を Version 3 形式に変換して更新するため、このメッセージが出力されます。

対処

情報を更新して画面を閉じる場合は「はい」ボタンを選択してください。

更新しないで画面を閉じる場合は「いいえ」ボタンを選択してください。

画面を閉じない場合は、「キャンセル」ボタンを選択してください。

KDGA50201-E 不正な文字が入力されています。修正してください。

要因

次の不正な文字が、項目に入力されています。

全角文字、半角 / 全角スペース (前 / 後 / 途中)、「*」、「(」、「)」、「<」、「>」、「=」、「≠」、「~」、「:」、「"」、「"」、及び制御コード

対策

不正な文字を除いてください。

KDGA50202-E 同一名称のユーザオブジェクトクラスが既に設定されています。

ユーザオブジェクトクラス名を変更してください。

要因

同一名称のユーザオブジェクトクラスが既に設定されています。

対策

ユーザオブジェクトクラス名を変更してください。

KDGA50203-E 必須項目が設定されていないか、空白が設定されています。

必須項目を正しく設定してください。

要因

必須項目が未設定です。又は空白が設定されています。空白は無視されます。

対策

必須項目を正しく設定してください。

KDGA50204-E 同一の接続ドメイン情報が既に設定されています。

接続ドメインのホスト名・サービス名・DN を見直し、再度実行してください。

要因

追加（更新）しようとした接続ドメイン情報のホスト名、サービス名及び DN のすべてが、既に設定されている接続ドメイン情報と同じです。

対策

接続ドメインのホスト名、サービス名及び DN を見直してください。ディレクトリサーバタイプが「LDAP Directory Server」で、別のスキーマ定義を追加したい場合は、ユーザオブジェクトクラスとスキーマ定義を既存の接続ドメイン情報に追加してください。

KDGA50001-W 値が設定されていないので更新できません。

要因

値が設定されていないので更新できません。

対処

値を設定してください。

20 Mail - Administrator Utilities の概要

Mail Server のオプション プログラムプロダクトである P-2446-7424 Groupmax Mail - Administrator Utilities Version 3 の概要について説明します。なお、V6 以降のアドレスサーバは非サポートのため、動作の保証はしていません。

20.1 Mail - Administrator Utilities とは

20.2 Mail - Administrator Utilities の機能

20.3 導入の前に

20.4 Mail - Administrator Utilities のインストールとアンインストール

20.1 Mail - Administrator Utilities とは

Mail - Administrator Utilities は、Groupmax のメールサーバの稼働結果を収集して、稼働情報を一元的に管理するためのシステムです。Mail - Administrator Utilities を使えば、分散拠点にあるメールサーバの利用状況やディスク容量、メモリ容量などといった稼働結果を定期的に調べることができます。

また、各メールサーバの稼働結果の収集は、ユーザの指定したスケジュールに従って Mail - Administrator Utilities が自動的に実行します。

収集した稼働結果を編集して、出力したものが稼働情報です。稼働情報は、CSV (Comma Separated Value) ファイルとして出力されるので、表計算ソフトで加工したり、グラフ化したりできます。

なお、Mail - Administrator Utilities が提供する機能は、03-00 以前と 03-10 とで異なります。Mail - Administrator Utilities 03-10 と表記した場合は 03-10 だけに該当します。

20.1.1 Mail - Administrator Utilities のシステム構成

Mail - Administrator Utilities では、メールサーバを測定サーバと収集サーバの二つに分類して扱います。次にそれぞれのサーバについて説明します。

収集サーバ

Mail - Administrator Utilities をインストールしたメールサーバです。収集サーバでは、稼働結果の収集対象となるメールサーバ(測定サーバ)を指定します。指定した測定サーバで採取された稼働結果は収集サーバによって集められます。収集した稼働結果は、収集サーバ上の稼働管理システムメンテナンスプログラムで編集したり、管理したりできます。稼働情報の CSV ファイルへの出力も収集サーバに行います。

1 台の収集サーバは、最大 100 台までの測定サーバを管理できます。

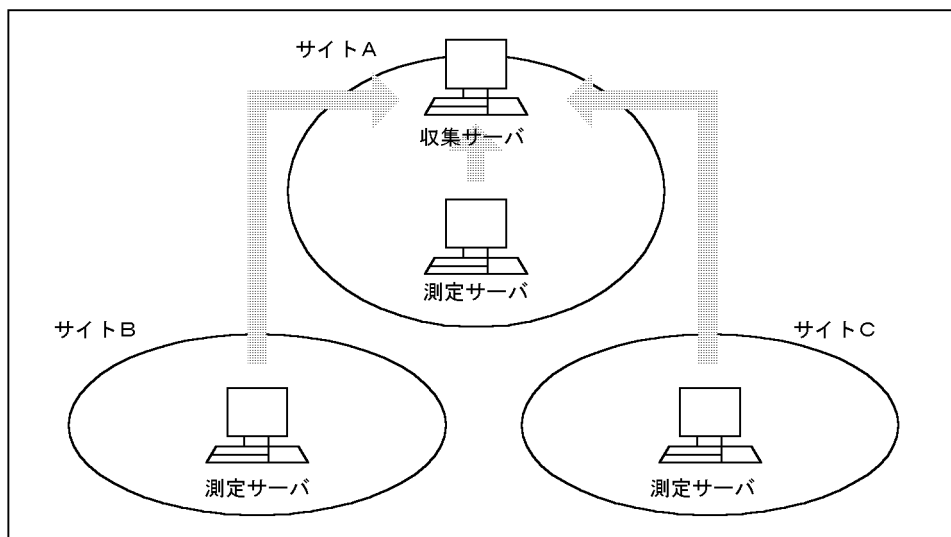
測定サーバ

収集サーバで稼働結果の収集対象として指定されたメールサーバです。測定サーバは、自サーバの稼働結果を採取します。

Mail - Administrator Utilities のシステム構成を図 20-1 に示します。

図 20-1 Mail - Administrator Utilities のシステム構成

アドレス管理ドメイン

**注意**

マルチサーバ構成で、同一のアドレス管理ドメイン内に Windows NT 版と UNIX 版のメールサーバが混在する場合、Windows NT 版からは UNIX 版のメールサーバの稼働結果は収集できません (03-00 以前の場合)。

Mail - Administrator Utilities 03-10 では、Windows NT 版の収集サーバから UNIX 版の測定サーバの稼働結果を収集できます。

20.1.2 Mail - Administrator Utilities の運用形態

Mail - Administrator Utilities 03-10 からは、統合管理機能のサポートによって、Windows NT 版の収集サーバから UNIX 版の測定サーバの稼働結果を収集できます。

Mail - Administrator Utilities 03-10 での運用形態次に示します。

Windows NT モード

Windows NT 版の収集サーバで、Windows NT 版の測定サーバだけを管理する運用環境です。

UNIX モード

UNIX 版の収集サーバで、UNIX 版の測定サーバだけを管理する運用環境です。

統合化モード

Windows NT 版の収集サーバで、Windows NT 版と UNIX 版の両方の測定サーバを管理する運用環境です。

20.2 Mail - Administrator Utilities の機能

Mail - Administrator Utilities には、次の三つの機能があります。

メールサーバの稼働結果の採取

測定サーバとして設定されたメールサーバで、そのメールサーバの稼働結果を定期的に採取する機能です。

採取した稼働結果の収集

測定サーバが採取した稼働結果を収集する機能です。収集サーバがこの機能を実行します。

稼働情報の出力

収集サーバに収集された稼働結果を編集して、CSV ファイルに出力する機能です。出力する稼働情報の CSV ファイルには、収集サーバが自動的に出力する CSV ファイルとユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイルの二種類があります。CSV ファイルの詳細は、「22.7 稼働情報の CSV ファイル」を参照してください。

20.3 導入の前に

Mail - Administrator Utilities を導入するためには、Groupmax のメールシステムに登録されている情報が次に示す条件を満たしている必要があります。

最上位組織 ID、組織 ID、組織略称は、Groupmax のメールシステム内でユニークである。

組織 ID、組織略称、組織名（日本語）、及び掲示板名に、（コンマ）を含む名称を使用していない。

条件を満たしていない場合は、情報を修正してから Mail - Administrator Utilities を導入してください。

20.4 Mail - Administrator Utilities のインストールとアンインストール

ここでは、Mail - Administrator Utilities のインストールとアンインストールについて説明します。

20.4.1 インストール

(1) インストール時の注意事項

Mail - Administrator Utilities を新規に導入する場合は、収集サーバにするメールサーバにだけ Mail - Administrator Utilities をインストールします。

バージョン 02-10 の Mail - Administrator Utilities を導入していた場合は、Mail - Administrator Utilities をインストールしていたすべてのメールサーバに Mail - Administrator Utilities を更新インストールしてください。

インストールする前に、Mail - Administrator Utilities のサービスを停止してください。

停止するサービスの名称は、Mail Server がバージョン 03-00 よりも前のバージョンの場合は、「Gmax Admin Util Service」サービスです。それ以外の場合は「Mail - Administrator Utilities」サービスです。

(2) インストールの操作手順

Mail - Administrator Utilities をインストールするには次の手順に従います。

1. システム管理者のアカウントでログオンします。
2. Mail - Administrator Utilities の INSTALL.EXE を起動します。
会社名と個人名の入力ダイアログが表示されます。
3. 会社名と個人名を入力して、「開始」を選択します。
インストール方法を選択するダイアログボックスが表示されます。
4. 「新規/更新」を選んで、「続行」を選択します。
インストール先になるディレクトリを指定するダイアログが表示されます。
5. インストール先ディレクトリを指定して、「続行」を選択します。
インストール先ディレクトリについては後述します。
6. 表示された終了確認ダイアログで「終了」を選択します。

次に Mail - Administrator Utilities のインストール先ディレクトリについて説明します。

インストール先ディレクトリ

Mail - Administrator Utilities のインストール先ディレクトリは、通常、次の優先順

位でデフォルト値が設定されます。

1. 新規インストールの場合。
インストールドライブ： ¥ Win32app ¥ HITACHI ¥ Groupmax ¥ Admutil
2. 既に Mail - Administrator Utilities がインストールされている場合
前回インストールしたディレクトリ

なお、インストール先ディレクトリを変更する場合には、次の形式で指定してください。

ドライブ名：ディレクトリ名

20.4.2 アンインストール

(1) アンインストール時の注意事項

アンインストール時には「Mail - Administrator Utilities」サービスを停止してください。

Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ（サブディレクトリも含みます）のファイルを使用していないことを確認してください。ファイルを使用していた場合、正常にアンインストールを実行できません。正常にアンインストールが実行できなかったときは、Mail - Administrator Utilities をインストール後、アンインストールを再実行してください。

収集サーバで Mail - Administrator Utilities のアンインストールを行う場合は、収集サーバの解除を行ってからアンインストールを実行してください。また、測定サーバでアンインストールを行う場合は、測定サーバの解除を行ってからアンインストールを実行してください。

Mail - Administrator Utilities をアンインストールすると、それまで収集していた稼働結果や CSV ファイルは削除されます。

Mail - Administrator Utilities を運用している環境で、Address Server のアンインストールを行う場合は、Mail - Administrator Utilities も一緒にアンインストールしてください。

補足

Mail - Administrator Utilities がインストールされていない測定サーバから Address Server のアンインストールを行う場合は、測定サーバの解除を行ってから Address Server をアンインストールしてください。

(2) アンインストールの操作手順

Mail - Administrator Utilities をアンインストールするには次の手順に従います。

1. システム管理者のアカウントでログオンします。
2. Mail - Administrator Utilities の INSTALL.EXE を起動します。

会社名と個人名の入力ダイアログが表示されます。

3. 「開始」を選択します。

インストール方法を選択するダイアログボックスが表示されます。

4. 「削除」を選んで、「続行」を選択します。

Mail - Administrator Utilities のソフトウェアを削除します。ディレクトリ、ファイル、及びレジストリエントリが削除されます。

注意事項

インストール時に登録されたアイコンを選択したままアンインストールすると、アイコンが削除されない場合があります。その場合はユーザが削除してください。

21 Mail - Administrator Utilities のセットアップ

Mail - Administrator Utilities のセットアップの操作について説明します。

21.1 セットアップの流れ

21.2 LAN 環境の設定

21.3 時間の設定

21.4 Mail - Administrator Utilities のサービスの設定

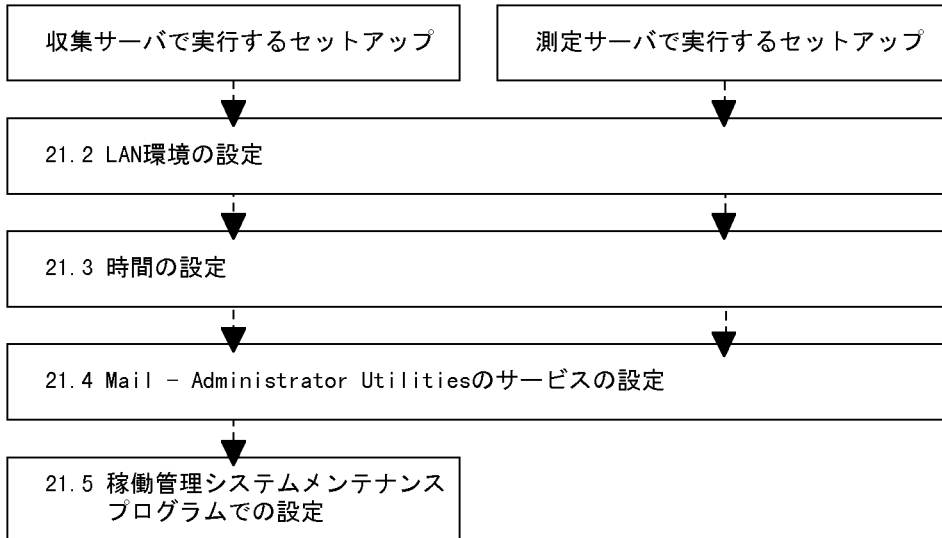
21.5 稼働管理システムメンテナンスプログラムでの設定

21.1 セットアップの流れ

Mail - Administrator Utilities のセットアップの流れを図 21-1 に示します。収集サーバで実行するセットアップと測定サーバで実行するセットアップでは、必要な作業が異なるのでご注意ください。

セットアップの内容については、 の部分を参照してください。

図 21-1 Mail - Administrator Utilities のセットアップの流れ



21.2 LAN 環境の設定

LAN 環境の設定では、hosts ファイルの確認と services ファイルへのサービス名とポート番号の追加を実行してください。

hosts ファイルと services ファイルは次に示すディレクトリにあります。

< OS インストール先ディレクトリ > ¥system32¥drivers¥etc

収集サーバと測定サーバの hosts ファイルに、収集サーバと測定サーバのホスト名と IP アドレスがすべて登録されていることを確認します。

! 注意事項

収集サーバ、及び測定サーバの TCP/IP の設定で、DNS (Domain Name System) によって測定サーバのホスト名が解決できる場合は、hosts ファイルの設定は不要です。

収集サーバと測定サーバの services ファイルに、次に示す Mail - Administrator Utilities が使用するサービス名とポート番号を追加します。

gadmutil 20017/tcp

< Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ > ¥Sample¥services
ファイルに追加の例があります。

21.3 時間の設定

Windows NT のコントロールパネルにある「日付と時刻」を使って、次に示す時間の設定を確認してください。

収集サーバと測定サーバに同一のタイムゾーン（時間帯）が設定されていることを確認してください。タイムゾーンが異なる場合、収集サーバは測定サーバを管理できません。

収集サーバと測定サーバのシステムクロックの時刻を合わせてください。時刻に 2 分以上ずれがある場合は、稼働結果を収集できません。

21.4 Mail - Administrator Utilities のサービスの設定

稼働結果を収集するためには、すべての測定サーバと収集サーバで Mail - Administrator Utilities のサービス（「Mail - Administrator Utilities」サービス）が起動している必要があります。

ここでは、「Mail - Administrator Utilities」サービスの起動、終了の方法について説明します。

（１）起動方法

「Mail - Administrator Utilities」サービスの起動方法には自動と手動とがあります。それぞれの起動方法について説明します。

なお、稼働結果の集計時には「Mail - Administrator Utilities」サービスが起動している必要があります。このため、「Mail - Administrator Utilities」サービスが自動で起動するように設定することを推奨します。

！ 注意事項

測定サーバの Mail - Administrator Utilities を手動で起動する場合は、先に「Address Server」サービスを起動してください。自動で起動する場合は、「Address Server」サービスのスタートアップの種類も自動にしてください。

自動で起動する場合

1. コントロールパネルからサービスを起動します。
2. 「Mail - Administrator Utilities」サービスを選択します。
3. 「スタートアップ」を選択します。
4. 「スタートアップの種類」を「自動」にします。
5. 「開始」を選択します。
6. 「OK」を選択します。

自動起動を設定した場合、次のコンピュータ起動時から有効になります。

！ 注意事項

「スタートアップ」で「デスクトップとの対話サービスに許可」をチェックしないでください。

手動で起動する場合

1. コントロールパネルからサービスを起動します。
2. 「Mail - Administrator Utilities」サービスを選択します。
3. 「開始」を選択します。

(2) 終了方法

「Mail - Administrator Utilities」サービスを停止するには、次の手順に従ってください。

1. コントロールパネルからサービスを起動します。
2. 「Mail - Administrator Utilities」サービスを選択します。
3. 「停止」を選択します。

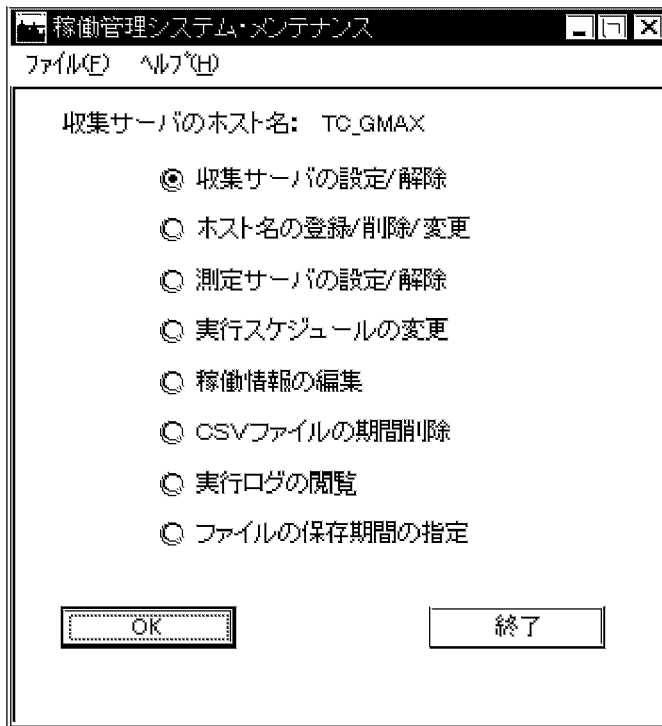
21.5 稼働管理システムメンテナンスプログラムでの設定

稼働管理システムメンテナンスプログラムは、収集サーバ上で実行します。

21.5.1 稼働管理システムメンテナンスプログラムの起動

稼働管理システムメンテナンスプログラムは、収集サーバの稼働情報管理アイコンから起動します。

システム管理者でログオン、「Mail - Administrator Utilities」サービスが起動している状態でアイコンを起動してください。稼働管理システム・メンテナンスウィンドウが表示されます。



注意

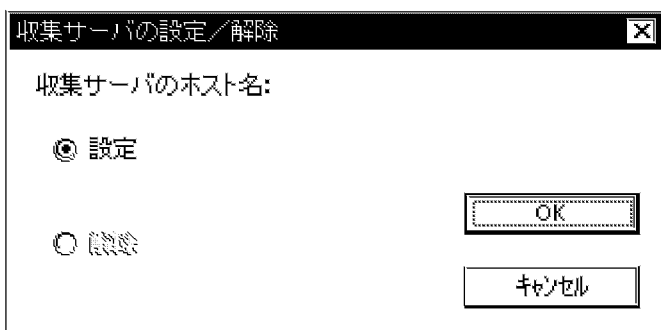
- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウの「ファイル(F)」や「ヘルプ(H)」メニューをキーボードから操作する場合、[Alt] キーを押した後、キーを離してから [F] キー又は [H] キーを押してください。
- 稼働管理システムメンテナンスプログラムを起動するメールサーバが、ほかの収集サーバによって既に測定サーバとして設定されている場合、稼働管理システムメンテナンスプログラムは起動できません。

21.5.2 収集サーバを設定 / 解除する

Mail - Administrator Utilities の収集サーバの設定と解除の操作について説明します。

(1) 操作手順

1. 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
2. 「収集サーバの設定 / 解除」を選び、「OK」を選択します。
収集サーバの設定 / 解除ダイアログが表示されます。



3. 「設定」又は「解除」を選び、「OK」を選択します。

収集サーバを設定する場合

「設定」を選んだ後、「OK」を選択します。稼働管理システムメンテナンスプログラムを起動しているメールサーバが収集サーバとして設定されます。

収集サーバを解除する場合

「解除」を選んだ後、「OK」を選択します。収集サーバの設定が解除されます。なお、収集サーバの設定を解除すると、それまで収集していた稼働結果や CSV ファイルが削除されます。

(2) 注意事項

収集サーバの解除が稼働結果の集計処理中だった場合は、集計処理の終了後に解除されます。

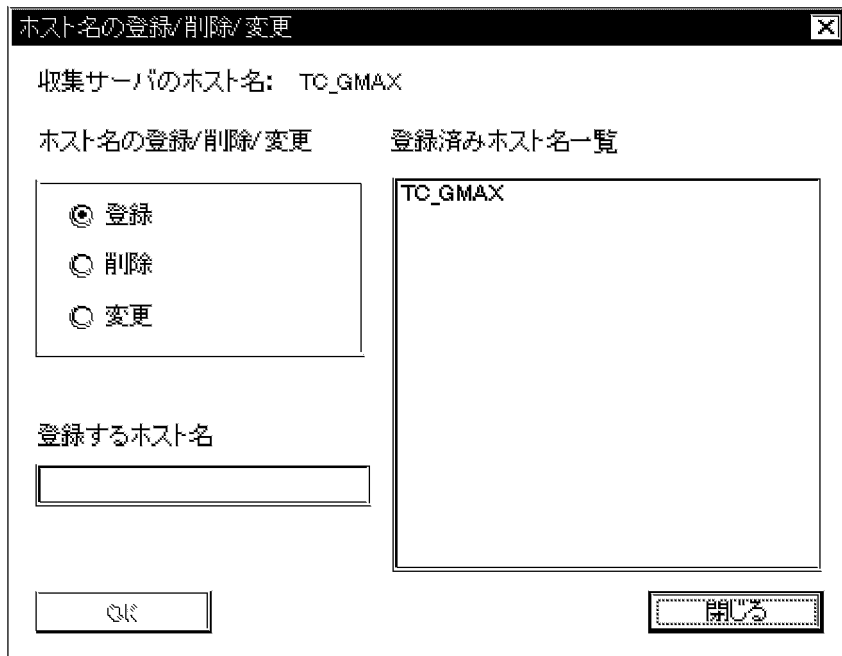
解除時に Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ (サブディレクトリも含みます) にエクスプローラなどからアクセスしないでください。解除に失敗することがあります。失敗した場合は、インストール先ディレクトリにアクセスしていないことを確認してから、解除を再実行してください。

21.5.3 ホスト名を登録 / 削除 / 変更する

Mail - Administrator Utilities が管理するメールサーバのホスト名を登録、削除、及び変更する操作について説明します。ここで登録したホスト名を持つメールサーバだけが測定サーバとして登録できます。

(1) 操作手順

- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
- 「ホスト名の登録 / 削除 / 変更」を選び、「OK」を選択します。
ホスト名の登録 / 削除 / 変更ダイアログが表示されます。



- 「登録」、「削除」又は「変更」を選択します。

ホスト名を登録する場合

「登録」を選択します。その後で、「登録するホスト名」にホスト名を入力して、「OK」を選択してください。入力したホスト名が登録されて、登録済みホスト名一覧に追加されます。

ホスト名を削除する場合

「削除」を選択します。その後で「登録済みホスト名一覧」からホスト名を選んだ状態で、「OK」を選択してください。

測定サーバのホスト名を変更する場合

「変更」を選択します（「変更」を選択した時点で、「登録するホスト名」は「変更後のホスト名」に変わります）。その後で「登録済みホスト名一覧」からホスト名を選んだ状態で、「変更後のホスト名」にホスト名を入力後、「OK」を選択してください。

(2) 注意事項

256 文字以上のホスト名は登録しないでください。

hosts ファイルに登録されているホスト名、又は DNS サーバに登録されているホスト名を登録してください。

登録するホスト名には、Groupmax のメールシステムを構築したときに、アドレスサーバの登録で指定したホスト名を使ってください。

バージョンが 03-00 よりも前の測定サーバのホスト名は変更できません。

この操作では収集サーバ、及び測定サーバを兼ねている収集サーバのホスト名は変更できません。変更する場合は、「22.5 収集サーバのホスト名を変更する」を参照してください。

21.5.4 測定サーバを設定 / 解除する

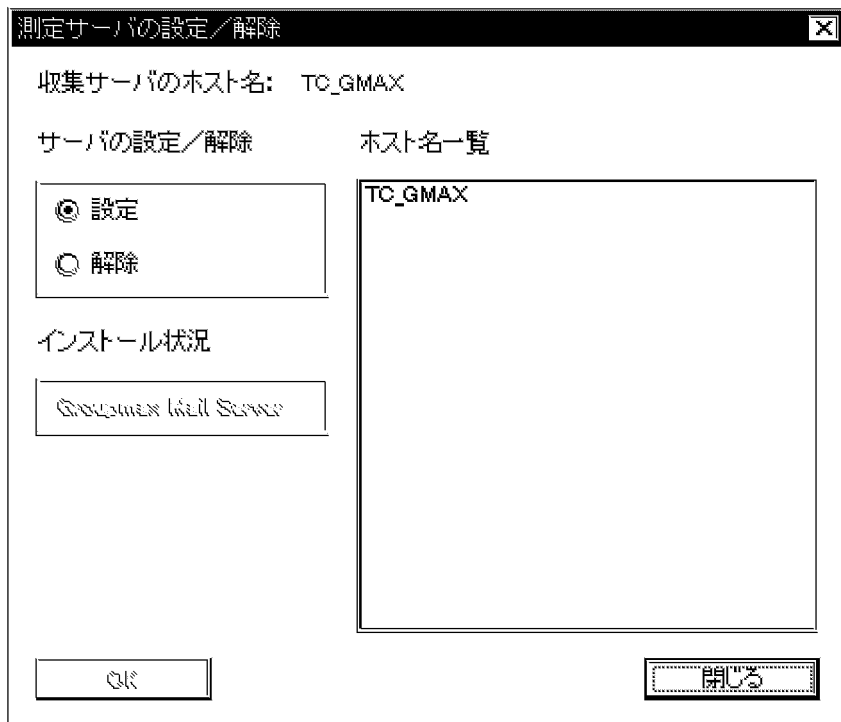
登録したホスト名から測定サーバを設定する操作について説明します。

! 注意事項

測定サーバを設定する場合は、設定の対象となるメールサーバで「Mail・Administrator Utilities」サービスが起動している必要があります。

(1) 操作手順

1. 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
2. 「測定サーバの設定 / 解除」を選び「OK」を選択します。
測定サーバの設定 / 解除ダイアログが表示されます。



3. 「設定」又は「解除」を選択します。

測定サーバを設定する場合

「設定」を選択します。「ホスト名一覧」には「21.5.3 ホスト名を登録/削除/変更する」で登録したホスト名が表示されます。「ホスト名一覧」から設定したいホスト名を選択します。インストール状況の「Groupmax Mail Server」のグレー表示が解除された時点で「OK」を選択してください。

測定サーバの設定を解除する場合

「解除」を選択します。「ホスト名一覧」には測定サーバとして設定されているホスト名が表示されます。「ホスト名一覧」から解除したいホスト名を選んで、「OK」を選択してください。

なお、測定サーバを解除すると、解除したサーバが収集していた稼働結果データは削除されます。

(2) 注意事項

シングルサーバ構成や収集サーバにしているメールサーバの稼働結果を収集する場合（収集サーバが測定サーバを兼ねる場合）は、収集サーバのホスト名もここで測定サーバとして登録してください。

収集サーバとタイムゾーンが異なる測定サーバは、収集サーバが管理できないため設定しないでください。

測定サーバとして設定するメールサーバが、既に別の収集サーバで測定サーバとして

設定されていた場合は、測定サーバの設定はできません。別の収集サーバでの設定を解除した後で、測定サーバの設定を実行してください。

集計処理中に測定サーバの解除をした場合は、集計処理の終了後に解除されます。

解除時に Mail - Administrator Utilities のインストール先ディレクトリ（サブディレクトリも含まれます）にエクスプローラなどからアクセスしないでください。解除に失敗することがあります。失敗した場合は、インストール先ディレクトリにアクセスしていないことを確認してから、解除を再実行してください。

21.5.5 測定サーバと収集サーバの実行スケジュールを設定する

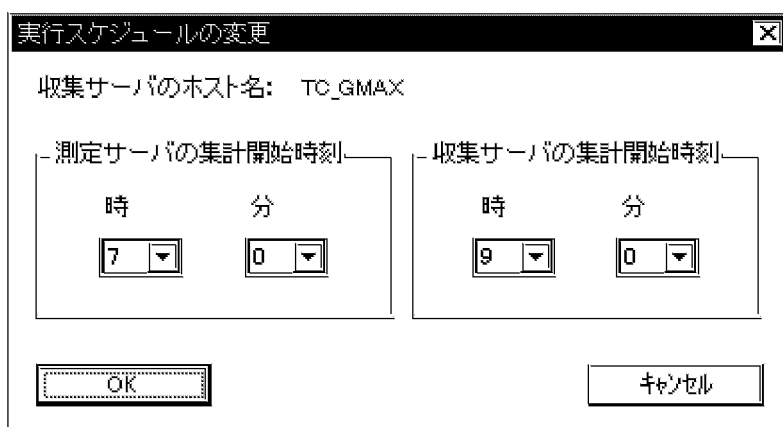
測定サーバと収集サーバの実行スケジュールを設定します。測定サーバで稼働結果の採取を開始する時間と収集サーバが測定サーバの稼働結果の集計を開始する時刻を指定します。

! 注意事項

実行スケジュールを設定する場合は、すべての測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動しておく必要があります。

(1) 操作手順

- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
- 「実行スケジュールの変更」を選び、「OK」を選択します。
実行スケジュールの変更ダイアログが表示されます。



- 収集サーバと測定サーバの集計開始時刻を指定します。
集計開始時刻を「時」と「分」で指定します（「分」は5分間隔で指定できます）。

4. 「OK」を選択します。

指定した集計開始時刻が設定されます。測定サーバの集計開始時間は、設定されているすべての測定サーバで有効です。

集計開始時刻を変更しなかった場合は、「キャンセル」を選択してください。

(2) 注意事項

メールサーバに負荷がかからないように、測定サーバの集計開始時刻を深夜に、収集サーバの集計開始時刻を早朝にすることを推奨します。

測定サーバでの集計が完了していなくても、開始時刻になると収集サーバは測定サーバのデータを集計し始めます。このため、測定サーバの集計開始時刻と収集サーバの集計開始時刻を、最低でも2時間ずらすことを推奨します。

収集サーバと測定サーバのシステムクロックの時刻は、2分以上ずれないようにしてください。また、セットアップの終了後はシステム日付を変更しないでください。

収集サーバの収集開始時刻に測定サーバのダウンやネットワーク障害が発生した場合、前日の稼働情報は収集できません。

22 Mail - Administrator Utilities の運用

Mail - Administrator Utilities の運用方法について説明します。

-
- 22.1 稼働情報の CSV ファイルを参照する

 - 22.2 Mail - Administrator Utilities のログを表示する

 - 22.3 指定した期間の情報を CSV ファイルから削除する

 - 22.4 稼働結果データとログの保存期間を指定する

 - 22.5 収集サーバのホスト名を変更する

 - 22.6 運用上の注意事項

 - 22.7 稼働情報の CSV ファイル
-

22.1 稼働情報の CSV ファイルを参照する

稼働情報とは、Mail - Administrator Utilities が採取した Groupmax のメールシステムの稼働結果に関する情報です。ユーザには 11 種類の CSV ファイルとして提供されます。11 種類の CSV ファイルは次の二つに分類できます。

自動的に出力される CSV ファイル

ユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイル

22.1.1 自動的に出力される CSV ファイル

Mail - Administrator Utilities が自動的に出力する稼働情報の CSV ファイルは次の三つです。これらの CSV ファイルは、収集サーバの集計開始時刻に出力（作成）されます。

diskinfont.csv（メールサーバのディスク状況）

grpmailuser.csv（ユーザ ID 単位のメールサーバへのアクセス状況）

grpmailboard.csv（掲示板 ID 単位の掲示板へのアクセス状況）

CSV ファイルの項目の詳細は、「22.7 稼働情報の CSV ファイル」を参照してください。

! 注意事項

稼働情報の CSV ファイルを直接修正しないでください。修正する場合は、別のファイルにコピーしたものを使用してください。

22.1.2 ユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイル

ユーザが指定した期間に基づいて、Mail - Administrator Utilities が稼働結果データを編集して出力する CSV ファイルは次の八つです。

gm_touroku.csv（部署単位の登録ユーザ数）

groupmaxnt.csv（部署単位のメールサーバの使用状況）

mailtop10.csv（ユーザ単位のメールサーバの使用状況）

boardtop10.csv（掲示板単位の掲示板の状況）

mailserv.csv（サーバ単位のメールサーバ使用者数）

meminfont.csv（サーバ単位のメモリ状況）

gmsv_ave.csv（メールサーバの平均使用者数）

gmsv_max.csv（メールサーバの最大使用者数）

これらの CSV ファイルを出力させる操作については、「22.1.3 指定した期間の稼働結果データを CSV ファイルに出力する」を参照してください。また、CSV ファイルの項目の詳細は、「22.7 稼働情報の CSV ファイル」を参照してください。

22.1.3 指定した期間の稼働結果データを CSV ファイルに出力する

Mail - Administrator Utilities が持っている稼働結果データをユーザの指定した期間に基づいて編集、CSV ファイルとして出力する操作を説明します。

(1) 操作手順

- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
- 「稼働情報の編集」を選び「OK」を選択します。
稼働情報の編集ダイアログが表示されます。

- 「編集するデータの期間指定」に期間を指定します。
期間の開始日付と終了日付を「年」、「月」、「日」で指定します。
デフォルトは、編集可能な最大期間です（編集できる稼働結果データがない場合には空欄になります）。
- 「OK」を選択します。
指定した期間の稼働情報の CSV ファイルが次のディレクトリに出力されます。
< Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ > ¥Acct¥Csv

(2) 注意事項

セットアップ直後は、期間を指定して稼働情報の CSV ファイルを出力することができません。出力できるようになるのは、測定サーバが 1 時間以上動作した日の翌日以降で、かつ収集サーバでの収集が完了した時点からです。

期間を指定して出力した CSV ファイルは毎回上書きして格納されます。前回の CSV

ファイルが必要な場合は、あらかじめ CSV ファイルを別のファイルにコピーしてください。

稼働情報の CSV ファイルを直接修正しないでください。修正する場合は、別のファイルにコピーしたものを使用してください。

測定サーバの < Mail Server インストール先ディレクトリ > ¥nxcdir ディレクトリにある nxclog ファイル及び nxclog.001 ~ nxclog.004 を移動・削除・編集しないでください。

稼働結果データには保存期間を指定する機能があります。この機能を使用した場合、指定した保存期間を過ぎた稼働結果データは自動的に削除されます。削除された稼働結果データについては、編集して稼働情報の CSV ファイルに出力できません。このため、保存期間内に定期的に稼働結果データを稼働情報の CSV ファイルに出力してください。

なお、稼働結果データの保存期間については、「22.4 稼働結果データとログの保存期間を指定する」を参照してください。

指定した期間の稼働結果データがすべて保存されていなかった場合、保存されているデータだけを使って CSV ファイルを出力します。

22.2 Mail - Administrator Utilities のログを表示する

Mail - Administrator Utilities の実行状況は、次の三つのログとして記録されています。

メンテナンス操作のログ

稼働管理システムメンテナンスプログラムでの操作のログです。

稼働管理実行ログ

測定サーバでの稼働結果の採取作業のログです。

受付処理のログ

収集サーバと測定サーバ間でのデータ送受信の状況のログです。

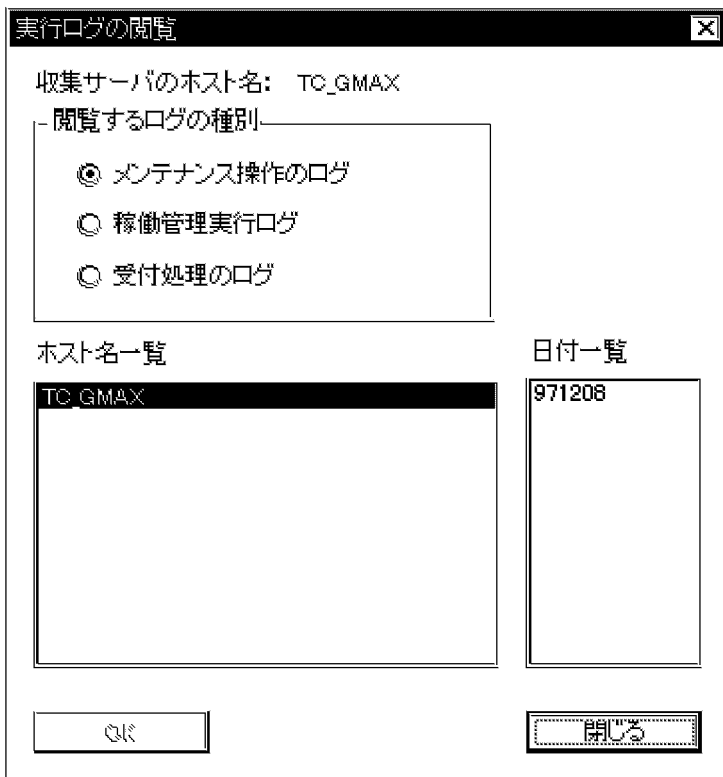
これらのログから Mail - Administrator Utilities の各サーバでの実行状況を確認する操作を説明します。

! 注意事項

測定サーバの稼働管理実行ログ、又は受付処理のログを表示するときは、その測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動しておく必要があります。

(1) 操作手順

1. 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
2. 「実行ログの閲覧」を選び、「OK」を選択します。
実行ログの閲覧ダイアログが表示されます。



3. 閲覧するログの種別を選択します。
次の三つの中から選択します。
 - メンテナンス操作のログ
 - 稼働管理実行ログ
 - 受付処理のログ
4. 「ホスト名の一覧」からログを閲覧したいサーバのホスト名を選択します。
「日付一覧」にログが記録されている年月日が表示されます。
5. 「日付の一覧」から閲覧したいログの年月日を選択します。
6. 「OK」を選択します。
ログが表示されます。

(2) 注意事項

参照可能なログが存在しない場合は、日付一覧に日付が表示されません。

22.3 指定した期間の情報を CSV ファイルから削除する

Mail - Administrator Utilities が自動的に出力する CSV ファイルのデータを削除する操作を説明します。対象となる稼働情報の CSV ファイルを次に示します。

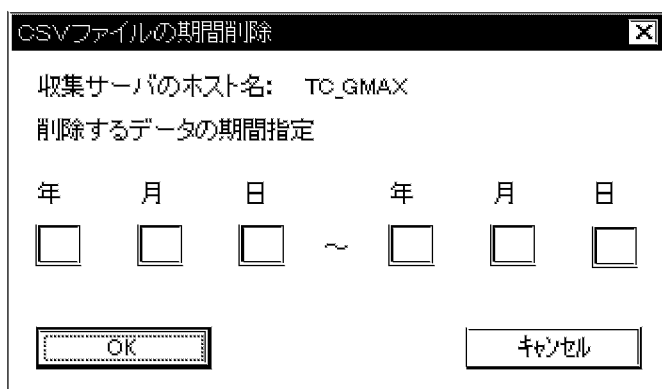
diskinfont.csv

grpmailuser.csv

grpmailboard.csv

(1) 操作手順

- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
- 「CSV ファイルの期間削除」を選び、「OK」を選択します。
CSV ファイルの期間削除ダイアログが表示されます。



- 「削除するデータの期間指定」に期間を指定します。
期間の開始日付と終了日付を「年」、「月」、「日」で指定します。
- 「OK」を選択します。

(2) 注意事項

diskinfont.csv, grpmailuser.csv, grpmailboard.csv には, Mail - Administrator Utilities が収集した結果が毎日, 自動的に追記されていきます。このために, CSV ファイルのサイズが大きくなりすぎる前に, 不要なデータを削除してください。CSV ファイルのサイズが大きくなると収集時間が長くなります。

削除したデータは復活できません。データが必要な場合は, 削除の前に CSV ファイルをコピーしてください。

22.4 稼働結果データとログの保存期間を指定する

稼働結果データのファイルと Mail - Administrator Utilities のログファイルの保存期間を指定する操作を説明します。

稼働結果データは、測定サーバ、収集サーバに蓄積されているデータで、「22.1.3 指定した期間の稼働結果データを CSV ファイルに出力する」で出力する稼働情報の CSV ファイルの基になります。

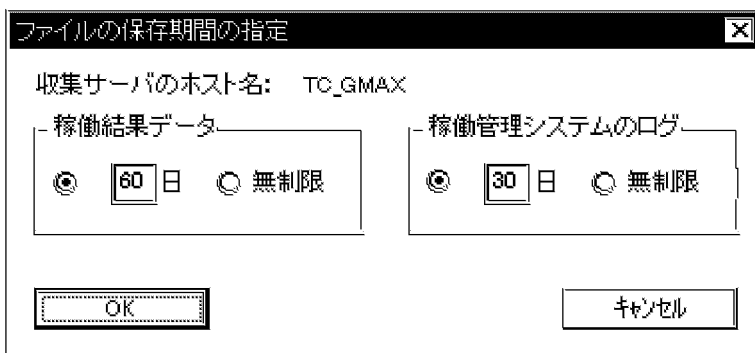
Mail - Administrator Utilities のログ（稼働管理システムのログ）は、「22.2 Mail - Administrator Utilities のログを表示する」で参照できるログのファイルです。

！ 注意事項

保存期間を指定する場合は、すべての測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動しておく必要があります。

（１）操作手順

- 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。
- 「ファイルの保存期間の指定」を選び、「OK」を選択します。
ファイルの保存期間の指定ダイアログが表示されます。



- 稼働結果データと稼働管理システムのログの保存期間を指定します。
無制限と日数による指定が選択できます。日数による指定を選択した場合は、何日間保存するのかを 1 ~ 99 の数字で指定します。
収集サーバを設定した直後は、初期値として「稼働結果データ」には 60 日、「稼働管理システムのログ」には 30 日が設定されています。
- 「OK」を選択します。
保存期間の指定を変更しなかった場合は「キャンセル」を選択してください。

(2) 注意事項

稼働結果データと稼働管理システムのログは、測定サーバや収集サーバでの集計処理の終了後に削除されます。このため、指定した集計処理の時刻によっては、一時的にファイルの保存期間を超えた稼働結果データや Mail - Administrator Utilities のログが存在する場合があります。

稼働結果データの保存期間は、稼働情報の編集を定期的に行う間隔の2倍以上の期間を指定することを推奨します。例えば、月に1回稼働情報の編集を行う場合、60日以上を指定するようにします。

22.5 収集サーバのホスト名を変更する

Mail - Administrator Utilities を運用中に収集サーバのホスト名を変更する場合の操作を説明します。

(1) 操作手順

1. 稼働情報を編集します。
収集サーバの設定を解除すると、すべてのサーバの稼働結果データが削除されます。このため、収集サーバの設定を解除する直前に、前日までの稼働結果データを CSV ファイルに出力し、作成された CSV ファイルを別のディレクトリに退避してください。CSV ファイルに出力する操作については、「22.1.3 指定した期間の稼働結果データを CSV ファイルに出力する」を参照してください。
2. 収集サーバの設定を解除します。
収集サーバで稼働情報管理アイコンを起動して設定を解除します。収集サーバを解除すると、同時に設定されていた測定サーバも解除されます。
3. TCP/IP の設定でホスト名を変更します。
変更後のホスト名は hosts ファイルに反映するか、DNS サーバに登録して、名前の解決ができるようにしてください。
4. 収集サーバを再設定します。
5. 測定サーバを再設定します。
6. 実行スケジュール、及び稼働結果データとログの保存期間を再設定します。
7. 退避した CSV ファイルを Csv ディレクトリに戻します。
手順 1. で退避した CSV ファイルを <Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ>\¥Acct¥Csv ディレクトリにコピーしてください。

(2) 注意事項

ホスト名の変更を行った場合、作成される CSV ファイルには変更前、変更後のホスト名に分かれてデータが集計されます。

22.6 運用上の注意事項

Mail - Administrator Utilities を使用するにあたっては次の注意事項があります。

クライアントからの 1 日のアクセスが大量にあって、メールサーバのログに 1 日の情報が格納できない場合は、正常な稼働情報が収集できません。

最上位組織 ID, 組織 ID, 組織略称は、Groupmax のメールシステム内でユニークに設定する必要があります。

組織 ID, 組織略称, 組織名 (日本語), 及び掲示板名に, (コンマ) を含む名称は使用しないでください。

Mail - Administrator Utilities が作成するファイル (収集した稼働情報の CSV ファイルやログファイルなど) を直接修正しないでください。修正する場合は、別のファイルにコピーしたものを使用してください。

Mail - Administrator Utilities は、Address Server ログファイル (<Address Server インストールディレクトリ>%nxcdir%nxclog) から情報を取得しています。このファイルは、デフォルトで 10 メガバイトの情報を格納できます。ファイルに格納した情報が 10 メガバイトに達すると、バックアップが作成されます。バックアップは、4 世代分まで保持します。したがって、デフォルトで最大五つのファイルで 50 メガバイトまでの情報が保持できます。しかし、1 日分の情報が 50 メガバイト以上になる測定サーバでは、サイズを大きくしないと正しい値を取得できません。サイズはファイルにキーワードを記述することで変更できます。変更するためのファイル名とキーワードを示します。

[ファイル]

<Address Server インストールディレクトリ>%nxcdir%gmpublicinfo

[キーワード]

NXCLOG_SIZE=20

注意

マシンが 1 日停止していて解析ができなかった日があった場合、次の日に解析します。このため、2 日分は取得できるように設定することを推奨します。

一部の測定サーバがハードウェア障害などで使えなくなったために稼働情報が採取できないケースで、その測定サーバを測定対象から解除して、稼働情報を採取できるようにする場合には次の手順を行ってください。

1. 収集サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを停止します。
2. 収集サーバのデータをバックアップします。
<Mail - Administrator Utilities インストールディレクトリ> 以下の全てのディレクトリとファイル
3. 次に示すファイルの中にある、解除する測定サーバのホスト名が書かれた行を削除します。

22. Mail - Administrator Utilities の運用

<Mail - Administrator Utilities インストールディレクトリ >%Acct%all_Server
<Mail - Administrator Utilities インストールディレクトリ
>%Acct%sokutei_server

4. 次に示すディレクトリを削除します。
<Mail - Administrator Utilities インストールディレクトリ >%Acct%Host%< 削除する測定サーバのホスト名 >
5. 収集サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動します。

注意

本設定を行うと、解除した測定サーバの稼働情報はすべて削除されるため、以後 CSV ファイルには出力されません。

22.7 稼働情報の CSV ファイル

稼働情報の CSV ファイルは、<Mail - Administrator Utilities インストール先ディレクトリ>\¥Acct¥Csv ディレクトリに格納されます。

ここでは、Mail - Administrator Utilities で出力できる稼働情報の CSV ファイルとその項目の詳細を説明します。

! 注意事項

稼働情報の CSV ファイルを直接修正しないでください。修正する場合は、別のファイルにコピーしてから使用してください。

22.7.1 自動的に出力される CSV ファイル

(1) diskinfo.csv

その日の最後に測定した各サーバのディスク情報が格納されます。

Mail Server をインストールしたドライブだけでなく、すべてのローカルドライブのディスク情報が集計されます。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	ホスト名	メールサーバのホスト名。
2	日付	データ日付を「YYYY/MM/DD」で示す。
3	ドライブ名	ディスクのドライブ名。
4	ドライブタイプ	ディスクのドライブタイプ。
5	ファイルシステム	ディスクのファイルシステム。
6	全容量 (K B)	ディスクの全容量。
7	使用容量 (K B)	ディスクの使用量。
8	使用率 (%)	ディスクの使用率。

(2) grpmailuser.csv

使用者 ID 単位のメールサーバへのアクセス情報が格納されます。

! 注意事項

@ が付加された使用者 ID は組織の情報です。セッション時間が正確ではないことがあります。

22. Mail - Administrator Utilities の運用

項番	ヘッダ文字列	説明
1	ホスト名	メールサーバのホスト名。
2	日付	データ日付を「YYYY/MM/DD」で示す。
3	使用者 I D	Groupmax Mail ユーザのユーザ I D。
4	セッション回数	メールサーバへのログイン回数。
5	セッション時間 (秒)	メールサーバへのログイン時間。
6	送信メール	送信したメール数。
7	送信メール削除	送信メールを削除した数。
8	受信メール	受信メールを開いた数(既読, 未読を問わず)。
9	受信添付取出	受信メール上の添付ファイルを取り出した数 ¹ 。
10	受信メール削除	受信メールを削除した数(既読, 未読を問わず)。
11	掲示板記事参照	掲示板記事の参照回数 ² ³ 。
12	掲示板記事掲示	掲示板への記事掲示回数 ³ 。
13	掲示板削除	掲示板からの記事削除回数 ³ 。

注 1

「受信添付取出」は、メールサーバに対しての取り出し要求数のため、ユーザの操作数とは違う場合があります。

注 2

1人が同じ記事を10回参照した場合に10となります。また、同じ記事を10人が1回ずつ参照した場合も10となります。

注 3

編集方法の設定の「掲示板アクセス編集」の設定内容によってカウント方法が異なります。

(3) grpmailboard.csv

掲示板 ID 単位に掲示板のアクセス状況の情報が格納されます。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	ホスト名	メールサーバのホスト名。
2	日付	データ日付を「YYYY/MM/DD」で示す。
3	掲示板 I D	掲示板 I D。
4	掲示板参照	掲示板内記事の参照回数 ¹ ² 。
5	掲示板掲示	掲示板への記事掲示回数 ² 。
6	掲示板削除	掲示板からの記事削除回数 ² 。

注 1

1人が同じ記事を10回参照した場合に10となります。また、同じ記事を10人が1回ずつ参照した場合も10となります。

注 2

編集方法の設定の「掲示板アクセス編集」の設定内容によってカウント方法が異なります。

22.7.2 ユーザが期間を指定して出力させる CSV ファイル

(1) gm_touroku.csv

部署単位の登録ユーザ数がホスト名ごとに格納されます。

gm_touroku.csv は、最上位組織に所属する組織単位に編集されます。なお、最上位組織直下に所属するユーザの情報は "[最上位]XXXXX" (XXXXX は最上位組織名です) という名称の部署に集計されます。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	組織 ID	Mail - Administrator Utilities の内部で管理されている組織 ID です。101 から始まります。最初に動作したときは、Address Server のデータベースの先頭から最上位組織、組織の順に割り振ります。その後は登録されるごとに割り振られません。一度使った ID が組織削除により不要になっても再利用されません。
2	部署名	Groupmax システム内の部署名。
3	ホスト名 1	ホスト名 1 のユーザ登録者数。
4	ホスト名 2	ホスト名 2 のユーザ登録者数。
:	:	:
n+2	ホスト名 n	ホスト名 n のユーザ登録者数。

注

n は、システムで設定したホスト数です。

(2) groupmaxnt.csv

部署単位のメールサーバの使用状況が格納されます。

groupmaxnt.csv は、最上位組織に所属する組織単位に編集されます。なお、最上位組織直下に所属するユーザの情報は "[最上位]XXXXX" (XXXXX は最上位組織名です) という名称の部署に集計されます。

22. Mail - Administrator Utilities の運用

項番	ヘッダ文字列	説明
1	組織 I D	Mail - Administrator Utilities の内部で管理されている組織 ID です。101 から始まります。最初に動作したときは、Address Server のデータベースの先頭から最上位組織、組織の順に割り振ります。その後は登録されるごとに割り振られます。一度使った ID が組織削除により不要になっても再利用されません。
2	部署名	Groupmax システム内の部署名。
3	日付	データ日付を「YY/MM/DD ~ YY/MM/DD」で示す。YY は西暦の下 2 けた。
4	GM 送信メール件数 (合計)	部署に所属しているユーザのメール送信数の合計。
5	GM 送信メール件数 (一人平均)	部署に所属しているユーザのメール送信数の一人平均。
6	GM 受信メール参照回数 (合計)	部署に所属しているユーザの受信メール参照数の合計。
7	GM 受信メール参照回数 (一人平均)	部署に所属しているユーザの受信メール参照数の一人平均。
8	GM 掲示板参照件数 (合計)	部署に所属するユーザの掲示板記事の参照回数合計。
9	GM 掲示板参照件数 (一人平均)	部署に所属するユーザの掲示板記事の参照回数一人平均。
10	GM セッション時間 (秒)(合計)	部署に所属しているユーザのログイン時間の合計。
11	GM セッション時間 (秒)(一人平均)	部署に所属しているユーザのログイン時間の一人平均。

注 1

GM は Groupmax Mail の略です。なお、セッション時間の集計方法については、「22.7.3 セッション時間とセッション回数の集計方法」を参照してください。

注 2

(一人平均) は、件数を部署以下に所属しているユーザ数で割った値です。

注

mailtop10.csv の情報を使用して合計、平均を出しています。

(3) mailtop10.csv

使用者 ID 単位のメールサーバ使用状況が格納されます。上位 10 人の情報ではありません。ただし、稼働情報の編集時点でメールサーバから削除されているユーザに関しては、所属名、部署名は出力されません。

! 注意事項

@ が付加されたユーザー ID は組織の情報です。セッション時間が正確ではないことがあります。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	ホスト名	メールサーバのホスト名。
2	日付	データ日付を「YY/MM/DD ~ YY/MM/DD」で示す。YY は西暦の下 2 けた。
3	ユーザー ID	Groupmax Mail ユーザのユーザ ID。
4	セッション回数	メールサーバへのログイン回数。
5	セッション時間 (秒)	メールサーバへのログイン時間。
6	送信メール	送信したメール数。
7	送信メール削除	送信メールを削除した数。
8	受信メール	受信メールを開いた数 (既読, 未読を問わず)。
9	受信添付取出	受信メール上の添付ファイルを取り出した数 ¹ 。
10	受信メール削除	受信メールを削除した数 (既読, 未読を問わず)。
11	掲示板記事参照	掲示板記事の参照回数 ² ³ 。
12	掲示板記事掲示	掲示板への記事掲示回数 ³ 。
13	掲示板記事削除	掲示板からの記事削除回数 ³ 。
14	所属名	所属名。ユーザの所属組織の組織略称。
15	部署名	部署名。ユーザの所属部署の組織略称。
16	組織 ID	Mail - Administrator Utilities の内部で管理されている組織 ID です。101 から始まります。最初に動作したときは、Address Server のデータベースの先頭から最上位組織、組織の順に割り振ります。その後は登録されるごとに割り振られます。一度使った ID が組織削除により不要になっても再利用されません。
17	氏名	ユーザの氏名。

注

最上位組織に属するユーザの所属名と部署名は最上位組織の名称に、組織 ID は最上位組織 ID になります。なお、セッション回数とセッション時間の集計方法については、「22.7.3 セッション時間とセッション回数の集計方法」を参照してください。

注 1

「受信添付取出」は、メールサーバに対しての取り出し要求数のため、ユーザの操作数とは違う場合があります。

注 2

同じ記事を 10 回参照した場合に 10 となります。

注 3

編集方法の設定の「掲示板アクセス編集」の設定内容によってカウント方法が異なります。

(4) boardtop10.csv

掲示板単位の掲示板状況が格納されます。

注意

「編集するデータの期間指定」で設定した期間内に掲示板を削除した場合、boardtop10.csv ファイルの「掲示板参照」の累計値と、groupmaxnt.csv ファイルの「GM 掲示板参照件数(合計)」の累計値が一致しない可能性があります。

boardtop10.csv ファイルの「掲示板参照」には、集計時点に存在する掲示板だけを対象として、情報が出力されます。「編集するデータの期間指定」で設定した期間内にユーザがその掲示板を参照していても、集計時点で掲示板が削除されていれば、データは出力されません。

groupmaxnt.csv ファイルには、ユーザを対象にして、部署単位で掲示板を参照した回数が出力されるので、「編集するデータの期間指定」で設定した期間内の参照回数そのまま集計されます。そのため、削除した掲示板の参照回数が GM 掲示板参照件数(合計)の累計値に含まれます。

このように、掲示板の削除を実行した場合、両 csv ファイルの掲示板参照回数の累計値は必ずしも一致するとは限りません。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	日付	データ日付を「YY/MM/DD ~ YY/MM/DD」で示す。YY は西暦の下 2 けた。
2	掲示板名	掲示板の名称。
3	掲示板 I D	掲示板 I D。
4	掲示板参照	掲示板内記事の参照回数 ¹ ²
5	掲示板掲示	掲示板への記事掲示回数 ² 。
6	掲示板削除	掲示板からの記事削除回数 ² 。

注 1

1 人が同じ記事を 10 回参照した場合に 10 となります。また、同じ記事を 10 人が 1 回ずつ参照した場合も 10 となります。

注 2

編集方法の設定の「掲示板アクセス編集」の設定内容によってカウント方法が異なります。

(5) mailserv.csv

サーバ単位のメールサーバ使用者数が格納されます。1 人のユーザが何度ログインしても

1 人としてカウントします。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	日付	データ日付を「YYYY/MM/DD」で示す。
2	ホスト名 1	ホスト名 1 の使用者数。
:	:	:
n+1	ホスト名 n	ホスト名 n の使用者数。
n+2	合計	日付の使用者数合計。

(6) meminfont.csv

サーバ単位の OS を含めた全体のメモリ最大使用量 (単位 KB) とスワップ最大使用量 (単位 KB) が格納されます。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	日付	データ日付を「YYYY/MM/DD」で示す
2	ホスト名 1 (メモリ最大使用量)	ホスト名 1 のメモリ最大使用量。
3	ホスト名 1 (スワップ最大使用量)	ホスト名 1 のスワップ最大使用量。
:	:	:
2n	ホスト名 n (メモリ最大使用量)	ホスト名 n のメモリ最大使用量。
2n+1	ホスト名 n (スワップ最大使用量)	ホスト名 n のスワップ最大使用量。

(7) gmsv_ave.csv / gmsv_max.csv

gmsv_ave.csv には、時系列のメールサーバ平均使用者数が格納されます。

gmsv_max.csv には、時系列のメールサーバ使用者最大数が格納されます。

注意

- 使用者数は、メールサーバが 5 分ごとに出力している情報を利用しています。例えば 08 時の値は、8:00 に一番近い 7:55 ~ 8:00 に出力された情報を利用します。8:00 ちょうどログイン数とは限りません。
- 平均使用者数は、指定期間の各時刻における使用者数を合計し、測定サーバの稼働日で割った値です。また、使用者最大数は、指定期間の各時刻における使用者数の最大値です。

項番	ヘッダ文字列	説明
1	日付	データ日付を「YY/MM/DD ~ YY/MM/DD」で示す。YY は西暦の下 2 けた。
2	ホスト名	メールサーバのホスト名。
3	0 0 時の情報	0 0 時時点での平均利用者数 / 利用者最大数。
:	:	:
2 6	2 3 時の情報	2 3 時時点での平均利用者数 / 利用者最大数。

注

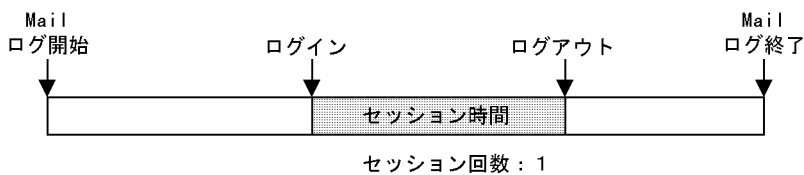
00 時から 23 時までの情報が、各時間別にすべて格納されます。

22.7.3 セッション時間とセッション回数の集計方法

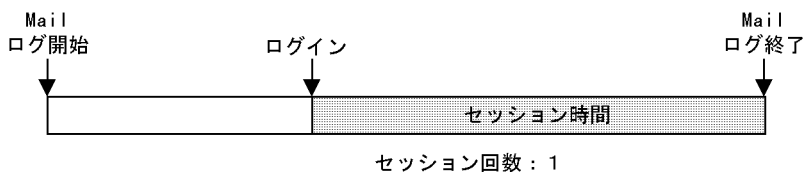
grpmailuser.csv, mailtop10.csv, 及び groupmaxnt.csv における、各ユーザのセッション時間とセッション回数の集計方法を次に示します。

セッション時間、セッション回数の集計方法は次のとおりです。

(1) ログイン、ログアウト共にあり。

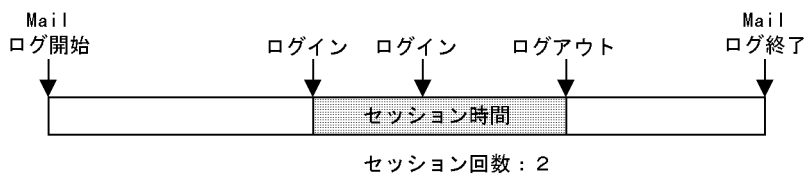


(2) ログインあり、ログアウトなし。



(3) ログインなし、ログアウトあり。

22. Mail - Administrator Utilities の運用



23 Mail - Administrator Utilities の統合管理機能

Mail - Administrator Utilities の統合管理機能について説明します。

23.1 統合管理機能の環境設定

23.2 統合管理機能の詳細設定

23.3 統合管理機能の運用方法

23.4 稼働情報の CSV ファイル

23.5 こんなときには

23.1 統合管理機能の環境設定

統合化モードの環境を作成する場合、次のようなパターンがあります。該当するパターンの設定を行ってください。

新規に Windows NT 版の収集サーバ及び Windows NT 版と UNIX 版の測定サーバを導入して統合化モードにします。又は Windows NT モードの環境に、新規に UNIX 版の測定サーバを導入して統合化モードにします。

手順は「23.1.1 新規導入時の設定」を参照してください。

UNIX モードの環境に、新規に Windows NT 版の収集サーバを導入して統合化モードにします。

手順は「23.1.2 収集サーバを Windows NT 版に変更する」を参照してください。

Windows NT モードと UNIX モードの二つを統合して統合化モードにします。

手順は「23.1.3 Windows NT モードと UNIX モードを統合する」を参照してください。

23.1.1 新規導入時の設定

新規に、又は Windows NT モードの環境に統合化モードを設定する手順を次に示します。

1. 収集サーバにする Windows NT マシンを決め、そのマシンに Windows NT 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 を新規にインストールします。
Windows NT モードから統合化モードに移行する場合は、収集サーバに Windows NT 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 を更新インストールしてください。インストール方法は、「20.4.1 インストール」を参照してください。
2. UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 を 1 台の UNIX マシンにインストールします。
HI-UX/WE2 マシンには、HI-UX/WE2 の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしてください。HP-UX マシンには、HP-UX の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしてください。インストール方法は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。
3. Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にします。
「23.2.2 Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にする」を参照してください。
4. UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にします。
「23.2.3 新規の UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にする」を参照してください。

5. すべての Windows NT 版の測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動します。
6. すべての UNIX 版の測定サーバで ACT_dmn start により Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を起動します。
スーパーユーザで起動してください。
7. 収集サーバの稼働管理システムメンテナンスプログラムで、すべての Windows NT 版及び UNIX 版の測定サーバを設定してください。
設定方法は、「21.5.4 測定サーバを設定 / 解除する」を参照してください。
8. 手順 2 でインストールした UNIX 版の Mail - Administrator Utilities は、運用に入ってから不要ですのでアンインストールしてください。
なお、アンインストールしなくても何も影響はありません。

23.1.2 収集サーバを Windows NT 版に変更する

UNIX モードの環境に Windows NT 版の収集サーバを導入して、統合化モードにする設定手順を次に示します。

1. 収集サーバにする Windows NT マシンを決め、そのマシンに Windows NT 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールします。
インストール方法は、「20.4.1 インストール」を参照してください。
2. UNIX モード (既存) の収集サーバに、UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールします。
HI-UX/WE2 マシンには、HI-UX/WE2 の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしてください。HP-UX マシンには、HP-UX の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしてください。インストール方法は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。
3. UNIX 版の測定サーバを UNIX モードから削除します。
「23.2.1 UNIX モードの測定サーバを解除する」を参照してください。
4. UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にします。
「23.2.4 UNIX モードの測定サーバを統合化モード対応にする」を参照してください。
5. すべての UNIX 版の測定サーバで ACT_dmn start により Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を起動します。
スーパーユーザで起動してください。
6. 収集サーバの稼働管理システムメンテナンスプログラムで、すべての UNIX 版の測定サーバを設定してください。
設定方法は、「21.5.4 測定サーバを設定 / 解除する」を参照してください。

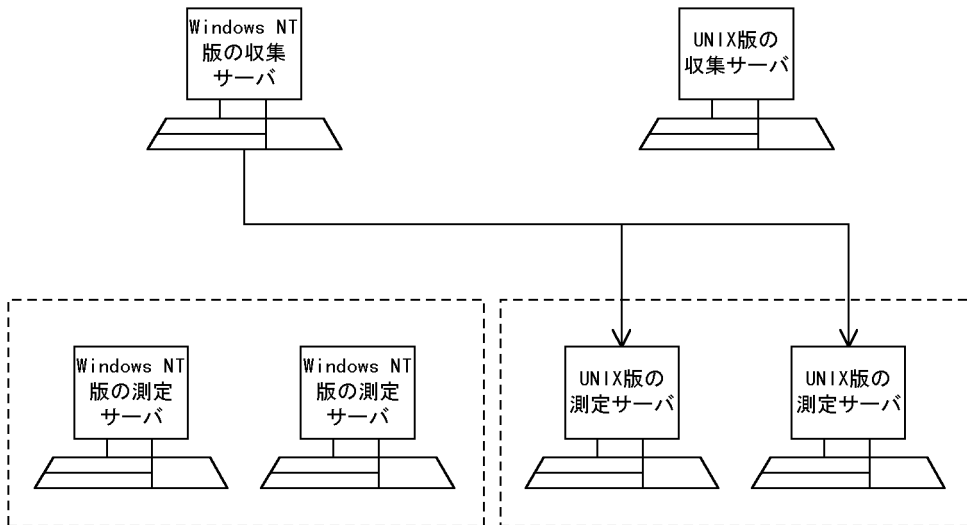
注意

- 統合化モードに切り替える前に取得した稼働結果は、UNIX モード（既存）の収集サーバで集計されます。切り替えた後に取得した稼働結果は、Windows NT 版の収集サーバで集計されます。
- 切り替える前に「23.3.5 統合化モードと UNIX モードとの違い」を参照して、運用上問題がないことを確認してから作業をしてください。

23.1.3 Windows NT モードと UNIX モードを統合する

バージョン 03-00 以前の Mail - Administrator Utilities では、アドレス管理ドメインに Windows NT 版の測定サーバと UNIX 版の測定サーバが混在している場合、収集サーバも Windows NT 版と UNIX 版をそれぞれ用意する必要がありました。Mail - Administrator Utilities 03-10 では、Windows NT 版の収集サーバだけで Windows NT 版と UNIX 版両方の測定サーバのデータを集計できます。統合化モードにする場合の設定方法の概要を図 23-1 に示します。

図 23-1 設定方法の概要



実際の手順を次に示します。

1. Windows NT モードの収集サーバに Windows NT 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールします。
インストール方法は、「20.4.1 インストール」を参照してください。
2. UNIX モードの収集サーバに、UNIX 版の Mail - Administrator Utilities (03-10) をインストールします。
HI-UX/WE2 マシンには、HI-UX/WE2 の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしてください。HP-UX マシンには、HP-UX の Mail - Administrator

Utilities をインストールしてください。インストール方法は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

3. Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にします。
「23.2.2 Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にする」を参照してください。
4. UNIX 版の測定サーバを UNIX モードから削除します。
「23.2.1 UNIX モードの測定サーバを解除する」を参照してください。
5. UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にします。
「23.2.4 UNIX モードの測定サーバを統合化モード対応にする」を参照してください。
6. すべての Windows NT 版の測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動します。
7. すべての UNIX 版測定サーバで ACT_dmn start により Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を起動します。
スーパーユーザで起動してください。
8. 収集サーバの稼働管理システムメンテナンスプログラムで、すべての UNIX 版の測定サーバを設定してください。
設定方法は、「21.5.4 測定サーバを設定 / 解除する」を参照してください。

注意

- 統合化モードに切り替える前に取得した稼働結果は、UNIX モード (既存) の収集サーバで集計されます。切り替えた後に取得した稼働結果は、Windows NT 版の収集サーバで集計されます。
- 切り替える前に「23.3.5 統合化モードと UNIX モードとの違い」を参照して、運用上問題がないことを確認してから作業をしてください。

23.2 統合管理機能の詳細設定

23.2.1 UNIX モードの測定サーバを解除する

手順を示します。

1. すべての既存の UNIX モードの測定サーバのマシンを起動します。
2. UNIX モード（既存）の収集サーバで ACT_update コマンドを実行します。
ACT_update コマンドについては、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。このコマンドで統合化モードに必要なコマンドなどを配布します。
3. 変更する測定サーバ上で設定されている Mail - Administrator Utilities の情報取得用の cron 設定をすべて削除します。
ACT_daily , ACT_time , 及び ACT_rmfile コマンドがこれにあたります。なお , runacct , dodisk , ckpacct , monacct , 及び find コマンドは今後も必要ですので削除しないでください。
4. 変更する測定サーバで ACT_sndchk コマンドを実行します。
「未転送データ有り」で終了した場合は、/usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_rcp (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc/ACT_rcp) を実行してください。
ACT_sndchk コマンドで「未転送データなし」になるまで繰り返してください。
ACT_rcp コマンドが正常に終了しない場合は、障害受付窓口に連絡してください。
5. 変更する測定サーバの環境をバックアップします。
バックアップ対象は /usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリ以下のすべてのファイルとディレクトリです。バックアップを取得しないと手順7で削除してしまうため、元に戻すことができなくなります。
6. UNIX モード（既存）の収集サーバの環境をバックアップします。
バックアップ対象は /usr/gmailadm (HP-UX : /var/opt/gmailadm) ディレクトリ以下のすべてのファイルとディレクトリです。バックアップを取得しないと手順7で削除してしまうため、元に戻すことができなくなります。
7. UNIX モード（既存）の収集サーバで ACT_setup コマンドを -del オプションで実行して、変更する測定サーバを UNIX モードから削除します。
ACT_setup コマンドについては、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

注意

- 手順3で示した runacct , dodisk , ckpacct , 及び monacct コマンドは、統合化モードにした後は、収集サーバ上の稼働管理システムメンテナンスプログラムの実行スケジュールダイアログで設定する「測定サーバの集計開始時刻」より前に実行されるように設定してください。

- UNIX モードの時に取得した稼働結果は、UNIX モード（既存）の収集サーバで集計できます。集計方法は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

23.2.2 Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にする

手順を次に示します。

手順 1 から手順 3 は統合化モードにする，すべての Windows NT 版の測定サーバに対して行ってください。

1. Windows NT 版の測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを停止します。
2. Windows NT 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールした収集サーバの <Mail - Administrator Utilities インストールディレクトリ>¥Acct¥Bin ディレクトリにある，gactmain.exe，gactdmnd.exe，xodedit.exe を，Windows NT 版の測定サーバの <Mail Server インストールディレクトリ>¥Admutil¥Acct¥Bin ディレクトリにコピーします。
ftp を使用する場合は，バイナリ形式でコピーしてください。
3. Windows NT 版の測定サーバの「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動します。
4. 新規に作成する Windows NT 版の測定サーバについては，Windows NT モードの測定サーバの設定と同じです。「21. Mail - Administrator Utilities のセットアップ」を参照して設定してください。
既存の測定サーバについては，この作業は不要です。
5. すべての Windows NT 版の測定サーバについて手順 3 まで完了したら，収集サーバの稼働管理システムメンテナンスプログラムの編集方法の設定ウィンドウを表示します。
6. 編集方法を選択して「OK」を押します。
すべての Windows NT 版の測定サーバに編集方法の情報が配布されます。

23.2.3 新規の UNIX 版の測定サーバを統合化モード対応にする

手順を次に示します。

手順 1 から手順 6 は統合化モードにする，すべての UNIX 版の測定サーバに対して行ってください。

1. UNIX 版の測定サーバを使用するために必要なファイルをコピーします。
UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンで ACT_mcpy コマンドを実行してください。

なお、ACT_mcpy コマンドは UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンと設定する測定サーバの間で、rcp コマンドが正常に動作する環境でないと使用できません。ACT_mcpy コマンドを利用しない場合は、UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンの /usr/gmailadm/ACCT/etc (HP-UX : /opt/gmailadm/ACCT/etc) ディレクトリに存在するすべてのファイルを、設定する測定サーバの /usr/GroupMail/ACCT/etc (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc) ディレクトリにコピーします。

ftp を使用する場合は、バイナリ形式でコピーしてください。コピー後は各コマンドにスーパーユーザの実行権限を与えてください。

2. 設定する測定サーバの /etc/services ファイルに、「gadmutil 20017/tcp」を追加します。
ファイルの最後に追加するときは、行の最後に改行を設定してください。サンプルとして /usr/gmailadm/ACCT/Sample/services (HP-UX : /opt/gmailadm/ACCT/Sample/services) ファイルを提供しています。
3. 設定する測定サーバにシステム稼働情報取得を設定します。
localrc に startup を設定したり、runacct, dodisk, ckpacct, 及び monacct コマンドを cron に登録したりすることがこれにあたります。詳細はマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。
4. 「23.2.5 古くなったシステム稼働情報を削除する設定」を参照して、稼働情報ファイルが残らないように設定します。
5. 設定する測定サーバで /usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset) コマンドを実行します。
-nt オプションを指定してスーパーユーザで実行してください。
6. Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) がマシン起動時からマシン停止時までデーモンとして動作するように設定してください。
スーパーユーザ権限で起動する必要があります。
HI-UX/WE2 の場合は設定例を「23.5.2 gactmain, gactdmnd を自動起動にしたい (HI-UX/WE2 の場合)」に記述してありますので参考にしてください。
HP-UX の場合は、HP-UX のマニュアルを参照して、適した自動起動の設定してください。

注意

手順 3 で示した runacct, dodisk, ckpacct, 及び monacct コマンドは、収集サーバ上の稼働管理システムメンテナンスプログラムの実行スケジュールダイアログで設定する「測定サーバの集計開始時刻」より前に実行されるように設定してください。

23.2.4 UNIX モードの測定サーバを統合化モード対応にする

UNIX モードで動作していた期間に取得した稼働結果は、UNIX 版の収集サーバで集計されます。統合化モードに切り替えてから取得した稼働結果は、Windows NT 版の収集サーバで集計されます。

手順を次に示します。

1. UNIX 版の測定サーバを使用するために必要なファイルをコピーします。
UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンで ACT_mcpy コマンドを実行してください。なお、ACT_mcpy コマンドは UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンと設定する測定サーバの間で、rep コマンドが正常に動作する環境でないと使用できません。ACT_mcpy コマンドを利用しない場合は、UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンの /usr/gmailadm/ACCT/etc (HP-UX : /opt/gmailadm/ACCT/etc) ディレクトリに存在するすべてのファイルを、設定する測定サーバの /usr/GroupMail/ACCT/etc (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc) ディレクトリにコピーします。
ftp を使用する場合は、バイナリ形式でコピーしてください。コピー後は各コマンドにスーパーユーザの実行権限を与えてください。
2. 設定する測定サーバの /etc/services ファイルに、「gadmutil 20017/tcp」を追加します。
ファイルの最後に追加するときは、行の最後に改行を設定してください。サンプルとして /usr/gmailadm/ACCT/Sample/services (HP-UX : /opt/gmailadm/ACCT/Sample/services) ファイルを提供しています。
3. 変更する測定サーバで /usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset) コマンドを実行します。
-nt オプションを指定してスーパーユーザで実行してください。
4. Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) がマシン起動時からマシン停止時までデーモンとして動作するように設定します。
スーパーユーザ権限で起動する必要があります。HI-UX/WE2 の場合は設定例を「23.5.2 gactmain, gactdmnd を自動起動にしたい (HI-UX/WE2 の場合)」に記述してありますので参考にしてください。
HP-UX の場合は、HP-UX のマニュアルを参照して、適した自動起動の設定をしてください。

23.2.5 古くなったシステム稼働情報を削除する設定

runacct が出力する稼働情報ファイルを削除します。cron に次のように設定すると毎日 10 時に find コマンドが実行され、常に最新 21 日分の情報だけが保管されます。20 の部分を変更することで保管日数を変更できます。

```
0 10 * * * find /usr/adm/acct/sum -ctime +20 -exec rm -f {} \;
```

```
0 10 * * * find /usr/adm/acct/nite -ctime +20 -exec rm -f {} \;
```

```
0 10 * * * find /usr/adm/ -type f -name 'pacct[1-9][0-9]*' -ctime +20 -exec rm -f {} \;
```

23.2.6 ACT_dset コマンド

コマンドを実行する測定サーバを、統合化モード又は UNIX モードに設定します。

(1) 実行条件

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

スーパーユーザで実行する。

コマンドを実行する測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が停止している。

(2) 構文

```
ACT_dset [-nt] [-unix] [-show]
```

(3) 引数とオプション

-nt

-nt オプションを指定した場合は、コマンドを実行した測定サーバは統合化モードで動作します。-unix , -show オプションと同時に指定することはできません。

-unix

-unix オプションを指定した場合は、コマンドを実行した測定サーバは UNIX モードで動作します。-nt , -show オプションと同時に指定することはできません。

-show

-show オプションを指定した場合は、コマンドを実行した測定サーバが何モードで設定されているかを標準出力に表示します。-nt , -unix オプションと同時に指定することはできません。

(4) 機能説明

メッセージは標準出力に表示します。

(5) 戻り値

0

コマンドを正常に終了しました。

1

統合化モード又は UNIX モードへの変更に失敗しました。メッセージを確認して対

処してください。

2

コマンド引数が不正です。正しいコマンド引数を指定して再実行してください。

5

uname コマンドでエラーが発生しました。uname コマンドが正常に動作する環境にしてください。

4 0

スーパーユーザで実行されませんでした。スーパーユーザで再実行してください。

4 2

Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が起動している状態で実行しました。ACT_dmn stop でデーモンを停止してから再実行してください。

(6) メッセージ

GMAU022I 統合化モードに変更しました。

要因

統合化モードに変更しました。

対処

対処は不要です。

GMAU023I UNIX モードに変更しました。

要因

UNIX モードに変更しました。

対処

対処は不要です。

GMAU024I 現在の動作モードは「統合化モード」です。

要因

動作モードを確認した結果は、統合化モードでした。

対処

対処は不要です。

GMAU025I 現在の動作モードは「UNIX モード」です。

要因

動作モードを確認した結果は、UNIX モードでした。

対処

対処は不要です。

GMAU049E デーモンが起動中です。ACT_dmn stop コマンドでデーモンを停止してから実行して下さい。

要因

23. Mail - Administrator Utilities の統合管理機能

Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が起動中です。

対処

ACT_dmn stop コマンドで Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を停止してから実行してください。

GMAU050E 既に統合化モードに設定されています。

要因

統合化モードになっている測定サーバで、コマンドを -nt オプションで実行しました。

対処

本当にモードを変更する必要があるかを確認してください。

GMAU051E 統合化モードへの変更ができませんでした。

要因

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限がない可能性があります。

対処

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限を与えて再実行してください。権限がある場合は障害受付窓口に連絡してください。

GMAU052E UNIX モードへの変更ができませんでした。

要因

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限がない可能性があります。

対処

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限を与えて再実行してください。権限がある場合は障害受付窓口に連絡してください。

GMAU053E 既に UNIX モードに設定されています。

要因

UNIX モードになっている測定サーバで、コマンドを -unix オプションで実行しました。

対処

本当にモードを変更する必要があるかを確認してください。

ACT_dset: You must be root user!!

要因

スーパーユーザで実行されませんでした。

対処

スーパーユーザで再実行してください。

23.2.7 ACT_mcpy コマンド

UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンから設定する測定サーバに対して必要なファイルを転送します。UNIX 版の Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンで実行してください。

(1) 実行条件

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

スーパーユーザで実行する。

設定する測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が停止している。

Mail - Administrator Utilities 03-10 をインストールしたマシンと設定する測定サーバの間で正常に rcp コマンドが動作する。

(2) 構文

ACT_mcpy ホスト名 [ホスト名 . . .]

(3) 引数とオプション

ホスト名

設定する測定サーバのホスト名を指定してください。1 回のコマンド実行で複数の測定サーバに転送したい場合は、半角スペースでホスト名を区切って列挙してください。

(4) 機能説明

UNIX モードの測定サーバに対して、このコマンドを実行すると確認メッセージを表示しますが、そこで作業を続行すると UNIX モードの収集サーバに対して稼働結果を転送できなくなります。UNIX モードで動作するように回復する場合は UNIX モードの収集サーバで ACT_update コマンドを実行してください。

メッセージは標準出力に表示します。

(5) 戻り値

0

コマンドを正常に終了しました。

1

ファイルのコピーに失敗しました。rcp コマンドが正常に動作する環境かどうか確認してください。

2

コマンド引数が不正です。正しいコマンド引数を指定して再実行してください。

3

ユーザの選択により処理を中断しました。

5

uname コマンドでエラーが発生しました。uname コマンドが正常に動作する環境にしてください。

1 1

測定サーバの uname コマンドでエラーが発生しました。測定サーバの uname コマンドが正常に動作する環境にしてください。

(6) 操作方法

ACT_mcopy コマンドを実行すると、以下のような対話形式で操作が進められます。ここでは、測定サーバのホスト名が gmax1 の場合を例に示します。下線が引かれている記述部分が、ユーザによる入力部分となります。

<p style="text-align: center;">Mail - Administrator Utilities</p> <p style="text-align: center;">Module Copy Command</p> <p>統合化モードで運用する測定サーバに必要なモジュールを配布します。</p> <p>全ての測定サーバの電源が上がっていることを確認してください。 また、<code>rep, rsh</code>が実行できる環境に設定して下さい。</p> <p>よろしいですか。 (y/n) <u>y</u> ←</p> <p>モジュールをコピーする測定サーバは次の通りです。 gmax1 セットアップを続行しますか。 (y/n) <u>y</u> ←</p> <p>測定サーバ gmax1 に配布します。 測定サーバのOSはH I - U X / W E 2です。 測定サーバの動作モードをチェック中です...</p> <p style="text-align: center;">モジュール配布終了</p>	<p>ファイルをコピーする場合はyを入力してください。中断する場合はnを入力してください。</p> <p>ファイルをコピーする場合はyを入力してください。中断する場合はnを入力してください。</p>
--	---

(7) メッセージ

GMAU071E ホスト [XXXX]Mail Server がインストールされていません。モジュールは配布されません。

要因

指定されたホスト名 XXXX に Mail Server がインストールされていないため、モ

ジュールの配布ができません。

対処

指定したホスト名を確認してください。

GMAU072E ホスト [XXXX] のモードチェックで失敗しました。

要因

指定されたホスト名 XXXX が間違っています。又は rsh コマンドが使用できる環境ではありません。

対処

指定したホスト名を確認してください。又は rsh コマンドが使用できる環境にしてください。

GMAU073E 転送用モジュールのコピーに失敗しました。

要因

指定されたホスト名 XXXX が間違っています。又は rsh コマンドが使用できる環境ではありません。

対処

指定したホスト名を確認してください。又は rsh コマンドが使用できる環境にしてください。

GMAU074E 測定サーバ [XXXX] へのファイル転送に失敗しました。rc=*

要因

動作オプション設定ファイルの測定サーバへの転送に失敗しました。

対処

rcp コマンドが正常に動作する環境にして、再実行してください。

GMAU005W 一部のホストへの配布が行われませんでした。

要因

GMAU072E、又は GMAU073E の要因により、一部のホストへのモジュール配布に失敗しました。

対処

要因を取り除き、再実行してください。

GMAU006W ホスト [XXXX] は収集サーバ [YYYY] の UNIX モード測定サーバに設定されていません。強制的にコピーしますか？ (y/n)

要因

ホスト XXXX は、収集サーバ YYYY の UNIX モード測定サーバである可能性があります。

対処

コピーする場合は y、コピーをやめる場合は n を入力してください。

23.3 統合管理機能の運用方法

23.3.1 UNIX 版の測定サーバについて

統合化モードの UNIX 版測定サーバでは、Mail 稼働管理デーモン (`gactmain` , `gactdmnd`) を常に起動させておく必要があります。

23.3.2 ACT_dmn コマンド

ACT_dmn コマンドは統合化モードの UNIX 版測定サーバで動作する Mail 稼働管理デーモン (`gactmain` , `gactdmnd`) を起動及び停止します。

(1) 実行条件

このコマンドを実行する前に次の条件を満たしているかどうかを確認してください。

スーパーユーザで実行する。

(2) 構文

```
ACT_dmn start | stop
```

(3) 引数とオプション

```
start | stop
```

`start` 又は `stop` が指定できます。 `start` オプションを指定した場合は、コマンドを実行した測定サーバで Mail 稼働管理デーモン (`gactmain` , `gactdmnd`) が起動します。 `stop` オプションを指定した場合は、コマンドを実行した測定サーバで Mail 稼働管理デーモン (`gactmain` , `gactdmnd`) が停止します。

(4) 機能説明

ACT_dmn はメッセージを標準出力に表示します。

(5) 戻り値

0

コマンドを正常に終了しました。

2

コマンド引数が不正です。正しいコマンド引数を指定して再実行してください。

5

`uname` コマンドでエラーが発生しました。 `uname` コマンドが正常に動作する環境にしてください。

4 0

スーパーユーザで実行されませんでした。スーパーユーザで再実行してください。

4 1

統合化モードでない環境で実行しました。ACT_dset コマンドで統合化モードにしてから再実行してください。

4 3

Object Server がインストールされていません，又は環境設定が完了していません。Object Server の環境を設定してから再実行してください。

(6) メッセージ

GMAU035I Mail 稼働管理デーモンを起動しました。

要因

Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) を起動しました。

対処

対処は不要です。

GMAU036I Mail 稼働管理デーモンを停止しました。

要因

Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) を停止しました。

対処

対処は不要です。

GMAU061E システム名 (\$UNAME) が不正です。

要因

uname コマンドでエラーが発生しました。

対処

uname コマンドが正常に動作する環境にしてください。HI-UX/WE 版の場合は \$UNAME を HI-UX にしてください。HP-UX 版の場合は \$UNAME を HP-UX にしてください。

GMAU062E 現在統合化モードに設定されていません。デーモンの起動を中止します。

要因

統合化モードでない環境で実行しました。

対処

ACT_dset コマンドで統合化モードにしてから再実行してください。

GMAU001W Mail 稼働管理デーモンは既に起動されています。

要因

Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) が起動している環境で ACT_dmn start を実行しました。

23. Mail - Administrator Utilities の統合管理機能

対処

対処は不要です。

GMAU002W Mail 稼働管理デーモンは既に停止しています。

要因

Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が停止している環境で ACT_dmn stop を実行しました。

対処

対処は不要です。

GMAU003W Groupmax Object Server がインストールされていないか、環境設定が完了していません。デーモンの起動を中止します。

要因

Object Server がインストールされていません、又は環境設定が完了していません。

対処

Object Server の環境を設定してから再実行してください。

23.3.3 Mail 稼働管理デーモンのログ

Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が出力するログは、収集サーバの稼働管理システムメンテナンスプログラムの実行ログの閲覧ウィンドウで確認できます。実行ログの閲覧ウィンドウについては「22.2 Mail - Administrator Utilities のログを表示する」を参照してください。

統合化モードのサポートにより、メッセージが増えています。メッセージについては、「24. Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧」を参照してください。

23.3.4 03-00 の稼働管理システムメンテナンスプログラムとの違い

Windows NT モード及び統合化モードで使用する稼働管理システムメンテナンスプログラムを変更しました。稼働情報管理アイコンを起動すると以下のような稼働管理システム・メンテナンスウィンドウが表示されます。「編集方法の設定」が追加されています。追加された機能以外は Windows NT モードと同じです。

(1) 編集方法を設定する

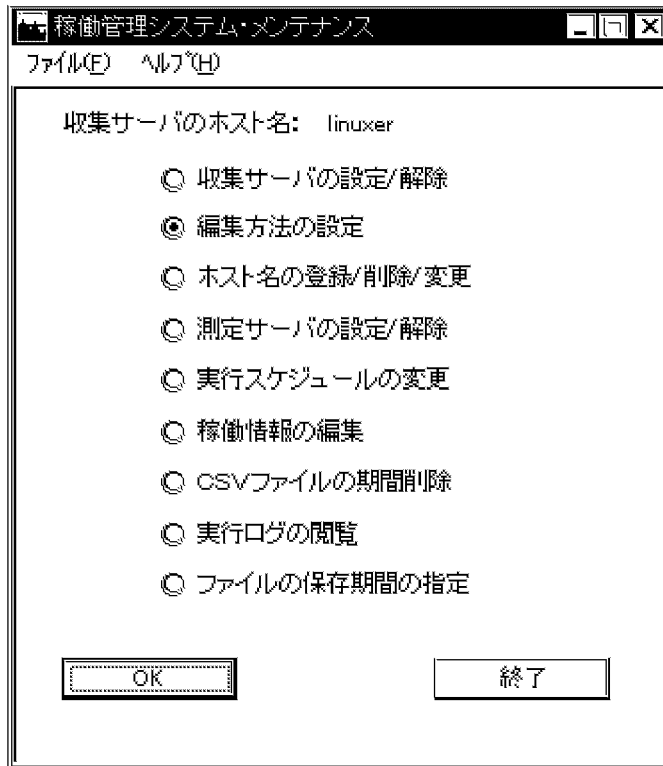
CSV ファイルに出力されるデータの編集方法を設定する操作について説明します。

注意

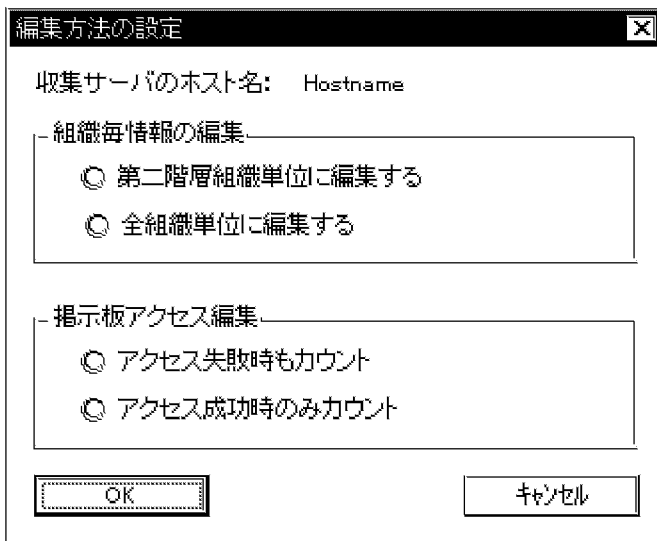
この設定を行う場合は、Windows NT 版の測定サーバでは「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動しておいてください。UNIX 版測定サーバでは Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を起動しておいてください。

(a) 操作手順

1. 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示します。
稼働情報管理アイコンを起動すると表示されます。



2. 編集方法の設定」を選び「OK」を選択します。
編集方法の設定ダイアログが表示されます。



3. 「組織毎情報の編集」グループの「第二階層組織単位に編集する」又は「全組織単位に編集する」を選択します。

第二階層組織単位に編集する場合

「第二階層組織単位に編集する」を選択します。03-00 までの gm_touroku.csv 及び groupmaxnt.csv と同様に、最上位組織と最上位組織直下の組織単位で編集します。

全組織単位に編集する場合

「全組織単位に編集する」を選択します。gm_touroku.csv 及び groupmaxnt.csv は、全組織単位で編集します。

4. 「掲示板アクセス編集」グループの「アクセス失敗時もカウント」又は「アクセス成功時のみカウント」を選択します。

アクセス失敗時もカウントする場合

「アクセス失敗時もカウント」を選択します。この場合に例えば権限がない掲示板に対して記事掲示を行うとエラーになりますが、この設定では記事掲示 1 回とカウントします。

アクセス成功時だけカウントする場合

「アクセス成功時のみカウント」を選択します。この場合に例えば権限がない掲示板に対して記事掲示を行うとエラーになりますが、この設定では記事掲示をカウントしません。

注意

Mail Server のバージョンが 03-00 以前の測定サーバが存在する場合は、「アクセス成功時のみカウント」を選択すると正常に集計できなくなります。「アクセス成功時のみカウント」は、すべての測定サーバ上の Mail Server のバージョンを 03-10 以降にしてから指定してください。

5. 編集方法の設定ダイアログで「OK」を選択します。

23.3.5 統合化モードと UNIX モードとの違い

Windows NT 版の測定サーバは Windows NT モードと統合化モードで同じ動きなので問題ありません。しかし、UNIX 版測定サーバは UNIX モードと統合化モードで違いがあります。

(1) nxclog ファイルの解析方法

統合化モードの測定サーバは、UNIX 版、Windows NT 版共に 24 時間モードでしか動作しません。編集モードと 24 時間モードの違いはマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

Windows NT モードの測定サーバも 24 時間モードでしか動作しません。

UNIX モードでは、nxclog ファイルの解析方法を ACT_env コマンドで選択できます。選択方法はマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

(2) 掲示板に対するアクセスカウント方法の違い

統合化モードと Windows NT モードは、掲示板記事参照数、掲示板記事揭示数、及び掲示板記事削除数と 3 つの項目が存在する場合しかありません。

しかし、UNIX モードでは、GRPMAILBOARD.csv と BOARDTOP10.csv には掲示板アクセス数という項目しかない場合と、掲示板記事参照数、掲示板記事揭示数、及び掲示板記事削除数と 3 つの項目が存在する場合があります。ACT_env コマンドでどちらのアクセスカウント方法にするかを設定できます。

23.4 稼働情報の CSV ファイル

統合化モードの収集サーバで取得できる CSV ファイルについて説明します。

23.4.1 Windows NT 版と UNIX 版の測定サーバで取得した情報が混在する

表 23-1 混在 CSV ファイル

項番	CSV ファイル名	説明
1	boardtop10.csv	Windows NT モードの boardtop10.csv と同じです。
2	diskinfonfont.csv	Windows NT モードの diskinfonfont.csv と同じです。ただし、UNIX 版の測定サーバのレコードでは、ドライブ名の欄にマウントディレクトリ、ドライブタイプの欄にファイルシステム名が出力されます。
3	gmsv_ave.csv	Windows NT モードの gmsv_ave.csv と同じです。
4	gmsv_max.csv	Windows NT モードの gmsv_max.csv と同じです。
5	gm_touroku.csv	Windows NT モードの gm_touroku.csv と同じです。
6	groupmaxnt.csv	Windows NT モードの groupmaxnt.csv と同じです。
7	grpmailboard.csv	Windows NT モードの grpmailboard.csv と同じです。
8	grpmailuser.csv	Windows NT モードの grpmailuser.csv と同じです。
9	mailserv.csv	Windows NT モードの mailserv.csv と同じです。
10	mailtop10.csv	Windows NT モードの mailtop10.csv と同じです。
11	meminfonfont.csv	Windows NT モードの meminfonfont.csv と同じです。

注

詳細は「22.7 稼働情報の CSV ファイル」を参照してください。

23.4.2 UNIX 版の測定サーバで取得された情報だけ存在する

ACCTSV.csv, DISKINFO.csv, SYSINFO.csv, TIMESV.csv は毎日自動的に作成されます。また、CPUINFO.csv, MEMINFO.csv, PSINFO.csv は、稼働管理システム・メンテナンスプログラムにおいて「稼働情報の編集」を実行した時点で作成されます。

表 23-2 UNIX 版だけの CSV ファイル

項番	CSV ファイル名	説明
1	ACCTSV.csv	UNIX モードの ACCTSV.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
2	CPUINFO.csv	UNIX モードの CPUINFO.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
3	DISKINFO.csv	UNIX モードの DISKINFO.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
4	MEMINFO.csv	UNIX モードの MEMINFO.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
5	PSINFO.csv	UNIX モードの PSINFO.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
6	SYSINFO.csv	UNIX モードの SYSINFO.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。
7	TIMESV.csv	UNIX モードの TIMESV.csv と同じです。 ¹ ただし、日付の表示は yyyy/mm/dd になります。

注 1

詳細はマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド ユティリティ編」(UNIX 用)を参照してください。

注

yyyy/mm/dd の yyyy は西暦年、mm は月、dd は日を表します。

23.5 こんなときには

23.5.1 統合化モードの測定サーバを解除したい

統合化モードの測定サーバを解除する手順を次に示します。

1. 解除する測定サーバが Windows NT 版の場合は、解除する測定サーバ上の「Mail - Administrator Utilities」サービスを起動します。解除する測定サーバが UNIX 版の場合は、解除する測定サーバ上の Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) を起動します。
2. 収集サーバで稼働管理システム・メンテナンスウィンドウを表示して、「測定サーバの設定 / 解除」をチェック後、「OK」を押します。
3. 測定サーバの設定 / 解除ウィンドウの「解除」をチェック後、ホスト名一覧で解除する測定サーバのホスト名を選択して、「OK」を押します。
4. 解除する測定サーバが Windows NT 版の場合は、解除する測定サーバ上の「Mail - Administrator Utilities」サービスを停止します。解除する測定サーバが UNIX 版の場合は、解除する測定サーバ上の Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) を停止します。

Windows NT 版はここまでで完了です。

5. 解除する測定サーバが UNIX 版の場合は、解除する測定サーバ上の ACT_dmn が自動的に起動しないように、localrc 等の設定を解除します。
6. 解除する測定サーバが UNIX 版の場合は、解除する測定サーバの環境をバックアップしてください。
バックアップ対象は /usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリ以下のすべてのファイルとディレクトリです。バックアップを取得しないと手順 7 で削除してしまうため、元に戻すことができなくなります。
7. 解除する測定サーバが UNIX 版の場合は、解除する測定サーバ上で /usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dset) コマンドを実行します。
-unix オプションを指定してスーパーユーザで実行してください。デフォルト状態になります。

23.5.2 gactmain, gactdmnd を自動起動にしたい (HI-UX/WE2 の場合)

HI-UX/WE2 で gactmain, gactdmnd を自動起動にする手順を次に示します。

1. 設定する HI-UX/WE2 の測定サーバにスーパーユーザでログインします。

2. /etc/localrc ファイルに以下の行を追加します。これは一例です。

```
if test -x /usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dmn
then
    /usr/GroupMail/ACCT/etc/ACT_dmn start > /dev/null
fi
```

3. /etc/localrc ファイルにスーパーユーザの実行権限がない場合は与えてください。

23.5.3 測定サーバ上の Mail Server が 03-00 の状態で統合化モードを動作させたい

Mail Server のバージョンが 03-00 以降であれば、測定サーバを統合化モードで動作させることは可能です。測定サーバに対して統合化モードの環境を設定してください。

ただし、掲示板記事に対する「アクセス成功時のみカウント」の設定は、正しく集計することができませんので、03-00 の Mail Server が 1 台でも存在する場合は、設定しないでください。

注意

Mail Server が Version2.0 の場合は、測定サーバを統合化モード、Windows NT モードで動作させることはできません。

24 Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧

Mail - Administrator Utilities が出力するメッセージの要因と
対処について説明します。

24.1 Mail - Administrator Utilities のメッセージ

24.1 Mail - Administrator Utilities のメッセージ

Mail - Administrator Utilities で表示されるエラーメッセージについて説明します。

[E-11012]: connect returned = <code>

[E-80411]: connect error(<code>)

要因

code = 10060 の場合

測定サーバとの接続でタイムアウトが発生しました。

code = 10061 の場合

測定サーバとの接続が拒否されました。

対処

code = 10060 の場合

測定サーバのマシンが起動しているかを確認してください。

code = 10061 の場合

測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が起動しているか確認してください。又は測定サーバと収集サーバの services ファイルに「 gadmutil 20017/tep 」が正しく記述されているかを確認してください。

[E-56610]: yymmdd file copy failure.[XXX]=>[YYY]

要因

XXX ファイルに読み込み権限がありません。又は YYY ディレクトリに書き込み権限がありません。

対処

XXX ファイル , YYY ディレクトリの権限が正しく設定されているかを確認してください。

[E-60605]: proj file not found.

要因

Object Server の情報の取得に失敗しました。

対処

Object Server が起動していない可能性があります。Object Server を起動してください。また、測定サーバの集計開始時刻には必ず Object Server が起動しているように設定してください。

[E-60701]: proj file not found.

要因

Object Server の情報の取得に失敗しました。

対処

Object Server が起動していない可能性があります。Object Server を起動してくだ

さい。また、測定サーバの集計開始時刻には必ず Object Server が起動しているように設定してください。

[E-60801]: proj file not found(CMPT).

要因

Object Server の情報の取得に失敗しました。

対処

Object Server が起動していない可能性があります。Object Server を起動してください。また、測定サーバの集計開始時刻には必ず Object Server が起動しているように設定してください。

[E-70214]: Incomplete to release server(%d), error(%d).

要因

error(%d) が error(32) の場合、測定サーバを解除中に削除対象のファイルにアクセスしているプロセスがあります。又は、Mail 稼働管理デーモンが測定中で、削除対象のログファイルにアクセスしています。

対処

error(%d) が error(32) の場合、エクスプローラやメモ帳などでファイルを参照していないかを確認してください。又は、測定処理が起動していない時間帯を選んで、解除処理を再実行してください。

[E-80800]: [%s] open error. ecode(%d)

要因

ファイル (%s) のオープンに失敗しました。詳細コード (%d) ファイル名が、board<ホスト名> の場合、ホスト名に示される測定サーバが、前日に稼働していなかったか、又は収集サーバの収集時刻に測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmd) が起動していなかった可能性があります。

対処

前日に稼働していなかった場合は、対処は必要ありません。ただし、収集時刻には測定サーバが確実に起動しているように設定してください。

[E-90000]: unknown system name(XXX)

要因

uname コマンドでエラーが発生しました。

対処

UNIX 版の測定サーバで uname コマンドが正常に動作する環境にしてください。HI-UX/WE2 の場合は \$UNAME を HI-UX にしてください。HP-UX の場合は \$UNAME を HP-UX にしてください。

[E-90006]: Groupmax Mail - Administrator Utilities daemon start cancel. Not NT/UNIX mode.

要因

測定サーバは UNIX モードのため、Mail 稼働管理デーモン (gactmain ,

24. Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧

gactdmnd) の起動は取り消されました。

対処

Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) を起動する場合は、ACT_dset -nt コマンドで測定サーバを統合化モードにしてください。

[E-90050]: Can't create NT/UNIX file.

要因

ACT_dset コマンドによる統合化モードへの変更に失敗しました。/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリにスーパーユーザの書き込み権限がない可能性があります。

対処

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限を与えて再実行してください。権限がある場合は障害受付窓口に連絡してください。

[E-90052]: Can't delete NT/UNIX file.

要因

ACT_dset コマンドによる UNIX モードへの変更に失敗しました。/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリにスーパーユーザの書き込み権限がない可能性があります。

対処

/usr/GroupMail/ACCT (HP-UX : /var/opt/GroupMail/ACCT) ディレクトリに書き込み権限を与えて再実行してください。権限がある場合は障害受付窓口に連絡してください。

[I-90001]: XODDIR env set to XXX .

要因

ACT_dmn コマンドで XODDIR を XXX に設定しました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[I-90003]: Groupmax Mail - Administrator Utilities daemon start.

要因

ACT_dmn コマンドにより、Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) が起動されました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[I-90005]: Groupmax Mail - Administrator Utilities daemon stop.

要因

ACT_dmn コマンドにより、Mail 稼働管理デーモン (gactmain, gactdmnd) が停止されました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[I-90007]: Groupmax Mail - Administrator Utilities daemon already stopped.

要因

ACT_dmn コマンドにより, Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を停止しようとしたますが, 既に停止されています。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[I-90051]: Change to NT mode.

要因

ACT_dset コマンドにより, 統合化モードに変更しました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[I-90053]: Change to UNIX mode.

要因

ACT_dset コマンドにより, UNIX モードに変更しました。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

[W-54518]: nonexistent (<host>) all informations (<date>), must be stopped (<date>) service, see (%s) UKETUKE log.

要因

ホスト <hosts> に日付 <date> の情報が存在しません。日付 <date> に収集サーバの Mail - Administrator Utilities サービスが起動していなかった, 又は測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が収集時刻に起動していなかった可能性があります。

対処

測定サーバの Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) が収集時刻に起動していない日付の情報は取得できません。収集時刻には測定サーバが確実に起動しているように設定してください。

[W-90002]: Object Server is not exist or not setuped.

要因

Object Server がインストールされていません, 又は環境設定が完了していません。

対処

Object Server の環境を設定してください。

[W-90004] Groupmax Mail - Administrator Utilities daemon already started.

要因

ACT_dmn コマンドにより, Mail 稼働管理デーモン (gactmain , gactdmnd) を起

24. Mail - Administrator Utilities のメッセージ一覧

動しようとしたが、既に起動されています。

対処

情報メッセージのため対処は不要です。

索引

数字

03-00 の稼働管理システムメンテナンスプログラムとの違い 428

A

ACT_dmn 426
ACT_dmn コマンド 426
ACT_dset 420
ACT_dset コマンド 420
ACT_mcpy 423
ACT_mcpy コマンド 423
Address - Directory Data Converter セットアップダイアログでの操作 313
Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの項目 312
Address - Directory Data Converter セットアップダイアログの表示 312
Address - Directory Data Converter ダイアログでの操作 311
Address - Directory Data Converter ダイアログの項目 310
Address - Directory Data Converter ダイアログの表示 310
Address Server に登録されているアドレス情報の変換 296
Address Server に登録されているデータの変換 310
adpdaexp コマンド 283
adpdaset コマンド 288
adpdhead コマンド 278

B

boardtop10.csv 406

C

CSV ファイルの期間削除ダイアログ 395

D

Directory Server セットアップアイコン 304
Directory インポートユティリティアイコン 312
Directory データコンバータアイコン 310
diskinfont.csv 401
DN 317
Document Manager サーバ 20
Document Manager サブサーバ 1 21
Document Manager サブサーバ 2 21
Document Manager サブサーバ 3 21
Document Manager サブサーバ 4 21

E

E-mail 21

F

FAX 番号 16

G

gactmain , gactdmnd を自動起動にしたい (HI-UX/WE2 の場合) 434
gm_touroku.csv 403
gmaxchk 79
gmaxchk.log 80
gmaxchk コマンドの実行 53
gmaxchk コマンドの実行時間 141
gmaxchk コマンドの使用上の注意事項 82
gmaxchk コマンドの使用方法 79
gmaxchk コマンドの使用例 81
gmaxchk コマンドのチェック内容 83
gmaxchk コマンドのトラブルシュート 145
gmaxchk コマンドのメッセージ 157
gmaxexp 68
gmaxexp.log 70
gmaxexp コマンドでのユーザ登録ファイルの作成例 77
gmaxexp コマンドの実行時間 142

- gmaxexp コマンドの使用上の注意事項 77
- gmaxexp コマンドの使用法 68
- gmaxexp コマンドの使用例 73
- gmaxexp コマンドのトラブルシューティング 145
- gmaxexp コマンドのメッセージ 150
- gmaxgchk 221
- gmaxgchk.log 222
- gmaxgchk コマンドの実行 211
- gmaxgchk コマンドの実行時間 243
- gmaxgchk コマンドの使用上の注意事項 224
- gmaxgchk コマンドの使用法 221
- gmaxgchk コマンドの使用例 223
- gmaxgchk コマンドのチェック内容 224
- gmaxgchk コマンドのトラブルシューティング 246
- gmaxgchk コマンドのメッセージ 254
- gmaxgexp 216
- gmaxgexp.log 217
- gmaxgexp コマンドの実行時間 244
- gmaxgexp コマンドの使用上の注意事項 220
- gmaxgexp コマンドの使用法 216
- gmaxgexp コマンドの使用例 219
- gmaxgexp コマンドのトラブルシューティング 246
- gmaxgexp コマンドのメッセージ 250
- gmaxgset 226
- gmaxgset.log 226
- gmaxgset コマンドの実行 211
- gmaxgset コマンドの実行時間 243
- gmaxgset コマンドの使用上の注意事項 228
- gmaxgset コマンドの使用法 226
- gmaxgset コマンドの使用例 227
- gmaxgset コマンドのトラブルシューティング 247
- gmaxgset コマンドのメッセージ 259
- gmaxmdef.csv 70
- gmaxset 90
- gmaxset.log 90, 91
- gmaxset コマンドによる移動処理の注意点 62
- gmaxset コマンドの実行 54
- gmaxset コマンドの実行時間 141
- gmaxset コマンドの使用上の注意事項 92
- gmaxset コマンドの使用法 90
- gmaxset コマンドの使用例 91
- gmaxset コマンドのチェック内容 92
- gmaxset コマンドのトラブルシューティング 146
- gmaxset コマンドのメッセージ 176
- gmmopnmb 102
- gmmopnmb.log 103
- gmmopnmb コマンドの使用上の注意事項 104
- gmmopnmb コマンドの使用法 102
- gmmopnmb コマンドの使用例 103
- gmsv_ave.csv 407
- gmsv_max.csv 407
- Groupmax Address Export ユティリティ 3
- Groupmax Directory Client 296
- Groupmax Directory Server サービスのオプション 326
- Groupmax Directory Server サービスのポート番号を一時的に変更する 327
- Groupmax Directory Server セットアップ時のメッセージ 351
- Groupmax Directory Server 導入後の Address Server の運用 333
- Groupmax Directory Server とは 294
- Groupmax Directory Server のインストールとアンインストール 298
- Groupmax Directory Server の起動 324
- Groupmax Directory Server の起動と終了 324
- Groupmax Directory Server の機能 296
- Groupmax Directory Server の終了 325
- Groupmax Directory Server のメッセージ 339
- Groupmax Directory Server へのデータの移行 312
- groupmaxnt.csv 403
- Groupmax ドメインが所属する国名 305
- Groupmax ドメインが所属する組織名 305
- Groupmax ドメイン管理レベル 305
- Groupmax ドメイン名 305
- Groupmax マスタ管理サーバホスト名 311

grpmailbox.csv 402
 grpmailuser.csv 401

H

Hitachi Directory Gateway 307

I

Information Propagator 296, 350
 Information Propagator サービスのオプション 328
 Information Propagator のメッセージ 343

K

Keymate/Multi 10, 11, 15, 18, 20

L

LAN 環境の設定 377
 LDAP 294
 LDAP によるアドレス情報の公開 296
 LOAD_MB 98
 load_mb.log 99
 load_mb.lst 99
 LOAD_MB コマンドの実行 55
 LOAD_MB コマンドの使用上の注意事項 101
 LOAD_MB コマンドの使用法 98
 LOAD_MB コマンドの使用例 100
 LOAD_MB コマンドのトラブルシューティング 148

M

Mail - Administrator Utilities とは 368
 Mail - Administrator Utilities のインストールとアンインストール 372
 Mail - Administrator Utilities の運用形態 369
 Mail - Administrator Utilities の機能 370
 Mail - Administrator Utilities のサービスの設定 379
 Mail - Administrator Utilities のシステム構成 368

Mail - Administrator Utilities のメッセージ 438
 Mail - Administrator Utilities のログを表示する 393
 Mail - SMTP との連携時の運用 334
 Mail - SMTP の MAPPING_MODE について 334
 mailserv.csv 406
 mailtop10.csv 404
 Mail 稼働管理デーモンのログ 428
 meminfont.csv 407
 MTA 名 10

N

nxsrepstat 94
 nxsrepstat コマンドの使用上の注意事項 97
 nxsrepstat コマンドの使用法 94
 nxsrepstat コマンドの使用例 97
 nxsrepstat コマンドのメッセージ 184

O

O/R 名 18

S

SAVE_MB 85
 save_mb.log 86
 save_mb.lst 86
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンド実行時の注意事項 58
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドで指定するユーザ登録ファイル 58
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行時間 142
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドの実行順序 58
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドのメッセージ 163
 SAVE_MB/LOAD_MB コマンドを実行するサーバ 59
 SAVE_MB コマンド実行前のメール削除 58
 SAVE_MB コマンドの実行 53
 SAVE_MB コマンドの使用上の注意事項 89

SAVE_MB コマンドの使用法 85
 SAVE_MB コマンドの使用例 88
 SAVE_MB コマンドのトラブルシューティング 145
 Scheduler サーバ 20

U

UNIX 版の測定サーバで取得された情報だけ存在する 432
 UNIX 版の測定サーバについて 426
 UNIX モードの測定サーバを解除する 416
 UNIX モードの測定サーバを統合化モード対応にする 419

W

Windows NT 版と UNIX 版の測定サーバで取得した情報が混在する 432
 Windows NT 版の測定サーバを統合化モード対応にする 417
 Windows NT モードと UNIX モードを統合する 414
 Workflow サーバ 20

あ

アドレス情報の変更を自動的に反映する 296
 アドレスマッピングファイルについて 334
 アンインストール 299, 373
 アンサバックコード 16
 アンサバック番号 322

い

移行するファイル名 312
 一時ファイル名 311
 一括登録実行ユーティリティ 3
 一括登録チェックユーティリティ 3
 一括登録ユーティリティ (コマンド) の構成 3
 一括登録ユーティリティ実行時の注意点 57
 一括登録ユーティリティ実行の制限 66
 一括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング 144

一括登録ユーティリティで実行できない機能 65
 一括登録ユーティリティで実行できる機能 65
 一括登録ユーティリティの機能 2
 一括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安 141
 一括登録ユーティリティの作業手順 50
 一括登録ユーティリティの作業の流れ 4
 一括登録ユーティリティの実行条件 140
 一括登録ユーティリティのトラブルシューティング 144
 一括登録ユーティリティを使ってできること 6
 移動処理を含まない場合の手順 51
 移動処理を含む場合の手順 50
 イベントログとログファイル 338
 インストール 298, 372

う

運用上の注意事項 399

え

英語姓 12, 321
 英語組織名 16
 英語名 12, 321

か

各ホームサーバへのユーザ登録ファイルの転送 53
 稼働管理システム・メンテナンスウィンドウ 381
 稼働管理システムメンテナンスプログラムでの設定 381
 稼働管理システムメンテナンスプログラムの起動 381
 稼働結果データとログの保存期間を指定する 396
 稼働情報の CSV ファイル 401
 稼働情報の CSV ファイル 432
 稼働情報の CSV ファイルを参照する 390
 稼働情報の出力 370
 稼働情報の編集ダイアログ 391
 環境のバックアップ 52, 211

管理者パスワード 306

管理者ログイン名 305

き

共用メールボックス ID 17

共用メールボックス追加フラグ 17

く

グループ・掲示板メンバー括登録実行ユーティリティ 190

グループ・掲示板メンバー括登録チェックユーティリティ 190

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ (コマンド) の構成 190

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ実行時の注意点 213

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ実行の制限 213

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティ全般のトラブルシューティング 245

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティで実行できる機能 213

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの機能 188

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのコマンド実行時間の目安 243

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの作業手順 210

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの作業の流れ 191

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行条件 242

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティの実行に必要なファイル 194

グループ・掲示板メンバー括登録ユーティリティのトラブルシューティング 245

グループ・掲示板メンバ情報の登録

gmaxgset コマンド 226

グループ・掲示板メンバ登録情報出力ユーティリティ 190

グループ ID 197

グループ定義ファイル 194

グループ定義ファイルとグループデータファイル作成時の注意事項 205

グループ定義ファイルとグループデータファイルの関係 206

グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成 210

グループ定義ファイルとグループデータファイルの作成方法 203

グループ定義ファイルとグループデータファイルのチェック gmaxgchk コマンド 221

グループ定義ファイルとグループデータファイルの基になるデータを用意する 203

グループ定義ファイルの項目 196

グループ定義ファイルの項目とその内容 196

グループデータファイル 194

グループデータファイルの項目 201

グループの削除の例 233

グループの追加・削除 188

グループの追加の例 230

グループへのメンバの追加・削除・更新 188

グループ名 197

グループや掲示板のメンバから削除される
63

グループ用データファイル 194

グループ用データファイル名 198

け

掲示板 ID 197

掲示板のメンバ更新の例 238

掲示板のメンバ追加の例 235

掲示板のメンバのアクセス権の変更 189

掲示板へのメンバの追加・削除・更新 189

兼任ユーザが削除される 62

兼任ユーザ情報の設定 37

兼任ユーザについて 206

権利組織の設定が初期化される 64

こ

構成情報の設定 304

構成情報の設定ダイアログでの操作 306

構成情報の設定ダイアログの項目 305

構成情報の設定ダイアログの表示 304

構成定義ファイルを指定して起動する 326
 コメントについて 44, 205
 こんなときには 434

さ

サーバ環境の移行の例 131
 サーバ構成の変更の例 126
 採取した稼働結果の収集 370
 最上位組織, 組織, ユーザを削除するときの
 記述順について 44
 最上位組織, 組織, ユーザを追加するときの
 記述順について 44
 最上位組織 ID 10
 最上位組織情報の設定 28
 最上位組織用データファイル 194
 最上位組織用データファイル名 198
 サンプルの構成 106

し

時間の設定 378
 システム統合運用管理機能から起動・停止し
 た場合のパラメタ設定 331
 システムメッセージ 350
 実行結果 196
 実行スケジュールの変更ダイアログ 386
 実行部エラー要因 23, 197
 実行部処理結果 (M) 22
 実行ログの閲覧ダイアログ 393
 指定した期間の稼働結果データを CSV ファ
 イルに出力する 391
 指定した期間の情報を CSV ファイルから削
 除する 395
 自動的に出力される CSV ファイル 390, 401
 収集サーバ 368
 収集サーバの設定 / 解除ダイアログ 382
 収集サーバのホスト名を変更する 398
 収集サーバを Windows NT 版に変更する
 413
 収集サーバを設定 / 解除する 382
 住所 17
 上位組織 ID 14
 上長役職名 19

上長ユーザ ID 20
 情報の登録 gmaxset コマンド 90
 職種 11
 所属組織 ID 11
 処理区分 9, 196
 処理区分 C で変更できない項目 57
 処理区分 M (移動) と C (変更) の違い 57
 処理区分 U (更新) でのメンバの削除 206
 処理区分に M (移動) を設定した場合 57
 処理種別 9, 196
 処理別のグループ定義ファイルの設定項目
 198
 新規導入時の設定 412
 新規の UNIX 版の測定サーバを統合化モー
 ド対応にする 417

す

スキーマ詳細設定ダイアログ 319
 スキーマ設定ダイアログ 318
 スキーマの設定 318
 スナップショット 308
 スナップショット作成日と開始時間の設定
 308
 スナップショット用のデータベース格納ディ
 レクトリ 308

せ

セキュリティランク 18
 セッション時間とセッション回数の集計方法
 408
 接続先ディレクトリサーバの登録 296
 接続ドメイン一覧ダイアログの表示 314
 接続ドメイン設定ダイアログの項目 316
 接続ドメインの DN 317
 接続ドメインのサービス名 (ポート番号)
 317
 接続ドメインの設定 314
 接続ドメインの追加・変更・削除の操作 315
 接続ドメインの日本語名称 316
 接続ドメインのホスト名 316
 セットアップ時の注意事項 302
 セットアップの流れ 302, 376

セットアップの流れと注意事項 302
専用線番号 15, 321

そ

測定サーバ 368
測定サーバ上の Mail Server が 03-00 の状態
で統合化モードを動作させたい 435
測定サーバと収集サーバの実行スケジュール
を設定する 386
測定サーバの設定 / 解除ダイアログ 384
測定サーバを設定 / 解除する 384
組織 ID 11
組織移動の概要 117
組織移動の注意点 64
組織種別 9
組織情報の設定 30
組織のサーバ間移動の例 117
組織用データファイル 194
組織用データファイル名 198
組織略称 14, 322

た

代行受信者の設定が無効になる 64
タイプ 18

ち

チェック結果 196
チェック部エラー要因 22, 196
チェック部処理結果 22

て

定義タイプ 24
ディレクトリサーバタイプ 318
データ移動の手順 117
データ削除の例 116
データ追加の例 111
データと設定ファイルの格納場所 306
テキストエディタでユーザ登録ファイルを作
成する 40
テレックス番号 16, 321
電話番号 15, 321

と

統括組織 ID 17
統合化モードと UNIX モードとの違い 431
統合化モードの測定サーバを解除したい 434
統合管理機能の運用方法 426
統合管理機能の環境設定 412
統合管理機能の詳細設定 416
動作状況をログファイルに出力する 326
導入の前に 297, 371
登録されている最上位組織, 組織, ユーザの
情報の項目削除について 45
登録済みグループ・掲示板メンバ情報の出力
gmaxgexp コマンド 216
登録済み情報の出力 gmaxexp コマンド 68
登録内容の確認 270
登録内容のレプリケーション 271
ドメイン情報設定ユーティリティアイコン 314
ドメイン情報設定ユーティリティのメッセージ
363
ドメインの日本語名称 305

な

名前 321
名前付け Groupmax 情報 311

に

ニックネーム 12, 321
日本語組織名 16
日本語名 12

は

配信日時指定メールの取り消し 59
汎用ディレクトリサーバとの接続 296

ひ

引継フラグ 15
表計算ソフトでユーザ登録ファイルを作成す
る 40
表計算ソフトやテキストエディタで作成する
40, 203

ふ

ファイルの保存期間の指定ダイアログ 396
 ファックス番号 321
 フィルタファイル 69, 217
 複数ユーザがサーバ間を移動する場合 60
 プリンタ名 14
 古くなったシステム稼働情報を削除する設定
 419

へ

閉塞 54, 61, 102
 変更ログエントリ 307
 変更ログエントリ&スナップショットを作成
 する 307
 変更ログエントリ用のデータベース格納ディ
 レクトリ 308

ほ

ポート番号を変更して運用する 329
 ホームサーバ 13
 ホームサーバを変更しないとき 50
 ホームサーバを変更するとき 50
 ホスト名の登録 / 削除 / 変更ダイアログ 383
 ホスト名を登録 / 削除 / 変更する 382
 保存データを移動先へ転送 54

み

見出し定義ファイルの作成 267
 見出し定義ファイルの登録 269

め

メールアドレス 321
 メールサーバの稼働結果の採取 370
 メール定義ファイル 24
 メール定義ファイルの設定内容 24
 メールボックスの回復 LOAD_MB コマン
 ド 98
 メールボックスの閉塞の強制解除 61
 メールボックスの閉塞の強制解除
 gmmopnmb コマンド 102

メールボックスの保存 SAVE_MBコマンド
 85
 メールボックスバックアップユティリティ 3
 メールボックス番号 21
 メールボックス容量 22
 メールボックス容量の指定方法 41
 メールボックス容量の定義方法 24
 メールボックスリストアユティリティ 3

や

役職 11, 321

ゆ

ユーザ ID 10
 ユーザオブジェクトクラス 321
 ユーザが期間を指定して出力させる CSV
 ファイル 390, 403
 ユーザがサーバ間を移動する場合 60
 ユーザ情報の設定 33
 ユーザ情報の変更の例 113
 ユーザ情報を変更する場合 (ホームサーバの
 移動がない場合) 59
 ユーザ登録ファイル作成時の注意事項 44
 ユーザ登録ファイルとは 8
 ユーザ登録ファイルの作成 52
 ユーザ登録ファイルの作成方法 39
 ユーザ登録ファイルの設定内容 9
 ユーザ登録ファイルのチェック gmaxchk
 コマンド 79
 ユーザ登録ファイルの基になるデータを用意
 する 39
 ユーザ任意情報の移行 274
 ユーザ任意情報の概要 266
 ユーザ任意情報のコマンドリファレンス 278
 ユーザ任意情報の定義方法 267
 ユーザ任意情報の定義例 272
 ユーザ任意情報の保存と回復 274
 ユーザ任意情報の保存と回復の方法 274
 ユーザ任意情報の保存と回復の例 276
 ユーザのサーバ間移動の例 114
 ユーザ用データファイル 194
 ユーザ用データファイル名 198

優先メールボックス 317

郵便番号 17

れ

レプリケーション状態の確認 55,212

レプリケーション状態の確認 nxsrepstat コマンド 94

レプリケーション情報の設定 307

レプリケーション情報の設定ダイアログでの操作 308

レプリケーション情報の設定ダイアログの項目 307

レプリケーション情報の設定ダイアログの表示 307

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

Web提供マニュアル一覧	インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。(詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)
CD-ROMマニュアル情報	複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。
マニュアルに関するご意見・ご要望	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

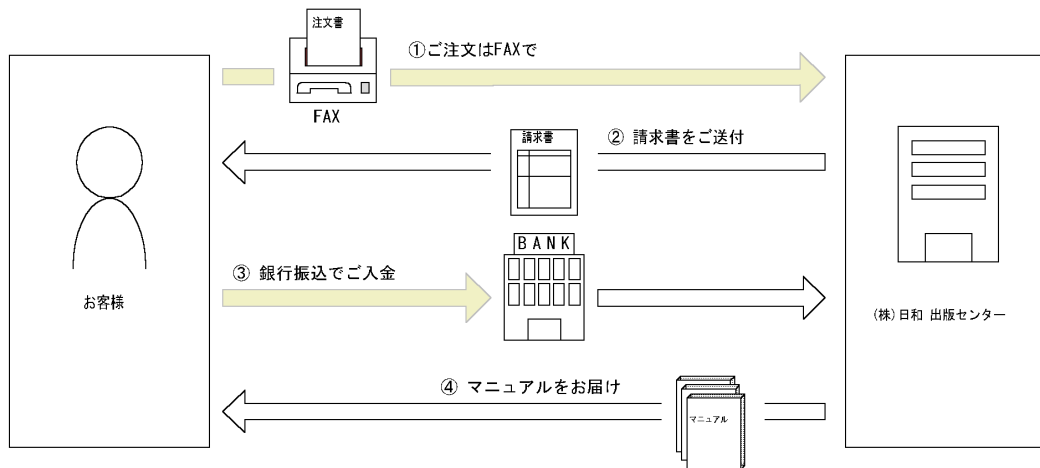
2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。(本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。参照できるマニュアルは、クライアント/サーバ系の日立オープンミドルウェア製品を中心に順次対象を拡大予定です。)

なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

3. マニュアルのご注文

裏面の注文書でご注文ください。



マニュアル注文書に必要事項をご記入のうえ、FAXでご注文ください。

ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。

入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。

(株)日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

日立マニュアル注文書

ご注文日	年 月 日
送付先ご住所	〒 _____ _____ _____
お客様名 (団体名,又は法人名など)	
お名前	
電話番号	()
FAX 番号	()

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について、ご不明な点は
(株)日和 出版センター (TEL 03-5281-5054) へお問い合わせください。